

2023.

7-8
July August

ふ く お か

県薬会報

第126回定時総会開催 第125回臨時総会議事録

<視 点>

一般化のワナを超えて

福岡県薬剤師会専務理事 小田 真稔

<理事会・地区連絡協議会>

第573回理事会

第1回地区連絡協議会

<審査ニュース248号>

請求レセプトの一次審査における
審査委員会の疑義について

<常務理事会>

第1回常務理事会

第2回常務理事会

<医薬品情報>

処方箋の使用期間

<地区だより>

「薬用植物を楽しもう 2023春」
開催報告



目

次

〈視 点〉	
一般化のワナを超えて……………福岡県薬剤師会専務理事 小田 真稔…	1
〈常務理事会〉	
第1回常務理事会……………	2
第2回常務理事会……………	5
〈理事会〉	
第573回理事会……………	8
〈地区連絡協議会〉	
第1回地区連絡協議会……………	11
〈委員会の動き〉	
第1回環境衛生・学校薬剤師委員会……………	14
第1回生涯学習委員会……………	14
第1回災害・感染対策委員会……………	14
第1回医療保険委員会……………	14
第2回広報委員会……………	15
第1回総務・組織会員委員会……………	15
第1回薬局ビジョン推進委員会……………	15
第1回薬業連携推進委員会……………	15
第2回D I委員会……………	15
第1回薬学教育委員会……………	16
第3回D I委員会……………	16
第3回広報委員会……………	16
〈会務報告〉	
令和5年度地区薬剤師会会長名簿……………	17
〈話 題〉	
令和4年度受賞者一覧……………	19
令和5年度受賞者一覧……………	21
〈総 会〉	
令和4年度決算承認 第126回公益社団法人福岡県薬剤師会定時総会開催……………	22
第126回福岡県薬剤師会定時総会 会長演述……………	23
〈第126回定時総会〉	
第126回（令和5年度）公益社団法人福岡県薬剤師会定時総会……………	24
〈医薬品情報〉No.503	
薬事情報センターに寄せられた質疑・応答の紹介（2023年4月・5月）……………	96
人工妊娠中絶薬「メフイーゴ TM パック」……………	98
薬剤による進行性多巣性白質脳症（PML）……………	101
新医薬品の薬価基準追補収載……………	104
報告品目等の薬価基準追補収載……………	109
後発医薬品の薬価基準追補収載……………	110
医薬品・医療機器等安全性情報 No.400（概要）……………	112
医薬品・医療機器等安全性情報 No.401（概要）……………	114
定期購読雑誌の紹介……………	119
〈総会議事録〉	
第125回臨時総会議事録……………	123
〈研 修〉	
薬学研究よもやま話 第61回……………	136
〈委員会報告〉	
令和5年度第1回学校・環境衛生研修会……………	143
福岡県総合防災訓練への参加……………	144
令和5年度学会発表スキルアップセミナー－PECOを使って研究計画を作ってみよう！－……………	145
医療保険研修会……………	146
〈地区だより〉	
「薬用植物を楽しもう 2023春」開催報告……………八幡薬剤師会…	147
〈会員異動〉……………	153
〈求人コーナー〉……………	159
〈会務日誌〉……………	160
〈編集後記〉……………	162
〈日本薬剤師会学術大会〉……………	163
〈九州山口薬学大会〉……………	171



一般化のワナを超えて

福岡県薬剤師会専務理事 小田 真稔

新型コロナウイルスの影響は深遠であり、私たち薬剤師にとって、そして業界全体にとって、この数年間は絶えず変化と挑戦の連続でした。コロナの収束は未だ見通せない状況ですが、アフターコロナの社会への準備と適応はすでに始まっています。

デジタル化の進行が私たちの業界でも見受けられ、オンライン服薬指導や電子処方箋の導入といった変革が進んでいます。これらの変化は、薬局業務の効率化やパーソナライズされたケアの提供を可能にする一方で、新たな課題を投げかけています。

特に、「一般化のワナ」に陥る可能性が懸念されます。これは、個人の経験や視点を全体に適用する誤った認識のことで、デジタル化が進む中でこれに注意することが重要です。

例えば、「若者はスマートフォンに依存している」や「高齢者はテクノロジーを理解できない」といった見解は、一般化のワナに陥っています。これらはある年齢層の一部の行動を、その年齢層全体に当てはめるもので、多様性を無視する危険性があります。

オンライン服薬指導が対面のものと同等であるとの一般化も、具体的な危険性の一例です。オンラインでは非言語的なコミュニケーションが困難であり、患者の身体的な状態を正確に把握することが難しくなります。また、接続の不安定さや画像、音声の品質問題など、テクノロジー固有の問題に直面する可能性も

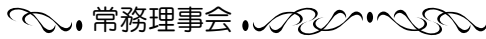
あります。

電子処方箋が医療提供のあらゆる体制において、最も適した選択肢であるとは限らないことも理解すべきです。緊急時や通信環境の悪い地域での使用、特殊な薬剤が必要な状況など、紙の処方箋が必要とされる場面もあります。

デジタル化が人間による全てのエラーを排除するという一般化も危険です。新たなシステムやプロセスは新たなエラーを生む可能性があります。例えば電子処方箋のデータ入力エラーやソフトウェアのバグなどが考えられます。

私たち薬剤師は、デジタル化の進行を受け入れつつも慎重に行動し、個々の患者への配慮を怠らないことが求められます。デジタル化が進む中でも、私たちの業務の核心部分、「病む人に希望と安心を与える努力」は変わらないものです。新たな技術に適応する上で、常に障壁が生じることを理解し、デジタル化に伴う新たなエラーや問題に対しても敏感に対応し、それを克服する能力を育てることが求められます。

私たちはアフターコロナの新たな環境に対応するため、多岐にわたる戦略を講じていかなければなりません。薬剤師が活躍することで、地域住民の健康な生活を確保できるものと考えておりますので、今後ともご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



第1回常務理事会

日 時：令和5年4月20日(木) 14時

場 所：福岡県薬剤師会館 3階 第一会議室

出席者：原口会長、高木、神村、宮谷、成重各副会長、小田専務理事、有吉、山口、千代丸、後藤、中原、原口、竹野、田城、永嶋、岸田、濱各常務理事、三浦監事、田尻理事

【会長挨拶】

- ・厚労省が都道府県ごとの薬剤師偏在指標（病院、薬局、地域別）を公表した。現時点の福岡県の薬局薬剤師偏在指標は1.17になっているので、「福岡は平均より多いので薬剤師は不足していない」と受け止められることを危惧している。平均値の1.00は過不足のない状態を示しているわけではないので、この指標の在り方については疑問があるが、1.17と公表された以上、福岡県は薬剤師が不足しているという説明が難しくなった。現場でどのくらい不足しているかを調査して、医療計画に盛り込んでいく必要があると考えている

【報告事項】

1 会務報告

2 日薬の最近の動向

3 各委員会からの活動状況報告

〔総務・組織会員〕永嶋常務

- ・令和5年度地区薬剤師会役員に対する傷害保険
- ・WebによるB会員の入会
現在まで6人の申請
福岡市薬剤師会は入会申請に必要な書類が多いため、県薬HPに設置した福岡市薬剤師会のリンクから手続きするよう変更

〔医療保険〕竹野常務

- ・調剤報酬点数表における「連携強化加算」の施設基準等の取り扱いに関する新型コロナウイルス抗原定性検査キット販売薬局等のリスト化更新
無料抗原検査の廃止に伴い、算定要件が抗原定性検査キットの販売に変更になりリストに掲載する必要がある。販売薬局のリストは適宜更新
- ・処方箋の使用期間
患者から「期限が4日間である旨の表示が小さくてわかりづらい」との意見が出されている。期限経過後の処方箋の取り扱いに注意
- ・都道府県薬剤師会等において実施した残薬等に係る調査（情報提供のお願い）
大牟田、朝倉両薬剤師会から情報提供
- ・令和5年度薬局における自宅療養等の患者に対する薬剤交付支援事業

〔地域医療連携〕濱常務

- ・令和4年度「薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業【第2期】」
医療的ケア児等協力薬局のリストを作成し、県薬HPに掲載

〔薬局ビジョン推進〕田城常務

- ・第22回健康21世紀福岡県大会
10月1日イオンモール福岡で開催予定

〔薬局機能推進〕千代丸常務

- ・健康サポート薬局研修会AB（8月開催予定）

県薬会館（講堂、会議室）にて80人で開催。以前、ハイブリッド開催した際に現地参加者だけではグループが作れず、急遽全員をWeb参加に切り替えたため、今回は現地開催のみ。薬局で対応する健康相談においては口腔ケアも重要と思われるため、福岡県歯科医師会に講師を依頼

- ・管理薬剤師の管理に関する帳簿改訂WG
現時点で約800冊の在庫があるため、200冊程度に減少した時点で印刷する予定
- ・フィジカルアセスメントモデル（フィジコ）の取り扱い

〔広報〕原口常務

- ・SNS投稿
- ・県薬会報

〔生涯学習〕有吉常務

- ・薬剤師生涯研修制度実施機関（研修プロバイダー）
- ・薬剤師生涯学習達成度確認試験の実施
7月30日開催予定。募集は研修センターが行い、県薬は当日監督業務を行う。合格者は「生涯学習指導薬剤師」を称することができる

〔薬学教育〕岸田常務

- ・認定実務実習指導薬剤師講習会（更新）
（4月13日）
参加者40人。プロフィール登録を行った人は、更新の案内通知が発出可能となる
- ・実務実習受け入れ施設向け説明会（5月18日）
Ⅱ期、Ⅲ期の受け入れ施設が対象で、日薬研修プラットフォームで募集中

〔災害・感染対策〕山口常務

- ・令和5年度福岡県総合防災訓練
5月28日あまぎ水の文化村等で実施。4月26日第2回全体会議が開催。モバイルファーマシーによる災害処方箋の調剤、薬剤師による避難所の衛生検査などを行

う。朝倉薬剤師会と一緒に訓練する計画

- ・令和5年度年間予定

昨年度の災害支援薬剤師養成研修は4か所で99人が修了。今年度は2か所で開催。県薬の防災訓練は9月初旬に、ワクチン接種研修は2月に行う計画

〔環境衛生・学校薬剤師〕中原常務

- ・令和5年度第1回学校・環境衛生研修会開催（5月13日）
- ・新型コロナウイルス感染症対策における検知管式気体測定器および検知管の活用
- ・新型コロナウイルス感染症への対応（学校薬剤師編：その36）

〔D I〕山口常務

- ・世界水泳に向けた活動
スポーツファーマシストがアンチドーピング活動ができるよう、福岡市と協議する予定。日本水泳連盟の医師を通じて、薬剤師会がアンチドーピングのブースを出すことについては了承を得ているので、具体的な内容を福岡市と協議

〔学術〕後藤常務

- ・令和5年度学会発表スキルアップセミナー

4 新型コロナウイルス感染症対策本部

- ・新型コロナウイルスワクチン専用ダイヤル相談等対応業務（小田専務）
直近1週間の相談は28件。県薬対策本部は5月7日で終了予定

〔協議事項〕

- 1 確認事項
 - ・後援等依頼 2件 承認
 - ・講師派遣依頼 3件 承認
- 2 令和4年度事業報告
 - ・重点事業報告（永嶋常務）
- 3 第126回定時総会（6月18日）
 - ・次第（報告、議案）

・常務理事会

4 その他

(田城常務)

- ・薬局での無料抗原検査は5月7日で終了するが、有料検査は実施して差し支えない。陽性者登録関係等の資料も引き続き使用して差し支えないとのこと。薬務課から通知文書を発出予定

(原口会長)

- ・4月1日から日薬研修プラットフォームには、都道府県薬剤師会の会長名で修了証、領収証の発行ができる機能が整備されている。地域薬剤師会の機能も実装されたので、今後、説明会が行われる予定

第2回常務理事会

日 時：令和5年5月18日(木) 14時

場 所：福岡県薬剤師会館 3階 第一会議室

出席者：原口会長、高木、神村、宮谷、成重各副会長、小田専務理事、有吉、山口、千代丸、後藤、
中原、原口、竹野、田城、永嶋、岸田、濱各常務理事、三浦監事

【会長挨拶】

・規制改革会議で様々な議論が続けられているが、すでに結論が出ていると認識している事項について特区を活用して実施しようという動きも出ている。市町村に働きかけている事例を聞いており、本県内の市町村なども含まれているかもしれない。このような動きに対しては、様々な考え方があるが、薬剤師・薬局が地域住民にとって必要な存在であると思ってもらえるように活動していくことが必要であり、おれないようにしなければならない。地域住民や全体にメリットがある内容であれば、ある程度受け入れる姿勢は必要と思うが、住民の生活の質を担保するためにしっかり精査することが必要である

【報告事項】

1 会務報告

2 日薬の最近の動向

3 第54回日本薬剤師会学術大会・第82回九州山口薬学大会演題登録状況

〔第54回日本薬剤師会学術大会〕

- ・使用済医薬品ボトルの回収・再資源化に関する資源循環モデル実証事業－薬局におけるSDGsへの取り組み－（田城常務）
- ・薬事情報センターの利用に関するアンケート調査（山口常務）

〔第82回九州山口薬学大会〕

- ・なし

4 各委員会からの活動状況報告

〔総務・組織会員〕永嶋常務

- ・令和6、7年度会費
- ・B会員無料キャンペーン
- ・プライバシーポリシーの修正
- ・職員育児介護休業規程の改正
育児介護休業法の改正に伴い、当会の規程を全面改正
- ・福岡県薬剤師会旅費規程の改正
- ・会員アプリ
6月15日をめどに公開予定

〔医療保険〕竹野常務

- ・令和5年5月8日以降における新型コロナウイルス感染症治療薬の保険調剤（公費支援措置の対象となる保険処方箋の取り扱い）
薬剤費のみ公費支援対象となり、薬剤費以外は自己負担が発生
- ・新型コロナウイルス感染症の経口抗ウイルス薬の提供可能な薬局リストの公表

〔地域医療連携〕濱常務

- ・令和4年度薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業【第2期】
非会員も、県薬HPから地区別の協力薬局のリストを見ることが可能なグーグルマイマップを作成。活用していただくよう周知文書を発出

常務理事会

〔薬局ビジョン推進〕田城常務

- ・令和5年度使用済医薬品ボトルの回収・再資源化に関する実証事業
- ・新型コロナウイルス感染症無料検査事業の終了
無料検査の終了に伴い、抗原定性検査キットの購入者に対する説明資料の内容が変更
- ・緊急避妊薬の薬局リスト
2月25日にオンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤に関する研修会を実施し、3月に厚労省に薬局のデータを報告したが、会員から自分の薬局名が掲載されていないという指摘を受けた。厚労省に確認すると、更新作業を行ったという回答だったが、実際には更新内容が反映されていなかった。現在は更新されている

〔広報〕原口常務

- ・県薬会報
- ・SNS投稿

〔生涯学習〕有吉常務

- ・専門領域継続セミナー
- ・かかりつけ薬剤師機能強化研修サポート計画
- ・公益財団法人日本薬剤師研修センター関係

〔薬学教育〕岸田常務

- ・実務実習受け入れ施設向け説明会（5月18日）
Ⅱ期、Ⅲ期が対象で、17大学、165人参加
- ・認定実務実習指導薬剤師の名簿
5月8日更新。今後は3カ月ごとに更新される見込み。更新する際はプロフィール登録が必要
- ・国際医療福祉大学の実務実習
大学が文部科学省に提出する資料として、県内の実習受け入れ施設の名簿が必要なので、薬学生に不利益が生じないように、

地区薬に取りまとめの協力を依頼

承諾書の提出の有無はマッチングには影響しない

〔災害・感染対策〕山口常務

- ・令和5年度福岡県総合防災訓練
避難所の環境衛生検査や県庁の災害対策本部での災害薬事コーディネーターの活動などを組み込んでいる

〔環境衛生・学校薬剤師〕中原常務

- ・新型コロナウイルス感染症への対応（学校薬剤師編：その37）
- ・県立学校における二酸化炭素濃度測定機器等購入に関する補足説明
体育スポーツ健康課から県立学校宛に発出された文書の内容について、学校や学校薬剤師から多くの意見や質問をいただいているので、補足説明の文書を発出する予定

〔D I〕山口常務

- ・世界水泳
福岡市と協議。スポーツファーマシストがアンチドーピング活動を行えるブースの設置について、検討していただくよう要望

〔学術〕後藤常務

- ・令和5年度学会発表スキルアップセミナー
申し込みは20人

〔薬と健康の週間実行〕田城常務

ソラリアゼファ（福岡市）を10月22日に仮予約

〔県学術大会実行〕有吉常務

- ・第4回福岡県学術大会報告

〔地域薬学ケア専門薬剤師研修調整〕

有吉常務

- ・日本医療薬学会「地域薬学ケア専門薬剤師制度」の基幹施設申請の受け付け開始

5 新型コロナウイルスワクチン専用ダイヤル相談等対応業務（小田専務）

直近1週間の相談は456件。福岡市のワクチン予約などに関する間違い電話が多い

[協議事項]

1 確認事項

- ・後援等依頼 4件 承認
- ・講師派遣依頼 3件 承認

2 福岡県薬剤師会正会員B入会金無料キャンペーン（令和6、7年度実施期間延長）（永嶋常務）

承認

3 第126回定時総会（小田専務）

- ・タイムスケジュール
- ・役割分担
- ・第126回定時総会議案および付議事項内容

4 令和4年度会計報告（監査報告）

（永嶋常務）

三浦監事から、5月12日篠原監事と関係帳簿や通帳を点検し、適正に処理されていることを確認した旨が報告された

5 地区指導者研修会の開催（小田専務）

・日程等

日時：9月2日(土) 15:00 開会

3日(日) 12:00 閉会

1日目 連盟若手フォーラム

2日目 地区指導者研修会

場所：ロイヤルホテル宗像

・テーマおよび担当委員会

6 第102回日本薬剤師会定時総会ブロック代表質問案（小田専務）

7 その他

（竹野常務）

- ・薬剤交付支援事業の予算額は370万円だが、3、4月の請求額は3,500円と少なかった。今後、感染が再拡大するような状況になれば活用してほしい
- ・6月3日に福岡市薬剤師会と共催で医療保険研修会を開催する。厚労省保険局医療課の安川薬剤管理官に講演をお願いするので参加していただきたい

第 573 回 理 事 会

日 時：令和 5 年 5 月 22 日 (月) 14 時

場 所：福岡県薬剤師会館 4 階 講堂

出席者：原口会長、高木、神村、成重各副会長、小田専務理事、山口、千代丸、後藤、中原、原口、田城、永嶋、岸田、濱各常務理事、田尻、江川、西村、石井、有吉、岡村、仙敷、星野、窪田、馬場、石橋、永原、高橋典、高瀬、清水、井上、竹下、杉岡、高橋俊各理事、篠原、三浦各監事

【会長挨拶】

新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行し、今後も現在の状況が続くようであれば日常的な活動に戻ることができると考えられる。これまでコロナ禍で様々な対策にご尽力いただいていたことにお礼申し上げます

コロナ禍で進展した ICT 環境を活用した各種のサービスや機能はなくなることはなく、今後の我々の業界においてもスピード感をもって動いていくことになると思う

医療 DX については、厚労省だけでなくデジタル庁、総務省、経済産業省などが様々な意見を反映させながら工程表を策定しているところだと思う。私たちも住民、患者の安心安全を基本に据えて対応していく必要がある

1 会務報告

- ・福岡県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会（5 月 17 日）

2 日薬の最近の動向

3 理事者辞任の件 ※敬称略（小田専務）

宮崎 寿

4 月 15 日付けで理事を辞任

4 福岡県薬剤師会会長表彰受賞者の件

（小田専務）

5 第 54 回日本薬剤師会学術大会・第 82 回九州山口薬学大会演題登録状況

〔第 54 回日本薬剤師会学術大会〕

- ・使用済医薬品ボトルの回収・再資源化に関する資源循環モデル実証事業

－薬局における SDGs への取り組み－

（田城常務）

- ・薬事情報センターの利用に関するアンケート調査（山口常務）

〔第 82 回九州山口薬学大会〕

- ・なし

6 各委員会からの活動状況報告

〔総務・組織会員〕永嶋常務

- ・令和 6、7 年度会費
- ・会員アプリ

リリースは 6 月 15 日頃を予定

〔医療保険〕濱常務

- ・令和 5 年 5 月 8 日以降における新型コロナウイルス感染症治療薬の保険調剤（公費支援措置の対象となる保険処方箋の取り扱い）

ラゲブリオ、パキロビッド、ゾコーバの薬剤料の部分のみ公費支援が継続。

コロナ陽性者にコロナ治療薬を調剤した際は、服薬管理指導料 1 または 2 の 100 分の 200 に相当する点数を算定できるが、コ

❧ 理事会 ❧

〔環境衛生・学校薬剤師〕 中原常務

- ・令和5年度第1回学校・環境衛生研修会
 - ・県立学校における二酸化炭素濃度測定機器等購入に関する補足説明
- 体育スポーツ健康課から県立学校宛に発出された文書の内容について、学校や学校薬剤師から多くの意見や質問をいただいているので、補足説明の文書を発出

〔D I〕 山口常務

- ・世界水泳
- スポーツファーマシストによるアンチドーピング活動ができるよう、福岡市と協議。選手に対する安全なOTCのリスト作成、薬事情報センターによるドーピングホットラインは、ぜひ行ってほしいと言われている。
- アンチドーピング活動の啓発のためのブースを出せるか打診したが、難しいようなのでパネルによる活動ができないかを協議中

〔学術〕 後藤常務

- ・令和5年度学会発表スキルアップセミナー
- グループワーク形式にすることで内容を充実

〔薬薬連携推進〕 後藤常務

令和4年度に4ブロックで合同ワークショップを開催。92人参加

〔県学術大会実行〕 高木副会長

多くの方に参加していただき、お礼申し上げます。改善点などの意見をいただいたので、次回の大会に活かしていきたい

〔地域薬学ケア専門薬剤師研修調整〕

高木副会長

- ・日本医療薬学会「地域薬学ケア専門薬剤師制度」の基幹施設申請の受け付け開始

〔議事運営〕 小田専務

- ・5月25日開催

7 新型コロナウイルスワクチン専用ダイヤル相談等対応業務（小田専務）

直近の週は343件。累計では9万2千件余

〔協議事項〕

- 1 確認事項
 - ・後援等依頼 3件 承認
 - ・講師派遣依頼 なし
- 2 会員入会審査および会員名簿登録情報の変更（令和5年2月～4月）承認
- 3 第126回定時総会（小田専務）
 - ・タイムスケジュール
 - ・役割分担
 - ・第126回定時総会議案および付議事項内容承認
 - ・福岡県薬剤師会正会員B入会金無料キャンペーン（永嶋常務）

実施期間延長：令和6、7年度承認
- 4 令和4年度会計報告（監査報告）（永嶋常務）

篠原監事から決算書類は正確に処理されていることを確認した旨報告
- 5 役員退任慰労金の件（小田専務）承認
- 6 地区指導者研修会の開催
 - ・日程等

日 時：9月2日(土) 15:00 開会
3日(日) 12:00 閉会
1日目 連盟若手フォーラム
2日目 地区指導者研修会

場 所：ロイヤルホテル宗像

 - ・テーマおよび担当委員会

第1回地区連絡協議会

日時 令和5年6月2日(金) 14時
場所 福岡県薬剤師会館 4階 講堂

- 【理事】原口会長、高木、宮谷、成重各副会長、小田専務理事、有吉、山口、千代丸、後藤、
中原、原口、竹野、田城、永嶋、岸田、濱各常務理事
- 【地区薬】福岡市（東薬・博多・中央・早良・城南）、宗像、粕屋、筑紫、糸島、朝倉、久留米
三井、八女筑後、浮羽、柳川山門、大川三潞、大牟田、遠賀・中間、八幡、戸畑、小倉、
門司、京都、豊前築上、飯塚、直方鞍手、田川 ※下線はWeb参加

【会長挨拶】

今年はエルニーニョ現象などによる異常気象も予測されているので、防災対策について準備と心構えが必要だと感じている

福岡県総合防災訓練への参加にあたっては、朝倉地区にも協力をいただいたことにお礼申し上げます

【新会長挨拶】 ※敬称略

久留米三井薬剤師会 白木 秀和
八幡薬剤師会 有吉 浩文

【報告・伝達事項】

1 会務報告

- ・令和5年度福岡県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動の実施（宮谷副会長）
多くの地域から実施計画が出されているが、薬剤師が関わることができていない地域もある。薬剤師も関与できるよう働きかけていただきたい

2 日薬の最近の動向

3 福岡県薬剤師会会長表彰受賞者の件 （小田専務）

4 理事者辞任の件 ※敬称略（小田専務）

宮崎 寿
4月15日付けで理事を辞任

5 各委員会からの報告および伝達

〔総務・組織会員〕永嶋常務

- ・B会員無料キャンペーン
- ・会員アプリ
会員証機能などにも対応するアプリが完成。6月15日をめどに公開予定

〔医療保険〕竹野常務

- ・令和5年5月8日以降における新型コロナウイルス感染症治療薬の保険調剤（公費支援措置の対象となる保険処方箋の取り扱い）
ラゲブリオ、パキロビッド、ゾコーバの薬剤料の部分のみ公費支援が継続されている。コロナ陽性者にコロナ治療薬を調剤した際は、服薬管理指導料1または2の100分の200に相当する点数を算定できるが、コロナ陽性患者にコロナウイルスだけ調剤した際も算定できると拡大解釈している薬局が見受けられる。コロナ治療薬の調剤時のみ適用されるものなので、注意していただきたい
- ・新型コロナウイルス感染症の経口抗ウイルス薬の提供可能な薬局リストの公表

地区連絡協議会

現在もグーグルフォームから登録可能。
未登録の薬局は今からでも登録していただき

- ・新型コロナウイルス感染症の類型変更に伴う調剤報酬上の特例対応
- ・新型コロナウイルス感染症における経口抗ウイルス薬の取り扱い（所有権の移転および再譲渡）

〔地域医療連携〕濱常務

- ・令和4年度薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業【第2期】
非会員も県薬HPから地区別の協力薬局のリストが見れるグーグルマイマップを作成したので、活用していただくよう周知文書を発出。今回の事業の報告書をマップの下に掲載
- ・令和5年度福岡県社会福祉協議会介護講座
- ・PCAポンプ実技研修会の開催支援

〔薬局ビジョン推進〕田城常務

- ・第22回健康21世紀福岡県大会
福岡県が主体となって開催され、開催地域の地区薬が対応している。今年度の開催地域は福岡市だが、会場は粕屋のイオンモール福岡、10月1日に開催
- ・令和5年度使用済医薬品ボトルの回収・再資源化に関する実証事業
6月末から7月初旬頃に説明会を予定
- ・新型コロナウイルス感染症無料検査事業の終了
無料検査の実施に協力をいただいた皆様にお礼申し上げる。無料検査の終了に伴い、5月8日以降は抗原定性検査キットの購入者に対する説明資料の内容が変更

〔薬局機能推進〕千代丸常務

- ・フィジカルアセスメントモデル（フィジコ）の利活用

5月8日「フィジコの地区薬剤師会での利活用のご提案」を発出

〔広報〕原口常務

- ・県薬会報
会報には「地区だより」のページがある。コロナ禍で地区での活動も停止されていたと思うが、地区での活動に係る原稿、写真を提供していただきたい
- ・SNS投稿

〔生涯学習〕有吉常務

- ・専門領域継続セミナー
- ・かかりつけ薬剤師機能強化研修サポート計画
- ・公益財団法人日本薬剤師研修センター関係
- ・令和5年度病院診療所薬剤師研修会の共催

〔薬学教育〕岸田常務

- ・認定実務実習指導薬剤師講習会（更新）（4月13日）
薬局薬剤師と病院薬剤師の計40人参加。プロフィール登録すれば、更新時に通知を受けることができる
- ・実務実習受け入れ施設向け説明会（5月11日）
Ⅱ期、Ⅲ期が対象で、17大学、165人参加
- ・認定実務実習指導薬剤師の名簿
5月8日更新。今後は3カ月ごとに更新される見込み
- ・国際医療福祉大学の実務実習
大学が文部科学省に提出する資料として、県内の実習受け入れ施設の名簿が必要なので、薬学生に不利益が生じないように、地区薬に協力をいただいて取りまとめた。承諾書を提出の有無はマッチングには影響しない

〔災害・感染対策〕山口常務

- ・福岡県総合防災訓練（5月28日）

5カ所の会場で実施され、モバイルファーマシーでの災害処方箋の対応、避難所の環境衛生検査などの訓練を行った。県庁での災害薬事コーディネーターの訓練も実施した

〔環境衛生・学校薬剤師〕中原常務

- ・令和5年度県立学校における教室等環境検査（二酸化炭素等）
- ・令和5年度県立学校における教室等環境検査（揮発性有機化合物）
- ・令和5年度県立学校における教室等環境検査（ダニまたはダニアレルゲン）

〔DI〕山口常務

- ・世界水泳でのアンチドーピング啓発活動
7月に190カ国の選手が来福して開催される。選手に対する安全なOTCのリスト作成、薬事情報センターによるドーピングホットラインを実施する予定。スポーツファーマシストによるアンチドーピング活動の啓発のためのブースを出せるか打診したが、難しいようなのでパネル（QRコード付き）による活動ができないかを協議中

〔学術〕後藤常務

- ・令和5年度学会発表スキルアップセミナー
5月28日に研究計画の作成をメインに開催、25人参加

〔薬薬連携推進〕後藤常務

- ・薬局薬剤師と病院薬剤師の合同ワークショップ
昨年度は4ブロックで開催する予定だったが、北九州ブロックは感染拡大防止のため中止。計92人参加

〔県学術大会実行〕有吉常務

多くの方に参加していただき、お礼申し上げます。改善点に関するご意見をいただいたので、次の大会に活かしていきたい。

今年度は2月18日にアクロス福岡で開催予定

〔地域薬学ケア専門薬剤師研修調整〕

有吉常務

- ・日本医療薬学会「地域薬学ケア専門薬剤師制度」の基幹施設申請の受け付け開始

〔議事運営〕小田専務

- ・5月25日に委員4人と正副議長により委員会開催。定時総会は12時半から開催予定

6 新型コロナウイルスワクチン専用ダイヤル相談等対応業務（小田専務）

直近の週は301件、累計では93,218件の相談を受けた。

【重点報告】

- 1 第126回定時総会（6月18日）（小田専務）
- 2 令和4年度会計報告（永嶋常務）
- 3 地区指導者研修会の開催（小田専務）

日 時：9月2日（土）15：00 開会

3日（日）12：00 閉会

1日目 連盟若手フォーラム

2日目 地区指導者研修会

場 所：ロイヤルホテル宗像

地区長と若手（または女性）薬剤師1人の計2人の参加をお願いする

委員会の動き

会議録

第1回 環境衛生・学校薬剤師委員会

日 時：令和5年4月27日(木) 15時
場 所：福岡県薬剤師会 第一会議室
出席者：原口会長、宮谷副会長、小田専務理事、
中原、山口各常務理事、吉村、窪田、
石井各理事、ディバナディ、北口、
吉村、角、友永、隠塚各委員

〔報告〕

1. 令和4年度第4回環境衛生・学校薬剤師委員会
2. 地区宛発信文書
3. 令和5年度学校薬剤師ブロック連絡会議の開催
4. 新型コロナウイルス感染症対策における検知管式気体測定器および検知管の活用
5. 令和4年度福岡県覚醒剤・麻薬禍対策協議会資料
6. スポーツ庁社会体育施設の再開に向けた感染拡大予防ガイドライン
7. 令和5年度福岡県養護教諭基本研修
8. 宗像薬剤師会学校薬剤師の研修会
9. 令和4年度日本薬剤師会学校薬剤師部会全国担当者会議
10. 令和4年度学校薬剤師ブロック連絡会議【九州ブロック】

〔議題〕

1. 令和5年度第1回学校・環境衛生研修会
2. 福岡県薬剤師会 ホームページ（環境衛生・学校薬剤師委員会）
3. 令和5年度第2回学校・環境衛生研修会
4. 今後の学校・環境衛生研修会の外部講師
5. 学校・環境衛生研修会（9/24）の問い合わせ

第1回 生涯学習委員会

日 時：令和5年4月28日(金) 15時
場 所：福岡県薬剤師会館 第一会議室
出席者：原口会長、高木副会長、小田専務理事、
有吉、千代丸各常務理事、藤浦、小林、
高瀬、井上各理事、入倉、古賀、兼重、
林、因間、連石、久保、岩崎各委員

〔議題〕

1. 令和4年度福岡県学術大会
2. 専門領域継続セミナー
3. かかりつけ薬剤師機能強化研修サポート計画
4. 公益財団法人日本薬剤師研修センター関係
5. 研修会開催支援業務
6. 薬剤師認定制度認証機構（CPC）

第1回 災害・感染対策委員会

日 時：令和5年5月9日(火) 15時
場 所：福岡県薬剤師会館 講堂
出席者：宮谷副会長、小田専務理事、山口、
永嶋各常務理事、石橋、仙敷、永原、
馬場各理事、立山、田中聖各委員

〔議題〕

1. 令和5年度福岡県総合防災訓練
2. 防災訓練の展示物

第1回 医療保険委員会

日 時：令和5年5月10日(水) 15時
場 所：福岡県薬剤師会館 講堂
出席者：高木副会長、小田専務理事、竹野、濱
各常務理事、有吉、星野、馬場、清水
各理事、吉野、内田、岩光、安中、
宮坂、島田各委員

〔報告〕

1. 地区宛発信文書

〔議題〕

1. 第13回医療安全セミナー講師

※下線はWeb参加

第2回 広報委員会

日時：令和5年5月10日(水) 15時
場所：福岡県薬剤師会館 第一会議室
出席者：宮谷副会長、小田専務理事、原口、
田城各常務理事、石井、高橋典、永原
各理事、生熊、清水、住本、隠塚各委
員

〔議題〕

1. 県薬会報5-6月号
2. 特集記事取材の質問内容
3. フェイスブック
3. 第68回くすりのセミナー福岡(8/26)講師
4. 連盟SNS

第1回 薬局ビジョン推進委員会

日時：令和5年5月16日(火) 16時
場所：福岡県薬剤師会館 第一会議室
出席者：高木副会長、小田専務理事、田城、
原口各常務理事、星野、藤浦、高橋俊
各理事、長迫、小塚、田中聖、大場、
久保各委員

〔報告〕

1. 地区宛発信文書

〔議題〕

1. 「くすりと健康Q&A」
2. 令和5年度福岡県禁煙相談員養成研修
3. かかりつけ薬剤師、薬局による薬学的管理、指導に対する支援

第1回 総務・組織会員委員会

日時：令和5年5月11日(木) 15時
場所：福岡県薬剤師会 第一会議室
出席者：原口会長、小田専務理事、永嶋、岸田
各常務理事、仙敷、星野、永原各理事、
佐藤、井上各委員

〔議題〕

1. 令和4年度事業報告
2. 令和6、7年度会費、B会員無料キャンペーン
3. プライバシーポリシーの修正
4. 職員育児介護休業規程の改正
5. WebによるB会員の入会
6. 旅費規程の改正
7. 職員就業規程
 - ・60時間を超える時間外労働の割増賃金率の引き上げ
 - ・定年延長措置の実施に伴う改正
8. 会員アプリ
9. インボイス制度 研修会

第1回 薬薬連携推進委員会

日時：令和5年5月17日(水) 14時
場所：福岡県薬剤師会 第一会議室
出席者：小田専務理事、後藤常務理事、石井、
高橋典、高瀬、清水各理事、金谷、
金澤各委員

〔議題〕

1. 令和4年度薬局薬剤師と病院薬剤師の合同ワークショップ(総括)
2. 令和5年度薬局薬剤師と病院薬剤師の合同ワークショップ

第2回 DI委員会

日時：令和5年5月19日(金) 14時
場所：福岡県薬剤師会 第一会議室
出席者：宮谷副会長、小田専務理事、山口、
中原各常務理事、有吉、吉村、清水各
理事、坂井委員

〔議題〕

1. 世界水泳に向けた今後の取り組み

委員会の動き

第 1 回 薬 学 教 育 委 員 会

日 時：令和 5 年 6 月 1 日(木) 15時
 場 所：福岡県薬剤師会館 第一会議室
 出席者：成重副会長、小田専務理事、岸田、濱
 各常務理事、江川、西村、岡村、仙敷、
 窪田、小林各理事、松下、園田、高橋
 各委員、オブザーバー 高木副会長、
 久留米大学病院 樋口氏

〔報告〕

1. 令和 5 年度Ⅱ期
2. 認定実務実習指導薬剤師養成講座
 (新規、更新)
3. 実務実習受け入れ施設向け説明会
4. 認定実務実習指導薬剤師リスト
5. 早期臨床体験、事前学習
6. 国際医療福祉大学福岡薬学部実務実習の
 受け入れに関するお願い

〔議題〕

1. 第 2 回薬学教育研修会
2. 実務実習地区担当者協議会

第 3 回 D I 委 員 会

日 時：令和 5 年 6 月 7 日(水) 14時
 場 所：福岡県薬剤師会 第一会議室
 出席者：宮谷副会長、小田専務理事、山口、
 中原各常務理事、有吉、清水各理事、
 坂井委員

〔議題〕

1. 世界水泳に向けた今後の取り組み
2. 「みんなのDI室」LINE

第 3 回 広 報 委 員 会

日 時：令和 5 年 6 月 8 日(木) 15時
 場 所：福岡県薬剤師会館 第一会議室
 出席者：原口会長、宮谷副会長、小田専務理事、
 原口、田城各常務理事、石井、高橋典、
 永原各理事、生熊、住本、松本各委員、
 オブザーバー 藤永福岡県病院薬剤師
 会常務理事

〔議題〕

1. 県薬会報 7 - 8 月号編集方針
2. 取材の質問内容
3. フェイスブック
3. 第68回くすりのセミナー福岡 (8/26)
4. 連盟SNS

※下線はWeb参加

令和5年度 地区薬剤師会会長名簿

令和5年度の地区薬剤師会会長が決まりました。続投される方が多い中9地区で新しい会長が選出されています。

新会長の抱負を御紹介し、皆さま方のますますのリーダーシップに期待したいと思います。

地区薬剤師会名	会 長 名
福岡市	※木原 太郎
宗 像	安 東 恵津子
粕 屋	密 谷 英 里
筑 紫	宮 谷 英 記
糸 島	※細 川 禎 久
朝 倉	新 留 孝 一
久留米三井	※白 木 秀 和
八女筑後	森 健 司
浮 羽	吉 松 秀 明
柳川山門	田 島 耕 一
大川三潞	坂 本 泰 敏
大牟田	森 田 宏 樹
遠賀中間	※井 上 富 夫
若 松	石 井 裕 太
八 幡	※有 吉 浩 文
戸 畑	安 田 和 義
小 倉	仙 敷 義 和
門 司	松 丸 博 幸
京 都	※山 口 哲 平
豊前築上	山 形 明
飯 塚	※藤 浦 大 介
直方鞍手	※宮 坂 圭 三
田 川	中 原 学
県 庁	※前 田 和 紀
北九州市	小 野 春 夫

※ 新任

新会長の紹介

福岡市薬剤師会

会長 木原 太郎

薬剤師を取り巻く環境が大きく変革している現在、福岡市薬剤師会がその流れに後れを取らないように舵取りを行っていく所存です。そのためには、日薬や県薬とも濃密な連携をとっていかねばならないと考えています。



糸島薬剤師会

会長 細川 禎久

この度、糸島薬剤師会会長に就任致しました細川です。

コロナ禍で進歩したIT環境は、これからも薬剤師の業務に影響を与えていくと思います。

業務の変化に対応しつつ、地域連携、薬剤師間の連携に尽力していきたいと思っています。



久留米三井薬剤師会

会長 白木 秀和

この度、久留米三井薬剤師会会長を拝命しました白木秀和です。

薬剤師の歴史と現状をしっかりと理解することに努め、未来に向け会員間の結束を一番に重要視しながら会務、事業を進めていく所存です。



会務報告

遠賀中間薬剤師会

会長 井上 富夫

今期より、遠賀中間薬剤師会の会長に就任致しました井上富夫です。

コロナ禍においては、ワクチン接種等で薬剤師が地域の多職種から評価されたと実感しております。引き続き地域からより評価される薬剤師会活動を目指してまいります。



飯塚薬剤師会

会長 藤浦 大介

会長の藤浦大介です。新理事共々よろしくお願いします。まだ若いと思っていた私でし

たが、振り向けばもっと若い役員が立派に育って心強く感じています。常に未来を見据え、生き残るだけではなく会員共に時代の波を乗り越えることを目標に活気のある会を築いてまいります。



八幡薬剤師会

会長 有吉 浩文

この度、公益社団法人八幡薬剤師会会長に就任いたしました有吉浩文です。これまで

以上に会員の資質向上、相互連携による組織強化をはかりつつ、地域において薬剤師が担う役割を十分に発揮し、地域住民の健康の維持増進に貢献できる薬剤師会を目指して頑張りたいと思います。



直方鞍手薬剤師会

会長 宮坂 圭三

この度、直方鞍手薬剤師会会長を拝命しました宮坂です。

これまでの経験を活かし、新たな職責のもとで地域連携を図り、薬剤師会や会員、地域住民のために最大限努めさせていただきますので、宜しくお願いいたします。



京都薬剤師会

会長 山口 哲平

この度、京都薬剤師会会長に就任いたしました山口哲平です。会員の皆様をはじめ、

会務に携わる全ての方々と協力し、地域の医療を支えるとともに、薬剤師の職能をアピールするべく積極的に活動して参ります。



県庁薬剤師会

会長 前田 和紀

県庁薬剤師会は、薬剤師である県職員で組織されており、その職能を生かし、薬務、食

品、環境、研究等幅広い分野で活躍しています。新型コロナ5類移行により社会が活性化し、新たな取り組みが必要となることが予想されます。福岡県薬剤師会と連携した事業を起こし、県民に貢献できる機会ができればと考えています。よろしくお願いいたします。



令和4年度受賞者一覧

(福岡県薬剤師会会員分、敬称略)

叙勲 (旭日双光章薬事功労)

木 下 正 博 (門 司)

叙勲 (瑞宝双光章高齢者)

武 井 龍太郎 (朝 倉) 平 塚 照 義 (大 牟 田)

叙勲 (瑞宝双光章学校保健功労)

松 田 亨 (小 倉)

厚生労働大臣表彰 (薬事功労)

満 安 徹 也 (久留米三井) 吉 村 次 生 (医薬品卸業協会)

厚生労働大臣表彰 (公衆衛生功労)

青 木 和 子 (久留米三井)

文部科学大臣表彰 (学校保健功労)

福 岡 英 樹 (福 岡 市)

日本薬剤師会有功賞 (個人)

藤 原 良 春 (福 岡 市)	藤 野 久 枝 (福 岡 市)
吉 田 斌 (福 岡 市)	川 野 文 子 (柳 川 山 門)
川 野 紘 (柳 川 山 門)	石 村 茂 允 (八 幡)
末 永 幾 代 (小 倉)	中 尾 孝 江 (京 都)

九州山口薬剤師会表彰

安 東 恵津子 (宗 像)	井 野 博 文 (宗 像)
國 武 雅 弘 (糸 島)	牛 嶋 良 雄 (柳 川 山 門)
高 橋 雅 治 (若 松)	脇 園 隆 二 (八 幡)
本 間 司 郎 (門 司)	因 間 司 (直 方 鞍 手)

日本公衆衛生協会会長表彰 (公衆衛生功労)

杉 本 奈緒美 (久留米三井)

話 題

福岡県知事表彰（薬事功労：団体）

公益社団法人福岡県薬剤師会

福岡県医薬品卸業協会

福岡県知事表彰（薬事功労：個人）

小 松 公 秀（福 岡 市）
石 川 裕 司（久留米三井）
本 郷 英 三（医薬品配置協会）

藤 崎 尚 子（粕 屋）
黒 木 俊 光（製薬工業協会）

福岡県知事表彰（公衆衛生事業功労）

田 端 晃 一（粕 屋）
青 木 和 子（久留米三井）
満 安 徹 也（久留米三井）
川 本 太 郎（戸 畑）
中 村 純 一（直方鞍手）

貞 莉 幹 子（朝 倉）
杉 本 奈緒美（久留米三井）
藤 本 正 憲（八 幡）
廣 瀬 隆 太（飯 塚）
中 原 奈都美（田 川）

ふくおか公衆衛生推進機構理事長表彰

川 本 健 司（福 岡 市）
里 村 尚 俊（八 幡）
岡 田 年 弘（飯 塚）
中 原 学（田 川）

永 田 義 人（粕 屋）
谷 口 健 吾（京 都）
中 村 寛 子（直方鞍手）

福岡県学校保健功労者表彰

東 千 鶴（福 岡 市）
小 林 正 喜（粕 屋）
森 田 桂 子（久留米三井）
藤 本 陽 一（八 幡）
山 岡 光 恵（小 倉）
馬 場 雅 男（門 司）
阿 部 博 子（直方鞍手）

堀之内 真 紀（福 岡 市）
杉 本 奈緒美（久留米三井）
橋 本 和 樹（大 牟 田）
倉 石 恵利子（戸 畑）
佐 伯 チヨ子（小 倉）
平 野 和 隆（飯 塚）

福岡県教育文化表彰

馬 場 正 佳（福 岡 市）
松 田 亨（小 倉）

松 浦 昭 仁（小 倉）

令和5年度受賞者一覧

(福岡県薬剤師会会員分、敬称略)

福岡県薬剤師会会長賞

会員の部

竹 野 将 行 (福 岡 市)
平 位 典 嗣 (朝 倉)
近 藤 崇 之 (大 牟 田)
伊 藤 孝 泰 (小 倉)
隠 塚 栄 次 (飯 塚)
岩 川 浩 二 (田 川)

濱 口 朋 広 (筑 紫)
今 村 葉 子 (久留米三井)
永 嶋 友 洋 (八 幡)
林 勝 次 (飯 塚)
石 井 光 有 (直方鞍手)

会員(有功賞)の部

平 島 久美夫 (福 岡 市)
岩 崎 守 (八 幡)

小 野 寿 子 (八 幡)

職員の部

甲斐田 則 子 (福 岡 市)
森 山 尚 美 (八 幡)
河 邊 久 美 (北 九 州 市)

井 手 純 司 (福 岡 市)
入 江 仁 美 (直方鞍手)
三 好 慶 典 (北 九 州 市)

地域薬剤師会の部

一般社団法人粕屋薬剤師会
公益社団法人八幡薬剤師会

一般社団法人筑紫薬剤師会



令和 4 年度決算承認 第126回公益社団法人福岡県薬剤師会定時総会開催

6月18日(日) 12時30分より、第126回公益社団法人福岡県薬剤師会定時総会が県内23地区薬剤師会、1職域薬剤師会から総定数110人の代議員のうち、出席代議員97人、書面表決による出席11人で、同会館にて開催された。総会では、令和4年度会務、事業報告、令和5年度予算など5件と、令和4年度決算、令和6年度借入金限度額、会費および入会金、理事、監事選任の5議案が、慎重なる審議を経て、賛成多数で議案通り承認された。
議事詳細内容については、県薬会報9-10月号に掲載予定





第126回福岡県薬剤師会定時総会

会 長 演 述

福岡県薬剤師会会長 原口 亨

新型コロナウイルス感染症の発生から3年半が経ち、この間、感染防止対策を講じつつ地域における医薬品提供体制を維持するとともに、感染拡大防止にあらゆる手段を講じつつ対応いただき、改めて感謝申し上げます。

薬剤師会は、薬剤師の結集と連携を促進し、薬剤師職能の発展と医療、健康の向上に貢献するために存在しています。私たちは日々、地域住民の健康と福祉を第一に考え、薬学的知見と情熱をもって薬剤師サービスを提供しています。

会長に就任以来、手段を目的化することなく、職能団体である薬剤師会が果たすべき役割は何かを考えつつ、会務に取り組んでまいりました。薬剤師会の財政面への対応、新規事業の立ち上げ、緊急を要する案件への対応、学術大会、研修会等の開催、行政、他団体との連携や薬剤師や薬局に向けた政策の提案、実現など、進化し続ける医療の要諦に対応するために役員、委員とともに活動を進めてまいりました。迅速な意思決定のもと、一定の活動と成果は上げられたものと思っております。しかし、我々を取り巻く環境は常に変化しており、薬剤師の使命もより困難な課題に直面しています。医療DXの急速な進歩、地域住民の多様なニーズ、法的規制の変化など、私たち薬剤師は常に最新の情報を収集し、対応に必要な能力を高める必要があります。

特に、医療DXについては、オンラインによる資格確認が原則義務化となり、このプラットフォームをベースに医療DXが統合的に進められていきます。電子処方箋の発行も始まり、今までの薬剤師・薬局の業務と融合し、新たな価値創造にまで及ぶことを想定しつつ、本質的な薬剤師や薬局の役割を考え、対応していかなければなりません。特に我々をかかりつけの薬剤師・薬局として利用いただいている地域住民が、新たなサービスを受けることができないといった不幸な事案が発生することが無いよう、社会に必要なインフラとして

しっかりと取り組んでいく必要があります。

昨今、医療DX以外にもリフィル処方箋や調剤の外部委託、訪問看護ステーションへの薬剤配置、ポリファーマシーやフォーミュラリなど、薬剤師・薬局に関しては多くの議論が引き続き行われております。客観的事実に基づく厳しい指摘があるのも事実ですが、誤った理解や情報の非対称性に基づく同意できかねる意見があるのも事実です。内部的には因果性のジレンマに基づく意見もありますが、我々は専門職たる薬剤師であり、その専門性に基づく提言を行うためには、エビデンスとなりうる活動とともに、制度、政策の実現に向けたアプローチも非常に重要です。これら多くの課題に対応していくため、私たち薬剤師会にはより一層の連携と協力が必要です。知識や経験を共有し、相互の成長を促進することで、より強力な組織として活動していく必要があります。合わせて、他の医療従事者、行政機関、地域住民や患者とのパートナーシップも非常に重要です。協働によってこそ、より良い薬剤師サービスを提供する環境を築いていくことが可能だと考えています。

薬剤師には、さらなる成長と発展の機会が待っています。私たちが直面する課題に立ち向かい、革新的なソリューションを見つけることで、より良い薬剤師サービスの実現に貢献できます。薬剤師に与えられた使命に対し情熱を持ち続け、常に前向きな姿勢で行動することが重要だと考えています。

薬剤師・薬局が住民や患者から寄せられる期待に応え、地域に欠くことのできない存在となるよう、個々の薬剤師として、また薬局や医療提供施設として、さらには地域薬剤師会としてご尽力いただきますようお願い申し上げます。会長演述といたします。

会員の皆様のお声を聞かせください
Twitter : @fpa_pres ※DM歓迎※

・定時総会付議事項・

第126回（令和5年度）公益社団法人福岡県薬剤師会定時総会

日 時：令和5年6月18日（日） 12：30

場 所：福岡県薬剤師会館

福岡市博多区住吉2-20-15

第3号 令和5年度事業計画の件

第4号 令和5年度収入支出予算の件

第5号 日本薬剤師会第100回定時総会・第101回臨時総会報告

総 会 次 第

1. 開 会

2. 議長・副議長登壇挨拶

3. 会長演述

4. 来賓祝辞

5. 議 事

(1) 報 告

第1号 関係団体の令和4年度会務ならびに事業報告の件

(県庁薬・国保組合事業概況報告)

第2号 令和4年度会務ならびに事業報告の件

(2) 議 案

第1号 令和4年度決算承認の件

第2号 令和6年度借入金限度額決定の件

第3号 令和6年度会費および入会金決定の件

第4号 理事選任の件

第5号 監事選任の件

6. 閉 会

第126回 公益社団法人福岡県薬剤師会定時総会 付議事項

報告第1号 関係団体の令和4年度会務ならびに事業報告の件

(県庁薬・国保組合) 資料別冊

報告第2号 令和4年度会務ならびに事業報告の件

一般会務関係事項

(1) 会員数 令和5年3月末日現在 4,395人

会員の内訳（令和5年3月末日現在）

区 分	令和3年度	令和4年度	区 分	令和3年度	令和4年度
薬局開設者等	2,394	2,398	勤務・その他	1,493	1,497
一般販売業者	31	28	賛助会員	119	103
薬種商販売業者	1	1	名誉会員	0	0
病院薬剤師	258	260			
県庁薬剤師	104	108	合 計	4,400	4,395

(2) 保険薬局・保険薬剤師数（令和5年3月末日現在）

（九州厚生局調べ 非会員を含む）

区 分	令和3年度	令和4年度
保険薬局指定数	2,879	2,898
保険薬剤師登録数	15,670	16,006

(3) 会 議（令和5年3月末日現在）

1) 定 時 総 会	1 回
2) 常 務 理 事 会	8 回
3) 理 事 会	6 回
4) 地区連絡協議会	3 回
5) 委 員 会 等	
総務・組織会員委員会	5 回
医療保険委員会	6 回
地域医療連携委員会	5 回
薬局ビジョン推進委員会	10回
薬局機能推進委員会	7 回
薬と健康の週間実行委員会	4 回
広報委員会（広報編集）	12回
生涯学習委員会	2 回
薬学教育委員会	5 回
災害・感染対策委員会	5 回
薬業連携推進委員会	4 回
環境衛生・学校薬剤師委員会	4 回
学術委員会	4 回
D I 委員会	5 回
医療D X推進委員会(情報システム)	1 回
県学術大会実行委員会	1 回
議事運営委員会	3 回
情報センターワーキング	12回
県薬会報編集ワーキング	12回
学術倫理審査会	1 回
薬事情報センター運営委員会	1 回
医療保険ワーキング	3 回
地域医療連携ワーキング	1 回
研修プラットフォームワーキング	3 回
「保険薬剤師必読ハンドブック」	
改訂ワーキング	5 回

第4回福岡県薬剤師会学術大会

ワーキング	1 回
「管理薬剤師の管理に関する帳簿」改訂	
ワーキング	3 回
薬局におけるSDGsの取り組みに関する	
ワーキング	1 回
健康サポート薬局シンポジウム準備	
ワーキング	2 回
(4) 叙勲・表彰	
() は、地区薬剤師会名又は所属団体	
叙勲（旭日双光章 薬事功労）	
令和4年11月 木 下 正 博	
(門 司)	
(瑞宝双光章 高齢者)	
令和4年4月 武 井 龍太郎	
(朝 倉)	
令和4年9月 平 塚 照 義	
(大 牟 田)	
(瑞宝双光章 学校保健功労)	
令和4年11月 松 田 亨	
(小 倉)	
厚生労働大臣表彰（薬事功労）	
令和4年10月 満 安 徹 也	
(久留米三井)	
令和4年10月 吉 村 次 生	
(医薬品卸業協会)	
厚生労働大臣表彰（公衆衛生功労）	
令和5年2月 青 木 和 子	
(久留米三井)	
文部科学大臣表彰（学校保健功労）	
令和4年11月 福 岡 英 樹	

・定時総会付議事項・

(福 岡 市)
日本薬剤師会有功賞 (個人)
令和4年4月 藤 原 良 春
(福 岡 市)
令和4年4月 藤 野 久 枝
(福 岡 市)
令和4年4月 吉 田 斌
(福 岡 市)
令和4年4月 川 野 文 子
(柳川山門)
令和4年4月 川 野 紘
(柳川山門)
令和4年4月 石 村 茂 允
(八 幡)
令和4年4月 末 永 幾 代
(小 倉)
令和4年4月 中 尾 孝 江
(京 都)
九州山口薬剤師会表彰
令和4年9月 安 東 恵津子
(宗 像)
令和4年9月 井 野 博 文
(宗 像)
令和4年9月 國 武 雅 弘
(糸 島)
令和4年9月 牛 嶋 良 雄
(柳川山門)
令和4年9月 高 橋 雅 治
(若 松)
令和4年9月 脇 園 隆 二
(八 幡)
令和4年9月 本 間 司 郎
(門 司)
令和4年9月 因 間 司
(直方鞍手)
日本公衆衛生協会会長表彰(公衆衛生功労)
令和5年2月 杉 本 奈緒美
(久留米三井)

福岡県知事表彰 (薬事功労：団体)
令和4年11月 公益社団法人
福岡県薬剤師会
令和4年11月 福岡県医薬品卸業協会
福岡県知事表彰 (薬事功労：個人)
令和4年11月 小 松 公 秀
(福 岡 市)
令和4年11月 藤 崎 尚 子
(粕 屋)
令和4年11月 石 川 裕 司
(久留米三井)
令和4年11月 黒 木 俊 光
(製薬工業協会)
令和4年11月 本 郷 英 三
(医薬品配置協会)
福岡県知事表彰 (公衆衛生事業功労)
令和5年2月 田 端 晃 一
(粕 屋)
令和5年2月 貞 荊 幹 子
(朝 倉)
令和5年2月 青 木 和 子
(久留米三井)
令和5年2月 杉 本 奈緒美
(久留米三井)
令和5年2月 満 安 徹 也
(久留米三井)
令和5年2月 藤 本 正 憲
(八 幡)
令和5年2月 川 本 太 郎
(戸 畑)
令和5年2月 廣 瀬 隆 太
(飯 塚)
令和5年2月 中 村 純 一
(直方鞍手)
令和5年2月 中 原 奈都美
(田 川)
ふくおか公衆衛生推進機構理事長表彰
令和5年2月 川 本 健 司

(福岡市)
令和5年2月 永田 義人
(粕屋)
令和5年2月 里村 尚俊
(八幡)
令和5年2月 谷口 健吾
(京都)
令和5年2月 岡田 年弘
(飯塚)
令和5年2月 中村 寛子
(直方鞍手)
令和5年2月 中原 学
(田川)
福岡県学校保健功労者表彰
令和4年11月 東 千鶴
(福岡市)
令和4年11月 堀之内 真紀
(福岡市)
令和4年11月 小林 正喜
(粕屋)
令和4年11月 杉本 奈緒美
(久留米三井)
令和4年11月 森田 桂子
(久留米三井)
令和4年11月 橋本 和樹
(大牟田)
令和4年11月 藤本 陽一
(八幡)
令和4年11月 倉石 恵利子
(戸畑)
令和4年11月 山岡 光恵
(小倉)
令和4年11月 佐伯 チヨ子
(小倉)
令和4年11月 馬場 雅男
(門司)
令和4年11月 平野 和隆
(飯塚)

令和4年11月 阿部 博子
(直方鞍手)
福岡県教育文化表彰
令和4年11月 馬場 正佳
(福岡市)
令和4年11月 松浦 昭仁
(小倉)
令和4年11月 松田 亨
(小倉)
(5) 会員に対する弔慰金・見舞金
1) 会員死亡に対する弔慰金
(令和4年4月1日～令和5年3月31日)
令和4年4月 中原 宏
(小倉)
9月 川野 紘
(柳川山門)
10月 横井 俊博
(京都)
令和5年1月 村田 峰生
(福岡市)
2月 宮原 希代子
(八幡)
江島 みどり
(小倉)
3月 本村 精也
(福岡市)

令和4年度重点事業報告

新型コロナウイルス感染症は、未だに収束の見通しが立たないが、ウィズコロナ時代に向けて感染対策と経済活動の両立を目指した正常な社会生活が始まりつつある。

コロナ対応が惹起した薬剤師・薬局の新たな役割やデジタル化への対応を図りながら、薬剤師の資質向上のため体制を整備し、薬局の対外的な存在感を示せるよう戦略的思考で会務を進めてきた。昨年から続く医薬品提供体制の問題では、地域での医薬品提供体制の逼迫度が高まっている。薬局や薬剤師会においては、現存する組織文化や業務手順を改善し効率性を向上させることが不可欠である。

新型コロナウイルス感染症対策、医療ICT・医療DXに対応した会務運営、ならびに「患者のための薬局ビジョン」実現に向けた事業、基金等を積極的に活用し地区薬剤師会と連携のもと、県民の健康な生活の確保・向上に寄与するために社会的責任や公益性を意識して取り組んだ事業の概況について、以下報告する。

●新型コロナウイルスワクチン専用ダイヤル相談等対応業務として、県の委託を受け、薬剤師会内にコールセンターを設置し2年が経過した。県民に対して、主にワクチンの副反応等に関する相談、ワクチンの有効性・安全性に関する情報提供を行っており、3月末時点での相談件数の累計は約9万1千件に達した。

●新型コロナウイルス感染症患者等への取組として、昨年度に引き続き「薬局における薬剤交付支援事業」を実施した。また、経口治療薬の供給体制の整備、抗原定性検査キットの販売体制の整備、無症状者を対象とした無料PCR検査等への積極的な薬局の参加を推進した。

●地域医療介護総合確保基金に基づく事業において、「在宅薬物療法支援事業」は、日本腎臓病薬物療法学会・日本臨床腫瘍薬学会・日本

緩和医療薬学会の認定薬剤師取得に向け、腎臓病薬物療法セミナー・薬剤師のための臨床腫瘍薬学セミナー・薬剤師のための緩和ケア研修会を継続して九州山口の薬剤師会との共催にて開催した。本年度からの取組として、日本くすりと糖尿病学会の糖尿病薬物療法認定薬剤師取得に向け、糖尿病薬物療法セミナーを開催した。

●日本薬剤師会が実施してきた「薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業」を活用し、薬物療法を受けている小児患者に対し、高い専門性に基づく特殊な調剤や薬学的管理を実施し、入退院時及び在宅医療等において地域の医療機関等と薬学管理情報の共有を効果的に行うための取組として、「小児在宅医療研修会」を開催した。また、がん検診の現状やHPVワクチンの知見を深めるため福岡県がん対策協定企業と共催し「がん検診の啓発と知識習得のための研修会」を開催した。

●薬と健康の週間において、3年ぶりに集客型イベントを「イオンモール福岡」で開催した。会場のメインプラザ入口には、モバイルファーマシーを展示し集客強化を試みた。併せて情報発信として「かかりつけ薬剤師・薬局」の周知・啓発PRを展開した。昨年度に引き続きTwitter・Instagram・FacebookおよびYouTubeを駆使し、GoogleとYouTubeの動画広告も活用した。前年度に比べ費用対効果の優れた広報活動が展開でき、集客に向けた活動認知の獲得を図ることができた。

●福岡県薬剤師会学術大会は、ウィズコロナ時代の学術集会のあり方を見据え、ハイブリッド方式による運営を試みた上で、県民向けのイベントである「くすりのセミナー福岡」を組み込んだ。シンポジウムとしては健康サポート薬局の役割と課題を取り上げ、特別講演としては薬物相互作用による有害事象や禁忌等

を定量的に評価する内容を薬剤師のあるべき姿を踏まえて企画し、日頃の活動や研究成果を発表・共有した。

●災害時における医薬品の供給体制整備として、福岡県との災害時の医療救護活動に関する協定に基づく災害支援薬剤師（リーダー）を養成した。本年度からの取組として、被災地で救護活動を行うための基本的な知識を習得することを目的とした災害支援薬剤師研修会を開催した。また、福岡県総合防災訓練に参加し、モバイルファーマシーでの災害処方箋対応や避難所の環境衛生検査など、災害を想定した訓練を実施した。

●会員増強、会員への便益提供、ならびに持続可能な薬局機能を追求する目的として、公認会計士・税理士・特定社会保険労務士を講師に迎え「薬局運営に必要なスキルに関する研修会」を開催した。

●業務の効率化を目的としたICT・DXの推進として、他の都道府県薬に先行して日本薬剤師会研修プラットフォームを導入した。現在では諸々の研修会・セミナー等で活用しており、参加者・主催者の双方において手順が効率化されている。ICT関連の研修会を実施し、薬剤師資格証（HPKIカード）の普及促進に加え、電子処方箋の応需体制の構築を推進している。併せて、いわゆる0410通知の特例終了を想定しオンライン服薬指導の体制整備について啓発している。

1. 公1 県民の医薬品の適正な使用を図ることを目的とする事業

- (1) インターネット等を用いた広報活動事業
 - 1) 福岡県薬剤師会ホームページやSNSの活用による県民向け情報の充実および県内薬剤師への情報の共有と一元化ならびに知識啓発を実施
 - 2) 薬剤師職能に関する広報

(2) 地域医療の向上を目指した情報提供事業

- 1) 薬剤師無料職業紹介所およびファーマファインドJOB（薬剤師の求人求職Webシステム）の維持・運営

(3) セミナー等の開催による広報活動事業

- 1) 「くすりのセミナー福岡」の開催と講演内容の充実（年1回開催）
- 2) 「県民健康づくりセミナー」への参加と講演内容の充実

(4) 新聞社・テレビ局を通じた広報活動事業

- 1) マスメディア（新聞社・テレビ・ラジオ等）を通じた薬局・薬剤師職能の広報活動

(5) 県薬会報（隔月刊誌）の編集・発行を通じた広報活動事業

- 1) 県薬会報の充実
 - ① 会員への通達事項の掲載
 - ② 薬剤師職能に関する特集記事の企画および掲載
 - ③ 薬学・医療等の学術関連記事の掲載
 - ④ 最新の医薬品関連情報の掲載
 - ⑤ 地区薬剤師会の相互理解を深める記事の掲載
 - ⑥ 組織内の連携強化を図る記事の掲載

(6) 行政機関との連携事業

- 1) 組織強化
 - ① 公益法人制度および公益法人会計基準への継続的対応

2. 公2 県民の保険制度の充実を図ることを目的とする事業

(1) 医療における医療保険制度実施事業

- 1) セミナー、研修会、講習会などによる薬剤師の知識向上
 - ① 保険薬局セミナーの開催・地区指導者研修会の開催
 - ② 調剤報酬改定伝達講習会後の保険調剤Q & A等に関する会員への解釈の

定時総会付議事項

周知

- ③ 個別指導への指導員の推薦および立会者の派遣
厚生労働省および県との共同指導への立会者の派遣
国保診療報酬審査委員会への審査員推薦、社会保険診療報酬請求書審査委員会への審査員推薦
- ④ 委員会間の在宅医療等に関する積極的な情報の交換
- ⑤ 保険調剤業務の研修、伝達
- ⑥ 県薬会報への「審査ニュース」掲載
- ⑦ 適正受診指導事業の受託および関係者への指導実施

(2) 行政機関との連携事業

1) 保険関係機関や地域医療との連携

- ① 九州厚生局指導監査課との協議
- ② 福岡県国民健康保険団体連合会・社会保険診療報酬支払基金との協議
- ③ 福岡県医療審議会、福岡県薬事審議会および福岡県地域医療構想調整会議への参画、九州地方社会保険医療協議会、福岡県保険者協議会ならびに企画調査部会および保健活動部会への参画
- ④ 県五師会の協調と行政とのタイアップ
- ⑤ 在宅医療への薬剤師の参加を支援し、地域医療連携を積極的に推進

(3) 医療費削減を目的としたジェネリック医薬品使用促進活動事業

1) ジェネリック医薬品使用促進のための環境整備

- ① ジェネリック医薬品の備蓄および調剤に必要な体制の確保に向けた取り組み（ジェネリック医薬品情報のWebサービス）

(4) 県民の医療安全を目的とした調剤事故防

止活動事業

1) 調剤事故防止に向けた活動

- ① 医療事故防止に向けた薬剤師職能の強化、調剤事故の削減を図るための研修
- ② 日本医療機能評価機構「薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業」への参加促進および事例報告の啓発
- ③ ICT（Information and Communication Technology）を使った調剤事故防止システムの紹介および普及促進
- ④ 調剤事故防止へ向けた支援ができる仕組みの構築
- ⑤ 薬局における安全管理体制の整備に関連した「医療安全管理指針」と「医薬品の安全使用のための業務手順書」の更新の周知および従業者に対する研修会の実施
- ⑥ 病院薬剤部と薬局間の患者情報共有による調剤事故回避へ向けた環境整備の促進（薬薬連携等）
- ⑦ 調剤事故が発生した際の対応の検討
- ⑧ 「調剤された薬剤および医薬品の情報提供等のための業務に関する指針」と「手順書」の設置の徹底および従業者に対する研修会の実施
- ⑨ 医療事故調査支援委員会および医療事故調査等支援団体連絡協議会への協力
- ⑩ 副作用、相互作用、治療効果不十分などを回避あるいは軽減した事例の収集および報告
- ⑪ 医療安全セミナーの開催
- (5) 薬薬連携事業（医療機関と保険薬局の患者情報等の共有事業）の強化事業
- 1) 薬薬連携の強化
 - ① 福岡県病院薬剤師会との連携推進

- ② 「お薬手帳」、「院外処方箋」等による情報共有の促進
- ③ 臨床検査値等の医療情報を活用した安全で質の高い適正な薬物療法の推進
- ④ がん化学療法に関する情報共有を目的とした標準レジメンの県薬会報掲載
- ⑤ VPCSneo (Virtual Pharmacy Computer System) の地域連携機能を活用した情報共有の推進
- 2) 薬局・薬剤師の職能強化
 - ① DEM (Drug Event Monitoring) 事業への参加
- (6) 在宅における医療保険と介護保険の適正化事業
 - 1) 在宅医療（緩和ケアを含む）と介護保険制度
 - ① 訪問薬剤（在宅患者訪問、居宅療養）管理指導の推進と質の向上
 - ② 福岡県保健医療介護部、福岡県介護保険広域連合、福岡県国民健康保険団体連合会、福岡県後期高齢者医療広域連合関連委員会、協議会、検討会等への委員派遣および協働連携
 - ③ 地域包括ケアシステムの構築に関する事業への積極的な参画、関係職種（医師会、歯科医師会、看護協会、栄養士会、介護支援専門員協会等）との連携強化
 - ④ 在宅医療に関する研修会の開催
 - ⑤ 在宅訪問に関する医療保険と介護保険請求の周知徹底（保険薬剤師必読ハンドブック等の活用）
 - ⑥ 在宅関連の学会・研修会への派遣・情報収集、福岡県介護保険審査会への委員派遣
 - ⑦ 多職種連携推進事業の地区薬での取

り組みを支援するため、薬剤師在宅業務の啓発へ向けた研修会への講師派遣

3. 公3 薬剤師の医学・薬学知識の向上や薬学教育制度の充実を図ることを目的とする事業

(1) 学術研修事業企画

(2) 薬学教育の支援およびその人材育成に関する事業

1) 薬学教育への対応

- ① 認定実務実習指導薬剤師養成および更新事業の継続
 - a. 認定実務実習指導薬剤師養成講習会の開催
 - b. 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップへのタスクフォース派遣
 - c. 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップの支援
 - d. 認定実務実習指導薬剤師更新への対応
- ② 薬学生実務実習受け入れ体制の充実・強化
 - a. 薬学実習生と受け入れ施設とのマッチング
 - b. 「6年制薬局実習の受入薬局に対する日本薬剤師会の基本的な考え方」の周知
 - c. 日本薬剤師会「薬局におけるふるさと実習に向けた提言」への対応
 - d. 実務実習受け入れ施設に対する質の向上のための研修会の実施
- ③ 実務実習におけるトラブルへの対応
 - a. ハラスメントの予防と啓発
 - b. 県内ブロック別トラブル対応担当者の設置・対応

❧ 定時総会付議事項 ❧

- ④ 大学および関係団体との連携強化
 - a. 早期臨床体験受け入れへの協力
 - b. OSCE (Objective Structured Clinical Examination) 評価者等の派遣
 - c. 実務実習事前学習への講師派遣
 - d. 大学との共同による実務実習受け入れ施設への説明会の開催
 - e. 九州・山口地区病院・薬局実務実習調整機構との連携
 - f. 九州山口地区薬剤師会薬局実務実習受入調整機関事務局の運営
 - g. 九州山口地区薬剤師会薬局実務実習受入調整機関実習施設概要閲覧サイトの管理・運営
 - h. 薬学生の教育支援
 - i. 他地区調整機構に所属する大学との連携

4. 公4 県民の環境衛生の向上を図ることを目的とする事業

(1) 学校薬剤師事業

1) 学校薬剤師事業

- ① 学校薬剤師事業、公衆衛生活動への支援と参加
- ② 学校薬剤師の資質向上のための研修会の実施
- ③ 環境衛生検査等に対する積極的対応
- ④ 学校保健、環境衛生学術大会への参加
- ⑤ 薬の適正使用の啓発と指導
- ⑥ 薬物乱用防止活動への参加、協力
- ⑦ 学校保健に関する県三師会の協調と行政とのタイアップ
- ⑧ 福岡県学校保健会事業への協力

(2) 医薬品試験検査センターの技術向上への支援事業

1) 試験センター事業

- ① 試験検査センターへの支援
- ② 試験検査センターの技術向上
- ③ 試験検査センター活動の広報
- (3) 行政機関等との連携事業
 - 1) 公害審査会への参加
 - 2) ふくおか健康づくり県民会議への協力および支援
 - 3) 特定の機能を有する薬局の認定への支援
- (4) 行政機関等との協賛事業
- (5) 薬剤師に対する体系的な卒後教育・研修活動事業の企画・開催
 - 1) 薬剤師研修制度の充実
 - ① 日本薬剤師会生涯学習支援システム「JPALS」(Japan Pharmaceutical Association life long Learning support System) の利用促進に向けた周知
 - ② ホームページでの研修会案内の充実
 - ③ 福岡県薬剤師会研修システムの維持管理
 - ④ 研修認定薬剤師制度(日本薬剤師研修センター)の活用
 - ⑤ インターネットによる会員への情報提供
 - ⑥ 「認定・専門薬剤師」取得へ向けた各学会等との共催事業
 - ⑦ 「健康サポート薬局」制度に基づく研修会の実施
 - ⑧ 福岡県健康サポート薬局シンポジウムの開催
 - 2) 薬剤師の質の向上へ向けた取り組み
 - ① 地区指導者研修会の開催
 - ② 福岡県薬剤師会学術大会の開催
 - ③ 学会発表等の活性化を支援
 - ④ 臨床疫学研究における学術倫理審査会の運営
 - ⑤ 「いわゆる健康食品」についての正

- しい知識の普及と健康被害の未然防止
- ⑥ 「いきいき健康ふくおか21」への積極的支援
 - ⑦ 福岡県禁煙相談員養成研修の開催
 - ⑧ 認知症対応力向上研修の開催
- (6) 地域医療への参加と協力事業
- 1) 地域医療への参加と協力
 - ① 地区健康推進協議会への参加推進と保健事業の積極的な実施
 - ② オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤の提供体制の整備
- (7) 災害発生時の救援活動等への対応整備事業
- 1) 県民および薬剤師に対する震災等への防災意識高揚へ向けた取り組み実施、および防災マニュアル等の作成
 - 2) 最新の情報に基づいた業務継続に向けての具体的対策
 - 3) 災害時における医薬品等供給調整業務を行う災害支援薬剤師の養成、環境衛生に関わる検査および指導助言
 - 4) 災害支援薬剤師（リーダー）、災害支援薬剤師による災害対応訓練の実施
 - 5) 災害用備蓄品・資材の整備
 - 6) モバイルファーマシーの維持・管理、防災訓練および研修会の実施

5. 公5 県民等の薬事情報収集の効率化を図ることを目的とする事業

(1) 医薬品等の情報収集と分類

1) 薬事情報センター

- ① 情報の収集・分類や各事業の支援
 - a. 医薬品医療機器による健康被害防止を目的とした有効性・安全性情報の収集・提供体制の充実
 - b. ジェネリック医薬品情報提供に関

- するWebサービスの運用
- c. 地域連携薬局の情報提供活動を支援
- d. かかりつけ薬剤師・薬局による薬学的管理・指導に対する支援
- e. 健康サポート薬局の機能充実を目指した情報の提供
- f. 地域における薬局のDI機能充実を目指した情報の提供
- g. 臨床疫学研究における学術倫理審査会の支援
- h. CTI（Computer Telephony Integration）システムを活用した質疑応答データベースの作成
- i. 「公認スポーツファーマシスト」制度の推進と養成支援
- j. 新型コロナウイルスワクチン専用ダイヤルの運営を支援
- k. 「薬事情報センター利用に関するアンケート調査」の実施

(2) 相談事業

1) 県民や医療関係者などへの医薬品等に関する相談・啓発活動

- ① 「クスリなんでもテレホン」による医薬品等の電話相談の実施
- ② 県民からのWebやLINEによる問い合わせや医薬品等の相談の実施
- ③ 医薬品・健康食品等の適正使用についての講演会・広報などを通じた啓発活動
- ④ 県民・医療関係者へのジェネリック医薬品の使用促進に向けた情報提供と、品質確認などの電話相談の実施
- ⑤ 「ドーピング防止ホットライン」によるアンチ・ドーピング活動に関する電話相談の実施

(3) 情報発信

・定時総会付議事項・

1) 出版物やインターネットを利用した情報発信

- ① 「ふくおか県薬会報」「福岡県医報」「歯界時報」を通じた、医薬品医療機器安全性情報および適正使用情報の提供
- ② ホームページ・メール・FAX・SNSなどによる安全性情報や薬価収載などの即時提供
- ③ ホームページを通じた県民向けパンフレットの公開
- ④ ホームページを通じた相談事例やQ&A、薬剤師業務に役立つ情報を提供

6. 公6 業としての薬業全体の質の向上を図ることを目的とする事業

(1) 薬局・薬剤師業務の充実へ向けた事業

1) 薬局業務の充実

- ① 薬局・薬剤師が地域住民による主体的な健康の維持・増進を支援するために必要な環境の整備および研修体制の構築
- ② VPCSneoの利用によるジェネリック医薬品の安定した流通供給の確保ならびに医療材料・衛生材料の供給体制の整備
- ③ 「患者のための薬局ビジョン」および「福岡県版薬局グランドデザイン」に対応する薬局・薬剤師の質の向上と県民・地域のニーズに基づく薬局機能の検討

(2) 薬局業務のICT推進事業

1) 薬局内ICT化と薬局業務支援システムであるVPCSneoの普及推進

- ① eお薬手帳の普及促進と、薬局への導入支援
- ② 医薬品備蓄、流通供給、医薬品情報

収集、ジェネリック医薬品使用促進等のための薬局業務支援システムであるVPCSneoの普及促進

- ③ 多様化する在宅医療に対応するため医療材料・衛生材料の安定供給に関するシステムの維持・運用
 - ④ 日本薬剤師会認証局による「薬剤師資格証（HPKI）」発行業務の支援
- (3) 健康食品、喫煙などによる健康被害の防止対策事業
- 1) 「福岡県たばこ対策事業」の一環として、「卒煙サポート薬局」・「禁煙相談員」養成のための研修会の企画・開催

2) 「いわゆる健康食品」についての正しい知識の普及と健康被害の未然防止

(4) 行政機関との連携事業

- 1) 医療機器販売業等の営業所管理者、医療機器修理業の責任技術者に対する継続研修会の開催
- 2) 「健康日本21」への取り組み関係団体として積極的に事業を展開
 - ① 運動、食生活、喫煙等に関する目標の設定に関与
 - ② メタボリックシンドロームの該当者および予備群の減少に関与
 - ③ 健康診査および保健指導の実施に関与
- 3) 「いきいき健康ふくおか21」への参加と積極的支援を実施、「いきいき福岡健康づくり推進協議会」、「健康21世紀福岡県大会実行委員会」等へ委員を派遣
- 4) 「薬と健康の週間」の実施
 - ① 県民向けの「くすりと健康フェア」を開催
 - ② 県民向けにSNSを活用した薬剤師職能や医薬品に関する情報提供の実施

- 5) 「新オレンジプラン」に基づく認知症
対応力向上研修の企画・開催
- 6) 麻薬小売業者に対する研修会の開催
- 7) がん検診の啓発と知識習得のための研
修会の開催

7. 他1 斡旋図書を斡旋・販売する事業

- (1) 薬事関係図書等の斡旋販売事業
 - 1) 教育研修、実務関係の書籍、行政に申
請する書類等の斡旋

8. 他2 会員相互事業

- (1) 地区薬剤師会および会員に対する表彰お
よび会員に対する弔慰・見舞金給付事業
- (2) 会員向け保険事業
 - 1) 薬局・薬剤師としての社会的責任を果た
すため「薬剤師賠償責任保険」等のPR
と加入促進
- (3) 薬局運営に関する支援事業
 - 1) 薬局運営に必要なスキルに関する研修
会の開催
- (4) その他
 - 1) 組織強化
 - ① 会員加入促進
 - 2) 関係団体との連携
 - ① 福岡県薬業団体連合会との連携
 - ② 福岡県薬剤師国民健康保険組合への
加入促進
 - ③ 福岡県医薬品登録販売者協会との連
携

【薬局薬剤師研修会の開催】

- (1) 認定実務実習指導薬剤師養成講習会
(更新)

日 時：令和4年4月17日(日)

10:30~13:30

場 所：福岡市薬剤師会館

参加者：72人

内 容：

講座4 改訂薬学教育モデル・カリ
キュラムについて

- (2) 学会発表スキルアップセミナー

～あなたも学会発表にチャレンジしてみ
ませんか～

日 時：令和4年5月29日(日)

13:30~16:30

場 所：福岡県薬剤師会館およびWeb
研修

参加者：109人

内 容：

「クリニカル・クエスチョンから学会発
表までのロードマップ」

福岡県薬剤師会 理事

西村 信弘

「日本臨床腫瘍薬学会での助成金研究か
ら口頭発表まで」

福岡市西区薬剤師会

前地 香奈子

「学会発表してみても初めて気づいた。～
倫理審査を受けてみたい」

(株)サン薬局 協園薬局

工藤 信孝

「学会発表のコツ」

福岡市薬剤師会/薬局はなみずき

林田 諭

- (3) 学校・環境衛生研修会

- 1) 第1回

日 時：令和4年7月9日(土)

15:00~17:50

定時総会付議事項

場 所：福岡県薬剤師会館および
Web研修

参加者：114人

演 題：

「災害支援薬剤師と学校薬剤師」

福岡県薬剤師会 常務理事

山 口 信 也

「県立学校における環境衛生検査のすすめかた」

福岡県薬剤師会 常務理事

中 原 学

「学校環境衛生基準の検査－内容、注意点及び事後措置－」

北九州市薬剤師会

試験検査センター 所長

古 賀 正 明

2) 第2回

日 時：令和4年9月24日(土)

15：00～17：50

場 所：福岡県薬剤師会館および
Web研修

参加者：109人

演 題：

「令和4年度日本薬剤師会学校薬剤師部
会学校環境衛生検査技術講習・学術
研修会 伝達講習①」

福岡県薬剤師会

環境衛生・学校薬剤師委員会 委員

隠 塚 栄 次

「令和4年度日本薬剤師会学校薬剤師部
会学校環境衛生検査技術講習・学術
研修会 伝達講習②」

福岡県薬剤師会

環境衛生・学校薬剤師委員会 委員

友 永 雄 大

「(学校) 薬剤師が知っておくべきアレルギー疾患の最新知識」

福岡市立病院機構福岡市立こども病院

アレルギー・呼吸器科

こどもアレルギーセンター長

手 塚 純一郎

3) 第3回

日 時：令和4年12月17日(土)

15：00～17：50

場 所：福岡県薬剤師会館および
Web研修

参加者：99人

演 題：

「令和4年度学校環境衛生・薬事衛生研
究協議会 伝達講習①」

福岡県薬剤師会

環境衛生・学校薬剤師委員会 委員

隠 塚 栄 次

「令和4年度学校環境衛生・薬事衛生研
究協議会 伝達講習②」

福岡県薬剤師会 常務理事

中 原 学

「学校薬剤師による薬物乱用防止教育に
ついて～アクティブ・ラーニング形
式を取り入れた授業～」

アオイ薬局 代表

西 前 多香哉

(4) 令和4年度福岡県禁煙相談員養成研修

日 時：令和4年7月24日(日)

13：00～15：25

場 所：福岡県薬剤師会館および
Web研修

参加者：189人

内 容：

「ウイズコロナ時代の禁煙支援に必要な
知識とスキル ～岩盤層と加熱式ユー
ザーへの支援の実際～」

京都大学大学院医学研究科

社会健康医学専攻健康情報学講座

特任教授

高 橋 裕 子

「吸いたい…けど吸っちゃダメだ…葛藤
と後悔を上手にサポートする
禁煙支援薬剤師のためのアンガーマ
ネジメント～サポートの極意はイン
ナークリア～」

日本アンガーマネジメント協会
アンガーマネジメント

プロフェッショナルインストラクター
立命館大学薬学部 非常勤講師

高 橋 直 子

(5) 健康サポート薬局研修 研修会A：健康
サポートのための多職種連携研修会

1) 第1回

日 時：令和4年7月31日(日)

8：40～13：00

場 所：Web研修

参加者：62人

内 容：

1. 健康サポート薬局の基本理念

「健康サポート薬局の基本理念」

日本薬剤師会 会長

山 本 信 夫 (DVD講義)

日本薬剤師会 副会長

田 尻 泰 典 (DVD講義)

「健康サポート薬局の理念～地域包括ケ
アに対応した薬局・薬剤師」

演題：

「私たちが目指す健康サポート薬局の
姿」

福岡県薬剤師会

薬局機能推進委員会 委員

田 中 宏 樹

グループ討議：薬局が地域の資源とどの
ように繋がるか

福岡県薬剤師会 理事

石 橋 正 次

2. 当該地域の医療・保健・健康・介
護・福祉等の資源と健康サポート薬

局の連携

「福岡県における健康づくり施策と健康
サポート薬局への期待」

福岡県保健医療介護部健康増進課

藤 本 隆 顕

他職種等の取り組みについて～健康サ
ポート薬局との連携を探る～

「健康サポートのための多職種連携～栄
養士会の地域健康づくりの取り組み
～」

福岡県栄養士会 会長

大 部 正 代

「医療ソーシャルワーカーの役割～薬剤
師と医療ソーシャルワーカーの連携
について～」

福岡県医療ソーシャルワーカー協会
会長

浦 川 雅 広

「福岡県の医療・保健・健康・介護・福
祉等の資源について」

福岡県薬剤師会 理事

岡 村 由紀子

3. 演習

「地域包括ケアシステムの中で健康サ
ポート薬局として役割を発揮するた
めの各職種・機関との連携による対
応等に関する演習」

福岡県薬剤師会 理事

石 橋 正 次

2) 第2回

日 時：令和5年3月26日(日)

8：40～13：00

場 所：Web研修

参加者：46人

内 容：

1. 健康サポート薬局の基本理念

「健康サポート薬局の基本理念」

日本薬剤師会 会長

❧ 定時総会付議事項 ❧

山 本 信 夫 (DVD講義)

日本薬剤師会 副会長

田 尻 泰 典 (DVD講義)

「健康サポート薬局の理念～地域包括ケ
アに対応した薬局・薬剤師」

演題：

「私たちが目指す健康サポート薬局の
姿」

福岡県薬剤師会

薬局機能推進委員会 委員

田 中 宏 樹

グループ討議：薬局が地域の資源とどの
ように繋がるか

福岡県薬剤師会 理事

竹 下 洋 平

2. 当該地域の医療・保健・健康・介
護・福祉等の資源と健康サポート薬
局の連携

「福岡県における健康づくり施策と健康
サポート薬局への期待」

福岡県保健医療介護部健康増進課

藤 本 隆 顕 (DVD講義)

他職種等の取り組みについて～健康サ
ポート薬局との連携を探る～

「健康サポートのための多職種連携～栄
養士の地域健康づくりの取り組み
～」

福岡県栄養士会 会長

大 部 正 代 (DVD講義)

「医療ソーシャルワーカーの役割～薬剤
師と医療ソーシャルワーカーの連携
について～」

福岡県医療ソーシャルワーカー協会
会長

浦 川 雅 広 (DVD講義)

「福岡県の医療・保健・健康・介護・福
祉等の資源について」

福岡県薬剤師会 理事

石 橋 正 次

3. 演習

「地域包括ケアシステムの中で健康サ
ポート薬局として役割を発揮するた
めの各職種・機関との連携による対
応等に関する演習」

福岡県薬剤師会 理事

竹 下 洋 平

(6) 健康サポート薬局 研修会B：健康サ
ポートのための薬剤師の対応研修

1) 第1回

日 時：令和4年7月31日(日)

13：30～18：15

場 所：Web研修

参加者：25人

内 容：

1. 「薬局・薬剤師を巡る現状と健康サ
ポート薬局」

福岡県薬剤師会 常務理事

千代丸 康 重

2. 「一般用医薬品等を取り巻く現状」

日本薬剤師会 常務理事

岩 月 進 (DVD講義)

3. 薬局利用者の状態把握と販売時と販
売後の対応 (演習)

日本薬剤師会

一般用医薬品等委員会 委員長

亀 山 貴 康 (DVD講義)

昭和大学薬学部 社会健康薬学講座

医薬品評価薬学部門 准教授

亀 井 大 輔 (DVD講義)

演習進行 福岡県薬剤師会 理事

杉 岡 勇 樹

2) 第2回

日 時：令和5年3月26日(日)

13：30～18：00

場 所：Web研修

参加者：19人

内 容：

1. 「薬局・薬剤師を巡る現状と健康サ
ポート薬局」

福岡県薬剤師会 常務理事

千代丸 康 重

2. 「一般用医薬品等を取り巻く現状」

日本薬剤師会 常務理事

岩 月 進 (DVD講義)

3. 薬局利用者の状態把握と販売時と販
売後の対応 (演習)

日本薬剤師会

一般用医薬品等委員会 委員長

亀 山 貴 康 (DVD講義)

昭和大学薬学部 社会健康薬学講座

医薬品評価薬学部門 准教授

亀 井 大 輔 (DVD講義)

演習進行 福岡県薬剤師会 理事

岡 村 由紀子

- (7) 第32回地区指導者研修会 (若手・女性薬
剤師フォーラム)

日 時：令和4年8月27日(土)

14：30～18：30

場 所：福岡県薬剤師会館および
Web研修

参加者：143人

内 容：

「政策提言2022に込めた日本薬剤師会の
思い」

日本薬剤師会 副会長

田 尻 泰 典

「議論から見えてきた薬剤師への期待」

日本薬剤師会 常務理事

橋 場 元

「一人ひとりが豊かさを実感できる社会
の実現を目指して」

参議院議員

本 田 顕 子

参議院議員

神 谷 政 幸

- (8) 災害・新興感染症等対応研修会

日 時：令和4年9月9日(金)

19：30～21：10

場 所：Web研修

参加者：672人

演 題：

「新興感染症の薬事対応と国際的人道支
援」

福岡大学薬学部 教授

江 川 孝

- (9) 薬局におけるICTを活用した業務に係る
研修会

日 時：令和4年9月16日(金)

19：30～21：10

場 所：Web研修

参加者：1,255人

内 容：

「今後の薬局、薬剤師におけるICTにつ
いて」

福岡県薬剤師会

会長 (日本薬剤師会 常務理事)

原 口 亨

「薬剤師資格証 (HPKI) について」

福岡県薬剤師会 常務理事

永 嶋 友 洋

「オンライン服薬指導に係るシステムの
ご紹介」

(株)グッドサイクルシステム

代表取締役

遠 藤 朝 朗

(株)MICIN Telehealth事業部

桂 山 翔

(株)メドレー Pharms事業推進室

薬剤師

宝 真 生

- (10) 県内4ブロックにおける災害支援薬剤師
研修会

❧ 定時総会付議事項 ❧

1) 福岡ブロック

日 時：令和4年10月29日(土)

15:00~17:10

場 所：福岡県薬剤師会館

参加者：38人

2) 北九州ブロック

日 時：令和5年1月15日(日)

15:00~17:10

場 所：健康医療福祉研修会館

参加者：26人

3) 筑後ブロック

日 時：令和5年2月23日(木・祝)

14:00~16:10

場 所：久留米シティプラザ

参加者：23人

4) 筑豊ブロック

日 時：令和5年3月25日(土)

15:00~17:10

場 所：イイヅカコミュニティ
センター

参加者：10人

内 容：

【講義】災害時の初動と薬事対応

【グループディスカッション】

福岡県災害医療コーディネーター

福岡大学薬学部 教授

江 川 孝

(11) 第12回医療安全セミナー

日 時：令和4年10月30日(日)

13:00~16:25

場 所：アクロス福岡およびWeb研修

参加者：1,072人

演 題：

「調剤事故の現状と防止に向けた対応」

福岡県薬剤師会

医療保険委員会 委員

連 石 信

「医療ICTの活用による地域医療連携を

考える」

福岡大学病院 薬剤部 副薬剤部長

兼 重 晋

「医療ICTの導入による業務の効率化と
リスクマネジメント」

九州大学病院 薬剤部 副薬剤部長

金 谷 朗 子

「医療情報システムのリスクマネジメ
ントに関するベンダーとしての取り
組み」

保健医療福祉情報システム工業会

(JAHIS) 安全性・品質企画委員会
委員長

岡 田 真 一

「電子処方箋、オンライン資格確認／服
薬指導に関する概要について」

保健医療福祉情報システム工業会

(JAHIS) 調剤システム委員会
委員長

宮 島 毅

(12) 在宅医療に関する研修会

日 時：令和4年11月3日(木・祝)

13:30~15:50

場 所：福岡県中小企業振興センター
及びWeb研修

(ハイブリッド開催)

参加者：461人

演 題：

「トレーニングレポート、私ならこう書
く」

福岡大学病院 薬剤部長

神 村 英 利

「医療的ケア児の在宅医療において薬剤
師に期待すること」

医療法人コールメディカルクリニック

福岡 理事長・院長

岩 野 歩

「訪問服薬指導について」

- 福岡県後期高齢者医療広域連合
健康企画課健康企画係 係長
藤 木 弥 生
- (13) 薬学教育研修会～聞いてみたかった実習
のコト～
日 時：令和4年11月13日(日)
13:00～15:10
場 所：福岡県薬剤師会館および
Web研修
参加者：83人
演 題：
〔基調講演〕「新しくなるモデル・コア
カリキュラムと実務実習」
＜「臨床薬学」を教える実務実習を推進
しよう＞
名古屋市立大学大学院 薬学研究科
教授
鈴 木 匡
〔講演1（薬局）〕
「学生と共に歩む薬局実務実習」
久留米三井薬剤師会 常務理事
園 田 茂
〔講演2（病院）〕
「コロナ禍における病院実習の取組
み」
久留米大学病院 薬剤部
岩 見 修 一
〔講演3（学生）〕
「実務実習を修了した学生から見た薬
局・病院実務実習の内容について」
九州大学薬学部 臨床薬学科
永 野 万葉香
〔講演4（大学）〕
「大学から受入施設に伝えたいこと」
福岡大学薬学部 教授
江 川 孝
- (14) 認定実務実習指導薬剤師養成講習会（新
規・更新）

- 日 時：令和4年11月19日(土)
15:00～18:10
場 所：福岡県薬剤師会館
参加者：84人（新規）、31人（更新）
内 容：
講座1 薬剤師に必要な理念
講座2 改訂薬学教育モデル・
カリキュラムについて
講座3 学生の指導方法について
- (15) 薬局薬剤師と病院薬剤師の合同ワーク
ショップ
日 時：令和4年11月20日(日)
14:00～16:10
場 所：福岡県薬剤師会館および
Web研修
参加者：92人
演 題：
「トレーニングレポート活用の実際と地
域連携について」
久留米大学病院 薬剤部
井 上 光 鋭
「久留米三井薬剤師会でのトレーニング
レポート活用法」
久留米三井薬剤師会 常務理事
杉 岡 勇 樹
「薬薬連携の充実を目指した当院の取
組み～がん治療～薬剤師の取り組み
～情報共有を円滑に行うための連携
シート作成」
九州大学病院 薬剤部
南 晴 奈
「薬薬連携の充実を目指した当院の取
組み～がん治療～医師の視点から～
情報活用の実際と薬剤師への期待」
九州大学病院
血液・腫瘍・心血管内科
伊 東 守
「リフィル処方箋における基礎知識と注

❧ 定時総会付議事項 ❧

意点」

福岡県薬剤師会 常務理事

竹 野 将 行

- (16) 令和4年度医療機器販売業等の営業所管理者、医療機器修理業の責任技術者に対する継続研修会

日 時：令和4年11月27日(日)

13：00～16：00

場 所：Web研修

参加者：858人

内 容：

- ①「薬機法その他薬事に関する法令」

医療機器センター 常務理事

新 見 裕 一

- ②「医療機器の品質管理」

日本医療機器産業連合会

販売・保守委員会 委員

浦 富 恵 輔

- ③「医療機器の不具合報告及び回収報告」

日本医療機器産業連合会

PMS委員会 委員

三 田 哲 也

- ④「医療機器の情報提供」

医療機器センター附属医療機器

産業研究所 主任研究員

本 田 大 輔

- (17) 薬局運営に必要なスキルに関する研修会

日 時：令和4年12月4日(日)

13：00～18：00

場 所：福岡県薬剤師会館および

Web研修

参加者：168人

内 容：

経理の基礎を学ぼう！

- ①「薬局運営のための経理の基礎」

篠原・植田税理士法人

公認会計士・税理士 パートナー

首 藤 恒 之

- ②「薬局運営のための税務の基礎」

篠原公認会計士事務所グループ

税理士

吉牟田 広 高

労務の基礎を学ぼう！

- ③「薬局運営のための労務の基礎」

SA社会保険労務士法人

特定社会保険労務士 代表社員

立 野 浩 子

- (18) 薬剤師認知症対応力向上研修

日 時：令和4年12月11日(日)

13：00～15：50

場 所：Web研修

参加者：386人

演 題：

「認知症高齢者の基礎知識とその対応」

福岡県医師会 常任理事

桑 野 恭 行

「認知症の薬学的管理と薬剤師の役割」

福岡県薬剤師会

地域医療連携委員会 委員

畠 中 賢 一

「薬剤師認知症対応力向上研修

～制度編～」

福岡県保健医療介護部高齢者

地域包括ケア推進課 (DVD講義)

- (19) 薬剤師のための臨床腫瘍薬学セミナー

1) 第1回

日 時：令和4年12月18日(日)

15：00～18：18

場 所：Web研修

参加者：313人

演 題：

「がんについての基礎知識・がん治療の

学び方について」

相模原病院 薬剤部

高 橋 郷

「抗がん薬の基礎知識 (殺細胞性抗がん

薬)について」

福岡大学病院 薬剤部

井 上 竜 一

「抗がん薬の基礎知識 (ホルモン薬) および乳癌/前立腺癌のホルモン治療について」

久留米総合病院 薬剤部

桑 村 恒 夫

2) 第2回

日 時：令和5年1月14日(土)

15:00~18:18

場 所：Web研修

参加者：289人

演 題：

「抗がん薬の基礎知識 (分子標的治療薬) について」

産業医科大学病院 薬剤部

横 山 雄 一

「抗がん薬の基礎知識 (免疫チェックポイント阻害薬) について」

九州がんセンター 薬剤部

衛 藤 智 章

「抗がん薬の副作用対策：消化器症状 (悪心嘔吐、便秘、下痢)、皮膚障害、手足症候群、骨髄抑制、腎障害、肝障害、末梢神経障害など」

久留米大学病院 薬剤部

高 橋 誠

(20) 薬剤師のための緩和ケア研修会

日 時：令和5年1月7日(土)

15:00~17:13

場 所：Web研修

参加者：287人

演 題：

「がん患者の消化器症状の緩和について」

浜の町病院 腫瘍内科

二 尾 健 太

「がん患者の呼吸器症状の緩和について (ガイドラインを基にして)」

済生会福岡総合病院 がん治療

センター副センター長兼外科部長

鹿 田 康 紀

(21) 麻薬小売業者に対する研修会

日 時：令和5年1月18日(水)~

2月17日(金)

場 所：動画のオンデマンド配信による研修

参加者：2,141人

内 容：

①「麻薬等の適正管理について」

福岡県保健医療介護部薬務課

②「在宅医療と麻薬について」

福岡県薬剤師会 理事

永 原 一 史

(22) 糖尿病薬物療法セミナー

日 時：令和5年1月21日(土)

15:00~18:18

場 所：Web研修

参加者：346人

演 題：

「ライフステージを考慮した糖尿病治療戦略~「2型糖尿病の薬物療法のアルゴリズム」を読み解く~」

九州大学病院

内分泌代謝・糖尿病内科 講師 副科長

九州大学大学院医学研究院 病態制御

内科学講座 (第三内科) 医局長

坂 本 竜 一

「動き出した糖尿病診療のためのデジタルヘルス」

九州大学病院メディカル・インフォ

メーションセンター長 教授

中 島 直 樹

「退院時薬剤情報連携加算を活用した地域連携への取り組み~糖尿病療養患

❧ 定時総会付議事項 ❧

者における薬薬連携～」

九州大学病院 薬剤部

高 吉 真 弥

「外来における糖尿病管理と薬剤師の関わり～がん患者さんの糖尿病管理～」

九州大学病院 薬剤部

南 晴 奈

(23) 第47回保険薬局セミナー

日 時：令和5年1月29日(日)

13：00～15：20

場 所：福岡市民会館およびWeb研修

参加者：602人

演 題：

「記者から見た薬剤師・薬局・薬剤師会」

(株)医薬経済社 RISFAX論説委員

玉 田 慎 二

「地域の医療提供体制を支える薬剤師・薬局の役割～在宅、医療計画や医薬品提供等について～」

厚生労働省 医政局地域医療計画課

外来・在宅医療対策室

在宅医薬連携専門官

松 下 俊 介

(24) 県内4ブロックにおける薬局薬剤師と病院薬剤師の合同ワークショップ

1) 北九州ブロック

日 時：令和5年2月2日(木)

19：30～21：00

場 所：健康医療福祉研修会館

参加者：中止

2) 筑後ブロック

日 時：令和5年2月16日(木)

19：30～21：00

場 所：久留米シティプラザ

参加者：24人

内 容：

「ポリファーマシーの背景を考える」

杉岡調剤薬局

杉 岡 勇 樹

「当院におけるポリファーマシーに対する取り組み」

大牟田市立病院 薬剤部

竹 屋 裕 文

3) 筑豊ブロック

日 時：令和5年3月2日(木)

19：00～20：30

場 所：イイツカコミュニティセンター

参加者：34人

内 容：

「外来がん化学療法における薬薬連携～トレーシングレポートの報告～」

飯塚市立病院 薬剤室

瓜 生 啓 人

「ポリファーマシー対策について～高齢者の安全な薬物療法ガイドラインを中心に～」

飯塚病院 薬剤部

皆 元 文 恵

「ポリファーマシー対策の実際」実習

4) 福岡ブロック

日 時：令和5年3月13日(月)

19：00～21：00

場 所：福岡県薬剤師会館

参加者：34人

内 容：

「長野県における入退院時薬薬連携について」

長野県薬剤師会 副会長

藤 澤 裕 子

長野県病院薬剤師会 会長

神 田 博 仁

「福岡市における入退院時の薬薬連携への取り組みに関する問題点と対応策を明確化する」グループワーク

(25) がん検診の啓発と知識習得のための研修会

日 時：令和5年2月17日(金)

19:30~21:20

場 所：Web研修

参加者：85人

内 容：

①「福岡県におけるがん検診の実状」

福岡県がん感染症疾病対策課

がん対策係

佐 原 史 哉

②「福岡県におけるHPVワクチン接種の実状」

福岡県がん感染症疾病対策課

感染症対策係

山 口 大 貴

特別講演「子宮頸がんの治療と予防
～薬剤師と遺族の立場から～」

北里研究所 北里大学病院 薬剤部

がん専門薬剤師 / 日本医療薬学会

米 山 大 志

事務連絡 啓発資料の対応とアンケート調査への協力依頼について

(株)アステム

北 島 尚 也

(26) 腎臓病薬物療法セミナー

日 時：令和5年2月18日(土)

15:00~18:18

場 所：Web研修

参加者：442人

演 題：

「Triple whammyによる薬剤性腎障害を防げ」

I&H(株) 学術研修部

平 田 純 生

「透析患者の合併症治療薬の適正使用」

I&H(株) 学術研修部

平 田 純 生

「腎機能を考慮した医薬品適正使用－外来における薬局薬剤師の関与を中心に－」

熊本大学薬学部・大学院生命科学

研究部 臨床薬理学分野 (DCCI)

准教授

近 藤 悠 希

(27) アンチ・ドーピング研修会

日 時：令和5年2月19日(日)

13:30~15:30

場 所：福岡県薬剤師会館および

Web研修

参加者：74人

演 題：

伝達講習「2023年禁止表国際基準の変更点」

福岡県薬剤師会薬事情報センター

神 雅 子

「国際大会に向けた薬剤師会の取り組みについて」

福岡県薬剤師会 理事

清 水 敦

「オリンピック薬剤師が考えるアンチ・ドーピング活動」

黒田薬局

松 島 美 菜

(28) 小児在宅医療研修会

日 時：令和5年2月20日(月)

19:25~21:05

場 所：Web研修 (Zoom配信)

参加者：245人

演 題：

「医療的ケア児の現状と薬学管理について～成育基本法・医療的ケア児支援法の成立をふまえて～」

日本薬剤師会 理事

川 名 三知代

(29) オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤

❧ 定時総会付議事項 ❧

に関する研修会

日 時：令和5年2月25日(土)

15:00~18:40

場 所：福岡県薬剤師会館および
Web研修

参加者：127人

内 容：

「オンライン診療の適切な実施に関する
指針と緊急避妊薬の調剤について」

福岡県薬剤師会

薬局ビジョン推進委員会 委員

久 保 博 志

「オンライン診療に伴う緊急避妊薬処方
上の留意点」

①緊急避妊全般

②月経・月経異常・ホルモン調節機序

③OC全般・避妊

福岡県産婦人科医会 理事

内 田 聡 子

福岡県産婦人科医会 理事

村 上 文 洋

「オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調
剤について」

①薬局での調剤の手順について

②患者対応等について

福岡県薬剤師会 理事

星 野 崇

福岡県薬剤師会

薬局ビジョン推進委員会 委員

大 場 崇

(30) 第4回福岡県薬剤師会学術大会

日 時：令和5年3月5日(日)

10:00~17:00

場 所：アクロス福岡およびWeb研修

参加者：642人

内 容：特別講演、シンポジウム、一般
演題（口頭発表、ポスター発
表）

「健康サポート薬局への期待」

日本薬剤師会 理事

山 田 武 志

「薬物相互作用のリスクを予測する」

武蔵野大学薬学部 教授

伊 藤 清 美

(31) 薬剤師による予防接種に係る研修会

日 時：令和5年3月18日(土)

15:00~18:20

場 所：福岡県薬剤師会館

参加者：27人

内 容：

講義（動画視聴）

①新型コロナウイルス感染症に係るワク
チンに関する基礎知識

②緊急時対応の基礎

③新型コロナウイルス感染症に係るワク
チンの接種に必要な解剖学の基礎知
識

④-1 医療従事者のための新型コロナウ
イルスワクチンを安全に接種するた
めの注意とポイント

④-2 新型コロナワクチン より安全な
新しい筋注の方法

⑤新型コロナウイルス感染症に係るワク
チンのアナフィラキシーとその対応
等実技研修

福岡大学病院

救命救急センター 医師

喜多村 泰 輔

福岡鳥飼病院 医師

田 中 潤 一

福岡大学病院

救命救急センター 主任看護師

池 田 真 紀

福岡大学病院

5階西病棟 主任看護師

吉 田 裕 子

【薬局スタッフ向け研修会の開催】

(1) スタッフのための薬局業務研修会

日 時：令和4年4月16日(土)

15:00~17:45

場 所：福岡県薬剤師会館および
Web研修

参加者：423人

内 容：

「0402通知 調剤業務のあり方について」

福岡県薬剤師会 常務理事

田 城 涼 子

「倫理・関係法規」

福岡県薬剤師会 常務理事

原 口 恵 子

「医療安全・医薬品の取り扱い」

福岡県薬剤師会 理事

星 野 崇

「リスクマネジメントー医療従事者として
気をつけることー」

福岡県薬剤師会

薬局ビジョン推進委員会 委員

久 保 博 志

「準備行為の基本的なルール」

福岡県薬剤師会

薬局ビジョン推進委員会 委員

田 中 聖

【新型コロナウイルス感染症対策本部の活動 状況】

令和元年12月30日に中国政府が新型コロナウイルスによる肺炎の発症を発表して以降、各国に感染が拡大し、令和2年2月20日には福岡市でも60代男性の感染が確認されたことを受け、同月21日に当会に「新型コロナウイルス感染症対策本部」を設置した。

その後、現在に至るまで会員薬局に感染防止対策の徹底を繰り返し周知するとともに、会議や研修会、イベントなどの中止・延期、日本薬剤師会学術大会の完全Web開催への変更、薬局におけるPCR検査・抗原検査等の無料検査の実施、緊急承認された経口治療薬の取扱薬局の拡大等、感染拡大の防止に注力してきた。

令和4年度の主な活動は以下のとおりである。

(1) 厚労省等からの情報提供の周知等

感染拡大時の福岡コロナ警報、福岡コロナ特別警報、オミクロン株対応の福岡コロナ警報の発出、不要不急の外出自粛への協力依頼、経口治療薬の対応薬局拡大、検査キット販売体制の確保など、厚生労働省、福岡県、日薬からの発出文書や情報提供などを地区薬に迅速に周知するとともに、会員薬局における感染防止対策の徹底について協力を要請した。

(2) 新型コロナウイルスワクチン専門相談ダイヤルの運営

県の委託を受け、令和3年3月23日(火)に会館内に専門ダイヤルを設置し、土日・祝日を含め、薬剤師が県民からのワクチンの副反応などの専門的相談に対応している。受付時間は令和3年3月31日(水)までは9時~18時、令和3年4月1日(木)~令和3年12月19日(月)は24時間、令和3年12月20日(火)~令和5年3月31日(金)は9時~21時、令和5年4月1日(土)以降は9時~17時で、現在も継続中である(令和5年10月末まで継続予定)。

❧ 定時総会付議事項 ❧

(3) 薬剤師による予防接種に係る研修会の開催

ワクチン接種を促進するため、薬剤師も打ち手になることについての議論が起こったことを受け、日本薬剤師会は「薬剤師によるワクチン接種の研修プログラム」を作成し、各都道府県薬剤師会に提供した。この研修を受講することで違法性が阻却されるものではないが、対策本部としては薬剤師によるワクチン接種が必要となった際、即座に対応できるようにするため研修会を開催することとした。

研修会は災害・感染対策委員会により令和4年2月6日(日))に初めて開催され、39人に修了証を発行した。令和4年度は令和5年3月18日(土)に開催し27人が受講した。令和5年度も継続して開催する予定である。

(4) その他

特例承認・緊急承認された経口治療薬（モルヌピラビル（販売名ラゲブリオ）、ニルマトレルビル・リトナビル（販売名パキロビッド[®]パック）、エンシトレルビル フマル酸（販売名ゾコーバ錠125mg））の円滑な供給を担う対応薬局の選定、ワクチン・検査パッケージ制度に係る薬局での無料PCR検査等への協力と薬局における医療用検査キットの販売、自宅療養者等に対する薬剤交付支援事業の実施などを行った。

【薬事情報センター活動状況】

(1) 医薬品等の情報収集と分類事業

1) 購読雑誌等より

購読医療関係雑誌や行政通知等の有効性・安全性に関する最新情報を収集・更新、評価、分類

2) インターネットの活用

- ① 日本薬剤師会・各県薬剤師会の情報センターと情報連携
- ② オンライン検索による専門情報の収集
- ③ 日本薬剤師会の医薬品情報提供システムによる情報収集および連携

3) 文献データベース作成

- ① 日本薬剤師会が管理運営するBunsakuデータベース（文献管理情報分担入力システム）を共同構築

(2) 医薬品等の相談事業

一般県民や医療関係者等からの医薬品や健康食品等に関する多岐にわたる相談に対応

電話等による総質疑応答（詳細は別表参照）

- ・ 質問件数：2,474件（月平均206件）
- ・ 調査件数：5,620件（月平均468件）

1) 一般県民向け相談

- ① 一般県民の相談窓口「くすりなんでもテレホン」を開設（詳細は別表参照）

（平日9：00～17：30、土9：00～12：00、日・祝日除く）

- ・ 質問件数：1,638件（月平均136件）
- ・ 調査件数：3,086件（月平均257件）

うちLINEによる相談

- ・ 質問件数：175件（月平均14件）
- ・ 調査件数：476件（月平均39件）

うちメールフォームによる相談

- ・ 質問件数：37件（月平均3件）

- ・調査件数：85件（月平均7件）
- ② 24時間（夜間）対応の電話相談
一般県民からの緊急の質問に、夜間
（17：30～翌朝9：00）に対応
CTI（Computer Telephony
Integration）による電話転送システ
ムを活用
・質問件数：49件
・調査件数：102件

2) 医療従事者向け相談

- ① 医薬品・医療機器等の適正使用を目
的とした情報提供等
- ② 地域包括ケアシステムの推進のため、
在宅医療に関する情報提供等
- ③ かかりつけ薬局・薬剤師の薬学的管
理・指導を支援するための医薬品情
報提供等
- ④ 健康サポート薬局の機能充実のため、
一般用医薬品・健康食品等に対する
情報提供等
- ⑤ 地域における薬局のDI機能充実のた
め、医薬品の適正使用に関する情報
提供等

(3) 情報発信事業

1) 情報の提供

- ① メールによる情報の提供
安全性情報等を周知徹底するために、
情報ネットワークを活用して会員や
医療関係団体等へ一斉に情報発信
・メール送信：28件
(送信内容)
医薬品・医療機器等安全性情報、新
薬・報告品目・後発医薬品等の薬価
基準追補収載、特例承認医薬品、製
造販売承認医薬品、緊急承認医薬品
のお知らせ等
- ② 文献等の資料提供（メール・FAX・
郵送）

- 資料提供件数：1,119件
- ③ Twitterによる情報発信
情報発信件数：82件
(発信内容)
アンチ・トーピングの糖質コルチコ
イドのウォッシュアウト期間、新型
コロナウイルス感染症の「罹患後症
状のマネジメント」、「薬局薬剤師
の業務及び薬局の機能に関するワー
キンググループ」のとりまとめ、ア
ダラートCR錠の分割等への注意喚
起、濫用等のおそれのある一般用医
薬品の指定拡大、薬局ヒヤリ・ハッ
ト「共有すべき事例」等

2) 印刷物等による情報提供

- ① 定期刊行物「医薬品情報」を発行
（「ふくおか県薬会報」に掲載）
・隔月発行（No.496～501）、年6回、
A4判、18～30頁
- ② 福岡県医師会の会報「福岡県医報」
に「薬事情報センターのページ」を
掲載
・毎月1回、年12回（1984年3月よ
り、通算468回）
- ③ 福岡県歯科医師会の会報「歯界時
報」に医薬品適正使用情報を掲載
・毎月1回、年12回（2016年2月よ
り、通算86回）

3) ホームページによる情報提供

- アクセス件数：2,132,491件（薬剤師会全
体のアクセス件数：2,761,093件）
- ① 「医薬品情報」：新薬・報告品目等
の薬価基準追補収載について、随時
更新
- ② 「質疑応答」：情報センターに寄せ
られた質疑応答について、毎月更新
- ③ 「薬事情報センターに寄せられた県
民・医療従事者からの相談事例」

・定時総会付議事項・

(有害事象防止事例)を掲載、毎月更新

- ④ 「消毒薬一覧」を掲載
- ⑤ 「くすりQ&A」を掲載
- ⑥ 「読むおクスリ」を掲載
- ⑦ 「薬剤師業務に役立つインターネット検索サイト」を掲載
- ⑧ 「上手に使おう健康食品Vol.1～10」を掲載

(4) その他の事業

1) 後発医薬品の使用促進

「ジェネリック医薬品情報提供コーナー」をホームページに開設し、県民の後発医薬品の選択を支援し、県民や医療関係者へ情報提供すると共に電話相談に対応

2) アンチ・ドーピング活動

- ① 「ドーピング防止ホットライン」を実施し、競技者等からの相談に対応
・質問件数：25件（月平均2件）
・調査件数：64件（月平均5件）
- ② 「公認スポーツファーマシスト」の養成・認定を支援
- ③ 福岡県スポーツ協会の「スポーツ医・科学委員会」へ関連情報を提供し、福岡県のスポーツ振興に協力
- ④ アンチ・ドーピング研修会を開催

3) 薬剤師の臨床疫学研究及び学術倫理審査会の運営を支援

4) 講演会・研修会で講演、学会発表

2月19日 アンチ・ドーピング研修会
伝達講習
「2023年禁止表国際基準の変更点」講演

5) 各種学会・研修会・会議等に参加

5月29日 Web 福岡県薬剤師会 学会発表スキルアップセミナー

～あなたも学会発表にチャレンジしてみませんか～

7月23日～24日

Web 第30回クリニカル
ファーマシーシンポジウム
医療薬学フォーラム（金沢）

9月18日～19日

Web 第81回九州山口薬学
大会（熊本）

10月9日～10日

仙台 第55回日本薬剤師会学
術大会

12月1日

Web 令和4年度 都道府県
薬剤師会アンチ・ドーピン
グ活動担当者等研修会（東
京）

3月5日

福岡 第4回福岡県薬剤師会
学術大会

3月8日

Web 令和4年度 日本薬剤
師会研究推進に関する全国
会議（東京）

3月16日

福岡 令和4年度 第1回学
術倫理審査会

3月24日

Web 令和4年度 日本薬剤
師会薬事情報センター実務
担当者等研修会（東京）

3月26～28日

札幌 日本薬学会第143年会

6) 会議の運営

- ① ワーキンググループ：毎月1回（12回開催）
- ② 情報センター運営委員会：毎年1回（2月）

7) 「薬事情報センター利用に関するアンケート」を実施

8) 新型コロナウイルスワクチン専用ダイヤルの運営を支援

令和4年度 薬事情報センター活動状況

I. 情報センターへの問い合わせ

(1) 質問件数（質問者の数）

区 分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	%
会 員	薬 局 ・ 薬 店	41	36	32	34	38	24	29	26	29	29	40	27	385	32.1	15.6
	病院・診療所薬局	0	1	0	1	1	1	0	0	2	0	0	2	8	0.7	0.3
	製 薬 会 社	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
	医 薬 品 卸	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1	0.1
	保健所・行政機関	2	3	3	3	3	1	3	8	3	3	3	2	37	3.1	1.5
	県 内 支 部	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	3	0.3	0.1
	そ の 他	8	8	8	10	12	5	7	10	5	1	2	4	80	6.7	3.2
	小 計	52	48	43	48	54	31	39	45	39	33	46	36	514	42.8	20.8
非 会 員	医 師	3	2	4	3	5	3	3	7	3	2	5	4	44	3.7	1.8
	歯 科 医 師	9	18	18	19	18	21	21	20	20	21	27	22	234	19.5	9.5
	病院・診療所薬局	2	3	0	3	1	3	1	1	0	1	4	1	20	1.7	0.8
	県外薬剤師会	2	0	0	3	1	0	0	0	1	0	2	0	9	0.8	0.4
	一 般	115	107	120	125	172	133	112	128	155	162	153	156	1,638	136.5	66.1
	介 護	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	1	4	0.3	0.2
	学 校	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0.1	0.1
	そ の 他	1	0	0	0	1	2	0	0	0	3	1	2	10	0.8	0.3
	小 計	132	130	143	154	198	163	137	156	179	190	192	186	1,960	163.3	79.2
合 計		184	178	186	202	252	194	176	201	218	223	238	222	2,474	206.2	100.0
累 計		－	362	548	750	1,002	1,196	1,372	1,573	1,791	2,014	2,252	2,474	－	－	－

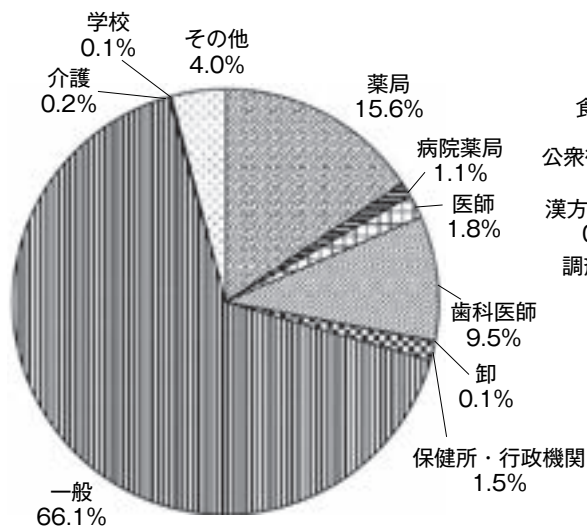
(2) 調査件数（質問内容による分類）

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	%
薬 剤 識 別	0	0	0	1	6	19	2	2	0	1	0	0	31	2.6	0.6
薬 品 一 般 *	66	60	74	98	133	107	89	90	96	109	114	105	1,141	95.1	20.3
副作用・相互作用	184	285	249	323	332	302	279	328	333	259	363	387	3,624	302.0	64.4
調 剤 ・ 製 剤	9	5	10	3	4	3	9	7	2	2	5	6	65	5.4	1.2
漢 方 薬 ・ 生 薬	7	3	5	0	5	2	2	3	3	1	1	2	34	2.8	0.6
公衆衛生・生化学	0	1	2	2	0	1	5	3	0	4	5	3	26	2.2	0.5
食品・健康食品	5	2	6	3	6	3	1	0	2	7	2	0	37	3.1	0.7
中 毒 ・ 誤 飲	1	2	3	2	5	3	4	8	9	9	3	7	56	4.7	1.0
行 政 ・ 保 険	44	44	29	26	36	29	28	32	37	30	32	19	386	32.2	6.9
図 書 ・ 文 献	10	14	15	5	12	6	6	20	7	1	7	9	112	9.3	2.0
そ の 他	5	6	9	5	7	8	8	12	9	11	18	10	108	9.0	1.8
合 計	331	422	402	468	546	483	433	505	498	434	550	548	5,620	468.3	100.0
累 計	—	753	1,155	1,623	2,169	2,652	3,085	3,590	4,088	4,522	5,072	5,620	—	—	—

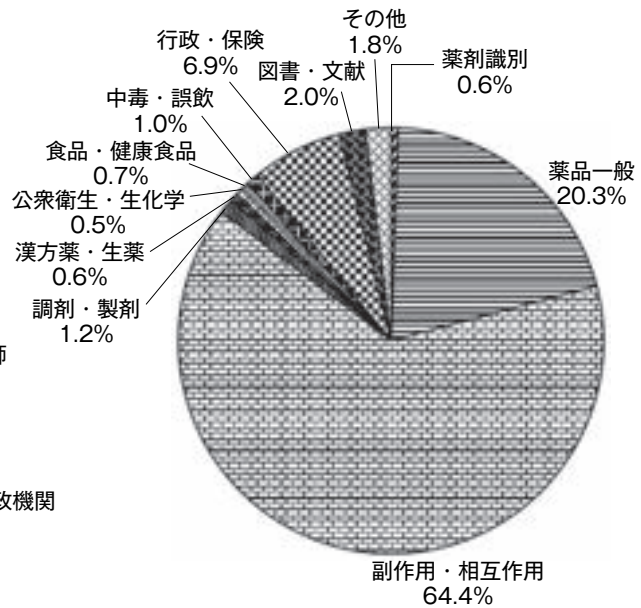
*: 市販の有無、用法・用量、治療方法など

・定時総会付議事項・

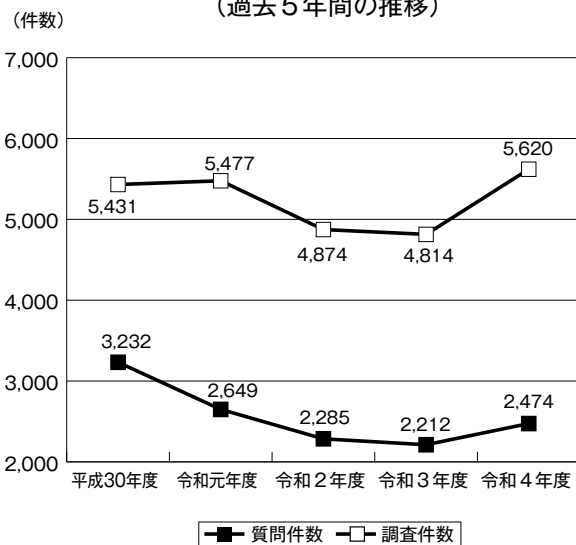
令和4年度 質問件数内訳
(総件数 2,474件)



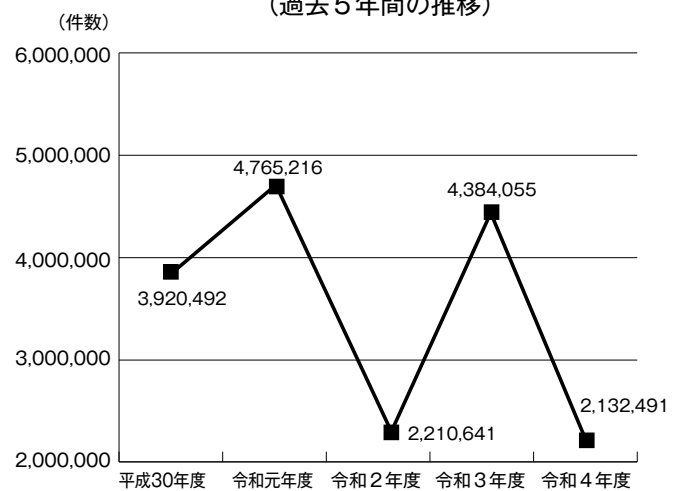
令和4年度 調査件数内訳
(総件数 5,620件)



質問件数・調査件数
(過去5年間の推移)



ホームページアクセス件数
(過去5年間の推移)



II. 情報センターへの一般からの問い合わせ

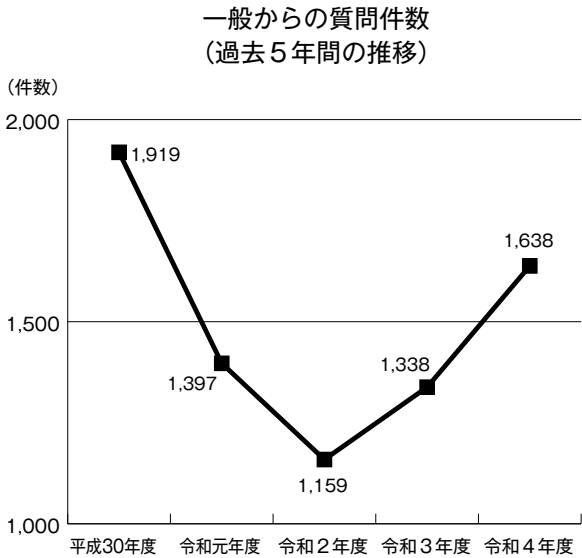
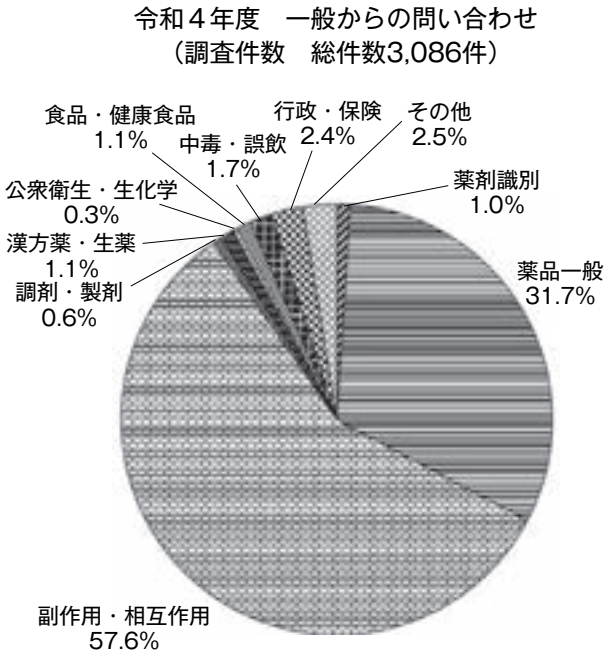
(1) 質問件数 (質問者の数)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
合 計	115	107	120	125	172	133	112	128	155	162	153	156	1,638	136.5
累 計	—	222	342	467	639	772	884	1,012	1,167	1,329	1,482	1,638	—	—

(2) 調査件数 (質問内容による分類)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	%
薬 剤 識 別	0	0	0	1	6	19	2	2	0	1	0	0	31	2.6	1.0
薬 品 一 般 *	52	51	58	83	118	96	73	78	87	97	100	86	979	81.6	31.7
副作用・相互作用	113	125	135	118	204	134	106	152	202	118	155	215	1,777	148.1	57.6
調 剤 ・ 製 剤	1	2	6	1	2	2	0	2	0	1	0	3	20	1.7	0.6
漢 方 薬 ・ 生 薬	6	3	5	0	5	2	2	3	3	1	1	2	33	2.8	1.1
公衆衛生・生化学	0	1	0	1	0	1	2	0	0	3	0	1	9	0.8	0.3
食 品 ・ 健 康 食 品	5	2	6	3	6	2	1	0	1	7	1	0	34	2.8	1.1
中 毒 ・ 誤 飲	1	2	2	2	4	3	4	7	8	9	3	7	52	4.3	1.7
行 政 ・ 保 険	6	8	6	3	4	5	13	5	9	7	5	2	73	6.1	2.4
図 書 ・ 文 献	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
そ の 他	4	4	7	3	5	7	7	9	7	8	10	7	78	6.5	2.5
合 計	188	198	225	215	354	271	210	258	317	252	275	323	3,086	257.2	100.0
累 計	—	386	611	826	1,180	1,451	1,661	1,919	2,236	2,488	2,763	3,086	—	—	—

*：市販の有無、用法・用量、治療方法など



定時総会付議事項

報告第3号 令和5年度事業計画の件

令和5年度事業計画

我が国において新型コロナウイルス感染症が確認されてから既に3年が経過した。今後も感染の継続は見込まれるものの、医療従事者はもとより国民一丸となつての対応もあり、感染症法上の位置付けを「2類相当」から「5類」へ引き下げる方向で準備が進んでいる。今後も重症者等の抑制を前提とした対応の必要性和ともに、日常生活の感染リスク増加に伴う医療需要の高止まりが続くことが想定される。

薬剤師は、感染防止対策を講じつつ地域における医薬品提供体制を維持するとともに、ワクチン接種に伴う相談窓口対応、ワクチンの希釈及びシリンジへの充填、接種会場における予診サポート、薬剤服用歴の確認や副反応等に関する説明等、速やかなワクチン接種体制の構築と運営に協力してきた。また、自宅や宿泊療養施設の患者に対する医薬品の提供についても、あらゆる手段を講じつつ対応してきた。経口治療薬の提供体制の維持とともにOTC医薬品・抗原定性検査キット等の適切な販売など多くの薬剤師・薬局に協力いただき、医薬品提供体制を担う薬剤師ならではの貢献ができたものと改めて感謝申し上げる。

東日本大震災より12年が経った。また、本年2月にはトルコ南東部のシリアとの国境付近を震源とする地震が発生し、甚大な被害をもたらしている。地域を問わず自然災害には備える必要があり、本会においては、災害に関する各種協定の締結やモバイルファーマシーを中心とした災害対応に必要な資材等の整備、VPCSによる災害時の薬局在庫情報の共有、速やかな支援に向けた人材の養成などを先進的に取り組んでおり、引き続き県防災総合訓練への参加や、災害支援薬剤師養成に向けた研修等を通じ、実効性のある体制整備を行う。

2024年は医療報酬・介護報酬・障害福祉サービス等報酬のトリプル改定が予定されている。6年に一度の同時改定であり、合わせて第8次医療計画も各都道府県において作成される。今回の国による医療計画の作成指針には薬剤師や薬局に関する内容がこれまでになく盛り込まれている。特に「薬剤師の確保」や「薬局の活用」に関しては調剤という薬局の部分的役割のみならず、今後期待される役割や機能、つまり「あり様」が求められている。介護・障害福祉サービス等との更なる連携とともに、第8次医療計画、医療DX、さらには新興感染症対応やプログラム医療機器（SaMD）など、今後の議論に対応した活動を検討し実行する。

医療分野におけるデジタル化は急速に進展している。1月26日より全国で電子処方箋の発行が開始された。また、4月からはオンライン資格確認システムが義務化となり、そのプラットフォームを用いた薬剤情報等の閲覧に加え、次世代の電子版お薬手帳についても検討が行われており、医療DXは確実に進み始めている。医療DXにおいて薬剤師・薬局のICT対応は必須であり、日本薬剤師会、地区薬剤師会と協力し、体制整備とともにリテラシー習得に向けた支援を行う。

一方、電子処方箋の運用に必須である薬剤師資格証（HPKIカード）の発行状況については、国際的な社会状況の影響を受けたカードの調達の不調に加え、発行申込件数の低調や想定を上回る書類不備等により、想定より低調に推移している。電子処方箋においてもフリーアクセスを実現するため、引き続き円滑な運用に向けての対応を進めていく。

昨今、薬剤師・薬局に向けた規制改革の声は大きく、同意しかねる内容も多く含まれてい

る。薬剤師・薬局の役割を示している「改正薬機法・薬剤師法」の趣旨・概念に基づき業務を行うとともに、薬剤師としての新たな可能性に向け、しっかりと責任を果たしていかなければならない。合わせて、これから厳しさを増すと思われる薬局の運営においては、地域における医薬品提供体制の維持と組織強化の視点に基づき、薬剤師による薬局運営についてのスキル習得と継続的運営の支援を引き続き行う予定である。

以上を基本として、日本薬剤師会、地区薬剤師会と連携の下、災害、調剤報酬改定、薬局機能・ビジョン、医療DXなど、地域住民の健康な生活の確保・向上に寄与するため、以下に掲げる事項に取り組む。

1. 公1 県民の医薬品の適正な使用を図ることを目的とする事業

- (1) インターネット等を用いた広報活動事業
 - 1) 福岡県薬剤師会ホームページやSNSの活用による県民向け情報の充実および県内薬剤師への情報の共有と一元化ならびに知識啓発を実施
 - 2) 薬剤師職能に関する広報
- (2) 地域医療の向上を目指した情報提供事業
 - 1) 薬剤師無料職業紹介所およびファーマファインドJOB（薬剤師の求人求職Webシステム）の維持・運営
- (3) セミナー等の開催による広報活動事業
 - 1) 「くすりのセミナー福岡」の開催と講演内容の充実（年2回の開催予定）
 - 2) 「県民健康づくりセミナー」への参加と講演内容の充実
- (4) 新聞社・テレビ局を通じた広報活動事業
 - 1) マスメディア（新聞社・テレビ・ラジオ等）を通じた薬局・薬剤師職能の広報活動
- (5) 県薬会報（隔月刊誌）の編集・発行を通

じた広報活動事業

1) 県薬会報の充実

- ① 会員への通達事項の掲載
- ② 薬剤師職能に関する特集記事の企画および掲載
- ③ 薬学・医療等の学術関連記事の掲載
- ④ 最新の医薬品関連情報の掲載
- ⑤ 地区薬剤師会の相互理解を深める記事の掲載
- ⑥ 組織内の連携強化を図る記事の掲載

(6) 行政機関との連携事業

1) 組織強化

- ① 公益法人制度および公益法人会計基準への継続的対応

2. 公2 県民の保険制度の充実を図ることを目的とする事業

(1) 医療における医療保険制度実施事業

- 1) セミナー、研修会、講習会などによる薬剤師の知識向上
 - ① 保険薬局セミナーの開催・地区指導者研修会の開催
 - ② 調剤報酬改定伝達講習会後の保険調剤Q & A等に関する会員への解釈の周知
 - ③ 個別指導への指導員の推薦および立会者の派遣
厚生労働省および県との共同指導への立会者の派遣
国保診療報酬審査委員会への審査員推薦、社会保険診療報酬請求書審査委員会への審査員推薦
 - ④ 委員会間の在宅医療等に関する積極的な情報の交換
 - ⑤ 保険調剤業務の研修、伝達
 - ⑥ 県薬会報への「審査ニュース」掲載
 - ⑦ 適正受診指導事業の受託および関係者への指導実施

・定時総会付議事項・

(2) 行政機関との連携事業

1) 保険関係機関や地域医療との連携

- ① 九州厚生局指導監査課との協議
- ② 福岡県国民健康保険団体連合会・社会保険診療報酬支払基金との協議
- ③ 福岡県医療審議会、福岡県薬事審議会および福岡県地域医療構想調整会議への参画、九州地方社会保険医療協議会、福岡県保険者協議会ならびに企画調査部会および保健活動部会への参画
- ④ 県五師会の協調と行政とのタイアップ
- ⑤ 在宅医療への薬剤師の参加を支援し、地域医療連携を積極的に推進

(3) 医療費削減を目的としたジェネリック医薬品使用促進活動事業

1) ジェネリック医薬品使用促進のための環境整備

- ① ジェネリック医薬品の備蓄および調剤に必要な体制の確保に向けた取り組み（ジェネリック医薬品情報のWebサービス）

(4) 県民の医療安全を目的とした調剤事故防止活動事業

1) 調剤事故防止に向けた活動

- ① 医療事故防止に向けた薬剤師職能の強化、調剤事故の削減を図るための研修会の開催
- ② 日本医療機能評価機構「薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業」への参加促進および事例報告の啓発
- ③ ICT（Information and Communication Technology）を使った調剤事故防止システムの紹介および普及促進
- ④ 調剤事故防止へ向けた支援ができる仕組みの構築

- ⑤ 薬局における安全管理体制の整備に関連した「医療安全管理指針」と「医薬品の安全使用のための業務手順書」の更新の周知および従業者に対する研修会の開催

- ⑥ 病院薬剤部と薬局間の患者情報共有による調剤事故回避へ向けた環境整備の促進（薬薬連携等）

- ⑦ 調剤事故が発生した際の対応の検討

- ⑧ 「調剤された薬剤および医薬品の情報提供等」のための業務に関する指針と「手順書」の設置の徹底および従業者に対する研修会の開催

- ⑨ 医療事故調査支援委員会および医療事故調査等支援団体連絡協議会への協力

- ⑩ 副作用、相互作用、治療効果不十分などを回避あるいは軽減した事例の収集および報告

- ⑪ 医療安全セミナーの開催

(5) 薬薬連携事業（医療機関と保険薬局の患者情報等の共有事業）の強化事業

1) 薬薬連携の強化

- ① 福岡県病院薬剤師会との連携推進
- ② 「お薬手帳」、「院外処方箋」等による情報共有の促進

- ③ 臨床検査値等の医療情報を活用した安全で質の高い適正な薬物療法の推進

- ④ がん化学療法に関する情報共有を目的とした標準レジメンの県薬会報掲載

- ⑤ VPCSneo（Virtual Pharmacy Computer System）の地域連携機能を活用した情報共有の推進

2) 薬局・薬剤師の職能強化

- ① DEM（Drug Event Monitoring）事業への参加

(6) 在宅における医療保険と介護保険の適正化事業

1) 在宅医療（緩和ケアを含む）と介護保険制度

- ① 訪問薬剤（在宅患者訪問、居宅療養）管理指導の推進と質の向上
- ② 福岡県保健医療介護部、福岡県介護保険広域連合、福岡県国民健康保険団体連合会、福岡県後期高齢者医療広域連合関連委員会、協議会、検討会等への委員派遣および協働連携
- ③ 地域包括ケアシステムの構築に関する事業への積極的な参画、関係職種（医師会、歯科医師会、看護協会、栄養士会、介護支援専門員協会等）との連携強化
- ④ 在宅医療に関する研修会の開催
- ⑤ 在宅訪問に関する医療保険と介護保険請求の周知徹底（保険薬剤師必読ハンドブック等の活用）
- ⑥ 在宅関連の学会・研修会への派遣・情報収集、福岡県介護保険審査会への委員派遣
- ⑦ 多職種連携推進事業の地区薬での取り組みを支援するため、薬剤師在宅業務の啓発に向けた研修会への講師派遣

3. 公3 薬剤師の医学・薬学知識の向上や薬学教育制度の充実を図ることを目的とする事業

- (1) 学術研修事業企画
- (2) 薬学教育の支援およびその人材育成に関する事業

1) 薬学教育への対応

- ① 認定実務実習指導薬剤師養成および更新事業の継続
 - a. 認定実務実習指導薬剤師養成講

習会の開催

- b. 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップへのタスクフォース派遣
- c. 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップの支援
- d. 認定実務実習指導薬剤師更新への対応
- ② 薬学生実務実習受け入れ体制の充実・強化
 - a. 薬学実習生と受け入れ施設とのマッチング
 - b. 「6年制薬局実習の受入薬局に対する日本薬剤師会の基本的な考え方」の周知
 - c. 日本薬剤師会「薬局におけるふるさと実習に向けた提言」への対応
 - d. 薬学教育研修会の開催
- ③ 実務実習におけるトラブルへの対応
 - a. ハラスメントの予防と啓発
 - b. 県内ブロック別トラブル対応担当者の設置・対応
- ④ 大学および関係団体との連携強化
 - a. 早期臨床体験受け入れへの協力
 - b. OSCE（Objective Structured Clinical Examination）評価者等の派遣
 - c. 実務実習事前学習への講師派遣
 - d. 大学との共同による実務実習受け入れ施設への説明会の開催
 - e. 病院・薬局実務実習九州・山口地区調整機構との連携
 - f. 九州山口地区薬剤師会薬局実務実習受入調整機関事務局の運営
 - g. 九州山口地区薬剤師会薬局実務実習受入調整機関実習施設概

・定時総会付議事項・

要閲覧サイトの管理・運営

h. 薬学生の教育支援

i. 他地区調整機構に所属する大学との連携

4. 公4 県民の環境衛生の向上を図ることを目的とする事業

(1) 学校薬剤師事業

1) 学校薬剤師事業

- ① 学校薬剤師事業、公衆衛生活動への支援と参加
- ② 学校薬剤師の資質向上のための研修会の開催
- ③ 環境衛生検査等に対する積極的対応
- ④ 学校保健、環境衛生学術大会への参加
- ⑤ 薬の適正使用の啓発と指導
- ⑥ 薬物乱用防止活動への参加、協力
- ⑦ 児童生徒に対する喫煙防止教育、飲酒防止教育への支援
- ⑧ 学校保健に関する県三師会の協調と行政とのタイアップ
- ⑨ 福岡県学校保健会事業への協力

(2) 医薬品試験検査センターの技術向上への支援事業

1) 試験センター事業

- ① 試験検査センターへの支援
- ② 試験検査センターの技術向上
- ③ 試験検査センター活動の広報

(3) 行政機関等との連携事業

1) 公害審査会への参加

2) ふくおか健康づくり県民会議への協力および支援

3) 特定の機能を有する薬局の認定への支援

(4) 行政機関等との協賛事業

(5) 薬剤師に対する体系的な卒後教育・研修活動事業の企画・開催

1) 薬剤師研修制度の充実

- ① 日本薬剤師会生涯学習支援システム「JPALS」(Japan Pharmaceutical Association life long Learning support System)の利用促進に向けた周知
- ② ホームページでの研修会案内の充実
- ③ 福岡県薬剤師会研修システムの維持管理
- ④ 研修認定薬剤師制度(日本薬剤師研修センター)の活用
- ⑤ インターネットによる会員への情報提供
- ⑥ 高度な薬学的管理能力の向上を目指すための各学会等との共催事業
- ⑦ 「健康サポート薬局」制度に基づく研修会の開催
- ⑧ 福岡県健康サポート薬局シンポジウムの開催準備

2) 薬剤師の質の向上へ向けた取り組み

- ① 地区指導者研修会の開催
- ② 福岡県薬剤師会学術大会の開催準備
- ③ 学会発表等の活性化を支援
- ④ 臨床疫学研究における学術倫理審査会の運営
- ⑤ 「いわゆる健康食品」についての正しい知識の普及と健康被害の未然防止
- ⑥ 「いきいき健康ふくおか21」への積極的支援
- ⑦ 福岡県禁煙相談員養成研修の開催
- ⑧ 認知症対応力向上研修の開催

(6) 地域医療への参加と協力事業

1) 地域医療への参加と協力

- ① 地区健康推進協議会への参加推進と保健事業の積極的な実施
- ② オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤の提供体制の整備

(7) 災害発生時の救援活動等への対応整備事業

- 1) 県民および薬剤師に対する震災等への防災意識高揚へ向けた取り組み実施、および防災マニュアル等の作成
- 2) 最新の情報に基づいた業務継続に向けての具体的対策
- 3) 災害時における医薬品等供給調整業務を行う災害支援薬剤師の養成、環境衛生に関わる検査および指導助言
- 4) 災害支援薬剤師（リーダー）、災害支援薬剤師による災害対応訓練および研修会の開催
- 5) 災害用備蓄品・資材の整備
- 6) モバイルファーマシーの維持・管理、防災訓練および研修会の開催

5. 公5 県民等の薬事情報収集の効率化を図ることを目的とする事業

(1) 医薬品等の情報収集と分類

1) 薬事情報センター

- ① 情報の収集・分類や各事業の支援
 - a. 医薬品医療機器による健康被害防止を目的とした有効性・安全性情報の収集・提供体制の充実
 - b. ジェネリック医薬品情報提供に関するWebサービスの運用
 - c. 地域連携薬局の情報提供活動を支援
 - d. かかりつけ薬剤師・薬局による薬学的管理・指導に対する支援
 - e. 健康サポート薬局の機能充実を目指した情報の提供
 - f. 臨床疫学研究における学術倫理審査会の支援
 - g. CTI（Computer Telephony Integration）システムを活用した質疑応答データベースの作成

h. 「公認スポーツファーマシスト」制度の推進と養成支援

i. 新型コロナウイルスワクチン専用ダイヤルの運営を支援

j. 「薬剤師に必要な消毒薬の知識」の発行準備

(2) 相談事業

1) 県民や医療関係者などへの医薬品等に関する相談・啓発活動

- ① 「クスリなんでもテレホン」による医薬品等の電話相談の実施
- ② 県民からのWebやLINEによる問い合わせや医薬品等の相談の実施
- ③ 医薬品・健康食品等の適正使用についての講演会・広報などを通じた啓発活動
- ④ 県民・医療関係者へのジェネリック医薬品の使用促進に向けた情報提供と、品質確認などの電話相談の実施
- ⑤ 「ドーピング防止ホットライン」によるアンチ・ドーピング活動に関する電話相談の実施

(3) 情報発信

1) 出版物やインターネットを利用した情報発信

- ① 「ふくおか県薬会報」「福岡県医報」「歯界時報」を通じた、医薬品医療機器安全性情報および適正使用情報の提供
- ② ホームページ・メール・FAX・SNSなどによる安全性情報や薬価収載などの即時提供
- ③ ホームページを通じた県民向けパンフレットの公開
- ④ ホームページを通じた相談事例やQ&A、薬剤師業務に役立つ情報を提供

❧ 定時総会付議事項 ❧

6. 公6 業としての薬業全体の質の向上を図ることを目的とする事業

(1) 薬局・薬剤師業務の充実へ向けた事業

1) 薬局業務の充実

- ① 薬局・薬剤師が地域住民による主体的な健康の維持・増進を支援するために必要な環境の整備および研修体制の構築
- ② VPCSneoの利用によるジェネリック医薬品の安定した流通供給の確保ならびに医療材料・衛生材料の供給体制の整備
- ③ 「患者のための薬局ビジョン」および「福岡県版薬局グランドデザイン」に対応する薬局・薬剤師の質の向上と県民・地域のニーズに基づく薬局機能の検討
- ④ かかりつけ薬剤師・薬局による薬学的管理・指導に対する支援に必要な体制の整備

(2) 薬局業務のICT推進事業

1) 薬局内ICT化と薬局業務支援システムであるVPCSneoの普及推進

- ① eお薬手帳の普及促進と、薬局への導入支援
- ② 医薬品備蓄、流通供給、医薬品情報収集、ジェネリック医薬品使用促進等のための薬局業務支援システムであるVPCSneoの普及促進
- ③ 多様化する在宅医療に対応するため医療材料・衛生材料の安定供給に関するシステムの維持・運用
- ④ 日本薬剤師会認証局による「薬剤師資格証（HPKI）」発行業務の支援

(3) 健康食品、喫煙などによる健康被害の防止対策事業

1) 「福岡県たばこ対策事業」の一環として、「卒煙サポート薬局」・「禁煙相

談員」養成のための研修会の企画・開催

2) 「いわゆる健康食品」についての正しい知識の普及と健康被害の未然防止

(4) 行政機関との連携事業

1) 医療機器販売業等の営業所管理者、医療機器修理業の責任技術者に対する継続研修会の開催

2) 「健康日本21」への取り組み関係団体として積極的に事業を展開

- ① 運動、食生活、喫煙等に関する目標の設定に関与
- ② メタボリックシンドロームの該当者および予備群の減少に関与
- ③ 健康診査および保健指導の実施に関与

3) 「いきいき健康ふくおか21」への参加と積極的支援を実施、「いきいき福岡健康づくり推進協議会」、「健康21世紀福岡県大会実行委員会」等へ委員を派遣

4) 「薬と健康の週間」の実施

- ① 県民向けの「くすりと健康フェア」を開催
- ② 県民向けにSNSを活用した薬剤師職能や医薬品に関する情報提供の実施

5) 「新オレンジプラン」に基づく認知症対応力向上研修の企画・開催

6) 麻薬小売業者に対する研修会の開催

7) がん検診等の啓発と知識習得のための研修会の開催

7. 他1 斡旋図書を斡旋・販売する事業

(1) 薬事関係図書等の斡旋販売事業

1) 教育研修、実務関係の書籍、行政に申請する書類等の斡旋

8. 他2 会員相互事業

- (1) 地区薬剤師会および会員に対する表彰および会員に対する弔慰・見舞金給付事業
- (2) 会員向け保険事業
 - 1) 薬局・薬剤師として社会的責任を果たすため「薬剤師賠償責任保険」等のPRと加入促進
- (3) 薬局運営に関する支援事業
 - 1) 薬局運営に必要なスキルに関する研修会の開催

(4) その他

- 1) 組織強化
 - ① 会員加入促進
 - ② 会員証機能を有するアプリの導入
- 2) 関係団体との連携
 - ① 福岡県薬業団体連合会との連携
 - ② 福岡県薬剤師国民健康保険組合への加入促進
 - ③ 福岡県医薬品登録販売者協会との連携

定時総会付議事項

報告第4号 令和5年度収入支出予算の件

令和5年度収支予算書

自 令和5年4月1日
至 令和6年3月31日

(単位：円)

科 目	令和5年度予算額	令和4年度予算額	差引増減額	備 考	
I. 一般正味財産増減の部					1
1. 経常増減の部					2
(1) 経常収益					3
基本財産運用益	0	0	0		4
特定資産運用益	4,000	4,000	0		5
特定資産受取利息	4,000	4,000	0		6
受取入会金	2,610,000	3,100,000	-490,000		7
受取入会金	2,610,000	3,100,000	-490,000	A会員:50,000円、B会員:10,000円	8
受取会費	143,414,000	141,950,000	1,464,000		9
本会費	78,466,000	78,594,000	-128,000		10
正A会費	52,880,000	52,794,000	86,000		11
正B会費	23,514,000	23,574,000	-60,000		12
賛助A会費	1,484,000	1,614,000	-130,000		13
賛助B会費	588,000	612,000	-24,000		14
保険薬局特別会費	64,948,000	63,356,000	1,592,000		15
事業収益	11,129,000	18,635,000	-7,506,000		16
広告出版収益	660,000	660,000	0	県薬会報	17
受取手数料	1,599,000	1,272,000	327,000	保険料手数料他	18
共同事業収益	8,870,000	16,703,000	-7,833,000		19
図書売上	5,336,000	11,183,000	-5,847,000		20
用紙売上	3,534,000	5,520,000	-1,986,000		21
受取補助金等	26,252,000	28,366,000	-2,114,000		22
情報センター	13,680,000	13,680,000	0		23
健康21世紀	0	200,000	-200,000		24
地域医療介護総合確保基金	0	1,263,000	-1,263,000		25
日本薬剤師会助成金	11,782,000	11,665,000	117,000		26
受取補助金等振替額	790,000	1,558,000	-768,000		27
受取負担金	21,867,000	18,275,000	3,592,000		28
福薬連受入金	600,000	600,000	0		29
研修会受入金	14,710,000	11,009,000	3,701,000	研修会参加費	30
他団体受入金	6,557,000	6,666,000	-109,000	九山、連盟、調整機関、学校薬剤師他	31
受託収益	18,936,000	105,682,000	-86,746,000		32
学校保健衛生受託収益	8,313,000	8,028,000	285,000	プール水質検査料、教室等空気環境検査料	33
業務受託収益	10,623,000	97,654,000	-87,031,000		34
雑収益	363,000	447,000	-84,000		35
受取利息	5,000	5,000	0		36
受取賃貸料	90,000	90,000	0		37
その他収益	268,000	352,000	-84,000	保険薬剤師必読ハンドブック他	38
経常収益計	224,575,000	316,459,000	-91,884,000		39
(2) 経常費用					40
A. 事業費	165,382,000	257,716,000	-92,334,000		41
役員報酬	11,712,000	11,712,000	0		42

(単位：円)

科 目	令和5年度予算額	令和4年度予算額	差引増減額	備 考	
給料手当	45,474,000	121,925,000	-76,451,000		1
臨時雇賃金	907,000	1,695,000	-788,000		2
役員退職金	1,850,000	0	1,850,000	役員退職記念品	3
退職給付費用	1,000	1,000	0		4
福利厚生費	8,904,000	9,033,000	-129,000		5
厚生費	1,174,000	1,206,000	-32,000		6
社会保険料	6,438,000	6,507,000	-69,000		7
退職共済掛金	1,292,000	1,320,000	-28,000		8
旅費交通費	24,697,000	22,499,000	2,198,000		9
旅費	2,322,000	1,665,000	657,000		10
交通費	22,375,000	20,834,000	1,541,000		11
通信運搬費	3,071,000	4,055,000	-984,000		12
減価償却費	3,611,000	5,228,000	-1,617,000	モバイルファーマシー他	13
消耗什器備品費	20,000	22,000	-2,000		14
消耗品費	1,141,000	2,301,000	-1,160,000		15
修繕費	905,000	521,000	384,000		16
広報宣伝費	14,098,000	11,587,000	2,511,000		17
広報費	10,999,000	8,744,000	2,255,000	県薬会報	18
会報郵送料	3,099,000	2,843,000	256,000		19
印刷製本費	3,973,000	7,059,000	-3,086,000		20
印刷製本費	3,973,000	7,059,000	-3,086,000	研修会等資料他	21
共同事業仕入	8,546,000	12,584,000	-4,038,000		22
図書仕入	5,410,000	8,445,000	-3,035,000		23
用紙仕入	3,136,000	4,139,000	-1,003,000		24
図書費	1,927,000	1,848,000	79,000		25
光熱水料費	1,730,000	2,092,000	-362,000		26
賃借料	5,668,000	8,042,000	-2,374,000		27
諸謝金	4,488,000	5,476,000	-988,000		28
租税公課	1,392,000	1,394,000	-2,000		29
諸会費	130,000	130,000	0		30
会員弔慰災害見舞費	200,000	300,000	-100,000	会員弔慰金	31
支払負担金	8,313,000	8,478,000	-165,000		32
地区負担金	0	450,000	-450,000		33
福岡県学校保健会負担金	8,313,000	8,028,000	285,000	プール水質検査料、教室等空気環境検査料	34
支払助成金	1,142,000	1,473,000	-331,000	健康21世紀大会、福薬連他	35
委託費	8,000,000	12,727,000	-4,727,000		36
委託費	7,800,000	12,527,000	-4,727,000	試験検査センター、薬と健康フェア他	37
研修システム費	200,000	200,000	0		38
雑費	3,482,000	5,534,000	-2,052,000		39
事務委託費	330,000	297,000	33,000		40
支払手数料	2,428,000	4,349,000	-1,921,000		41
研修費	723,000	887,000	-164,000		42
雑支出	1,000	1,000	0		43
B. 管理費	47,470,000	46,910,000	560,000		44
役員報酬	653,000	653,000	0		45
給料手当	8,322,000	8,855,000	-533,000		46
臨時雇賃金	158,000	151,000	7,000		47

定時総会付議事項

(単位：円)

科 目	令和5年度予算額	令和4年度予算額	差引増減額	備 考	
退職給付費用	1,000	1,000	0		1
福利厚生費	4,071,000	3,987,000	84,000		2
厚生費	2,420,000	2,301,000	119,000		3
社会保険料	1,371,000	1,377,000	-6,000		4
退職共済掛金	280,000	309,000	-29,000		5
旅費交通費	11,496,000	11,000,000	496,000		6
旅費	3,958,000	4,565,000	-607,000		7
交通費	7,538,000	6,435,000	1,103,000	総会他	8
交際渉外費	1,983,000	1,643,000	340,000		9
渉外費	1,983,000	1,643,000	340,000		10
通信運搬費	414,000	553,000	-139,000		11
減価償却費	554,000	508,000	46,000		12
消耗什器備品費	12,000	13,000	-1,000		13
消耗品費	259,000	277,000	-18,000		14
修繕費	145,000	67,000	78,000		15
印刷製本費	291,000	239,000	52,000		16
図書費	1,000	1,000	0		17
光熱水料費	420,000	413,000	7,000		18
賃借料	460,000	519,000	-59,000		19
保険料	726,000	724,000	2,000		20
租税公課	116,000	114,000	2,000		21
諸会費	90,000	420,000	-330,000		22
会館管理費	598,000	598,000	0		23
会館管理費	449,000	449,000	0		24
会館修理費	149,000	149,000	0		25
衛生管理費	2,477,000	2,477,000	0		26
支払負担金	2,356,000	2,349,000	7,000		27
九州山口負担金	1,459,000	1,451,000	8,000		28
公衆衛生協会負担金	190,000	190,000	0		29
九州山口薬局実務実習調整機関負担金	507,000	508,000	-1,000		30
福岡県学校保健会負担金	200,000	200,000	0		31
支払助成金	7,066,000	7,096,000	-30,000	地区活動費	32
支払寄付金	500,000	500,000	0		33
委託費	1,605,000	1,400,000	205,000	県庁(60万)、健康フェア補助金	34
雑費	2,696,000	2,352,000	344,000		35
事務委託費	1,109,000	1,034,000	75,000		36
支払手数料	562,000	298,000	264,000		37
研修費	1,000	1,000	0		38
顧問料	985,000	985,000	0		39
雑支出	39,000	34,000	5,000		40
経常費用計	212,852,000	304,626,000	-91,774,000		41
評価損益等調整前当期経常増減額	11,723,000	11,833,000	-110,000		42
評価損益等計	0	0	0		43
当期経常増減額	11,723,000	11,833,000	-110,000		44
2. 経常外増減の部					45
(1) 経常外収益					46
経常外収益計	0	0	0		47

(単位：円)

科 目	令和5年度予算額	令和4年度予算額	差引増減額	備 考	
(2) 経常外費用					1
経常外費用計	0	0	0		2
当期経常外増減額	0	0	0		3
税引前当期一般正味財産増減額	11,723,000	11,833,000	-110,000		4
法人税、住民税及び事業税	71,000	71,000	0		5
当期一般正味財産増減額	11,652,000	11,762,000	-110,000		6
一般正味財産期首残高	391,623,555	379,861,555	11,762,000		7
一般正味財産期末残高	403,275,555	391,623,555	11,652,000		8
Ⅱ 指定正味財産増減の部					9
受取補助金等	0	0	0		10
受取寄付金	0	0	0		11
一般正味財産への振替額	-790,000	-1,558,000	768,000		12
当期指定正味財産増減額	-790,000	-1,558,000	768,000		13
指定正味財産期首残高	2,632,951	4,190,951	-1,558,000		14
指定正味財産期末残高	1,842,951	2,632,951	-790,000		15
Ⅲ 正味財産期末残高	405,118,506	394,256,506	10,862,000		16

・定時総会付議事項・

令和5年度 投資活動及び財務活動に関する見込みを記載した書類

【特定資産取崩収入】

(単位：円)

科 目	令和5年度予算額	令和4年度予算額	差引増減額
役員退職金記念品代積立預金	1,850,000	0	1,850,000
職員退職積立預金	0	0	0
会員弔慰・災害見舞積立預金	200,000	300,000	-100,000
会館改修積立準備金	0	0	0
計	2,050,000	300,000	1,750,000

【特定資産取得支出】

(単位：円)

科 目	令和5年度予算額	令和4年度予算額	差引増減額
役員退職金記念品代積立預金	900,000	800,000	100,000
職員退職積立預金	0	0	0
会員弔慰・災害見舞積立預金	500,000	500,000	0
会館改修積立準備金	10,000,000	10,000,000	0
計	11,400,000	11,300,000	100,000

報告第5号 日本薬剤師会第100回定時総会・第101回臨時総会報告

日本薬剤師会総会報告

第100回定時総会

出席代議員	成重 賢司、高木 淳一、宮谷 英記、田中 泰三、宮崎 寿、 星野 正俊、小田 真稔
日 時	令和4年6月25日(土) 10:00~18:00 令和4年6月26日(日) 9:30~15:30
場 所	東京都江東区 ホテルイースト21東京
議 題	報告第1号 令和3年度会務並びに事業報告の件 議案第1号 令和3年度決算承認の件 議案第2号 理事選任の件 議案第3号 監事選任の件 議案第4号 選挙管理委員会委員委嘱の件

第101回臨時総会

出席代議員	成重 賢司、満安 徹也、高木 淳一、宮谷 英記、田中 泰三、 宮崎 寿、星野 正俊
日 時	令和5年3月11日(土) 13:30~18:00 令和5年3月12日(日) 9:30~15:30
場 所	東京都江東区 ホテルイースト21東京
議 題	報告第1号 令和4年度会務並びに事業中間報告の件 報告第2号 令和4年度補正予算の件 議案第1号 令和5年度事業計画の件 議案第2号 令和5年度会費額の件 議案第3号 令和5年度収入支出予算の件 議案第4号 令和5年度借入金(会務運営)最高限度額の件

定時総会付議事項

議案第1号 令和4年度決算承認の件

貸借対照表

令和5年3月31日現在

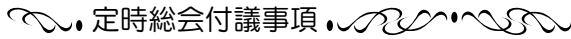
(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	122,348,927	72,802,815	49,546,112
現金	1,317,204	1,018,530	298,674
普通預金	119,826,833	70,497,215	49,329,618
振替貯金	1,204,890	1,287,070	-82,180
未収金	61,008,840	117,648,326	-56,639,486
役員傷害等未収金	4,371,696	1,423,155	2,948,541
地域医療介護総合確保基金未収金	0	4,033,000	-4,033,000
業務受託未収金	47,113,660	103,148,425	-56,034,765
保険薬局未収金	9,457,484	8,977,746	479,738
広告料未収金	66,000	66,000	0
売掛金	177,870	994,930	-817,060
図書売掛金	34,270	935,930	-901,660
用紙売掛金	17,300	6,700	10,600
お薬手帳売掛金	126,000	52,000	74,000
その他売掛金	300	300	0
商品	4,137,334	4,665,168	-527,834
商品	4,137,334	4,665,168	-527,834
前払金	1,462,190	1,131,060	331,130
預託金	8,800	8,800	0
流動資産合計	189,143,961	197,251,099	-8,107,138
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
土地	32,060,200	32,060,200	0
建物	31,996,280	33,712,542	-1,716,262
基本財産合計	64,056,480	65,772,742	-1,716,262
(2) 特定資産			
役員退職記念品代積立預金	977,784	177,784	800,000
職員退職積立預金	3,696,472	11,458,107	-7,761,635
会員弔慰・災害見舞積立預金	838,689	458,686	380,003
会館改修準備金	161,157,675	151,156,209	10,001,466
災害特定事業預金	1,000,000	1,000,000	0
車両運搬具	2,826,098	5,652,195	-2,826,097
特定資産合計	170,496,718	169,902,981	593,737
(3) その他固定資産			
構築物	99,182	131,448	-32,266
器具備品	7,861,435	3,946,731	3,914,704
長期前払金	203,100	0	203,100
その他固定資産合計	8,163,717	4,078,179	4,085,538
固定資産合計	242,716,915	239,753,902	2,963,013
資産の部合計	431,860,876	437,005,001	-5,144,125
II. 負債の部			
1. 流動負債			
買掛金	2,476,369	348,749	2,127,620
未払金	11,169,456	27,509,114	-16,339,658
前受金	659,000	1,331,000	-672,000
預り金	1,181,079	1,067,625	113,454
未払消費税等	0	11,166,900	-11,166,900
未払法人税等	71,000	71,000	0
流動負債合計	15,556,904	41,494,388	-25,937,484
2. 固定負債			
退職給付引当金	3,696,472	11,458,107	-7,761,635
固定負債合計	3,696,472	11,458,107	-7,761,635
負債の部合計	19,253,376	52,952,495	-33,699,119
III. 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
地方公共団体補助金	1,633,291	3,190,951	-1,557,660
寄付金	1,000,000	1,000,000	0
指定正味財産合計	2,633,291	4,190,951	-1,557,660

定時総会付議事項

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減	
(うち特定資産への充当額)	(2,633,291)	(4,190,951)	(-1,557,660)	1
2. 一般正味財産	409,974,209	379,861,555	30,112,654	2
(うち基本財産への充当額)	(64,056,480)	(65,772,742)	(-1,716,262)	3
(うち特定資産への充当額)	(164,166,955)	(154,253,923)	(9,913,032)	4
正味財産の部合計	412,607,500	384,052,506	28,554,994	5
負債及び正味財産合計	431,860,876	437,005,001	-5,144,125	6



定時総会付議事項

正味財産増減計算書

自 令和4年4月1日
至 令和5年3月31日

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減額	備 考	
I. 一般正味財産増減の部					1
1. 経常増減の部					2
(1) 経常収益					3
基本財産運用益	0	0	0		4
特定資産運用益	1,580	1,623	-43		5
特定資産受取利息	1,580	1,623	-43		6
受取入会金	2,410,000	3,050,000	-640,000		7
受取入会金	2,410,000	3,050,000	-640,000	A会員:50,000円、B会員:10,000円	8
受取会費	145,569,028	142,955,032	2,613,996		9
本会費	79,114,500	79,336,250	-221,750		10
正A会費	53,029,500	52,982,250	47,250		11
正B会費	23,692,000	23,734,000	-42,000		12
賛助A会費	1,591,500	1,765,500	-174,000		13
賛助B会費	801,500	854,500	-53,000		14
保険薬局特別会費	66,454,528	63,618,782	2,835,746		15
事業収益	14,582,506	10,710,454	3,872,052		16
広告出版収益	495,000	759,000	-264,000	「県薬会報」広告料	17
受取手数料	1,484,676	1,080,739	403,937	保険手数料他	18
共同事業収益	12,602,830	8,870,715	3,732,115		19
図書売上	8,890,210	5,337,365	3,552,845		20
用紙売上	3,712,620	3,533,350	179,270		21
受取補助金等	29,104,325	32,723,760	-3,619,435		22
情報センター	13,680,000	13,680,000	0		23
健康21世紀	77,265	193,679	-116,414		24
地域医療介護総合確保基金	2,008,000	4,033,000	-2,025,000		25
日本薬剤師会助成金	11,781,400	11,664,200	117,200		26
受取補助金等振替額	1,557,660	3,152,881	-1,595,221		27
受取負担金	20,047,436	130,921,553	-110,874,117		28
福薬連受入金	600,000	600,000	0		29
研修会受入金	12,677,200	11,223,925	1,453,275	研修会参加費、研修認定薬剤師委託事務手数料	30
第54回学術大会受入金	0	112,121,200	-112,121,200		31
他団体受入金	6,770,236	6,976,428	-206,192	九山、連盟、調整機関、学校薬剤師他	32
受託収益	116,521,314	191,242,223	-74,720,909		33
学校保健衛生受託収益	8,362,700	8,077,140	285,560	プール水質検査料、教室等空気環境検査料	34
業務受託収益	108,158,614	183,165,083	-75,006,469	適正受診指導事業、薬剤師認知症対応力向上研修事業他*	35
雑収益	399,265	239,420	159,845		36
受取利息	12,517	1,705	10,812		37
受取賃貸料	0	90,000	-90,000		38
その他収益	386,748	147,715	239,033	保険薬剤師必読ハンドブック他	39
経常収益計	328,635,454	511,844,065	-183,208,611		40
(2) 経常費用					41
A.事業費	257,395,529	423,125,437	-165,729,908		42

35行目*注記

*新型コロナウイルスワクチン専用ダイヤル相談等対応業務

— 70 (348) —

*薬局における自宅療養等の患者に対する薬剤交付支援事業

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減額	備 考	
役員報酬	11,710,000	11,765,879	-55,879		1
給料手当	117,886,843	168,462,511	-50,575,668		2
臨時雇賃金	1,291,491	2,752,815	-1,461,324		3
役員退職金	0	1,745,000	-1,745,000	役員退職記念品	4
退職給付費用	88	93	-5		5
福利厚生費	10,177,976	9,810,056	367,920		6
厚生費	1,341,825	1,373,636	-31,811		7
社会保険料	7,678,682	7,169,716	508,966		8
退職共済掛金	1,157,469	1,266,704	-109,235		9
旅費交通費	18,905,360	20,549,372	-1,644,012		10
旅費	1,555,386	444,000	1,111,386		11
交通費	17,349,974	20,105,372	-2,755,398		12
通信運搬費	9,495,815	30,733,717	-21,237,902		13
減価償却費	6,086,257	9,486,282	-3,400,025	モバイルファーマシー他	14
消耗什器備品費	1,277,884	378,127	899,757		15
消耗品費	2,428,609	2,323,463	105,146		16
修繕費	510,832	579,887	-69,055		17
広報宣伝費	14,692,595	12,510,395	2,182,200		18
広報費	11,561,352	9,619,346	1,942,006	県薬会報	19
宣伝費	0	33,000	-33,000		20
会報郵送料	3,131,243	2,858,049	273,194		21
印刷製本費	4,687,063	4,592,642	94,421		22
印刷製本費	4,612,715	4,525,805	86,910	研修会等資料他	23
期首商品高	512,579	579,416	-66,837		24
期末商品高	-552,273	-547,135	-5,138		25
除却商品高	114,042	34,556	79,486		26
共同事業仕入	12,793,400	8,137,564	4,655,836		27
図書仕入	9,460,774	5,409,993	4,050,781		28
期首商品高	2,755,356	2,352,623	402,733		29
期末商品高	-2,784,434	-2,755,356	-29,078		30
用紙仕入	2,879,140	3,166,180	-287,040	お薬手帳他	31
期首商品高	1,397,233	1,361,357	35,876		32
期末商品高	-915,373	-1,397,233	481,860		33
除却商品高	704	0	704		34
図書費	1,998,644	1,857,517	141,127		35
光熱水料費	2,170,686	2,413,400	-242,714		36
賃借料	4,457,317	8,920,408	-4,463,091		37
諸謝金	4,981,591	4,434,494	547,097		38
租税公課	5,541,340	12,168,162	-6,626,822		39
諸会費	129,500	129,500	0		40
会員弔慰災害見舞費	140,000	280,000	-140,000	会員弔慰・見舞金	41
支払負担金	8,314,350	8,415,990	-101,640		42
地区負担金	1,650	388,850	-387,200		43
福岡県学校保健会負担金	8,312,700	8,027,140	285,560	プール水質検査料、教室等空気環境検査料	44
支払助成金	2,568,141	4,016,048	-1,447,907		45
委託費	7,326,511	84,212,905	-76,886,394		46
委託費	7,117,511	83,946,155	-76,828,644	試験検査センター、薬と健康フェア他	47

・定時総会付議事項・

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減額	備 考	
研修システム費	209,000	266,750	-57,750		1
雑費	7,823,236	12,449,210	-4,625,974		2
事務委託費	532,775	719,455	-186,680		3
支払手数料	6,685,388	11,483,355	-4,797,967		4
研修費	567,640	245,200	322,440		5
雑支出	37,433	1,200	36,233		6
B.管理費	41,056,271	30,537,142	10,519,129		7
役員報酬	652,835	519,520	133,315		8
給料手当	1,921,513	673,363	1,248,150		9
臨時雇賃金	149,984	174,260	-24,276		10
退職給付費用	23	21	2		11
福利厚生費	3,151,450	2,255,795	895,655		12
厚生費	1,457,954	567,681	890,273		13
社会保険料	1,440,965	1,414,818	26,147		14
退職共済掛金	252,531	273,296	-20,765		15
旅費交通費	9,825,124	4,784,104	5,041,020		16
旅費	4,526,420	190,240	4,336,180	日薬大会他	17
交通費	5,298,704	4,593,864	704,840	総会他	18
交際渉外費	2,087,597	2,021,106	66,491		19
渉外費	2,087,597	2,021,106	66,491		20
通信運搬費	340,374	446,555	-106,181		21
減価償却費	685,264	574,461	110,803		22
消耗什器備品費	303,764	16,826	286,938		23
消耗品費	296,351	280,581	15,770		24
修繕費	100,584	127,024	-26,440		25
印刷製本費	197,340	246,972	-49,632		26
光熱水料費	382,921	429,876	-46,955		27
賃借料	299,945	410,495	-110,550		28
保険料	766,024	637,274	128,750		29
諸謝金	68,368	0	68,368		30
租税公課	118,360	117,239	1,121		31
諸会費	119,700	449,700	-330,000		32
会館管理費	3,942,620	1,170,620	2,772,000		33
会館管理費	448,800	448,800	0		34
会館修理費	3,493,820	721,820	2,772,000		35
衛生管理費	2,446,222	2,467,933	-21,711		36
支払負担金	2,348,400	2,041,418	306,982		37
九州山口負担金	1,450,400	1,444,400	6,000		38
公衆衛生協会負担金	190,000	190,000	0		39
九州山口薬局実務実習調整機関負担金	508,000	224,000	284,000		40
福岡県学校保健会負担金	200,000	183,018	16,982		41
支払助成金	7,068,500	7,163,000	-94,500	地区活動費	42
支払寄付金	630,000	500,000	130,000		43
委託費	750,000	720,000	30,000	県庁(60万)、健康フェア補助金	44
雑費	2,403,008	2,308,999	94,009		45
事務委託費	1,000,500	1,027,230	-26,730		46
支払手数料	386,313	276,156	110,157		47

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減額	備 考	
研修費	150	6,300	-6,150		1
顧問料	984,757	984,757	0		2
雑支出	31,288	14,556	16,732		3
経常費用計	298,451,800	453,662,579	-155,210,779		4
評価損益等調整前当期経常増減額	30,183,654	58,181,486	-27,997,832		5
評価損益等計	0	0	0		6
当期経常増減額	30,183,654	58,181,486	-27,997,832		7
2. 経常外増減の部					8
(1) 経常外収益					9
経常外収益計	0	0	0		10
(2) 経常外費用					11
経常外費用計	0	0	0		12
税引前当期一般正味財産増減額	30,183,654	58,181,486	-27,997,832		13
法人税、住民税及び事業税	71,000	70,998	2		14
当期一般正味財産増減額	30,112,654	58,110,488	-27,997,834		15
一般正味財産期首残高	379,861,555	321,751,067	58,110,488		16
一般正味財産期末残高	409,974,209	379,861,555	30,112,654		17
Ⅱ. 指定正味財産増減の部					18
受取補助金等	0	0	0		19
受取地方公共団体補助金	0	0	0		20
受取寄付金	0	0	0		21
受取寄付金	0	0	0		22
一般正味財産への振替額	-1,557,660	-3,152,881	1,595,221		23
当期指定正味財産増減額	-1,557,660	-3,152,881	1,595,221		24
指定正味財産期首残高	4,190,951	7,343,832	-3,152,881		25
指定正味財産期末残高	2,633,291	4,190,951	-1,557,660		26
Ⅲ. 正味財産期末残高	412,607,500	384,052,506	28,554,994		27

定時総会付議事項

財 産 目 録

令和5年3月31日現在

(単位：円)

科 目		金 額	
I. 資産			
1. 流動資産			
現金・預金			
現金	手許有高	1,317,204	
普通預金	福岡銀行 博多駅東支店	115,961,085	
	西日本シティ銀行 渡辺通支店	3,395,987	
	福岡銀行博多駅東支店(情報センター用)	135,796	
	福岡銀行博多駅東支店(学校保健衛生用)	1,526	
	福岡銀行博多駅東支店(幹旋図書用)	332,439	
		119,826,833	
振替貯金	ゆうちょ銀行	1,204,890	122,348,927
未収金			
役員傷害保険等未収金		4,371,696	
業務受託未収金		47,113,660	
保険薬局未収金		9,457,484	
広告料未収金		66,000	61,008,840
売掛金			
売掛金			177,870
商品			
商品	「国民保護業務計画」等	438,231	
	処方せん等	3,699,103	4,137,334
その他流動資産			
前払金		1,462,190	
預託金		8,800	1,470,990
流動資産合計			189,143,961
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
土地	福岡市博多区住吉2丁目20番15号(411.30平方米)	32,060,200	
建物	鉄筋コンクリート造4階建会館建物事務所、車庫等	31,996,280	
基本財産合計			64,056,480
(2) 特定資産			
役員退職記念品代積立預金	福岡銀行博多駅東支店	977,784	
職員退職積立預金	同 上	3,696,472	
会員弔慰・災害見舞積立預金	同 上	838,689	
会館改修準備金	同 上	161,157,675	
災害特定事業預金	同 上	1,000,000	
車両運搬具	モバイルフーマシー	2,826,098	
特定資産合計			170,496,718
(3) その他固定資産			
構築物	自動ドア等	99,182	
器具備品	机、椅子、ロッカー、書棚等	7,861,435	
長期前払金	建物・備品火災保険	203,100	
その他固定資産合計			8,163,717
固定資産合計			242,716,915
資産合計			431,860,876
II. 負債			
1. 流動負債			
買掛金			
買掛金	図書仕入等	2,476,369	
未払金		11,169,456	
前受金		659,000	
預り金	賠償責任保険料等	1,181,079	
未払法人税等	県民税、市民税	71,000	
流動負債合計			15,556,904
2. 固定負債			
退職給付引当金	職員退職給付引当金残高	3,696,472	
固定負債合計			3,696,472
負債合計			19,253,376
正味財産			412,607,500

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

個別法による原価法を採用している。

(2) 固定資産の減価償却の方法

① 建物

平成10年3月31日以前に取得したものについては旧定率法、平成10年4月1日以後に取得したものについては旧定額法、平成19年4月1日以降に取得したものについては定額法によっている。

② 構築物・車両運搬具・器具備品

平成19年3月31日以前に取得したものについては旧定率法、平成19年4月1日以後に取得したものについては定率法によっている。

(3) 引当金の計上基準

退職給付引当金 職員の退職給付に備えるため、期末要支給額（自己都合要支給額）から中小企業退職共済掛金額を控除した金額を基礎として計上している。

(4) リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっている。

(5) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
土 地	32,060,200	0	0	32,060,200
建 物	33,712,542	0	1,716,262	31,996,280
小 計	65,772,742	0	1,716,262	64,056,480
特定資産				
役員退職記念品代積立預金	177,784	800,000	0	977,784
職員退職積立預金	11,458,107	111	7,761,746	3,696,472
会員弔慰・災害見舞積立預金	458,686	500,003	120,000	838,689
会館改修準備金	151,156,209	10,001,466	0	161,157,675
災害特定事業預金	1,000,000	0	0	1,000,000
車両運搬具	5,652,195	0	2,826,097	2,826,098
小 計	169,902,981	11,301,580	10,707,843	170,496,718
合 計	235,675,723	11,301,580	12,424,105	234,553,198

❧ 定時総会付議事項 ❧

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に対応 する額)
基本財産				
土 地	32,060,200	(0)	(32,060,200)	(0)
建 物	31,996,280	(0)	(31,996,280)	(0)
小 計	64,056,480	(0)	(64,056,480)	(0)
特定資産				
役員退職記念品代積立預金	977,784	(0)	(977,784)	(0)
職員退職積立預金	3,696,472	(0)	(0)	(3,696,472)
会員弔慰・災害見舞積立預金	838,689	(0)	(838,689)	(0)
会館改修準備金	161,157,675	(0)	(161,157,675)	(0)
災害特定事業預金	1,000,000	(1,000,000)	(0)	(0)
車両運搬具	2,826,098	(1,633,291)	(1,192,807)	(0)
小 計	170,496,718	(2,633,291)	(164,166,955)	(3,696,472)
合 計	234,553,198	(2,633,291)	(228,223,435)	(3,696,472)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
特定資産			
車両運搬具	13,565,266	10,739,168	2,826,098
小 計	13,565,266	10,739,168	2,826,098
その他固定資産			
建物	171,273,022	139,276,742	31,996,280
器具備品	35,473,892	27,612,457	7,861,435
構築物	6,135,423	6,036,241	99,182
小 計	212,882,337	172,925,440	39,956,897
合 計	226,447,603	183,664,608	42,782,995

5. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
情報センター	福岡県	0	13,680,000	13,680,000	0	－
地域医療介護総合確保基金	福岡県	4,033,000	2,008,000	6,041,000	0	－
モバイルファーマシー整備事業	福岡県	3,190,951	0	1,557,660	1,633,291	指定正味財産
合 計		7,223,951	15,688,000	21,278,660	1,633,291	

6. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

内 容	金額
経常収益への振替額	
減価償却費計上による振替額	1,557,660
合 計	1,557,660

監査報告書

公益社団法人 福岡県薬剤師会
会長 原口 亨 殿

令和 5 年 5 月 12 日
公益社団法人 福岡県薬剤師会

監事 篠原 俊 

監事 三浦 公則 

私たち監事は、令和4年4月1日から令和5年3月31日までの令和4年度における理事の業務及び会計の監査を行い、次のとおり報告いたします。

1 業務方法の概要

理事の業務執行については、理事会に出席し報告を受け、重要な関係書類の閲覧等、必要と思われる監査手続きを行い、その執行状況の妥当性を検討しました。また、帳簿並びに重要な関係書類の閲覧等、必要と思われる監査手続きを行い、計算書類の正確性を検討しました。

2 監査意見

- (1) 事業報告の内容は、法人の状況を正しく示していると認めます。
- (2) 理事の執行に関する不正な行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- (3) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産の状態及び正味財産の増減の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以 上

議案第2号 令和6年度借入金限度額決定の件

令和6年度福岡県薬剤師会の借入金の限度額は、次のとおりとする

1. 金 50,000,000円

議案第3号 令和6年度会費および入会金決定の件

年会費

会員種別	金 額	備 考
正 会 員 A	39,500円	
正 会 員 B	19,000円	
賛 助 会 員 A	39,500円	
賛 助 会 員 B	19,000円	

※特別会員は無料とする。

※日薬会費を含む。

入会費

会員種別	金 額	備 考
正 会 員 A	50,000円	
正 会 員 B	10,000円	
賛 助 会 員 A	50,000円	
賛 助 会 員 B	10,000円	

※特別会員は無料とする。

※正会員Bは、入会促進キャンペーン期間中は無料とする。

・定時総会付議事項・

議案第4号 理事選任の件

第126回定時総会終結時から、令和7年6月に開催を予定する定時総会終結時までを任期とする、公益社団法人福岡県薬剤師会理事について、第125回臨時総会の決議により推薦のあった会長候補者が提出する理事候補者名簿により選任願いたい。

理事候補者名簿

[50音順・略歴別記]

県薬理事	NO.	氏 名	ふりがな	所 属	性別
現職	1	石 井 裕 太	いしい ひろたか	若 松	男
現職	2	石 橋 正 次	いしばし しょうじ	福 岡 市	男
現職	3	井 上 正 太	いのうえ しょうた	若 松	男
新	4	岩 光 直 哉	いわみつ なおや	八 幡	男
現職	5	江 川 孝	えがわ たかし	福 岡 市	男
現職	6	岡 村 由紀子	おかむら ゆきこ	福 岡 市	女
現職	7	小 田 真 稔	おだ まさとし	小 倉	男
現職	8	岸 田 義 博	きしだ よしひろ	福 岡 市	男
現職	9	窪 田 敏 夫	くぼた としお	福 岡 市	男
現職	10	後 藤 涉	ごとう わたる	八 幡	男
現職	11	小 林 大 介	こばやし だいすけ	福 岡 市	男
現職	12	清 水 敦	しみず あつし	福 岡 市	男
現職	13	杉 岡 勇 樹	すぎおか ゆうき	久留米三井	男
現職	14	仙 敷 義 和	せんしき よしかず	小 倉	男
現職	15	高 木 淳 一	たかき じゅんいち	福 岡 市	男
現職	16	高 瀬 真 悟	たかせ しんご	小 倉	男
現職	17	高 橋 俊 輔	たかはし しゅんすけ	八 幡	男
現職	18	高 橋 典 子	たかはし のりこ	久留米三井	女
現職	19	竹 下 洋 平	たけした ようへい	筑 紫	男
現職	20	竹 野 将 行	たけの まさゆき	福 岡 市	男
現職	21	田 尻 泰 典	たじり やすのり	小 倉	男
現職	22	田 城 涼 子	たしろ りょうこ	福 岡 市	女
新	23	立 山 勝 規	たてやま かつき	浮 羽	男
現職	24	千代丸 康 重	ちよまる やすしげ	小 倉	男
新	25	連 石 信	つれいし まこと	小 倉	男
現職	26	永 嶋 友 洋	ながしま とみひろ	八 幡	男
現職	27	永 原 一 史	ながはら かずひと	直方鞍手	男
現職	28	中 原 学	なかはら まなぶ	田 川	男
現職	29	成 重 賢 司	なりしげ けんじ	八 幡	男
現職	30	西 村 信 弘	にしむら のぶひろ	大 川 三 瀬	男
現職	31	馬 場 涉	ばば わたる	宗 像	男
現職	32	濱 寛	はま ひろし	飯 塚	男
現職	33	原 口 恵 子	はらぐち けいこ	福 岡 市	女
現職	34	原 口 亨	はらぐち とおる	福 岡 市	男
現職	35	藤 浦 大 介	ふじうら だいすけ	飯 塚	男
新	36	松 田 健	まつだ けん	八 幡	男
現職	37	宮 谷 英 記	みやたに ひでき	筑 紫	男
現職	38	山 口 信 也	やまぐち しんや	久留米三井	男
新	39	吉 野 禎 治	よしの さだはる	福 岡 市	男

令和5年5月22日現在

公益社団法人福岡県薬剤師会理事候補者略歴

(50音順)

【理事候補者】39人

1. 石井 裕太 (いしい ひろたか) [若松] 54才
 平成4年9月 第一薬科大学 卒業 (製薬会社勤務を経て)
 平成13年5月 東二島2丁目薬局 開局
 平成20年6月～現在 ビートルファーマシー株式会社 代表取締役
 <薬剤師会役員歴>
 平成15年5月～現在 若松薬剤師会 理事 (現 会長)
 平成29年6月～現在 福岡県薬剤師会 理事
2. 石橋 正次 (いしばし しょうじ) [福岡市] 50才
 平成7年3月 福岡大学薬学部製薬化学科 卒業 (病院・薬局勤務を経て)
 平成28年9月～現在 株式会社よつばファーマシー よつば薬局田村店 開局
 <薬剤師会役員歴>
 平成24年4月～現在 福岡市薬剤師会 学術研修委員 (現 理事)
 平成29年6月～現在 福岡市薬剤師会早良支部 副会長 (現 支部長)
 令和元年6月～現在 福岡県薬剤師会 在宅医療委員会委員 (現 理事)
3. 井上 正太 (いのうえ しょうた) [若松] 42才
 平成16年3月 東京薬科大学薬学部 卒業
 平成18年3月 東京薬科大学大学院医療薬学専攻科修士課程 修了
 (海上自衛隊を経て)
 平成20年10月～現在 有限会社井上薬局 取締役
 <薬剤師会役員歴>
 平成25年4月～現在 若松薬剤師会 理事
 令和3年6月～現在 福岡県薬剤師会 理事
4. 岩光 直哉 (いわみつ なおや) [八幡] 40才
 平成17年3月 第一薬科大学薬学部 卒業 (薬局・病院勤務を経て)
 平成23年8月～現在 有限会社ひきの調剤薬局 代表取締役
 <薬剤師会役員歴>
 平成28年2月 八幡薬剤師会 在宅委員会 委員
 平成29年5月～現在 八幡薬剤師会 理事
 令和元年7月～現在 福岡県薬剤師会 医療保険委員会 委員

❧ 定時総会付議事項 ❧

5. 江川 孝（えがわ たかし） [福岡市] 58才
 昭和63年9月 福岡大学薬学部製薬化学科 卒業
 平成2年3月 福岡大学大学院薬学研究科薬学専攻博士課程（前期）修了
 平成14年3月 福岡大学大学院薬学研究科薬学専攻博士課程（後期）修了
 （製薬会社・病院・大学勤務を経て）
 平成27年4月～現在 福岡大学薬学部 教授
 ＜薬剤師会役員歴＞
 平成27年12月～現在 福岡県薬剤師会 委員（現 理事）

6. 岡村 由紀子（おかむら ゆきこ） [福岡市] 53才
 平成5年3月 第一薬科大学薬学部薬剤学科 卒業（薬局勤務を経て）
 平成9年9月 株式会社タカラ薬局 入社
 平成28年4月～現在 株式会社タカラ薬局 代表取締役社長
 ＜薬剤師会役員歴＞
 令和3年6月～現在 福岡県薬剤師会 理事

7. 小田 真稔（おだ まさとし） [小倉] 47才
 平成21年3月 福岡大学 博士（薬学）取得（薬局・大学勤務を経て）
 平成25年3月～現在 有限会社オダファーマシー 代表取締役
 令和3年3月 九州大学 MBA 取得
 ＜薬剤師会役員歴＞
 平成19年4月～現在 小倉薬剤師会 理事（現 副会長）
 平成22年4月～現在 福岡県薬剤師会 理事（現 専務理事）

8. 岸田 義博（きしだ よしひろ） [福岡市] 45才
 平成13年3月 第一薬科大学 卒業
 平成13年5月 医療法人定和会 神原病院
 平成17年6月～現在 有限会社パピヨン薬局
 ＜薬剤師会役員歴＞
 平成24年4月～現在 福岡市薬剤師会 理事（現 常務理事）
 平成29年4月～現在 福岡県薬剤師会 理事（現 常務理事）

9. 窪田 敏夫（くぼた としお） [福岡市] 51才
 平成6年3月 九州大学薬学部薬学科 卒業
 平成11年3月 九州大学大学院薬学府博士後期課程 修了
 （病院・大学勤務を経て）
 平成28年4月～現在 第一薬科大学
 ＜薬剤師会役員歴＞
 平成29年7月 福岡県薬剤師会 学術倫理審査会 委員
 令和元年6月～現在 福岡県薬剤師会 理事

10. 後藤 渉（ごとう わたる） [八幡] 54才
 平成4年3月 明治薬科大学薬学部 卒業
 平成6年3月 九州大学大学院薬学研究科修士課程 修了
 平成6年4月～現在 新日本製鐵株式会社八幡製鐵所病院（現 製鉄記念八幡病院）
 ＜薬剤師会役員歴＞
 平成21年4月 八幡薬剤師会 理事
 令和3年6月～現在 福岡県薬剤師会 常務理事

11. 小林 大介（こばやし だいすけ） [福岡市] 47才
 平成12年3月 九州大学薬学部薬学科 卒業
 平成17年3月 九州大学大学院薬学府医療薬科学専攻博士課程 修了
 平成17年4月～現在 九州大学大学院薬学研究院 助手（現 講師）
 平成21年4月～現在 九州大学病院薬剤部 講師
 ＜薬剤師会役員歴＞
 平成31年4月～現在 福岡県薬剤師会 学術倫理審査会 委員（現 理事）

12. 清水 敦（しみず あつし） [福岡市] 43才
 平成16年3月 福岡大学薬学部 卒業（病院・薬局勤務を経て）
 平成23年7月～現在 いずみ薬局
 ＜薬剤師会役員歴＞
 平成29年7月 福岡県薬剤師会 医療保険、D I 両委員会委員
 令和元年6月～現在 福岡市薬剤師会 理事
 令和3年6月～現在 福岡県薬剤師会 理事

❧ 定時総会付議事項 ❧

13. 杉岡 勇樹（すぎおか ゆうき） [久留米三井] 41才
 平成17年3月 福岡大学薬学部 卒業
 平成17年4月 第一三共株式会社（薬局勤務を経て）
 平成21年1月～現在 杉岡調剤薬局・杉の樹薬局
 <薬剤師会役員歴>
 平成21年4月～現在 久留米三井薬剤師会 委員（現 常務理事）
 平成27年6月～現在 福岡県薬剤師会 理事

14. 仙敷 義和（せんしき よしかず） [小倉] 53才
 平成5年9月 第一薬科大学 卒業
 平成7年5月～現在 有限会社信栄調剤薬局（現 代表取締役）
 <薬剤師会役員歴>
 平成19年5月～現在 小倉薬剤師会 理事（現 会長）
 平成25年6月～現在 福岡県薬剤師会 理事

15. 高木 淳一（たかき じゅんいち） [福岡市] 63才
 昭和60年3月 第一薬科大学薬学部 卒業（病院・薬局勤務を経て）
 平成13年11月～現在 株式会社ニック ニック誠心堂薬局 勤務
 <薬剤師会役員歴>
 平成14年4月～現在 福岡市薬剤師会 常務理事（現 副会長）
 令和3年6月～現在 福岡県薬剤師会 副会長

16. 高瀬 真悟（たかせ しんご） [小倉] 43才
 平成15年9月 第一薬科大学 卒業
 平成17年4月～現在 有限会社蒲生調剤薬局
 <薬剤師会役員歴>
 平成21年4月 小倉薬剤師会 委員
 平成25年4月～現在 小倉薬剤師会 理事（現 常務理事）
 平成27年6月～現在 福岡県薬剤師会 理事

17. 高橋 俊輔（たかはし しゅんすけ） [八幡] 38才
 平成19年3月 熊本大学薬学部 卒業
 平成21年3月 熊本大学大学院医学薬教育部 卒業
 平成21年4月～現在 株式会社サンキュードラッグ 入社
 <薬剤師会役員歴>
 令和3年6月～現在 福岡県薬剤師会 理事

18. 高橋 典子（たかはし のりこ） [久留米三井] 46才
 平成11年3月 福岡大学薬学部 卒業
 平成11年4月～現在 久留米中央調剤薬局（現 代表取締役社長）
 ＜薬剤師会役員歴＞
 令和元年5月～現在 久留米三井薬剤師会 理事
 令和3年6月～現在 福岡県薬剤師会 理事

19. 竹下 洋平（たけした ようへい） [筑紫] 42才
 平成15年3月 愛媛大学農学部 卒業
 平成21年3月 九州保健福祉大学薬学部 卒業
 平成21年4月～現在 株式会社中央薬局（現 代表取締役）
 ＜薬剤師会役員歴＞
 平成27年6月～現在 筑紫薬剤師会 理事（現 常務理事）
 平成29年6月～現在 福岡県薬剤師会 理事

20. 竹野 将行（たけの まさゆき） [福岡市] 50才
 平成9年3月 第一薬科大学薬学部 卒業
 平成9年4月 ハート薬局
 平成14年6月～現在 有限会社ハート薬局 代表取締役
 ＜薬剤師会役員歴＞
 平成18年4月～現在 福岡市薬剤師会 理事（現 常務理事）
 平成22年4月～現在 福岡県薬剤師会 理事（現 常務理事）

21. 田尻 泰典（たじり やすのり） [小倉] 67才
 昭和55年3月 第一薬科大学 卒業（薬局勤務を経て）
 平成3年3月～現在 有限会社オレンジ オレンジ薬局 開局
 ＜薬剤師会役員歴＞
 平成13年4月 小倉薬剤師会 専務理事
 平成14年4月～現在 福岡県薬剤師会 理事
 平成20年4月～現在 日本薬剤師会 理事（現 副会長）

22. 田城 涼子（たしろ りょうこ） [福岡市] 47才
 平成13年3月 九州大学薬学部 卒業（薬局勤務を経て）
 平成29年2月～現在 株式会社DTファーマシー ドレミ薬局 代表取締役
 ＜薬剤師会役員歴＞
 平成29年6月～現在 福岡市薬剤師会 理事
 平成29年6月～現在 福岡県薬剤師会 理事（現 常務理事）

❧ 定時総会付議事項 ❧

23. 立山 勝規 (たてやま かつき) [浮羽] 44才
 平成15年3月 金沢大学薬学部 卒業 (薬局勤務を経て)
 平成25年1月～現在 ティーズメディカル株式会社 代表取締役
 <薬剤師会役員歴>
 平成19年5月～現在 浮羽薬剤師会 理事 (現 専務理事)
 令和元年7月～現在 福岡県薬剤師会 在宅医療委員会委員
 (現 地域医療連携、災害・感染対策、薬局機能推進各委員会委員)
24. 千代丸 康重 (ちよまる やすしげ) [小倉] 54才
 平成5年3月 長崎大学薬学部 卒業
 平成7年3月 長崎大学大学院修士課程 修了 (薬局勤務を経て)
 平成25年10月～現在 有限会社千代丸薬局 代表取締役
 <薬剤師会役員歴>
 平成29年5月～現在 小倉薬剤師会 理事 (現 副会長)
 令和元年6月～現在 福岡県薬剤師会 理事 (現 常務理事)
25. 連石 信 (つれいし まこと) [小倉] 41才
 平成16年3月 第一薬科大学 卒業 (病院・薬局勤務を経て)
 令和2年4月～現在 株式会社トリエイド設立 横一薬局 代表取締役
 <薬剤師会役員歴>
 平成25年5月～現在 小倉薬剤師会 地域医療・学校薬剤師部会 委員
 (現 常務理事)
 平成29年7月～現在 福岡県薬剤師会 医療保険委員会 委員
 令和元年7月～現在 福岡県薬剤師会 生涯学習委員会 委員
26. 永嶋 友洋 (ながしま ともひろ) [八幡] 46才
 平成11年3月 第一薬科大学 卒業
 平成24年3月 福岡大学大学院薬学部健康薬科学 卒業
 (病院・薬局勤務を経て)
 平成22年3月～現在 株式会社K&H とも調剤薬局 代表取締役
 <薬剤師会役員歴>
 平成23年5月～現在 八幡薬剤師会 理事 (現 常務理事)
 平成29年6月～現在 福岡県薬剤師会 理事 (現 常務理事)

27. 永原 一史（ながはら かずひと） [直方鞍手] 49才
 平成8年3月 岐阜薬科大学薬学部製造薬学科 卒業
 （病院・薬局勤務を経て）
 令和2年7月～現在 直方鞍手薬剤師会会営薬局
 ＜薬剤師会役員歴＞
 平成21年6月～現在 直方鞍手薬剤師会 理事（現 副会長）
 平成26年7月 福岡県薬剤師会 薬局・地域保健委員会委員
 令和3年6月～現在 福岡県薬剤師会 理事

28. 中原 学（なかはら まなぶ） [田川] 53才
 平成5年3月 福岡大学薬学部 卒業
 平成13年8月 田川薬剤師会薬局
 平成14年1月～現在 株式会社MERCURY あおば薬局
 ＜薬剤師会役員歴＞
 平成20年6月～現在 田川薬剤師会 理事（現 会長）
 平成29年6月～現在 福岡県薬剤師会 理事（現 常務理事）

29. 成重 賢司（なりしげ けんじ） [八幡] 50才
 平成7年3月 福岡大学薬学部 卒業（薬局・病院勤務を経て）
 平成22年2月～現在 学園台薬局 取締役（現 代表取締役）
 ＜薬剤師会役員歴＞
 平成18年4月～現在 福岡県薬剤師会 理事（現 副会長）
 平成23年6月～現在 八幡薬剤師会 理事
 平成30年4月～現在 日本薬剤師会 薬学教育委員会 委員

30. 西村 信弘（にしむら のぶひろ） [大川三潆] 57才
 平成元年3月 福岡大学薬学部 卒業
 平成13年3月 福岡大学 博士（薬学） 取得（病院・大学勤務を経て）
 平成30年10月～現在 国際医療福祉大学 教授・高木病院 薬剤部長
 ＜薬剤師会役員歴＞
 令和元年5月～現在 大川三潆薬剤師会 理事
 令和3年6月～現在 福岡県薬剤師会 理事

❧ 定時総会付議事項 ❧

31. 馬場 渉 (ばば わたる) [宗像] 51才
平成7年3月 第一薬科大学 卒業 (病院勤務を経て)
平成22年5月～現在 宗像薬剤師会会営薬局 勤務
＜薬剤師会役員歴＞
平成26年6月～現在 宗像薬剤師会 理事
令和元年7月 福岡県薬剤師会 在宅医療委員会委員
令和3年6月～現在 福岡県薬剤師会 理事
32. 濱 寛 (はま ひろし) [飯塚] 41才
平成16年3月 徳島文理大学薬学部薬学科 卒業
平成18年3月 福岡大学大学院薬学研究科博士前期課程 修了
(病院勤務を経て)
平成22年4月～現在 有限会社スマイル薬局 (現 代表取締役)
＜薬剤師会役員歴＞
平成23年4月～現在 飯塚薬剤師会 理事 (現 常務理事)
令和元年6月～現在 福岡県薬剤師会 理事 (現 常務理事)
33. 原口 恵子 (はらぐち けいこ) [福岡市] 52才
平成5年3月 第一薬科大学 卒業 (病院・薬局勤務を経て)
平成9年8月～現在 株式会社日輪光 瑠璃薬局 開局
＜薬剤師会役員歴＞
平成22年6月～現在 福岡市薬剤師会 理事 (現 常務理事)
平成29年6月～現在 福岡市薬剤師会東支部 支部長
令和3年6月～現在 福岡県薬剤師会 常務理事
34. 原口 亨 (はらぐち とおる) [福岡市] 52才
平成5年3月 福岡大学薬学部製薬化学科 卒業
平成7年3月 福岡大学大学院薬学研究科博士課程前期 修了
(病院・薬局勤務を経て)
平成9年12月～現在 友神堂薬局 開局
(現 有限会社ファルマウニオン 代表取締役)
＜薬剤師会役員歴＞
平成21年4月～現在 福岡県薬剤師会 理事 (現 会長)
平成30年6月～現在 日本薬剤師会 理事 (現 常務理事)

35. 藤浦 大介 (ふじうら だいすけ) [飯塚] 49才
平成9年3月 福山大学薬学部 卒業 (製薬会社勤務を経て)
平成11年5月～現在 有限会社コスモス、有限会社ドラッグ・ワン 取締役
＜薬剤師会役員歴＞
平成24年4月 日本薬剤師会 一般用医薬品委員会 委員
平成24年4月～現在 飯塚薬剤師会 専務理事 (現 副会長)
令和3年6月～現在 福岡県薬剤師会 理事
36. 松田 健 (まつだ けん) [八幡] 41才
平成17年3月 神戸薬科大学薬学部 卒業
平成17年4月 株式会社ココカラファインヘルスケア
平成30年9月～現在 八幡薬剤師会薬局 薬局長
37. 宮谷 英記 (みやたに ひでき) [筑紫] 56才
平成4年3月 第一薬科大学 卒業
平成4年5月 筑紫野病院
平成9年12月～現在 有限会社ミクス 開局 代表取締役
＜薬剤師会役員歴＞
平成11年4月～現在 筑紫薬剤師会 理事 (現 会長)
平成22年4月～現在 福岡県薬剤師会 理事 (現 副会長)
38. 山口 信也 (やまぐち しんや) [久留米三井] 56才
平成4年3月 第一薬科大学 卒業
平成4年4月 塩野義製薬株式会社
平成22年9月～現在 あおぞらファーマ株式会社 代表取締役
＜薬剤師会役員歴＞
平成25年4月～現在 久留米三井薬剤師会 理事 (現 常務理事)
令和元年6月～現在 福岡県薬剤師会 理事 (現 常務理事)
39. 吉野 禎治 (よしの さだはる) [福岡市] 46才
平成11年3月 第一薬科大学薬学部 卒業 (病院・薬局勤務を経て)
平成27年5月～現在 あいざわ薬局 勤務
＜薬剤師会役員歴＞
令和3年6月～現在 福岡市薬剤師会 理事

定時総会付議事項

議案第5号 監事選任の件

第126回定時総会終結時から、令和7年6月に開催を予定する定時総会終結時までを任期とする、公益社団法人福岡県薬剤師会監事2名を選任願いたい。

【監事候補者2人】

[50音順]

県薬理事	NO.	氏名	ふりがな	所属	年齢	性別
現	1	篠原 俊	しのはら たかし	公認会計士	68	男
新	2	満生 清士	みついき きよし	福岡市	58	男

候補者略歴 (50音順)

1. 篠原 俊 (しのはら たかし) [公認会計士] 68才

昭和52年3月 慶応義塾大学経済学部 卒業
 昭和55年3月 公認会計士登録
 昭和52年4月 監査法人中央会計事務所
 昭和57年1月～現在 篠原公認会計士事務所 所長
 平成22年1月～現在 篠原・植田税理士法人 代表社員
 <薬剤師会役員歴>
 平成25年6月 一般社団法人福岡市薬剤師会 監事
 令和元年6月～現在 公益社団法人福岡県薬剤師会 監事

2. 満生 清士 (みついき きよし) [福岡市] 58才

昭和62年3月 福岡大学薬学部 卒業 (病院勤務を経て)
 平成4年6月 七隈調剤薬局 開局 (現 有限会社みついき薬局)
 <薬剤師会役員歴>
 平成12年6月～現在 福岡市薬剤師会 理事 (現 常務理事)
 平成19年4月 福岡県薬剤師会 理事
 平成24年4月 日本薬剤師会 組織会員委員会 委員
 平成24年4月 福岡県薬剤師会 常務理事
 平成29年6月 福岡県薬剤師会 副会長

参考資料

令和4年度公益社団法人福岡県薬剤師会薬事情報センター事業収支決算書

自 令和4年4月1日
至 令和5年3月31日

収入の部 (単位：円)

科 目	令和4年度予算額	令和4年度決算額	明 細
県 費 補 助 金	13,680,000	13,680,000	
本 会 負 担 金	37,760,000	28,376,382	
合 計	51,440,000	42,056,382	

支出の部 (単位：円)

科 目	令和4年度予算額	令和4年度決算額	明 細
運 営 費	50,640,000	41,706,751	
情 報 伝 達 費	17,620,000	13,263,758	県民情報提供費 5,345,242 情報提供研修会 1,801,722 印刷費 4,663,340 電話料金等通信費 828,642 編集会議費 624,812
消 耗 品 費	1,930,000	1,976,151	消耗品費 234,060 刊行物購読料 1,742,091
管 理 費	31,090,000	26,466,842	JAPIC他会費 129,500 会議費 95,260 研修会費 352,840 人件費 21,226,128 厚生費 4,663,114
設 備 費	800,000	349,631	
設 備 管 理 費	600,000	190,578	設備管理費 190,578
備 品 図 書 購 入 費	200,000	159,053	備品図書購入費 159,053
合 計	51,440,000	42,056,382	

県民セミナー

第68回くすりのセミナー福岡 開催のご案内

日 時

令和5年8月26日(土)

開場／14時30分 開演／15時
(1時間30分程度)

入場無料

場 所

アクロス福岡7階 大会議室

当日先着
100人

テーマ

①「それって本当!? 知っておきたい睡眠薬の使い方」

講師 飯塚病院薬剤部 進 健司

睡眠は、心と身体を健康に保つために欠かせないものです。眠れないことや睡眠習慣の問題を放置せず、この機会に一緒に考えてみませんか?良い睡眠につながる方法や、睡眠薬を使用する場合の正しい使い方についてお話しさせていただきます。

②「血流改善で若返る!～人生は腎精なり～」

講師 久留米三井薬剤師会 副会長 今村 葉子

人は誰しもが平等に年を重ねていきますが、その重ね方によって、実年齢より老けて見えたり若々しく見えたりします。

若々しく見えるようにするためのコツとは何か?

東洋医学の観点から、その秘訣をお話します。キーワードは補腎と活血!



★ 主 催 福岡県薬剤師会・福岡県病院薬剤師会

★ 問合せ先 福岡県薬剤師会 092-271-3791



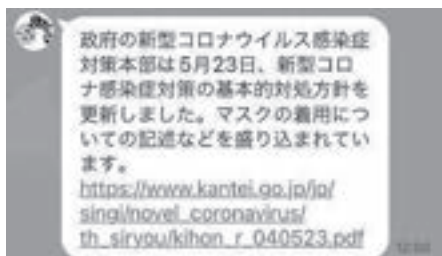
地域のDI機能を高めるために 公式LINE「みんなのDI室」がデビュー!!

2021年改正薬機法で導入した「地域連携薬局」では、地域の医療機関に対して医薬品等に関する情報発信をすることが求められています。また、それ以外の薬局も地域の薬物治療の専門家として医薬品情報室（DI室）の役割を果たすことが理想的です。みなさんの薬局が情報収集を効率的に行い、スムーズに情報を発信するために、公式LINE「みんなのDI室」を立ち上げました。ぜひご活用ください！

ポイント💡

- ① LINEで最新DIを取得できる
※メッセージの返信機能はありません
- ② 薬事情報センター & DI委員が厳選した情報を配信
(週1回程度配信)
- ③ 薬事情報センターホームページへのリンクあり
(質問もできます)

配信例



今すぐ登録☆

右のQRコードで友達追加

<https://lin.ee/ugHPuya>

福岡県薬剤師会 公式アプリ登場！

公益社団法人福岡県薬剤師会の会員向け公式アプリをリリースしました。

このアプリは地区薬剤師会・福岡県薬剤師会の会員証としてご利用いただけます。

また、発出文書・審査ニュース・研修会の開催案内等を通知にて随時お知らせいたします。

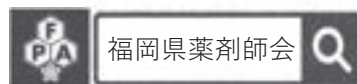
ダウンロード後、ぜひご利用ください。

★本会からのお知らせ
(発出文書や審査ニュース)を随時受け取れます！

★会員証になります
★PECS(研修単位)のQRコードをアップロードすると研修会時に便利！



＼今すぐダウンロード／



I. 薬事情報センターに寄せられた質疑・応答の紹介（2023年4月・5月）

福岡県薬剤師会ホームページでもご覧いただけます。

[http://www.fpa.or.jp/johocenter/yakuji-main/_1635.html]

〔疾病・治療法等〕

Q：経口メサラジン製剤のペンタサTM、アサコールTM、リアルダTMの違いは？（一般）

A：メサラジン（別名：5-aminosalicylic acid、5-ASA）は、軽症～中等症の炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎・クローン病）の基本治療薬で、活動期の症状（下痢や血便、腹痛等）を抑え、寛解に持ち込む寛解導入療法や、再燃を予防する寛解維持療法として広く用いられる。5-ASA自体は、上部消化管で速やかに吸収されてしまうため、経口投与で5-ASAを大腸に効率的に到達させることを目的に、ペンタサTM、アサコールTM、リアルダTMが開発された。

商品名	ペンタサ TM 錠250mg・500mg 顆粒94%	アサコール TM 錠400mg	リアルダ TM 錠1200mg
剤形	錠剤（素錠）、顆粒剤	フィルムコーティング錠	フィルムコーティング錠
効能・効果	潰瘍性大腸炎（重症を除く） クローン病	潰瘍性大腸炎（重症を除く）	
用法・用量	〈潰瘍性大腸炎〉 成人は1日1500mgを分3食後投与。年齢、症状により適宜増減。上限は1回2250mg。 寛解期：必要に応じて1日1回の投与可能。 活動期：1日4000mgを分2投与可能（8週間を超えた投与の有効性は未確立）。 〈クローン病〉 成人は1日1500～3000mgを分3食後投与。年齢、症状により適宜増減。	成人は1日2400mgを分3食後投与。 寛解期：必要に応じて1日1回2400mgを食後投与可能。 活動期：1日3600mgを分3食後投与（8週間を超えた投与の有効性は未確立）。 いずれも状態により適宜増減。	成人は1日1回2400mgを食後投与。 活動期：1日1回4800mgを食後投与。 状態により適宜増減（投与開始8週間を目安とする）。
薬剤放出機構	時間依存型	pH依存型	マルチマトリックス
特徴	5-ASAを腸溶性のエチルセルロースの多孔性被膜でコーティングすることで、小腸での5-ASAの消失を防ぎ、小腸から大腸まで広い範囲で放出される。このため、小腸に病変を有するクローン病にも適応がある。坐剤、注腸があり、炎症範囲や症状に応じて使い分けが可能。	5-ASAを高分子ポリマーでコーティングすることで、pH7以上となる回腸末端から大腸全域に5-ASAが放出される。	5-ASAを親水性基剤および親油性基剤からなるマトリックス中に分散させた素錠部に、pH応答性の高分子フィルムをコーティングした製剤。胃や小腸付近での5-ASAの放出が抑制され、大腸に5-ASAを送達し、大腸全域へ持続的に放出する。

Q：I型糖尿病に合併する肝病変は？（薬局）

A：I型糖尿病患者では、血糖コントロールの不良時に、脂肪肝とGlycogenic hepatopathy（グリコーゲン性肝障害（GH））を発症することがある。

（脂肪肝）劇症I型糖尿病や自己免疫性I型糖尿病に合併する症例が報告されている。発症機序は、急激なインスリン欠乏により、末梢脂肪組織で中性脂肪（TG）が分解された結果生じる遊離脂肪酸が肝臓へ流入し、肝臓におけるTG合成基質が増加することや、肝臓で合成されるアポリポタンパク質Bの低下が超低密度リポタンパク質（VLDL）の分泌不足を招き、TGの肝外への放出を減少することが推察される。

（グリコーゲン性肝障害（GH））主に血糖コントロール不良のI型糖尿病に合併する。肝細胞へのグリコーゲンの過剰な蓄積によって起こる肝障害で、肝のトランスアミナーゼの上昇や肝腫大がみられる。肝臓のグリコーゲン濃度は、グリコーゲン生成と分解のバランスによって制御され、過剰なグリコーゲンは肝細胞に蓄積する。グルコースは、グルコース-6-リン酸（G6P）となり、グリコーゲンへ変わる。インスリンは、このG6Pからグリコーゲンへの変換を誘導する。I型糖尿病では、速効型や超速効型のインスリンを使用するため、この過程が促進され、グリコーゲンの産生が急激に高まると推察される。

〔相互作用〕

Q：レボドパ製剤とバナナとの相互作用は？（薬局）

A：以下の報告があり、レボドパ製剤の服用とバナナの摂取には、1時間以上の間隔をあける必要がある。

（1）レボドパ製剤（イーシー・ドパールTM配合錠 約1/2錠）を水150mLに溶解し、バナナ50g+牛乳100mLに混ぜると赤く変色し、レボドパの含有量が時間とともに顕著に低下した（表1）。この配合変化は、バナナに含まれるポリフェノールオキシダーゼ（PPO）の作用により、レボドパがメラトニン前駆物質であるドーパキノンへ酸化されることに起因する。

表1 レボドパ製剤（イーシー・ドパールTM配合錠）とバナナジュースとの配合変化

測定項目	保存時間 (hrs)		
	配合直後	0.5	1
外観 レボドパ残存率 (%)	微帯赤白色 100	帯赤白色 65.7	帯赤黄色 41.7

（イーシー・ドパールTM配合錠のインタビューフォームより引用）

（2）ラットでの実験。レボドパ製剤（イーシー・ドパールTM配合錠1錠）、バナナ約5gをすりおろし、水10mLを加えて混合したもの（バナナジュース）、市販のバナナ成分含有清涼飲料水を用いて、レボドパ血中濃度を測定した。バナナジュースとの併用では、レボドパ単独に比べて C_{max} および AUC_{0-240} が約50%まで低下した。市販のバナナ成分含有清涼飲料水でも C_{max} の低下傾向を示し、清涼飲料水との併用にも注意を払う必要があると考えられる（表2）。

表2 レボドパの薬物動態パラメータ（n=3、平均値±標準偏差）

	AUC_{0-240} ($\mu\text{g} \cdot \text{min/mL}$)	C_{max} ($\mu\text{g/mL}$)	T_{max} (min)
レボドパ単独	1882.8 ± 49.2	17.4 ± 2.5	50 ± 10
レボドパ+バナナジュース	933.5 ± 286.6	8.6 ± 3.1	40 ± 10
レボドパ+市販のバナナ成分含有清涼飲料水	1724 ± 217.0	12.7 ± 1.8	70 ± 27

（小合由起ら：YAKUGAKU ZASSHI 125(12), 1009, 2005. より引用）

〔薬効・薬理、体内動態〕

Q：リセドロン酸ナトリウムを起床時に服用できない。昼食後2時間の空腹時に服用してよいのか？（薬局）

A：リセドロン酸ナトリウムを含むビスホスホネート（BP）系薬剤の用法・用量に関連する注意として、「水以外の飲料（Ca、Mg等の含量の特に高いミネラルウォーターを含む）や食物あるいは薬剤と同時に服用すると、BP系薬剤の吸収を妨げることがあるので、起床後、最初の飲食前に服用し、かつ服用後少なくとも30分は水以外の飲食を避ける」となっている。健康成人男性を対象に、リセドロン酸ナトリウム5mgを単回投与し、食事の影響を検討した試験では、 C_{max} および AUC_{0-24} は、いずれも絶食時>食前30分>食後3時間>食後30分となり、食後3時間でも絶食時と比較して吸収は低下した（表）。したがって、昼食後2時間の空腹時服用では、十分な薬効が得られない可能性が高い。

表 絶食時投与と食後投与の血漿中濃度の比較（健康成人男性）（n=11、平均値±標準偏差）

投与条件	C_{max} (ng/mL)	AUC_{0-24} (ng · h/mL)
絶食時投与	2.85 ± 1.46	10.42 ± 6.20
食前30分投与	2.11 ± 1.25	3.83 ± 2.27
食後30分投与	0.19 ± 0.13	0.67 ± 0.51
食後3時間投与	0.38 ± 0.23	1.52 ± 1.50

（ベネットTM錠のインタビューフォームより引用）

〔調製法等〕

Q：サインバルタTMカプセルは、カプセルを外して飲んでよいのか？（一般）

A：サインバルタTMカプセル（デュロキセチン塩酸塩（Duloxetine hydrochloride：DUL））の性状は硬カプセル剤で、カプセル自体には特別な加工はされていない。内容物の顆粒は、pHの低い胃内では溶解せず、pHの高い小腸上部で溶解するよう腸溶性コーティングが施されている。したがって、カプセルを外しての服用は可能だが、DULは酸に不安定で、胃酸で失活するため、脱カプセル後は、この内容物を砕いたり、すりつぶさずに服用する必要がある。

Ⅱ. 人工妊娠中絶薬「メフィーゴTMパック」

令和5年4月28日、人工妊娠中絶薬のミフェプリストンおよびミソプロストール製剤（メフィーゴTMパック）が製造販売承認された（薬価基準未収載）。本邦においては、母体保護法（昭和23年法律第156号）に基づき、母体保護法指定医師のみが人工妊娠中絶を実施することとされており、本剤の使用についても同様の扱いとなる。

本剤の使用にあたっては、下記の点に注意が必要であり、添付文書などに基づき事前に医師が本剤の危険性および有効性、並びに必要な対応等について十分に説明を行い、同意を得た場合に投与が可能となる。オンライン診療では処方されない。概要を表1に示す。

1. 母体保護法指定医師の確認の下で投与を行う。
2. 母体保護法指定医師は、緊急時に適切な対応が取れる体制（異常が認められた場合に本剤の投与を受けた者からの連絡を常に受ける体制や他の医療機関との連携も含めた緊急時の体制）の下で本剤を投与することとされている。
ただし、本剤の適切な使用体制のあり方が確立されるまでの当分の間、入院可能な有床施設（病院又は有床診療所）において使用する。また、ミソプロストール投与後は、胎嚢が排出されるまで入院または院内待機を必須とする。この「適切な使用体制のあり方が確立されるまでの当分の間」については、承認後に十分な調査研究を実施し、その中で適切な医療連携体制のあり方について評価を行い、その結果に基づき検討・判断することとする。
3. 本剤の承認に際し「本剤が母体保護法指定医師のみにより使用されるよう、関連団体等と連携して流通等の管理を実施することも含め、必要な措置を講じること」が承認条件として付されており、流通管理手順書等において、各都道府県医師会は、医薬品製造販売業者及び医療機関から、毎月それぞれ販売数量及び使用数量その他必要な報告を受け、それらの整合性を適宜確認すること等により、母体保護法指定医師に対する必要な監督・指導を行う。
4. 母体保護法指定医師が、医学上適切な方法において本剤を使用する場合には、本剤による一連の人工妊娠中絶は、母体保護法第2条2項の「人工妊娠中絶」の定義に該当するものであり、仮に、ミソプロストール投与前に胎嚢の排出が認められ、母体保護法指定医師がミソプロストールを投与しないと判断する場合も母体保護法に基づく人工妊娠中絶が行われていると解することができる。

流通・保管・管理に関しては「流通等の管理の手順書」が作成されており、処方希望の母体保護法指定医師は、製造販売業者のトレーニング（e-Learning）を受講後、医師および医療機関等の登録申請が必要である。

販売ルートは、医薬品製造販売業者⇒卸売販売業者⇒登録された医療機関のルートのみであり、薬局での販売等は行われない。

表1 メフィーゴTMパックの概要

商品名（メーカー）	メフィーゴパック（ラインファーマ）		薬価基準未収載
規制	劇薬、処方箋医薬品、母体保護法指定医師のみが使用する		
表示名	メフィーゴパック 1 剤目 ミフェプリストン錠200mg	メフィーゴパック 2 剤目 ミソプロストールバッカル錠200 μ g	
有効成分	1 錠中ミフェプリストン200mg	1 錠中ミソプロストール200 μ g	
色・剤形・識別コード	白色～微黄色素錠 MF	白色素錠 ML/200	
効能・効果	子宮内妊娠が確認された妊娠63日（妊娠9週0日）以下の者に対する人工妊娠中絶		
用法・用量	ミフェプリストン錠1錠（ミフェプリストンとして200mg）を経口投与し、その36～48時間後の状態に応じて、ミソプロストールバッカル錠4錠（ミソプロストールとして計800 μ g）を左右の臼歯の歯茎と頬の間に2錠ずつ30分間静置する。30分間静置した後、口腔内にミソプロストールの錠剤が残った場合には飲み込む。ミソプロストールバッカル錠は、噛んだり、舐めたりしない。		
用法・用量に関連する注意	・ミフェプリストンの経口投与、ミソプロストールの口腔内への静置は、母体保護法指定医師による確認の下で行う。 ・ミフェプリストン投与後からミソプロストール投与までの間に胎嚢の排出が認められた場合、子宮内容物の遺残の状況を踏まえて、ミソプロストールの投与の可否を検討する。		

（次ページへつづく）

(前ページよりつづき)

用法・用量に関連する注意		本剤の投与を受ける者に対して、本剤投与後の胎嚢排出時期や胎嚢排出前後の子宮出血の状況について説明するとともに、本剤による人工妊娠中絶の成否を確認するために、ミソプロストール投与後、胎嚢排出に至った可能性のある子宮出血が認められたときに来院させ、超音波検査により胎嚢の排出の有無を確認する。そのような子宮出血が確認されない場合であっても、遅くともミソプロストール投与後1週間を目途に来院させ、超音波検査により胎嚢の排出の有無を確認する。本剤による人工妊娠中絶が達成されなかった場合は、ミフェプリストンやミソプロストールの追加投与は行わず、外科的処置を考慮する。
禁忌		ポルフィリン症の患者、全身性又は吸入の副腎皮質ステロイドを投与中でそれらの効果の減弱による状態の悪化や離脱症状の発現が懸念される患者、出血性疾患及びその疑いのある者、重度の肝機能障害（Child-Pugh分類C）のある患者。
併用禁忌	抗凝固薬	ワルファリンカリウム、ダビガトランエテキシラートメタンスルホン酸塩、リバーロキサバン、アビキサバン、エドキサバントシル酸塩
	抗血小板薬	アスピリン、アスピリン含有製剤、チクロピジン塩酸塩、クロピドグレル硫酸塩、プラスグレル塩酸塩、チカグレロル、シロスタゾール、イコサペント酸エチル、ベラプロストナトリウム、サルボグレラート塩酸塩
	強い及び中程度のCYP3A誘導剤	リファンピシン、リファブチン、カルバマゼピン、フェニトイン、セイヨウオトギリソウ（St. John's Wort、セント・ジョーンズ・ワート）含有食品、フェノバルビタール、ボセンタン、エファビレンツ、ダブラフェニブ、エトラビリン、ロルラチニブ、プリミドン、ソトラシブ
重要な基本的注意		● 緊急時に適切な対応が取れる体制（異常が認められた場合に本剤の投与を受けた者からの連絡を常に受ける体制や他の医療機関との連携も含めた緊急時の体制）の下で本剤を投与する。 ● 本剤投与後に下腹部痛があらわれることから、必要に応じて鎮痛剤を投与する（国内第Ⅲ相試験では、ジクロフェナクナトリウム、ロキソプロフェンナトリウム及びアセトアミノフェンが投与された）。 ● 本剤を用いた人工妊娠中絶に先立ち、本剤の投与を受ける者に以下の点を十分に説明し、同意を得てから本剤の投与を開始する。 ・ ミフェプリストン、ミソプロストールの投与に際しては、本剤の処方医療機関に来院する必要がある。 ・ 異常時には、本剤の処方医療機関に連絡する。また、緊急時に医療機関に速やかに来院できるようにする必要がある。 ・ 本剤により子宮出血があらわれ、一定期間継続する可能性があること、及び本剤投与後の胎嚢排出時期や胎嚢排出前後の子宮出血の状況。人工妊娠中絶の成否等を超音波検査で確認する必要があることから、ミソプロストール投与後、胎嚢排出に至った可能性のある子宮出血が認められたときに本剤の処方医療機関に来院が必要である。そのような子宮出血が認められない場合であっても、遅くとも1週間を目途に本剤の処方医療機関に来院が必要である。 ・ 本剤により下腹部痛があらわれること、及び本剤投与後の胎嚢排出時期や胎嚢排出前後の下腹部痛の状況。また、鎮痛剤投与では管理が困難な異常な痛みが継続する場合には、正所異所同時妊娠の可能性もあること等から、速やかに本剤の処方医療機関に連絡する。 ・ 一定程度の下腹部痛や出血が発現しても中絶が達成されているとは限らないことから、自己判断せずに規定の来院を遵守する必要がある。 ・ 本剤投与後、まれに重度の子宮出血があらわれることがあり、失神に至った症例も報告されているので、目安として夜用生理用ナプキンで1時間に2回以上交換するような出血が2時間以上続く場合には、速やかに本剤の処方医療機関に連絡する。 ・ 失神を伴う子宮出血が発現する可能性があることから、自動車の運転等危険を伴う機械の操作を行う場合は十分に注意する。 ・ 本剤投与後一定期間経過した後でも、子宮内膜炎等の感染症があらわれることがあり、敗血症等の致死的な感染症も報告されているので、発熱、悪寒、倦怠感、膣からの異常な分泌物等の感染症が疑わ

(次ページへつづく)

(前ページよりつづき)

重要な基本的注意	れる症状が認められた場合には、速やかに本剤の処方医療機関に連絡する。 ・本剤には、先天異常のリスクを有する薬剤が含まれる（海外では、ミフェプリストンやミソプロストールの投与を受けた妊婦の児において先天異常の報告等がある）。 ・本剤を用いた人工妊娠中絶が達成されなかった場合は、外科的処置が考慮される。 ・本剤による人工妊娠中絶では、胎嚢が排出されても子宮内容物が遺残することがあるが、その場合に、必ず子宮内容物を除去する手術が行われるものではない。 ●子宮内避妊用具（IUD）又はレボノルゲストレル放出子宮内システム（IUS）を装着している場合は、本剤の効果が得られないおそれや子宮損傷のおそれがあるため、本剤投与前にIUD又はIUSを除去する。 ●本剤投与前にRh式血液型を確認し、Rh（D）陰性の者の場合には必要に応じて感作予防のための処置を行う。																
有効性	国内第Ⅲ相試験（120例、平均年齢28.1±6.84歳）において、主要評価項目であるミフェプリストン投与からミソプロストール投与後24時間までに人工妊娠中絶が成功*した被験者の割合は93.3%（112/120例）〔95%CI：87.3-97.1〕であった。 ミソプロストール投与後の人工妊娠中絶が成功した被験者の割合は、ミソプロストール投与後0～4時間で61.7%（74/120例）、4～8時間で26.7%（32/120例）、8～12時間及び20～24時間で各1.7%（2/120例）であった。また、ミフェプリストン投与後ミソプロストール投与前に人工妊娠中絶が成功に至った被験者の割合は1.7%（2/120例）であった。当該2例にはミソプロストールを投与しなかったが、子宮内容物の遺残に起因した有害事象は認められなかった。 *：人工妊娠中絶の成功は、経膈超音波検査により確認された胎嚢排出と定義し、長期の多量出血又は持続する発熱と関連がない限り、子宮内容物の遺残は許容可能とされた。																
安全性	国内第Ⅲ相試験（120例、平均年齢28.1±6.84歳）において、全ての被験者で子宮出血及び下腹部痛が認められた。 出血の発現時間および持続時間 <table><tr><td></td><td>例数</td><td>平均値±標準偏差</td><td>中央値 (最小値、最大値)</td></tr><tr><td>ミフェプリストン錠投与から出血発現までの時間（時間）</td><td>120</td><td>34.362±12.2623</td><td>38.375 (0.08、56.48)</td></tr><tr><td>ミソプロストールバックル錠投与から出血発現までの時間（時間）</td><td>47**</td><td>2.426±2.0530</td><td>2.267 (0.05、13.53)</td></tr><tr><td>出血の持続時間(時間)</td><td>120</td><td>614.860±392.7503</td><td>488.400 (139.25、2392.48)</td></tr></table> **：ミソプロストールバックル錠投与後に子宮出血が最初に発現した被験者のみを対象 ミフェプリストン又はミソプロストールと因果関係ありと判断された副作用の発現割合は37.5%（45/120例）であった。主な副作用は、下腹部痛15.0%（18/120例）、下痢14.2%（17/120例）及び嘔吐10.8%（13/120例）であった。 重大な副作用としては、重度の子宮出血（0.8%）、感染症、重度の皮膚障害、ショック、アナフィラキシー、脳梗塞、心筋梗塞、狭心症（いずれも頻度不明）が報告されている。 本試験では、子宮出血については、治療を要するもの又は治験担当医師が異常な出血と判断したものを有害事象とし、下腹部痛については、より強い鎮痛剤の使用が必要になったもの又は治験担当医師が異常な痛みと判断したものを有害事象とした。		例数	平均値±標準偏差	中央値 (最小値、最大値)	ミフェプリストン錠投与から出血発現までの時間（時間）	120	34.362±12.2623	38.375 (0.08、56.48)	ミソプロストールバックル錠投与から出血発現までの時間（時間）	47**	2.426±2.0530	2.267 (0.05、13.53)	出血の持続時間(時間)	120	614.860±392.7503	488.400 (139.25、2392.48)
	例数	平均値±標準偏差	中央値 (最小値、最大値)														
ミフェプリストン錠投与から出血発現までの時間（時間）	120	34.362±12.2623	38.375 (0.08、56.48)														
ミソプロストールバックル錠投与から出血発現までの時間（時間）	47**	2.426±2.0530	2.267 (0.05、13.53)														
出血の持続時間(時間)	120	614.860±392.7503	488.400 (139.25、2392.48)														

(前ページよりつづき)

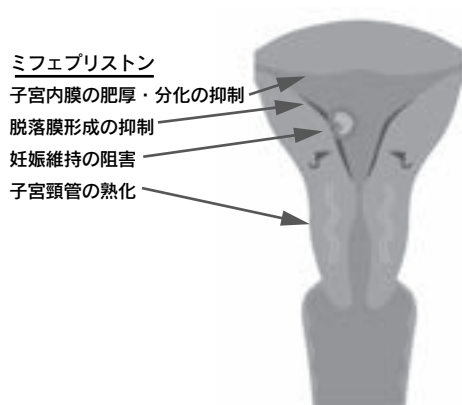
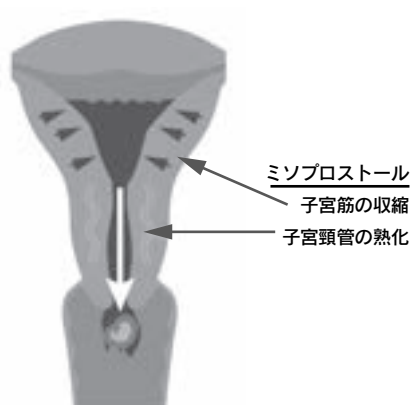
作用機序 (図)	〈ミフェプリストン〉 プロゲステロン受容体、グルココルチコイド受容体及びアンドロゲン受容体に結合親和性を有し、それぞれの受容体に対してアンタゴニスト作用を示す。また、抗エストロゲン様作用を示す。人工妊娠中絶には、プロゲステロン受容体に対するアンタゴニスト作用に基づく子宮内膜の肥厚及び分化の抑制並びに脱落膜形成の抑制、妊娠維持の阻害や子宮頸管の熟化作用が寄与する。 〈ミソプロストール〉 プロスタノイド受容体EP3に結合親和性を有し、当該受容体に対してアゴニスト作用を示す。人工妊娠中絶には、子宮頸管の熟化や子宮筋の収縮が寄与する。
〈ミフェプリストン〉 抗プロゲステロン作用に基づく作用が人工妊娠中絶に寄与する 	〈ミソプロストール〉 プロスタノイド受容体を介した作用が人工妊娠中絶に寄与する 

図 ミフェプリストンとミソプロストールの薬理作用

【文献】

メフィーゴTMパック添付文書、医師向け適正使用ガイド、流通等の管理の手順書
 厚生労働省ホームページ：いわゆる経口中絶薬「メフィーゴパック」の適正使用等について
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iyakuhin/topics/infertility_treatment_00001.html
 厚生労働省医薬・生活衛生局医薬品審査管理課長・こども家庭庁成育局母子保健課長連名通知：ミフェプリストン及びミソプロストール製剤の使用にあたっての留意事項について（依頼）（薬生薬審発0428第5号、こ成母第54号 令和5年4月28日）
<https://www.mhlw.go.jp/hourei/doc/tsuchi/T230501I0060.pdf>

Ⅲ. 薬剤による進行性多巣性白質脳症（PML）

進行性多巣性白質脳症（progressive multifocal leukoencephalopathy：PML）は、ヒトポリオマウイルスのJCウイルス（John Cunningham Virus：JCV）が脳のオリゴデンドロサイトで増殖し、多発性の脱髄病変を呈する中枢神経感染症の一形態である。多くのヒト（成人の60～80％程度）はJCVに無症候性に感染しているが、主に細胞液性免疫の低下（HIV感染症等）で発症する。基礎疾患としては、血液系悪性腫瘍、膠原病、臓器移植等がある。

PML発症に関連する薬剤は糖質コルチコイド、抗がん薬など多岐にわたる（表1）。近年では、多発性硬化症治療薬のナタリズマブやフィンゴリモド等の疾患修飾薬等による薬剤関連PMLが注目されている（表2）。

PMLは一般的に予後不良であり、早期発見・早期対応が重要である。

表1 PML発症の報告がある薬剤

分類	薬剤名
糖質コルチコイド	すべて（ヒドロコルチゾン、ヒドロコルチゾンコハク酸エステルナトリウム、プレドニゾロン、メチルプレドニゾロンなど）
アルキル化薬	カルムスチン、シクロホスファミド、ダカルバジン
プリン代謝拮抗薬	アザチオプリン、クラドリビン、ネララビン、フルダラビン
抗悪性腫瘍薬	イブルチニブ、エベロリムス、クラドリビン、ビンクリスチン、ポマリドミド、ボラツズマブ ベトチン、ボルテゾミブ、ルキソリチニブ、レナリドミド
潰瘍性腸炎治療薬	カロテグラストメチル
葉酸代謝拮抗薬	メトトレキサート
抗体医薬品	アダリムマブ、アバタセプト、アレムツズマブ、イネビリズマブ、イブリツモマブ、インフリキシマブ、エタネルセプト、エファリズマブ、オクレリズマブ、オビヌツズマブ、セツキシマブ、ナタリズマブ、バシリキシマブ、ブレンツキシマブ ベドチン、ベドリズマブ、ベバシズマブ、ベリムマブ、ムロモナブ-CD3、リツキシマブ
免疫抑制薬	グスペリムス、抗ヒト胸腺細胞ウサギ免疫グロブリン、シクロスポリン、シロリムス、タクロリムス、ミコフェノール酸モフェチル、ミトキサントロン
多発性硬化症治療薬	オファツムマブ、シポニモドフマル酸、ナタリズマブ、フィンゴリモド、フマル酸ジメチル
ハンセン病等治療薬	ジアフェニルスルホン

表2 疾患修飾薬におけるPML発症のリスク分類

薬剤	使用疾患	薬剤投与から発症までの期間	PMLの頻度
Class I			高頻度
ナタリズマブ	多発性硬化症、クローン病（海外）	85%以上の症例は >24ヶ月	1/100～ 1/1,000
エファリズマブ	乾癬 [#]	>3年	
Class II			低頻度
フマル酸ジメチル	多発性硬化症、乾癬 [#]	18～54ヶ月	～1/50,000
フィンゴリモド	多発性硬化症	18～54ヶ月	～1/18,000
ミコフェノール酸モフェチル	移植後拒絶反応の抑制、ループス腎炎		
ブレンツキシマブ	ホジキンリンパ腫、未分化大細胞リンパ腫		
Class III			著明に低い
リツキシマブ	B細胞悪性リンパ腫、B細胞性リンパ増殖性疾患、ヴェジェナ肉芽腫症、顕微鏡的多発血管炎、難治性ネフローゼ症候群など		1/30,000
アレムツズマブ	再発又は難治性の慢性リンパ性白血病、同種造血幹細胞移植の前治療、多発性硬化症（海外）		
ミトキサントロン	急性白血病、悪性リンパ腫、乳がん、肝細胞癌、多発性硬化症 [#]		
テリフルノミド	多発性硬化症 [#]		
ダクリズマブ	多発性硬化症 [#]		

Class I：使用により確実にPML発症リスクが上昇する薬剤

Class II：使用によりPML発症リスクが高くなることは明らかだがClass Iに比較して頻度が極めて低い薬剤

Class III：発症症例が報告されているが、関連はまだ明らかではない薬剤

[#]：本邦では未承認であるが、海外においてPML発症の報告がある

(臨床症状と診断)

症状は、亜急性に進行する認知機能障害・構音障害・片麻痺や失語など多彩である。頭部MRI/CT、脳脊髄液（CSF）でのPCRによるJCV DNAの検出・病理所見、および他の疾患の鑑別/除外を診断の柱とする。疾患修飾薬による薬剤関連PMLでは、頭部MRIで白質病変を認めるものの、臨床症状を欠く無症候性PMLが知られており、定期的な頭部MRIの確認が必要である。

(治療)

確立された治療薬はなく、唯一効果的な治療は免疫再構築である。HIV関連PMLは抗レトロウイルス療法が有効だが、非HIV関連PMLは原因薬剤の減量・中止が免疫機能の回復につながる。また、*in vitro*でJCV増殖抑制作用が認められているメフロキンの使用や、JCVのヒトグリア細胞への侵入にセロトニン5-HT_{2A}受容体が関与しているため、セロトニン5-HT_{2A}受容体拮抗薬のミルタザピン、リスペリドン、アセナピンの使用も推奨される（保険適応外使用）。

(メトトレキサートによるPML)

医薬品医療機器総合機構は2022年10月12日、メトトレキサートによるPMLの国内および海外症例を評価し、専門委員の意見も徴収した結果、以下のように添付文書を改訂することが適切と判断した。直近3年度のメトトレキサートによるPMLの国内症例は8例（うち、医薬品と事象との因果関係が否定できない症例6例）【死亡0例】、海外症例は15例（うち、医薬品と事象との因果関係が否定できない症例6例）【死亡12例（うち、医薬品と事象による死亡との因果関係が否定できない症例0例）】である。症例を表3に示す。

11. 副作用

11.1 重大な副作用

進行性多巣性白質脳症（PML）（頻度不明）

本剤投与中及び投与終了後は患者の状態を十分に観察すること。意識障害、認知機能障害、麻痺症状（片麻痺、四肢麻痺）、構音障害、失語等の症状があらわれた場合は、MRIによる画像診断及び脳脊髄液検査を行うとともに、投与を中止し、適切な処置を行うこと。

表3 メトトレキサートによるPMLの症例概要

患者	経過及び処置					
70歳代女性 (使用理由) 関節リウマチ (合併症) 歩行障害 (1日投与量) 12mg（1週あたりの投与量） (投与期間) 約9年間 (併用薬) プレドニゾロン	投与約17年前：抗環状シトルリン化ペプチド（抗CCP）抗体陽性、プレドニゾロン1～5mg/日投与を開始した。 投与開始日：本剤12mg/週の投与を開始した。 投与約10年目：進行性の歩行障害を5ヶ月間、進行性の悪心を1ヶ月間呈し入院した。 （入院日） 入院時の神経学的検査で、失調性構語障害、左錐体路徴候、軽度の左不全片麻痺、および左上下肢の顕著な運動失調あり。入院時MRI所見に、両側小脳脚、小脳白質、および橋底部を含むテント下領域にT2WI/FLAIR画像による複数の高信号病変あり。 年月日不明：臨床状態が悪化し、本剤およびプレドニゾロンを漸減し中止した。 （入院中） 定位脳生検を実施、MRI所見および脳脊髄液（CSF）検査のPCR陽性から進行性多巣性白質脳症と診断。メフロキンおよびミルタザピンによる治療を開始した。治療開始2ヶ月後に症状は改善傾向となり、退院した。 年月日不明：CSFのPCR検査は検出不能となった。 （退院5ヶ月後）症状の悪化および病変拡大なし。					
臨床検査値						
	本剤投与開始前	投与約10年目（入院日）	中止前不明日（入院中）	中止後不明日（入院中）	中止約2ヶ月後（退院後）	中止後不明日（退院5ヶ月後）
CSF-JCV-DNA (copies/mL)	－	－	－	2124	886	検出不能
CD4/CD8比 (末梢血中リンパ球)	－	－	－	1.6	2.6	－
IgG index	－	2.27	－	1.67	1.69	1.79
SARA*スコア(点)	－	22	25	－	17	－

* Scale for the Assessment and Rating of Ataxia

* Scale for the Assessment and Rating of Ataxia

【文献】

進行性多巣性白質脳症診療ガイドライン2020：厚生労働省科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業 プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究班 研究代表者 山田正仁, 2020年3月
 厚生労働省医薬・生活衛生局 令和4年(2022年)11月 医薬品・医療機器等安全性情報 No.396
 厚生労働省：重篤副作用疾患別対応マニュアル 進行性多巣性白質脳症（PML） 令和5年4月
 Epperla N et al：WMJ 2014；113：242-245.
 三浦義治：医学のあゆみ 277(1), 78, 2021.

Ⅳ. 新医薬品の薬価基準追補収載

(2023年5月23日告示、24日から適用)

〔内 用 薬〕

劇：劇薬、処：処方箋医薬品、生：生物由来製品

分類	医薬品名（会社名）	識別コード	規格・単位	薬価(円)	規制
399	オフアコルカプセル50mg（レクメド）	白色／青色	50mg 1 C	12,596.00	処
概要	（有効成分） コール酸 （効能・効果） 先天性胆汁酸代謝異常症。 （用法・用量） 1日量5～15mg/kgを1回又は数回に分けて食事中に投与。患者の状態に応じて適宜増減。 ・通常、1日1回または2回に分けて投与するが、乳幼児等で必要な場合は1日3回以上に分けて投与可能。投与の時間帯は一定とする。 ・定期的に肝機能（AST、ALT、γ-GTP等）や総胆汁酸濃度を確認し、用量調整を行う。 ・通常1日投与量として、500mgまで可能。500mgを超える場合は、肝機能や総胆汁酸濃度等を確認する。 ・1日750mgを超える投与経験は報告されていない。 （作用機序） 先天性胆汁酸代謝異常症の患者では、コレステロールから胆汁酸に代謝されるまでの生合成経路におけるいずれかの酵素の欠損により、胆汁酸の生成まで反応が進まず、毒性の強い中間代謝産物（異常胆汁酸等）が蓄積されることにより肝機能障害が生じる。また、コール酸の不足により、胆汁酸生合成経路の律速酵素であるcholesterol 7α-hydroxylase（CYP7A1）に対する負のフィードバック制御が機能せず、胆汁酸生合成経路が亢進し、異常な中間代謝産物がさらに増加する。 本剤の経口投与は、肝臓においてCYP7A1をダウンレギュレーションさせ、異常な中間代謝産物の産生を抑制する。さらに、胆汁流量を増加させ、異常な中間代謝産物やビリルビン等の肝クリアランスを促進する。また、コール酸の不足により吸収が低下する脂溶性ビタミンと脂肪の吸収を促進する。				
分類	医薬品名（会社名）	識別コード	規格・単位	薬価(円)	規制
339	ドブテレット錠20mg (Swedish Orphan Biovitrum Japan～旭化成ファーマ)	淡黄色フィルムコート錠 AVA/20	20mg 1 T (アバトロンボパグとして)	7,106.60	処
概要	（有効成分） アバトロンボパグマレイン酸塩 トロンボポエチン受容体作動薬。 （効能・効果） 待機的な観血的手技を予定している慢性肝疾患患者における血小板減少症の改善。 ・開腹、開胸、開心、開頭又は臓器切除を伴う観血的手技の場合は投与を避ける。 （用法・用量） 成人は、以下の用量を1日1回、5日間食後投与。 投与開始前の血小板数が$\geq 40,000/\mu\text{L}$以上50,000/μL未満：40mg 投与開始前の血小板数が$\geq 40,000/\mu\text{L}$未満：60mg ・観血的手技予定日の10～13日前を目安に投与を開始する。 （作用機序） アバトロンボパグは、経口投与可能な低分子のトロンボポエチン受容体作動薬であり、造血前駆細胞から巨核球の増殖および分化を促進し、血小板数を増加させる。アバトロンボパグは、トロンボポエチンと競合することなくトロンボポエチン受容体に結合し、血小板産生を促進する。				

〔外 用 薬〕

分類	医薬品名（会社名）	識別コード	規格・単位	薬価(円)	規制
125	アポハイドローション20%（久光）	HP219L	20% 1 g	545.80	処
概要	（有効成分）オキシブチニン塩酸塩 （効能・効果）原発性手掌多汗症。 （用法・用量）1日1回、就寝前に適量を両手掌全体に塗布。1回の塗布量は、両手掌に対しポンプ5押し分を目安とする。 （禁忌）閉塞隅角緑内障の患者、下部尿路閉塞疾患（前立腺肥大等）による排尿障害のある患者、重篤な心疾患のある患者、腸閉塞または麻痺性イレウスのある患者、重症筋無力症の患者。 （薬剤使用時の注意） ・就寝前に塗布した後は、本剤が意図せず洗い流されないよう、手の濡れる行為は避ける。 ・起床後、手を洗うまでの間は、塗布部位以外（眼等）に触れないようにする。万一、塗布時に眼に入った場合は直ちに水で洗い流す。 ・塗布後に気密性の高い手袋等で手掌を覆って密封しない。 （取扱い上の注意）本剤は可燃性であるため、保存及び使用の際には火気を避ける。 （作用機序） オキシブチニン塩酸塩は、エクリン汗腺に発現するムスカリン受容体に対して抗コリン作用を有することにより、抑汗作用を示す。 ※新剤形。既発売品は、錠、テープで、効能・効果が異なる。				
分類	医薬品名（会社名）		規格・単位	薬価(円)	規制
132	コムレクス耳科用液1.5%（セオリア ファーマ～武田）		1.5% 5 mL 1 瓶	1,584.50	処
概要	（有効成分）レボフロキサシン水和物 フルオロキノロン系抗菌薬。 （効能・効果） ＜適応菌種＞本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス、肺炎桿菌、エンテロバクター属、セラチア属、インフルエンザ菌、緑膿菌、アシネトバクター属。 ＜適応症＞外耳炎、中耳炎。 （用法・用量）1回6～10滴を1日2回点耳。点耳後は約10分間の耳浴を行う。症状により適宜回数を増減。 ・4週間の投与を目安とし、その後の継続投与については、長期投与に伴う真菌の発現や菌の耐性化等に留意し、漠然と投与しない。 （薬剤交付時の注意） ・使用する際の薬液の温度が低いと、めまいを起こすおそれがあるので、使用時には、できるだけ体温に近い状態で使用する。 ・点耳の際、容器の先端が直接耳に触れないように注意する。 （作用機序） DNAジャイレースおよびトポイソメラーゼⅣの阻害による細菌のDNA合成阻害である。DNAジャイレースとトポイソメラーゼⅣのどちらを強く阻害するかは細菌によって異なる。 ※新剤形。既発売品は錠、注射液、点眼液。				
分類	医薬品名（会社名）		規格・単位	薬価(円)	規制
269	ネキソブリッド外用ゲル5g（科研）		5 g 1 瓶（混合用ゲル付）	162,995.90	処
概要	（有効成分）パイナップル茎搾汁精製物 壊死組織除去剤。 （効能・効果）深達性Ⅱ度又はⅢ度熱傷における壊死組織の除去。 （用法・用量）本剤は、凍結乾燥品5gと混合用ゲル50gからなる製剤。混合用ゲルの容器に凍結乾燥品全量を加えて混合し、本剤を調製。本剤を熱傷創に適量塗布し、4時間後に除去。 ・塗布量は、熱傷創450cm²あたり、本剤55g（5gの凍結乾燥品と50gの混合用ゲルを混合したもの）を目安。 ・1回あたりの最大塗布面積は体表面積の15%を目安。15%を超える場合は2回に分ける。臨床試験の最大塗布面積は、合計で体表面積の30%まで。 ・効果が不十分な場合、同部位への塗布は2回まで。				

（次ページへつづく）

(前ページよりつづき)

概要	(重要な基本的注意) ・本剤の塗布前及び除去前に疼痛管理を行う。 ・創傷感染を防ぐため、必要に応じて、本剤除去後に消毒薬を浸したガーゼ等で熱傷創を被覆する。 (薬剤調製時の注意) ・他剤と混ぜない。 ・調製は次の手順で行う。 (1) 凍結乾燥品の容器の蓋を取る。アルミニウムキャップを外し、ゴム栓を外す。 (2) 混合用ゲルの容器のスクリュキャップを外し、ゴム栓を外す。 (3) 混合用ゲルの容器に凍結乾燥品全量を加え、凍結乾燥品と混合用ゲルが均一になるように1～2分程度かけて混合し、本剤を調製する。 ・調製後15分以内に熱傷創に塗布する。 ・未使用の残った薬剤は保存せずに破棄する。 (作用機序) タンパク質分解作用を示し、壊死組織の分解及び除去に働く。

〔注 射 薬〕

分類	医薬品名（会社名）	規格・単位	薬価(円)	規制
639	アトガム点滴静注液250mg（ファイザー）	250mg 5 mL 1 管	75,467	劇 処 生
概要	(有効成分) 抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン 免疫抑制薬。 (効能・効果) 中等症以上の再生不良性貧血。 (用法・用量) 1日1回体重1kgあたり40mgを緩徐に点滴静注。投与開始後1時間は極めて緩徐に投与し、忍容性を確認し、4時間以上かけて投与する（12～18時間かけることが望ましい）。投与期間は4日間とする。 (禁忌) 重症感染症を合併している患者。 (併用禁忌) 生ワクチン。 (作用機序) 本剤はリンパ球表面の多様なタンパク質に結合する様々な抗体で構成され、顆粒球、血小板及び骨髓細胞に結合する。本剤の主な作用機序として、循環血中のTリンパ球に最も強く作用し、リンパ球を減少させることが示唆されている。			
分類	医薬品名（会社名）	規格・単位	薬価(円)	規制
116	ヴィアレブ配合持続皮下注（アヅヴィ）	10mL 1 瓶	13,277	処
概要	(有効成分) ホスレボドパ・ホスカルビドパ水和物 抗パーキンソン薬。 10mL中の含量：ホスレボドパ2400mg及びホスカルビドパ（無水物として）120mg (効能・効果) レボドパ含有製剤を含む既存の薬物療法で十分な効果が得られないパーキンソン病の症状の日内変動（wearing-off現象）の改善。 ・高頻度に注入部位関連事象（注入部位蜂巣炎や注入部膿瘍）が認められ、中止に至った例も報告されているので、安全性、忍容性も十分理解し使用を判断する。 ・本剤は経口レボドパ含有製剤に対する治療反応性及び忍容性が認められるパーキンソン病患者に対して使用する。 (用法・用量) 本剤投与前の経口レボドパ量に応じて1時間あたりの注入速度を設定し、24時間持続皮下投与。患者がオフ状態で本剤の投与を開始する場合には、持続投与開始前に負荷投与を行う。必要に応じて持続投与中に追加投与可能。 成人は、0.15～0.69mL/時間（レボドパ換算量として約26～117mg/時間）で持続投与。負荷投与を行う場合は0.6～2.0mL（レボドパ換算量として約100～350mg）を投与。追加投与は1回あたり0.1～0.3mL（レボドパ換算量として約17～51mg）で投与。症状により適宜増減するが、1日総投与量は16.67mL（レボドパ換算量として2840mg）を超えない。 ・本剤の投与には、専用の投与システム（輸液ポンプ（ヴィアフューザー）、輸液セット、シリンジ、バイアルアダプタ）を用いる。 ・本剤の投与開始時に使用中のすべてのレボドパ含有製剤及びCOMT（カテコール-O-メチルトランスフェラーゼ）阻害剤を中止する。 ・本剤の投与を1時間以上中断した場合は、輸液セットの汚染や閉塞のリスク低減のため、新しい輸液セットを使用し、投与部位を変えることが望ましい。3時間を超えて投与を中断した場			

(次ページへつづく)

(前ページよりつづき)

概要	合は、患者自身で負荷投与を行い、速やかに症状をコントロールするよう指導する。本剤の投与を長時間（24時間超）中断又は中止した場合は、適切なドパミン作動薬（経口レボドパ・カルビドパ水和物製剤等）を投与する。 (禁忌) 閉塞隅角緑内障の患者。 (薬剤交付時の注意) 室温（30℃以下）での保管は、28日間を超えない。 (薬剤投与時の注意) - 皮下のみに投与する。臍から半径5 cmの部位を避け、腹部に皮下投与が望ましい。腕又は大腿部への投与による長期の安全性・有効性は未確立。 - 皮膚に異常（圧痛、あざ、発赤、硬結等）がある部位には投与しない。 - 本剤のバイアルは単回使用とし、バイアルの全量をシリンジに移す。24時間後シリンジ内に残薬があれば廃棄し、新しいバイアル及びシリンジに交換する。 - 一時的に投与を中断する場合やポンプの故障や誤作動が生じた場合等に備えて、経口レボドパ・カルビドパ水和物製剤を常に用意しておく。 (作用機序) プロドラッグであるホスレボドパはホスファターゼによりレボドパに速やかに変換される。ドパミンの前駆体であるレボドパは、血液脳関門を通過し、脳内でドパミンに変換され、レボドパがパーキンソン病の症状を軽減すると考えられる。レボドパは末梢でDDC（ドパ脱炭酸酵素）及びCOMTにより大部分が代謝されるため、代謝酵素阻害剤を併用しない場合、脳内に取り込まれるレボドパ量はごくわずかである。 プロドラッグであるホスカルビドパはホスファターゼによりカルビドパに速やかに変換される。カルビドパは末梢性ドパ脱炭酸酵素阻害薬である。カルビドパの脱炭酸酵素阻害活性は脳外組織に限定されるため、カルビドパとレボドパとの併用投与によって、カルビドパは末梢におけるレボドパの脱炭酸化を阻害し、脳内に移行するレボドパ量を増加させ、また、レボドパの脱炭酸反応に起因する末梢作用（悪心、嘔吐など）を軽減する。 ※在宅自己注射可能。			
分類	医薬品名（会社名）	規格・単位	薬価(円)	規制
239	エンタイピオ皮下注108mgシリンジ 〃 108mgペン（武田）	108mg 0.68mL 1 筒 108mg 0.68mL 1 キット	69,888 69,888	劇 処 生
概要	(有効成分) ベドリズマブ（遺伝子組換え） ヒト化抗ヒト$\alpha_4\beta_7$インテグリンモノクローナル抗体。 (効能・効果) 中等症から重症の潰瘍性大腸炎の維持療法（既存治療で効果不十分な場合に限る）。 (用法・用量) 成人は、1回108mgを2週間隔で皮下注射。 - 本剤は、ベドリズマブ（遺伝子組換え）の点滴静注製剤を2回以上投与し治療反応が認められた場合に、点滴静注製剤の次の投与予定日から切り替えて投与を開始する。 - 本剤と他の免疫抑制作用を有する生物製剤の併用について臨床試験は実施していないため、本剤との併用を避ける。 (作用機序) メモリーTリンパ球表面に発現する$\alpha_4\beta_7$インテグリンは、消化管粘膜の血管内皮細胞表面に発現する粘膜アドレシン細胞接着分子-1（MAdCAM-1）に接着することによって消化管粘膜及び腸管関連リンパ組織へのリンパ球浸潤を媒介する。 ベドリズマブは$\alpha_4\beta_7$インテグリンに特異的に結合し、$\alpha_4\beta_7$インテグリンと主に消化管に発現するMAdCAM-1との結合を阻害することにより、消化管粘膜の炎症を低減する。一方、中枢神経、皮膚等多くの臓器に発現する血管細胞接着分子-1（VCAM-1）との結合は阻害しない。 ※新投与経路。プレフィルドシリンジ製剤。既発売品は、点滴静注用300mg。			
分類	医薬品名（会社名）	規格・単位	薬価(円)	規制
239	オンボー点滴静注300mg (日本イーライリリー〜持田)	300mg15mL 1 瓶	192,332	劇 処 生
概要	(有効成分) ミリキズマブ（遺伝子組換え） ヒト化抗ヒトIL-23 p 19モノクローナル抗体。 (効能・効果) 中等症から重症の潰瘍性大腸炎の寛解導入療法（既存治療で効果不十分な場合に限る）。 (用法・用量) 成人は、1回300mgを4週間隔で3回（初回、4週、8週）点滴静注。12週時に効果が不十分な場合はさらに1回300mgを4週間隔で3回（12週、16週、20週）投与可能。また、皮下投与用製剤による維持療法中に効果が減弱した場合には、1回300mgを4週間隔で3回点滴静注可能。			

(次ページへつづく)

(前ページよりつづき)

概要	・本剤の3回目又は6回目投与の4週後に治療効果が得られた場合には、維持療法としてミリキズマブ（遺伝子組換え）皮下投与用製剤の投与を開始する。本剤の6回目投与の4週間までに治療効果が得られない場合には、本剤の投与を中止し、他の治療法への切替えを考慮する。 （禁忌） 重篤な感染症の患者、活動性結核の患者。 （作用機序） インターロイキン（IL）-23はILファミリーに属する大腸粘膜の炎症に関与するサイトカインで、潰瘍性大腸炎の病態形成に重要な役割を果たしている。 ミリキズマブは、抗IL-23ヒト化IgG4モノクナル抗体であり、ヒトIL-23のp19サブユニットに高い親和性と特異性で結合し、IL-23受容体との相互作用を阻害する。他のIL-12ファミリーメンバー（IL-12、IL-27及びIL-35）との交差反応は認められていない。																			
分類	医薬品名（会社名）	規格・単位	薬価(円)	規制																
239	オンボー皮下注100mgオートインジェクター 〃 100mgシリンジ (日本イーライリリー～持田)	100mg 1 mL 1 キット 100mg 1 mL 1 筒	126,798 126,798	劇 処 生																
概要	（有効成分） ミリキズマブ（遺伝子組換え） ヒト化抗体ヒトIL-23 p 19モノクローナル抗体。 （効能・効果） 中等症から重症の潰瘍性大腸炎の維持療法（既存治療で効果不十分な場合に限る）。 （用法・用量） ミリキズマブ（遺伝子組換え）点滴静注製剤による導入療法終了4週間後から、成人は、1回200mgを4週間隔で皮下投与。 ・本剤による維持療法中に効果が減弱し、ミリキズマブ（遺伝子組換え）点滴静注製剤3回投与により治療効果が得られた場合には、3回目投与の4週間後から本剤の投与を再開する。また、本剤による維持療法中に再び効果が減弱した場合には、他の治療法への切替えを考慮する。 ・ミリキズマブ（遺伝子組換え）200mgを投与するために、本剤2本を皮下に投与する。 （禁忌） 重篤な感染症の患者、活動性結核の患者。 （作用機序） オンボー点滴静注300mg参照。																			
分類	医薬品名（会社名）	規格・単位	薬価(円)	規制																
399	パリンジック皮下注2.5mg 〃 10mg 〃 20mg (BioMarin Pharmaceutical Japan)	2.5mg 0.5mL 1 筒 10mg 0.5mL 1 筒 20mg 1 mL 1 筒	61,606 64,155 65,468	劇 処																
概要	（有効成分） ペグバリアーゼ（遺伝子組換え） （効能・効果） フェニルケトン尿症。 （用法・用量） 成人は、1日1回20mgを維持用量とし、皮下投与。ただし、週1回2.5mgを開始用量として、以下の漸増法に従い、段階的に増量する。1日1回20mgを一定期間投与しても効果が不十分な場合は、40mg又は60mgに段階的に増量できるが、最大用量は60mg。患者の状態に応じて適宜増減。 1日1回20mgまでの漸増法 <table><tr><th>用量・投与頻度</th><th>投与間隔</th></tr><tr><td>2.5mgを週1回投与</td><td>4週間以上</td></tr><tr><td>2.5mgを週2回投与</td><td>1週間以上</td></tr><tr><td>10mgを週1回投与</td><td>1週間以上</td></tr><tr><td>10mgを週2回投与</td><td>1週間以上</td></tr><tr><td>10mgを週4回投与</td><td>1週間以上</td></tr><tr><td>10mgを1日1回投与</td><td>1週間以上</td></tr><tr><td>20mgを1日1回投与</td><td>－</td></tr></table> （薬剤投与時の注意） ・皮下注射は、大腿部、腹部、上腕部又は臀部に行う。注射箇所は毎回変更し、挫傷、発赤又は硬結している部位等への注射は避ける。 ・1回の投与量が20mgを超える場合、1日の中で分割投与はせず、同じ時間に注射箇所を変えて複数回注射する。各注射箇所は5 cm以上離す。 ・本剤は単回使用の製剤である。				用量・投与頻度	投与間隔	2.5mgを週1回投与	4週間以上	2.5mgを週2回投与	1週間以上	10mgを週1回投与	1週間以上	10mgを週2回投与	1週間以上	10mgを週4回投与	1週間以上	10mgを1日1回投与	1週間以上	20mgを1日1回投与	－
用量・投与頻度	投与間隔																			
2.5mgを週1回投与	4週間以上																			
2.5mgを週2回投与	1週間以上																			
10mgを週1回投与	1週間以上																			
10mgを週2回投与	1週間以上																			
10mgを週4回投与	1週間以上																			
10mgを1日1回投与	1週間以上																			
20mgを1日1回投与	－																			

(次ページへつづく)

(前ページよりつづき)

概要	(取扱い上の注意) 凍結を避ける。冷蔵庫（2～8℃）で保管できない場合、室温で保管することも可能だが、1ヶ月以内に使用する。また、室温で保管した後は冷蔵庫に戻さない。 (作用機序) 本剤は、遺伝子組換えフェニルアラニンアンモニアリアーゼ類縁体であり、テトラヒドロbio プテリン非依存的にフェニルアラニンをアンモニア及びケイヒ皮酸に代謝する。 ※在宅自己注射可能。プレフィルドシリンジ製剤。			
	分類	医薬品名（会社名）	規格・単位	薬価(円) 規制
	429	ベスレミ皮下注250μgシリンジ 〃 500μgシリンジ (ファーマエッセンシアジャパン)	250μg 0.5mL 1 筒 500μg 1 mL 1 筒	297,259 565,154 劇 処
概要	(有効成分) ロペグインターフェロン アルファ-2b（遺伝子組換え） 抗悪性腫瘍薬。 (効能・効果) 真性多血症（既存治療が効果不十分又は不適当な場合に限る）。 (用法・用量) 成人は、1回100μg（他の細胞減少療法薬を投与中の場合50μg）を開始用量とし、 2週に1回皮下投与。患者の状態により適宜増減するが、増量は50μgずつ行い、1回500μgを 超えない。 (禁忌) 自己免疫性肝炎の患者、非代償性肝疾患の患者。 (併用禁忌) 小柴胡湯。 (作用機序) ロペグインターフェロン アルファ-2bは、I型インターフェロン（IFN）受容体に結合し、ヤ ヌスキナーゼ（JAK）1及びチロシンキナーゼ（TYK）2の活性化を介して、下流のシグナル 伝達分子のリン酸化を増加し、IFN誘導遺伝子の発現を増加させ、細胞周期の停止及びアポト ーシス誘導を引き起こすこと等により、腫瘍増殖抑制作用を示すと推測されている。しかし、 真性多血症（PV）患者での効果の発現機序については不明。 ※プレフィルドシリンジ製剤。			

V. 報告品目等の薬価基準追補収載

(2023年5月23日告示、24日から適用)

〔内 用 薬〕

劇：劇薬、処：処方箋医薬品、生：生物由来製品

分類	医薬品名（会社名）	規格・単位	薬価(円)	規制	備考（成分、薬効）
232	タケキャブOD錠10mg 〃 20mg (武田)	10mg 1 T 20mg 1 T (ボノプラザンとして)	100.50 150.50	処	(有効成分) ボノプラザンフマル酸塩 カリウムイオン競合型アシッドブロッカー。 (効能・効果) - 胃潰瘍、十二指腸潰瘍、逆流性食道炎、低用量アスピリン投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制、非ステロイド性抗炎症薬投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制 - 下記におけるヘリコバクター・ピロリの除菌の補助 胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃MALTリンパ腫、特発性血小板減少性紫斑病、早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃、ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎 ※新剤形（既発売品は、錠10mg・20mg）。
119	タリージェOD錠2.5mg 〃 5mg 〃 10mg 〃 15mg (第一三共)	2.5mg 1 T 5 mg 1 T 10mg 1 T 15mg 1 T (ミロガバリンとして)	67.20 92.50 127.90 154.80	処	(有効成分) ミロガバリンベシル酸塩 (効能・効果) 神経障害性疼痛。 ※新剤形（既発売品は、錠2.5mg・5mg・10mg・15mg）。

〔外 用 薬〕

分類	医薬品名（会社名）	規格・単位	薬価(円)	規制	備考（成分、薬効）
269	ベピオローション2.5% (マルホ)	2.5% 1 g	98.10	処	(有効成分) 過酸化ベンゾイル (効能・効果) 尋常性ざ瘡。 ※新剤形（既発売品は、ゲル2.5%）。
131	マイトマイシン眼科外用液 用2mg (協和キリン)	2 mg 1 瓶	1,563.90	劇 処	(有効成分) マイトマイシンC (効能・効果) 緑内障観血的手術に おける補助。 ※新剤形（既発売品は、注射薬2mg・ 10mgで、効能・効果が異なる）。

〔注 射 薬〕

分類	医薬品名（会社名）	規格・単位	薬価(円)	規制	備考（成分、薬効）
429	パドセブ点滴静注用20mg (アステラス)	20mg 1 瓶 (溶解時にエンホルツマブ ペドチン濃度が10mg/mLとなるよう過量充填)	61,276	劇 処 生	(有効成分) エンホルツマブ ペドチン（遺伝子組換え） 抗悪性腫瘍薬。抗Nectin-4抗体微小管阻害薬複合体。 (効能・効果) がん化学療法後に増悪した根治切除不能な尿路上皮癌。 ※新規格（既発売品は、30mg）。
249	レベスティブ皮下注用 0.95mg (武田)	0.95mg 1 瓶 (溶解液付) (溶解時に25mg/mLとなるよう過量充填)	18,421	劇 処	(有効成分) テデュグルチド（遺伝子組換え） GLP-2アナログ。 (効能・効果) 短腸症候群。 ※新規格（既発売品は、3.8mg）。 低含量製剤で、体重10kg未満の患者及び体重20kg未満の中等度以上の腎機能障害（クレアチニンクリアランス50mL/min未満）患者に投与可能。

Ⅵ. 後発医薬品の薬価基準追補収載 （2023年6月15日告示分）

厚生労働省は令和5年6月15日、後発医薬品の薬価基準追補収載を告示した。収載数は39成分、71規格、113品目で、うち新しく後発医薬品として収載されたのは、11成分、25規格、64品目である（表）。保険適用は6月16日より。

表 初収載の後発医薬品

※（－）は規格なし

	薬効分類等	成分名	先発品（メーカー）	後発品の規格単位 配合剤の販売名等
内 用 薬	214 降圧薬（ARB）	アジルサルタン	アジルバ錠10mg － アジルバ錠20mg － アジルバ錠40mg － (武田)	10mg 1 錠 10mg 1 錠（OD錠） 20mg 1 錠 20mg 1 錠（OD錠） 40mg 1 錠 40mg 1 錠（OD錠）
	214 降圧薬（選択的アルドステロン拮抗薬）	エプレレノン	セララ錠25mg 〃 50mg 〃 100mg (ヴィアトリス)	25mg 1 錠 50mg 1 錠 100mg 1 錠
	429 抗悪性腫瘍薬 (チロシンキナーゼ阻害薬)	エルロチニブ塩酸塩	タルセバ錠25mg 〃 100mg 〃 150mg (中外)	25mg 1 錠 100mg 1 錠 150mg 1 錠

	薬効分類等	成分名	先発品（メーカー）	後発品の規格単位 配合剤の販売名等
内 用 薬	218 高脂血症用薬	エゼチミブ・アトル バスタチンカルシウ ム水和物	アトーゼット配合錠HD 〃 LD (オルガノン)	1錠 1錠 エゼアト TM 配合錠 HD・LD「JG」
	392 解毒剤	酢酸亜鉛水和物	ノベルジン錠25mg 〃 50mg (ノーベルファーマ)	25mg 1錠 50mg 1錠
	247 卵胞ホルモン	エストラジオール	ジュリナ錠0.5mg (バイエル)	0.5mg 1錠
	219 肺動脈性肺高 血圧症治療薬	シルデナフィルクエ ン酸塩	レバチオ錠20mg (ヴィアトリス)	20mg 1錠
外 用 薬	132 アレルギー性 鼻炎用ステロ イド点鼻薬	フルチカゾンフラン カルボン酸エステル	アラミスト点鼻液27.5 μ g56噴霧用 〃 120噴霧用 － － (グラクソ・スミスクライン)	3mg 6g 1キット 5mg 10g 1キット 3mg 6g 1瓶 (27.5 μ g56噴霧用) 5mg 10g 1瓶 (27.5 μ g120噴霧用)
	131 緑内障・高眼 圧症治療薬	タフルプロスト	タプロス点眼液0.0015% (参天)	0.0015% 1mL
	131 緑内障・高眼 圧症治療薬	タフルプロスト・チ モロールマレイン酸 塩	タプコム配合点眼液 (参天)	1mL タフチモ TM 配合点眼 液「NIT」
	131 ドライアイ治 療薬	レバミピド	ムコスタ点眼液UD 2% (大塚)	2% 5mL 1瓶

収載品目は官報に告示され、官報ホームページにも掲載されている（令和5年6月15日 官報
号外第126号 厚生労働省告示第213号 1頁～5頁）。

<https://kanpou.npb.go.jp/20230615/20230615g00126/20230615g001260001f.html>

後発医薬品調剤体制加算の算定要件となっている後発品数量シェアの算定の分母に組み入れられ
ることになる日

令和5年7月1日：アジルバ錠、セララ錠、レバチオ錠、アラミスト点鼻液

令和5年10月1日：タルセバ錠、アトーゼット配合錠、ノベルジン錠、ジュリナ錠、タプロス
点眼液、タプコム配合点眼液

※ムコスタ点眼液UD 2%は記載なし

詳細は厚労省ホームページを参照 (<https://www.mhlw.go.jp/topics/2023/04/tp20230401-01.html>)。

薬価基準収載品目リスト及び後発医薬品に関する情報について（令和5年6月16日適用）

目次5. その他（各先発医薬品の後発医薬品の有無に関する情報）

同時に先発医薬品の規格追加が官報告示されている。保険適用は6月16日より。

分類	医薬品名（会社名）	規格・単位	薬価(円)	規制	備考（成分、薬効）
429	ザイティガ錠500mg (ヤンセンファーマ)	500mg 1 T	7,287.30	劇 処	アピラテロン酢酸エステル 適応は、去勢抵抗性前立腺癌、内分 泌療法未治療のハイリスクの予後因 子を有する前立腺癌。 新規格（既発売品は、250mg）。

Ⅶ. 医薬品・医療機器等安全性情報 No.400（概要） 医薬・生活衛生局2023年4月20日

1. 濫用等のおそれのある医薬品の改正について

厚生労働大臣は、一般用医薬品等のうち、濫用等のおそれのある医薬品については、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律施行規則」（昭和36年厚生省令第1号）第15条の2の規定に基づき、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律施行規則第十五条の二の規定に基づき濫用等のおそれのあるものとして厚生労働大臣が指定する医薬品」（平成26年厚生労働省告示第252号）により指定している。

今般、その対象について、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律施行規則第十五条の二の規定に基づき濫用等のおそれのあるものとして厚生労働大臣が指定する医薬品の一部を改正する件」（令和5年厚生労働省告示第5号）により下表のとおり改正し、令和5年4月1日から適用することとした。

改正後	改正前
1. エフェドリン	1. エフェドリン
2. コデイン	2. コデイン（鎮咳去痰薬に限る。）
3. ジヒドロコデイン	3. ジヒドロコデイン（鎮咳去痰薬に限る。）
4. ブロモバレリル尿素	4. ブロムワレリル尿素
5. プソイドエフェドリン	5. プソイドエフェドリン
6. メチルエフェドリン	6. メチルエフェドリン（鎮咳去痰薬のうち、内用液剤に限る。）

2. 抗結核薬の「使用上の注意」の改訂について

米国にて、一部の抗結核薬の添付文書に薬剤逆説反応に関する注意喚起が追記されたことを契機に、抗結核薬について、本邦における電子化された添付文書（電子添文）改訂の必要性を検討し、厚生労働省は、製造販売業者に対して、令和5年3月23日に使用上の注意の改訂を指示する通知を発出した。

（薬剤逆説反応について）

結核の治療開始後、喀痰中の結核菌は減少又は陰性化しているにもかかわらず、胸部X線写真上陰影の増大、新しい陰影の出現、胸水の出現、縦隔又は頸部リンパ節の腫脹・増大等の所見が認められることがある。本事象は初期悪化やparadoxical reactionとも言われているが、国内副作用報告症例においては、治療初期に限らず本事象が発現していることから、薬剤逆説反応という用語にて注意喚起することとした。

本事象は、強力な化学療法により、急激に死滅した大量の結核菌の菌体に対する局所のアレレギーによるとの考えが支持されている。結核治療開始後に上記のような所見が認められても、分離された結核菌が感受性菌で、患者が規則的に薬剤を服用している場合には、化学療法を中止・変更する必要はなく、通常、結核治療の継続で3～6ヶ月後に改善が認められるとされている。

（検討内容について）

本邦で製造販売されている抗結核薬について、薬剤逆説反応関連の国内副作用報告症例を評価した結果、一部の抗結核薬において、結核治療開始後に、既存の結核が悪化又は結核症状が新規発現した症例が認められたが、いずれの症例も薬剤逆説反応として遅滞なく適切な対応がとられていた。

結核治療中の薬剤逆説反応は、本邦においては初期悪化として1970年代に提唱された古くから知られている事象であり、評価した国内副作用報告症例においても本事象への対処に特段の問題は認められなかったものの、専門家の意見も聴取した結果、以下の点を踏まえ、全ての抗結核薬を対象とし、電子添文の「使用上の注意」に薬剤逆説反応に関する注意喚起を追記する必要があると判断した。

- ・近年、結核の低蔓延化に伴い結核病床の廃止や減少が相次いでいること等から、結核治療経験の少ない医療従事者が増加傾向にあると予想されること。
- ・平成30年3月1日付け健感発0301第1号を踏まえ、結核指定医療機関以外においても結核治療を行う状況が予想されること。

- ・薬剤逆説反応の機序は、結核菌の菌体に対するアレルギーによるとの考えが支持されていることから、抗結核薬の有効成分による副作用という訳ではなく、治療中の経過として、上記に記載したような結核による既存の症状の悪化又は新規発現を認める可能性があること。

3. 重要な副作用等に関する情報（1件）

令和5年3月23日に改訂を指導した医薬品の使用上の注意のうち重要な副作用等について。

（1）ボロファラン（¹⁰B）：ステボロニン点滴静注バッグ9000mg/300mL（ステラファーマ）
〔薬効分類等〕 その他の腫瘍用薬
（新記載要領）

11. 副作用

11.1 重大な副作用（新設）

咽頭・喉頭浮腫

咽頭・喉頭浮腫があらわれ、気道の狭窄や閉塞を来すことがある。

（参考）

医薬品医療機器総合機構における副作用等報告データベースに登録された症例で因果関係が否定できないもの。

4例（うち死亡0例）

企業が推計した過去1年間の推定使用患者数：142人

販売開始：令和2年5月

4. 使用上の注意の改訂について（その340）

令和5年3月23日、3月27日に改訂を指導した医薬品等の使用上の注意について。

ボロファラン（¹⁰B） 他（6件）

5. 市販直後調査の対象品目一覧（令和5年2月末日現在）（略）

（参考資料）

医薬品（体外診断用医薬品を除く）使用上の注意における「褐色細胞腫」の用語について

電子化された添付文書（電子添文）の使用上の注意において、「褐色細胞腫」として注意喚起が行われている品目について、原則として「褐色細胞腫」を「褐色細胞腫又はパラガングリオーマ」に変更することとしたので、その内容について紹介する。

電子添文の使用上の注意においては、「褐色細胞腫」の用語を使用してきたが、「褐色細胞腫・パラガングリオーマ診療ガイドライン2018」（日本内分泌学会「悪性褐色細胞腫の実態調査と診療指針の作成」委員会 編集）において、従来、褐色細胞腫とパラガングリオーマの総称として慣用的に用いられてきた「褐色細胞腫」について、新たに「褐色細胞腫・パラガングリオーマ」と定義された。具体的には、同ガイドラインにおいて、副腎原発例は「褐色細胞腫（pheochromocytoma：PCC）」、副腎外の傍神経節由来では「パラガングリオーマ（paraganglioma：PGL）」とし、両者を包括する場合は「褐色細胞腫・パラガングリオーマ（pheochromocytoma・paraganglioma：PPGL）」とされている。

上記に伴い、既に使用上の注意において「褐色細胞腫」として注意喚起が行われている品目について、用語の見直しを検討した結果、現行の「褐色細胞腫」の記載を「褐色細胞腫又はパラガングリオーマ」に変更することとした。具体的な電子添文の改訂については、今後、製造販売業者において個別に検討され、独立行政法人医薬品医療機器総合機構に相談の上、実施することとしている。

Ⅷ. 医薬品・医療機器等安全性情報 No.401 (概要) 医薬・生活衛生局2023年5月18日

1. レニン-アンジオテンシン系阻害作用を有する医薬品の使用上の注意の改訂について

レニン-アンジオテンシン系阻害作用を有する医薬品(RA系阻害剤)には、アンジオテンシン変換酵素阻害剤(ACE阻害剤)、アンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤(ARB)、アンジオテンシン受容体ネプリライシン阻害剤及び直接的レニン阻害剤があり、高血圧症、慢性心不全等の治療に広く使用されている。

令和5年5月9日に、厚生労働省は「使用上の注意」の改訂指示通知を発出し、妊娠する可能性のある女性には治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること及び妊娠する可能性がある女性に投与が必要な場合の注意事項を追記等するよう、RA系阻害剤の製造販売業者に対して指示したので、その内容等について紹介する。

(経緯)

RA系阻害剤は、妊婦又は妊娠している可能性のある女性は禁忌に設定されており、投与中に妊娠が判明した場合には直ちに投与を中止するよう注意喚起されている。これは、妊娠中期以降にACE阻害剤又はARBを投与された患者で羊水過少症、胎児・新生児の死亡、新生児の低血圧、腎不全、高カリウム血症、頭蓋の形成不全及び羊水過少症によると推測される四肢の拘縮、頭蓋顔面の奇形、肺の発育不全等があらわれたとの報告があることなどによる。

また、2014年9月には、国内において、妊娠の判明以降もACE阻害剤又はARBの服用を継続している症例、胎児への影響が疑われる症例が複数例報告されていることから、独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)から「PMDAからの医薬品適正使用のお願い」No.10(アンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤(ARB)及びアンジオテンシン変換酵素(ACE)阻害剤の妊婦・胎児への影響について)が発出されるなど、妊婦等に投与しないよう注意喚起されている。しかし、その後も、継続的に同様の症例が報告されており、その中には妊娠したことが把握されずこれらの医薬品が投与された症例も認められている。

(妊娠する可能性のある女性への注意事項について)

今回の「使用上の注意」の改訂において、RA系阻害剤については、妊娠する可能性のある女性への注意事項として、以下の内容を追加した。

- 妊娠する可能性のある女性に投与する場合には、本剤の投与に先立ち、代替薬の有無等も考慮して本剤投与の必要性を慎重に検討し、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与してください。
- 投与が必要な場合には次の注意事項に留意してください。
 - (1)本剤投与開始前に妊娠していないことを確認すること。本剤投与中も、妊娠していないことを定期的に確認すること。投与中に妊娠が判明した場合には、直ちに投与を中止すること。
 - (2)次の事項について、本剤投与開始時に患者に説明すること。また、投与中も必要に応じ説明すること。
 - ・妊娠中に本剤を使用した場合、胎児・新生児に影響を及ぼすリスクがあること。
 - ・妊娠が判明した又は疑われる場合は、速やかに担当医に相談すること。
 - ・妊娠を計画する場合は、担当医に相談すること。

2. 病院及び薬局における医薬品安全性情報の入手・伝達・活用状況等に関する調査結果と望まれる方向について

PMDAでは、講じた安全対策措置が確実に実施され、より一層患者の安全が図られるよう、医療機関等における安全性情報の入手・伝達・活用状況を把握し、安全性情報の利活用推進に向けた方策を検討することを目的とした調査を平成22年度より実施している。

令和4年度調査においては、令和3年8月に施行された医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律(昭和35年法律第145号)の改正に伴う添付文書電子化が、医薬品安全性情報の入手、伝達や医薬品リスク管理計画(Risk Management Plan「RMP」)等のリスクコミュニケーションツールの利活用状況に及ぼす影響にも着目した。本稿では、1)添付文書電子化に伴う情報入手、前回の調査(平成29年度調査)において課題とされた2)RMPの理解・活用状況、3)重要な情報の網羅的入手に関する調査結果とその考察(望まれる方向)について紹介する。

3. 重要な副作用等に関する情報（4件）

令和5年5月9日に改訂を指導した医薬品の使用上の注意のうち重要な副作用等について。

（1）

○アンジオテンシン変換酵素阻害剤：

- ①アラセプリル：セタプリル錠25mg等（住友ファーマ等）
- ②イミダプリル塩酸塩：タナトリル錠2.5・5・10等（田辺三菱等）
- ③エナラプリルマレイン酸塩：レニベース錠2.5・5・10等（オルガノン等）
- ④カプトプリル：カプトリル錠12.5mg・25mg、細粒5%、Rカプセル18.75mg等（アルフレッサファーマ等）
- ⑤テモカプリル塩酸塩：エースコール錠1mg・2mg・4mg等（アルフレッサファーマ等）
- ⑥デラプリル塩酸塩：アデカット7.5mg錠・15mg錠・30mg錠等（武田テバ等）
- ⑦トランドラプリル：オドリック錠0.5mg・1mg等（日本新薬等）
- ⑧ベナゼプリル塩酸塩：チバセン錠2.5mg・5mg・10mg等（サンファーマ等）
- ⑨ペリンドプリルエルブミン：コバシル錠2mg・4mg等（協和キリン等）
- ⑩リシノプリル水和物：ゼストリル錠5・10・20等（アストラゼネカ等）
ロンゲス錠5mg・10mg・20mg等（共和薬品等）

○アンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤含有製剤：

- ①アジルサルタン：アジルバ錠10mg・20mg・40mg、顆粒1%等（武田等）
- ②イルベサルタン：アバプロ錠50mg・100mg・200mg等（住友ファーマ等）
イルベタン錠50mg・100mg・200mg等（シオノギファーマ等）
- ③オルメサルタン メドキシミル：オルメテックOD錠5mg・OD錠10mg・OD錠20mg・OD錠40mg等（第一三共等）
- ④カンデサルタン シレキセチル：プロプレス錠2・4・8・12等（武田テバ等）
- ⑤テルミサルタン：ミカルディス錠20mg・40mg・80mg等（日本ベーリンガーインゲルハイム等）
- ⑥バルサルタン：ディオバンOD錠20mg・OD錠40mg・OD錠80mg・OD錠160mg、錠20mg・40mg・80mg・160mg等（ノバルティスファーマ等）
- ⑦ロサルタンカリウム：ニューロタン錠25mg・50mg・100mg等（オルガノン等）
- ⑧アジルサルタン・アムロジピンベシル酸塩：ザクラス配合錠LD・HD等（武田等）
- ⑨イルベサルタン・アムロジピンベシル酸塩：アイミクス配合錠LD・HD等（住友ファーマ等）
- ⑩イルベサルタン・トリクロルメチアジド：イルトラ配合錠LD・HD等（シオノギファーマ等）
- ⑪オルメサルタン メドキシミル・アゼルニジピン：レザルタス配合錠LD・HD等（第一三共等）
- ⑫カンデサルタン シレキセチル・アムロジピンベシル酸塩：ユニシア配合錠LD・HD等（武田テバ等）
- ⑬カンデサルタン シレキセチル・ヒドロクロロチアジド：エカード配合錠LD・HD等（武田テバ等）
- ⑭テルミサルタン・アムロジピンベシル酸塩：ミカムロ配合錠AP・BP等（日本ベーリンガーインゲルハイム等）
- ⑮テルミサルタン・アムロジピンベシル酸塩・ヒドロクロロチアジド：ミカトリオ配合錠（日本ベーリンガーインゲルハイム等）
- ⑯テルミサルタン・ヒドロクロロチアジド：ミコンビ配合錠AP・BP等（日本ベーリンガーインゲルハイム等）
- ⑰バルサルタン・アムロジピンベシル酸塩：エックスフォージ配合OD錠、配合錠等（ノバルティスファーマ等）
- ⑱バルサルタン・シルニジピン：アテディオ配合錠（EAファーマ）
- ⑲バルサルタン・ヒドロクロロチアジド：コディオ配合錠MD・EX等（ノバルティスファーマ等）
- ⑳ロサルタンカリウム・ヒドロクロロチアジド：プレミネント配合錠LD・HD等（オルガノン等）

○直接的レニン阻害剤：

- ①アリスキレンフマル酸塩：ラジレス錠150mg（オーファンパシフィック）

〔薬効分類等〕 血圧降下剤、血管拡張剤

(旧記載要領)

妊婦、産婦、授乳婦等への投与（新設）

妊娠する可能性のある女性に投与する場合には、本剤の投与に先立ち、代替薬の有無等も考慮して本剤投与の必要性を慎重に検討し、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。また、投与が必要な場合には次の注意事項に留意すること。

- (1)本剤投与開始前に妊娠していないことを確認すること。本剤投与中も、妊娠していないことを定期的に確認すること。投与中に妊娠が判明した場合には、直ちに投与を中止すること。
- (2)次の事項について、本剤投与開始時に患者に説明すること。

また、投与中も必要に応じ説明すること。

- ・妊娠中に本剤を使用した場合、胎児・新生児に影響を及ぼすリスクがあること。
- ・妊娠が判明した又は疑われる場合は、速やかに担当医に相談すること。
- ・妊娠を計画する場合は、担当医に相談すること。

〔妊娠していることが把握されずアンジオテンシン変換酵素阻害剤又はアンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤を使用し、胎児・新生児への影響（腎不全、頭蓋・肺・腎の形成不全、死亡等）が認められた例が報告されている。〕

(新記載要領)

9. 特定の背景を有する患者に関する注意

9. 4 生殖能を有する者（新設）

妊娠する可能性のある女性

妊娠していることが把握されずアンジオテンシン変換酵素阻害剤又はアンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤を使用し、胎児・新生児への影響（腎不全、頭蓋・肺・腎の形成不全、死亡等）が認められた例が報告されている。

本剤の投与に先立ち、代替薬の有無等も考慮して本剤投与の必要性を慎重に検討し、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。また、投与が必要な場合には次の注意事項に留意すること。

- (1)本剤投与開始前に妊娠していないことを確認すること。本剤投与中も、妊娠していないことを定期的に確認すること。投与中に妊娠が判明した場合には、直ちに投与を中止すること。
 - (2)次の事項について、本剤投与開始時に患者に説明すること。また、投与中も必要に応じ説明すること。
- ・妊娠中に本剤を使用した場合、胎児・新生児に影響を及ぼすリスクがあること。
 - ・妊娠が判明した又は疑われる場合は、速やかに担当医に相談すること。
 - ・妊娠を計画する場合は、担当医に相談すること。

(参考)

医薬品医療機器総合機構における副作用等報告データベースに登録された症例で因果関係が否定できないもの。

○アンジオテンシン変換酵素阻害剤 1例【死亡0例】

- ①アラセプリル 0例 ②イミダプリル塩酸塩 0例
- ③エナラプリルマレイン酸塩 1例【死亡0例】
- ④カプトプリル 0例 ⑤テモカプリル塩酸塩 0例 ⑥デラプリル塩酸塩 0例
- ⑦トランドラプリル 0例 ⑧ベナゼプリル塩酸塩 0例
- ⑨ペリンドプリルエルブミン 0例 ⑩リシノプリル水和物 0例

○アンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤含有製剤 23例【死亡7例】

- ①アジルサルタン 1例【死亡0例】 ②イルベサルタン 0例
- ③オルメサルタン メドキシミル 6例【死亡4例】
- ④カンデサルタン シレキセチル 6例【死亡2例】
- ⑤テルミサルタン 2例【死亡0例】 ⑥バルサルタン 3例【死亡0例】
- ⑦ロサルタンカリウム 3例【死亡0例】
- ⑧アジルサルタン・アムロジピンベシル酸塩 0例
- ⑨イルベサルタン・アムロジピンベシル酸塩 0例
- ⑩イルベサルタン・トリクロルメチアジド 0例

- ⑪オルメサルタン メドキシミル・アゼルニジピン 1例【死亡0例】
- ⑫カンデサルタン シレキセチル・アムロジピンベシル酸塩 0例
- ⑬カンデサルタン シレキセチル・ヒドロクロロチアジド 0例
- ⑭テルミサルタン・アムロジピンベシル酸塩 0例
- ⑮テルミサルタン・アムロジピンベシル酸塩・ヒドロクロロチアジド 0例
- ⑯テルミサルタン・ヒドロクロロチアジド 0例
- ⑰バルサルタン・アムロジピンベシル酸塩 1例【死亡1例】
- ⑱バルサルタン・シルニジピン 0例
- ⑲バルサルタン・ヒドロクロロチアジド 1例【死亡0例】
- ⑳ロサルタンカリウム・ヒドロクロロチアジド 0例

○直接的レニン阻害剤

- ①アリスキレンフマル酸塩 0例

企業が推計した過去1年間の推定使用患者数：種類が多いため省略

販売開始：種類が多いため省略

(2) アンジオテンシン受容体ネプリライシン阻害剤

- ①サクビトリルバルサルタンナトリウム水和物：エンレスト錠50mg・100mg・200mg
(ノバルティスファーマ)

〔薬効分類等〕 血圧降下剤、その他の循環器官用薬

(新記載要領)

9. 特定の背景を有する患者に関する注意

9.4 生殖能を有する者

妊娠する可能性のある女性

妊娠していることが把握されずアンジオテンシン変換酵素阻害薬又はアンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬を使用し、胎児・新生児への影響（腎不全、頭蓋・肺・腎の形成不全、死亡等）が認められた例が報告されている。

本剤の投与に先立ち、代替薬の有無等も考慮して本剤投与の必要性を慎重に検討し、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。また、投与が必要な場合には次の注意事項に留意すること。

- (1) 本剤投与開始前に妊娠していないことを確認すること。本剤投与中も、妊娠していないことを定期的に確認すること。投与中に妊娠が判明した場合には、直ちに投与を中止すること。
- (2) 次の事項について、本剤投与開始時に患者に説明すること。また、投与中も必要に応じ説明すること。
 - ・ 妊娠中に本剤を使用した場合、胎児・新生児に影響を及ぼすリスクがあること。
 - ・ 本剤投与中及び本剤投与終了後一定期間は適切な避妊を行うこと。
 - ・ 妊娠が判明した又は疑われる場合は、速やかに担当医に相談すること。
 - ・ 妊娠を計画する場合は、担当医に相談すること。

(参考)

医薬品医療機器総合機構における副作用等報告データベースに登録された症例で因果関係が否定できないもの。

アンジオテンシン受容体ネプリライシン阻害剤

- ①サクビトリルバルサルタンナトリウム水和物 0例

企業が推計した過去1年間の推定使用患者数：種類が多いため省略

販売開始：種類が多いため省略

(3) メサラジン：①リアルダ錠1200mg（持田）、②アサコール錠400mg（ゼリア新薬）

- ③ペンタサ錠250mg・500mg、顆粒94%、坐剤1g、注腸1g（杏林）等

〔薬効分類等〕 その他の消化器官用薬

(旧記載要領)

副作用（重大な副作用）（新設）

中毒性表皮壊死融解症 (Toxic Epidermal Necrolysis: TEN)、皮膚粘膜眼症候群 (Stevens-Johnson症候群) :

中毒性表皮壊死融解症、皮膚粘膜眼症候群があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

薬剤性過敏症症候群 :

初期症状として発疹、発熱がみられ、更に肝機能障害、リンパ節腫脹、白血球増加、好酸球増多、異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状があらわれることがある。なお、ヒトヘルペスウイルス6 (HHV-6) 等のウイルスの再活性化を伴うことが多く、投与中止後も発疹、発熱、肝機能障害等の症状が再燃あるいは遷延化することがあるので注意すること。

(新記載要領)

11. 副作用

11.1 重大な副作用 (新設)

中毒性表皮壊死融解症 (Toxic Epidermal Necrolysis: TEN)、皮膚粘膜眼症候群 (Stevens-Johnson症候群)

薬剤性過敏症症候群

初期症状として発疹、発熱がみられ、更に肝機能障害、リンパ節腫脹、白血球増加、好酸球増多、異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状があらわれることがある。なお、ヒトヘルペスウイルス6 (HHV-6) 等のウイルスの再活性化を伴うことが多く、投与中止後も発疹、発熱、肝機能障害等の症状が再燃あるいは遷延化することがあるので注意すること。

(参考)

医薬品医療機器総合機構における副作用等報告データベースに登録された症例で因果関係が否定できないもの。

10例 (うち死亡0例)

企業が推計した過去1年間の推定使用患者数 : ①約42,000人 ②約40,200人 ③約198,477人

販売開始 : ①リアルダ錠1200mg : 2016年11月 ②アサコール錠400mg : 2009年12月

③ペンタサ錠250mg : 1996年7月、錠500mg : 2008年10月、顆粒94% : 2015年12月、坐剤1g : 2013年6月、注腸1g : 2003年6月

(4) 酢酸亜鉛水和物 : ノベルジン錠25mg・50mg、顆粒5% (ノーベルファーマ) 等

[薬効分類等] 解毒剤

(新記載要領)

11. 副作用

11.1 重大な副作用 (新設)

胃潰瘍

出血を伴う胃潰瘍があらわれることがある。

(参考)

医薬品医療機器総合機構における副作用等報告データベースに登録された症例で因果関係が否定できないもの。

7例 (うち死亡0例)

企業が推計した過去1年間の推定使用患者数 :

ウィルソン病 : 約250人 低亜鉛血症 : 約98,000人

販売開始 : 錠25mg・50mg : 2015年2月、顆粒5% : 2023年2月

4. 使用上の注意の改訂について (その341)

令和5年5月9日に改訂を指導した医薬品等の使用上の注意について。

サクビトリアルバルサルタンナトリウム水和物 他 (7件)

5. 市販直後調査の対象品目一覧 (令和5年3月末日現在) (略)



福岡県薬剤師会薬事情報センター @fukuoka_pic

最新の情報をTwitterで発信しています。 #fpic



IX. 定期購読雑誌の紹介

薬事情報センターで定期購読している医薬関連雑誌のうち、以下の雑誌に掲載されている特集の表題をご紹介します。

雑誌名	特集の表題
月刊薬事 2023年5月号 Vol.65 No.6 2023	■ 特集にあたって 特集1 気になるがん治療の最新Topics ■ 支持療法の最前線 ■ がん患者とCOVID-19 ■ オンコカルディオロジー（腫瘍循環器学）その概念とエッセンス ■ サイコオンコロジー ■ がんゲノム医療 ■ がん治療におけるバイオシミラー ■ がん領域での薬剤師に関わる診療報酬 ■ PRO-CTCAE 特集2 免疫チェックポイント阻害薬の使い方&irAE対策 ■ 免疫チェックポイント阻害薬（ICI） ○ 免疫チェックポイント阻害薬（ICI）の位置づけと特徴 ○ ICIの薬物動態と投与設計 ペムブロリズマブ ○ ICI併用療法のポイント ■ 臓器別にみるICIの使い方 ○ 肺がん ○ 泌尿器がん ○ 消化管がん（食道がん、胃がん、大腸がん） ○ 婦人科がん ■ 免疫関連有害事象（irAE）対策 ○ irAEの症状と発現時期 早期に発見・治療を開始するために ○ irAEの対策・対応 ○ irAEフォローアップ 退院時指導、保険薬局との情報交換・連携
月刊薬事 2023年6月号 Vol.65 No.8 2023	抗真菌薬選択がよくわかる 表在性皮膚真菌症・深在性真菌症の薬物治療 ■ 特集にあたって ■ 総論 ○ 真菌感染症診療Over view 真菌感染症の現状と治療の課題 ■ 検査 ○ 血液検査の基本知識 ○ 培養の基礎知識 ○ 深在性真菌症の病理の基礎知識 ■ 抗真菌薬の投与設計 ○ 抗真菌薬の薬物動態の特徴 ○ 抗真菌薬の薬物相互作用 ○ 適切な投与設計とTDM 抗菌薬TDM臨床実践ガイドライン2022のポイント ○ 抗真菌薬の使用量調査からみえる投与計画の問題点 ○ 侵襲性カンジダ症に対する診断・治療ガイドラインバンドル（ACTIONs Bundle 2014）薬剤師の活用法 ■ 表在性皮膚真菌症の薬物治療 ○ 爪白癬 ○ 頭部白癬、体部白癬、足白癬 ○ 皮膚カンジダ症 ○ 口腔カンジダ症 ○ 外陰部カンジダ症 ■ 深在性真菌症の薬物治療 ○ 侵襲性カンジダ症 ○ アスペルギルス症 ○ クリプトコックス症 ○ ムーコル症 ○ ニューモシスチス肺炎 ○ 抗真菌薬の予防投与

雑誌名	特集の表題
2023年5月号 Vol.74 No.6 2023 薬局	硬すぎず、ゆるすぎない やさしい便秘・下痢サポート術 ■ 特集にあたって ■ 便秘編 ① 便秘を知る ○ 機序別・便秘の種類 ○ 原因別・便秘の種類 ② これってただの便秘ですか？～受診勧奨する？しない？～ ③ 便秘薬の種類と特徴を学ぼう！ ④ オピオイド誘発性便秘症の治療 ⑤ 場面別で学ぶ！便秘薬の使い方・患者指導のポイント ○ 服用タイミングの自己調節が難しい ○ 妊婦の便秘 ○ 小児の便秘 ○ 病棟の便秘 ■ 下痢編 ① 下痢を知る ○ 機序別・下痢の種類 ○ 原因別・下痢の種類 ② これってただの下痢ですか？～受診勧奨する？しない？～ ③ 止痢薬の種類と特徴を学ぼう！ ④ 場面別で学ぶ！止痢薬の使い方・患者指導のポイント ○ 薬剤性の下痢が疑われる場合の医師との連携 ○ 抗がん薬治療中など、下痢の発生が予想される場合 ■ 実践！薬剤師・医療スタッフができるサポート編 ① おなかによい生活習慣とは？患者さんにどう伝える？ ② プロバイオティクスの効果と取り入れ方 ③ 周術期の下剤のトラブルに対処する ④ 新型コロナウイルス感染患者の排便トラブルに対処する ■ おさらい編 ① いまさら聞けない?! 消化管のはたらきと糞便形成 ② いまさら聞けない?! 脳腸相関 ③ いまさら聞けない?! どうして月経時に下痢をしやすい？ ④ いまさら聞けない?! 坐剤・浣腸の正しい取り扱い
2023年6月号 Vol.74 No.7 2023	みるみるわかる 眼とくすり 点眼剤から、眼科の副作用をまとめました ■ 特集にあたって ■ 見てわかる眼のしくみ ① 眼球とその周囲のつくりとはたらき ② 「見える」がわかる！－近視、遠視、乱視のしくみも添えて－ ③ 眼によい生活習慣・食習慣はありますか？ ④ 眼の病気に早く気づくには？ ⑤ 眼科に行くと何がわかる？ ■ 1滴に込められた点眼剤のワザとヒミツ ① 点眼剤は、どう吸収される？ ② 点眼剤は、どこへ行く？ ③ 点眼剤のさし心地・痛み ④ 界面活性剤のかたち－ベンザルコニウム塩化物を例に－ ⑤ 点眼剤を角膜透過させるかたち ⑥ 点眼剤に添加されている防腐剤は少ない方がよい？ ⑦ 基剤の性質の違いで理解する！点眼順序 ⑧ 点眼剤の物性に応じた保管方法・取り扱い ⑨ そのさし方、誰が教えた？点眼指導のコツとピットフォール ⑩ 継続的に適切な点眼をサポートしよう！トレーニングレポートの活用と連携 ■ 用語解説！眼や視覚に現れるくすりの副作用 ① 流涙 ② 眼の痛み、ごろつき ③ 羞明 ④ 霧視、変視症 ⑤ 飛蚊症、光視症 ⑥ 眼脂 ⑦ 睫毛乱生、睫毛長生化

雑誌名	特集の表題
2023年5月号 Vol.111 No.5 2023 診断と治療	甲状腺疾患アップデート：明日から役立つ最新知見 ■ ねらい ■ 甲状腺疾患診療の基本 ○ 甲状腺疾患を見逃さないためのアプローチ ■ 検査の進歩 ○ 甲状腺ホルモン（T₄、T₃）およびTSHの小児、成人、高齢者、妊婦の基準範囲 ○ TSHのハーモナイゼーション ○ 甲状腺機能検査に乖離を認めた場合 ■ Basedow病治療の新たな展開 ○ Basedow病抗甲状腺薬治療 ○ Basedow病に対する無機ヨウ素治療 ○ 抗甲状腺薬と催奇形性 ○ Basedow病 ¹³¹I 内用療法 ○ Basedow病眼症の診断と治療 ■ 甲状腺機能低下症治療の進歩 ○ 甲状腺機能低下症の治療 ○ 妊娠希望時の甲状腺機能のコントロール ■ 遺伝子異常および腫瘍関係の新知見 ○ 甲状腺遺伝子異常 ○ 甲状腺腫瘍の病理組織分類と遺伝子変異 ○ 低リスク甲状腺乳頭癌の取り扱い ○ 進行・再発甲状腺癌に対する分子標的薬治療と光免疫療法 ■ トピックス ○ 薬剤性甲状腺機能異常症：抗PD-1抗体による甲状腺障害の基礎と臨床 ○ COVID-19と甲状腺疾患
2023年6月号 Vol.111 No.6 2023	知っておきたい関節痛のみかた・考えかた ■ ねらい ■ 関節痛から疾患を考える ○ 関節痛の診断学 ○ 膝関節痛で考えるべき疾患とその鑑別法 ○ 股関節痛で考えるべき疾患とその鑑別法 ○ 足関節痛で考えるべき疾患とその鑑別法 ○ 足趾の痛みで考えるべき疾患とその鑑別法 ○ 肩関節痛で考えるべき疾患とその鑑別法 ○ 肘関節痛で考えるべき疾患とその鑑別法 ○ 手関節痛で考えるべき疾患とその鑑別法 ○ 手指の痛みで考えるべき疾患とその鑑別法 ○ 小児の関節痛のみかた ■ 疾患から関節痛を考える ○ 関節リウマチの診断と関節リウマチと間違われやすい疾患 ○ 乾癬性関節炎における関節症状の特徴 ○ 強直性脊椎炎ならびにX線基準を満たさない体軸性脊椎関節炎の関節症状の特徴 ○ 痛風・偽痛風 ○ 高齢発症の関節リウマチ ■ 実際の診察室で困ること ○ 抗CCP抗体陰性の単関節炎をどうみるか ○ 関節痛をきたす患者をいつ外科医へコンサルトすべきか

雑誌名	特集の表題
調剤と情報	2023年5月号 Vol.29 No.6 2023 薬局から発信するエビデンス 薬剤師の臨床研究 ■ 特集にあたって ① 薬局薬剤師が臨床研究に取り組む意義と現状 ② 臨床研究の全体像をつかむ－10のステップ ■ 臨床研究が論文投稿されるまで ③ クリニカルクエスチョン (CQ) とリサーチクエスチョン (RQ) の見つけ方 ④ 論文の検索から取得まで－自分に必要な文献を見つけるテクニック ⑤ データの読み方 ⑥ 研究方法・研究デザイン ⑦ 研究倫理 ⑧ 研究のまとめ方と学会発表 ⑨ 論文投稿 ■ 研究の環境を整える ⑩ 本部部門で勤務しながら研究を行った一例 ⑪ 精神科領域に興味をもった調剤薬局薬剤師の研究活動について ⑫ 学際的研究のすすめ－薬というモノの先にある事象
	2023年6月号 Vol.29 No.8 2023 さまざまな視点で考える 在宅医療と患者の目標達成 ■ 特集にあたって ① 患者の目標達成のためにできる薬剤師のアプローチ ② 患者の目標達成のための多職種協働 ③ 地域の多職種連携会議 ■ それぞれの視点でみる患者の目標 ④ 医師・看護師・薬剤師のチームで疼痛コントロールに取り組んだ症例 ⑤ もっといきたい－胆管がん末期患者さんの想い ⑥ 独居で認知機能の低下があっても自宅で最後まで過ごすための支援とは ⑦ 「自宅で安らかに亡くなりしたい」という想いのために ⑧ 患者の何気ない日常の楽しみを取り戻すための多職種協働アプローチ ⑨ 多職種協働による患者の目標達成と薬局のコストについての考察 ⑩ 多職種連携と情報共有ツール ⑪ 在宅医療チームに薬剤師が存在する意義－ACP、デスカンファレンスも含めて
週刊日本医事新報	No.5166 2023/4/29 一般臨床医が知っておくべき過敏性肺炎
	No.5167 2023/5/6 産業医が行うがん患者の就労支援
	No.5168 2023/5/13 YUMINO流 心不全の在宅管理－5つのポイント 手術以外の入院ゼロをめざす
	No.5169 2023/5/20 フレイル・サルコペニアを考慮した高齢者の肥満症対策
	No.5170 2023/5/27 高年齢労働者の労災防止対策－産業医はココに注意
	No.5171 2023/6/3 エコーを使った排尿障害の診かた
	No.5172 2023/6/10 〈オンライン診療レベルアップ〉 オンライン聴診の使い方と有用性
	No.5173 2023/6/17 内科医が知っておくべき移行期医療の実際

完全掲載

第125回臨時総会議事録

令和5年4月15日（土）に開催された第125回福岡県薬剤師会臨時総会については、県薬会報5-6月号の付議事項に既報の通であるが、今月号で詳しい議事内容を報告する。

〔総会次第〕

1. 開 会
2. 仮議長登壇
3. 正副議長選出
4. 正副議長登壇・挨拶
5. 会長挨拶
6. 議 事
 - (1) 報 告
 - 第1号 公益社団法人福岡県薬剤師会代議員選挙及び予備の代議員選挙結果報告
 - (2) 議 案
 - 第1号 公益社団法人福岡県薬剤師会会長候補者選挙の件
 - 第2号 公益社団法人福岡県薬剤師会役員報酬等規程の一部変更の件
7. 閉 会

出席代議員

（福岡市）田中泰三、木原太郎、楠本哲也、西泊由紀子、中野達也、小西秀平、生熊真美子、高丘幸秀、栗岡慎一郎、磯本昌章、平島裕一郎、山口祐史、春日晃、藤島一寿、財津孝次、長迫信一、山村伸也、吉田武夫、木下大輔、山本和宏、柴山和弘、古賀友一郎、中村智海、槇林智子（宗像）坂口尚登、最上雄史、高木義明（粕屋）密谷英里、山口善久（筑紫）今給黎修、小塚訓靖、隅田一久（糸島）吉永浩明、細川禎久（朝倉）森田亮、小澤隆志（久・三）白木秀和、福元哉史、今村葉子、吉永美恵、園田茂、満安徽也、古賀義浩（八・筑）森健司、渡辺健一、水上征貢（浮羽）関恒彦（柳・山）田島耕一、米良泰貞（大・三）月俣怜生基、内田政光（大牟田）白本健司、近藤崇之、松本健太郎、鮫島永行（若松）森重文弘、三ツ木健恭（八幡）里村尚俊、安木南、上山沙耶歌、工藤信孝、松田敏克、星野正俊、藤本正憲、丸岡靖典（戸畑）安田和義、



総会議事録

倉石恵利子（小倉）有吉ちさと、伊藤孝泰、大場崇、連石信、平川剛、森康弘、山田真裕、平本麻子（門司）松丸博幸、小橋二郎（京都）山口哲平、安部誠（豊・築）吉水仁（飯塚）安中祐二、隠塚栄次、野田聡、安田裕司（直・鞍）岸高正英、宮坂圭三（田川）島田良知、久保博志（県庁）前田和紀、濱崎光宏、岩本尚志

出席地区会長

（朝倉）新留孝一（北九州市）小野春夫

出席役員

（会長）原口亨（副会長）高木淳一、宮崎寿、神村英利、宮谷英記、成重賢司（専務理事）小田真稔（常務理事）有吉俊二、山口信也、千代丸康重、後藤渉、中原学、原口恵子、竹野将行、田城涼子、永嶋友洋、岸田義博、濱寛（理事）田尻泰典、江川孝、西村信弘、石井裕太、有吉浩文、岡村由紀子、仙敷義和、星野崇、窪田敏夫、馬場渉、吉村宏、石橋正次、永原一史、藤浦大介、小林大介、高橋典子、高瀬真悟、清水敦、井上正太、杉岡勇樹、高橋俊輔

（監事）三浦公則

選挙管理委員長

井上嘉明

1. 開 会

司会（高橋理事） 本日の司会を担当いたします、理事の高橋です。最後までよろしくお願いします。



現在の出席状況につきまして、小田専務理事より報告をお願いします。

小田専務理事 現在の出席状況は、代議員数110人に対して、出席者91人および書面表決提出者16人の合計107人で、過半数以上の出席者であり、本総会が成立していることを報告します。



司会 第125回公益社団法人福岡県薬剤師会臨時総会の開会挨拶を成重副会長にお願いします。

開会の辞

成重副会長 本日は総会の正副議長の選出のほか、次期の会長候補者の選出がございしますので、慎重なご審議をよろしくお願いします。



それでは、第125回臨時総会を開催

します。

仮議長選出

司会 総会の議長および副議長の任期ですが、定款第19条第3項により、代議員の任期に準じるとされ、2月6日に終了した今期代議員選挙に伴い、春日議長、平川副議長の任期は終了しております。

したがいまして、本日より今期代議員の任期までとする正副議長を選出していただき、本総会の議事を進めていくわけですが、その正副議長が選出されるまでの議事を進めていくために、まず仮議長をお選びいただきたいと思います。

仮議長については、総会運営規則第5条に「議長

及び副議長が欠けた場合は、議長が選出するまでの間、議事運営委員会が指名した者が仮議長を務めるものとする」となっております。

そこで、事前に議事運営委員会で協議していただいておりますので、協議内容を報告していただきたいと思います。

古賀議事運営委員長、どうぞ。

古賀議事運営委員長 3月30日に開催されました総会議事運営委員会におきまして委員長に選出されました。どうぞよろしくお願いいたします。

総会議事運営委員会で仮議長について協議を行いました結果、福岡市薬剤師会の田中泰三代議委員を仮議長に推薦したいと思います。

司会 ご異議はございませんでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

司会 それでは、田中代議委員、恐れ入りますが、仮議長をお引き受け願います。

(拍手)

2. 仮議長登壇

田中仮議長 只今ご指名いただきました福岡市薬剤師会の田中です。仮議長を務めさせていただきます。

先ほど、小田専務理事から総会の出席状況について報告がございましたが、代議員定数110人に対し出席者84人、また、事務局の報告によりますと、書面表決による出席者は16人の合計100人であり、過半数の出席者であることを、あらためてご報告申し上げます。

次に、議事録署名人を議長より指名させていただきます。

定款第24条の規定により、議事録署名人は会議に出席した代議員のうちから選出された2人です。

それでは、42番 隅田一久代議委員、64番 内田政

光代議委員にお願いします。

(了解の声)

3. 正副議長選出

田中仮議長 これより議長、副議長の選出を行います。

福岡県薬剤師会総会議長および副議長選出規程の第7条の規定により、3月24日付けで通知された候補者には、議長に春日晃代議員1人が立候補されております。また、副議長には平川剛代議員の1人が立候補されております。

それでは、まず議長の選出です。

議長および副議長の選出規程第9条によりますと、「候補者が1人のときは、出席者の過半数の賛成により、投票を省略して選出することができる」との定めがございます。

それでは、皆様にお諮りいたします。

議長および副議長選出規程第9条の規定に基づき、投票省略により議長の選出を行いたいと思いますが、ご異議はございませんでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

それでは、念のため挙手で採決いたします。

春日晃代議員を議長とすることに賛成の方は挙手をお願いします。

(挙手)

挙手多数と認めます。

よって、春日晃代議員が今期の議長に選出されました。

次に、副議長の選出です。

議長と同様に、「候補者が1人のときは、出席者の過半数の賛成により、投票を省略して選出することが出来る」との定めがございます。

それでは、皆様にお諮りいたします。

議長および副議長選出規程第9条の規定に基づき、投票省略により副議長の選出を行いたいと思います

総会議事録

が、ご異議はございませんでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

それでは、念のため挙手で採決いたします。平川剛代議員を副議長とすることに賛成の方は挙手をお願いします。

(挙手)

挙手多数と認めます。

よって、平川剛代議員が今期の副議長に選出されました。

これをもちまして、議長および副議長の選出を終了します。

(拍手)

司会 それでは、次に会長から正副議長に当選状を交付していただきますので、原口会長、春日議長、平川副議長、前にお進み下さい。

〔当選状交付〕 (拍手)

司会 それでは、正副議長は登壇いただき、就任のご挨拶をお願いします。

4. 正副議長登壇挨拶

春日議長 議長に選出されました春日でございます。



昨年まで1期2年間務めさせていただきましたが、今回、福岡市薬剤師会から推薦をいただき、2期目を務めさせていただくことになりました。

議長として民主的で中立公正な議事を進めてまいりたいと思います。過去3年間はコロナ禍により通常の総会が開催できず、直近の2年間はほとんど書面表決による承認という状況でしたが、本日は以前と同じ出席者数での開催ですので、良い議論ができるものと期待しています。議事が円滑に進められるよう、皆様のご協力をお願いします。

(拍手)

平川副議長 副議長に再選していただきました小倉薬剤師会の平川です。議長を補佐し、代議員の皆様による自由闊達な議論が行えるような運営に努めてまいりますので、よろしくお願いします。



(拍手)

春日議長 議事日程ですが、定款第25条による総会運営規則に基づいて、3月30日に総会議事運営委員会を開催し、議事日程について協議しています。

まず初めに、現在の各ブロックの委員を紹介します。

福岡ブロック 古賀友一郎代議委員、筑後ブロック 白木秀和代議委員、北九州ブロック 星野正俊代議委員、筑豊ブロック 宮坂圭三代議委員。以上です。

それでは、古賀議事運営委員長に本日の議事進行予定等について委員会報告をお願いします。

議事運営委員長日程説明

古賀議事運営委員長 会長挨拶の後、議事に入ります。報告事項として1件、議案が2件ございます。採決の後、会長候補者より挨拶をいただき、17時10分をめどに閉会したいと思います。

春日議長 ただいま説明があった議事進行予定表のとおり、議事を進めてまいりたいと思いますが、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

春日議長 異議なしと認め、議事進行予定表のとおり議事を進めてまいります。

それでは、原口会長、会長挨拶をお願いします。

5. 会長挨拶

 **原口会長** 3年間にわたるコロナ禍のため、代議員の皆様が一堂に会しての総会が開催できませんでしたが、新型コロナウイルス感染症は5月8日から5類に移行する予定であり、今後は日常を取り戻していくことになると思います。

しかしながら、福岡県の病床利用率は再び5%に上昇してきており、これは国が示す分類では「感染拡大初期」（レベル2）に相当するものです。5月8日以降の薬局の対応については基本的な方針を文書で発出しましたが、これまでのコロナ対応の中では求められていなかった事項も入っており、これらについても対応していかなければならないと考えています。

本日は報告が1件、議案が2件です。役員報酬改正の議案を上程しておりますので、皆様の忌憚のないご意見をいただきたいと思います。

6. 議 事

春日議長 それでは、議事に入りたいと思います。本日の審議案件は、報告1件および議案2件です。

それでは、報告第1号の公益社団法人福岡県薬剤師会代議員選挙および予備の代議員選挙結果報告について、井上嘉明代議員選挙管理委員会委員長にお願いします。

(1) 報 告

第1号 公益社団法人福岡県薬剤師会代議員選挙および予備の代議員選挙結果報告

井上代議員選挙管理委員長 令和5、6年度公益社団法人福岡県薬剤師会代議員選挙および予備の代議員選挙の結果について報告します。

 2月9日に立候補を締め切りました。代議員選挙の各地区とも立候補者が定数と同数でしたので、福岡県薬剤師会代議員選挙規定により、全員無投票当選となりました。

新しい代議員には2年間頑張っていたきたいと思います。以上です。

春日議長 報告第1号について質疑等はありませんか。ないようですので、議案に入らせていただきます。

(2) 議 案

第1号 公益社団法人福岡県薬剤師会会長候補者選挙の件

春日議長 それでは、議案第1号「公益社団法人福岡県薬剤師会会長候補者選挙の件」を議題といたします。

このたび、公益社団法人福岡県薬剤師会会長候補者選挙規則に基づき、立候補の受け付けを行いました。その結果、会長候補者の立候補の届け出は、原口亨会長候補1人でした。

それでは、選挙規則施行細則第10条に基づき、候補者の所信表明をお聞きしたいと思います。

なお、選挙規則施行細則第10条では、「所信表明は1人3分以内とする。ただし、議長は、総会に諮ってその時間を延長することができる」と規定されています。

ここでお諮りいたします。立候補者のお考えをよく知るために、所信表明の時間を少し延長し、5分以内としたいと思います。ご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

総会議事録



のではないかと報道もなされています。

現時点の感染株の致死率は非常に低いと言われています。第8波はBA.5でしたが、先日の調査ではXBB.1.5が4割程度に拡大しているとのこと。福岡県にも入ってくると想定されますので、県内における感染者数も増えると思われます。これに私達がどのように対応していくか、準備を進めていく必要があると思っています。

薬務課等とは、5月8日以降の経口治療薬の提供体制等について協議を進めています。

春日議長 異議がないようですので、そのように取り計らいます。

それでは、原口亨会長候補、所信表明を5分以内でお願いします。

原口候補者 このたび、会長候補に立候補いたしました原口でございます。

まず、皆様にはこの3年間のコロナ禍、地域のために薬剤師・薬局としてのサービスの提供にご尽力いただいておりますことにお礼申し上げます。

これまで6年間勤めさせていただきましたが、そのうち3年間は新型コロナウイルス感染症への対応でした。当初は積極的な活動が制限され、発生直後の令和3年2月末には会務を停止し、研修を再開できたのは同年8月でした。日本薬剤師研修センターと協議を重ねた結果、オンライン形式で研修を再開できたのですが、再開時期は福岡県が一番早かったと思います。手探りで活動が続いてきたというのがこの3年間の現状です。

現在、福岡県は国の基準ではレベル2の「感染拡大初期」の状況にあり、東京は第9波に入り始めた

また、コロナ患者対応としてのオンライン服薬指導が可能な薬局の拡充も求められていますので、私達としても対応していかなければならないと考えています。

コロナ禍により世の中が変化した状況下では、私達も変化しながら対応していかなければなりません。医薬分業に業界として取り組み始めてから実際に動き始めるまで約15年を要し、その後、社会的に医薬分業が実装されるまでにも約15年かかっています。私達が「将来このようにしたい」という発信をした場合、実現までにはやはり15年程度を要すると考えられます。言い換えれば、現在の状況は15年前の活動の結果と考えることができます。私達は15年先を見据えて活動していく必要があり、15年後の活動を担う次の世代に薬剤師職能を引き継ぎながら地域のために活躍できる環境を整えていくためには、今現在、私達がどのように対応していくかが重要であると考えます。

そのために全力で皆様の活動を実現するためのサポートを行っていきたいと考え、再度立候補いたし

ました。政治的なアプローチや外部からの圧力など多い状況ですが、それに対応できる具体的なプランを持ちながら活動していくことが必要と考えますので、そのためのお手伝いを引き続きさせていただきたいと思います。

皆様の信任をいただき、もう1期務めさせていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

(拍手)

春日議長 続きまして、議案第2号「公益社団法人福岡県薬剤師会 役員報酬等規程の一部変更の件」を議題とします。

原口会長より説明をお願いします。

原口会長 役員報酬規程は、当会が公益法人に移行した際に改正しておりますが、報酬額そのものは約30年間変更しておりません。

今回改正をお願いする内容の中心は、第5条第3項(3)の専務理事の報酬額を「7.5～25」に拡大し、最大月収を50万円に改正する箇所です。

当会の事業内容は多岐にわたり、発信文書は役員が厳選した内容に絞っているものの、コロナ禍の影響もあり年間1,000件を超えています。他県では薬剤師の資格を持った人が専務理事として常駐して対応しています。

私自身を含め、これまで当会で専務理事を務めた人は、薬局経営等の傍ら、ほぼ毎日、午後から会館にきて会務を処理していますが、この状況を今後も維持できるのか危惧しています。

維持できなくなった時に備え、行政や製薬会社、薬局、病院等の勤務経験者で知識、経験を有する人に協力をお願いできるようにするため、十分な報酬を出せる体制を整備しておく必要があると考えています。

東京、大阪などは専門の役員(薬剤師)が常駐しています。当会の現状が今後も維持できればよいのですが、次の世代あるいはその先の世代で対応できない状況になった時に、十分な報酬を出すことがで

きず専従の人を確保できないという事態が生じないよう、現時点で準備をしておきたいと思っています。

したがって、今回の改正案は現在の役員に支給されている報酬額を変更するものではありません。将来に備えるための準備として、規程を整備させていただきたいという趣旨です。

春日議長 それでは、本件について質疑を行います。質疑のある方は挙手をお願いします。

重要な案件ですので、よろしくお願いします。

細川禎久代議員 報酬額に幅を持たせたいとの提案ですが、報酬額を判断する場合の基準(従事時間、業務量など)について、お考えはあるのでしょうか。



原口会長 現状の業務量としましては、当会の専務は毎日会館に出務しなければ業務を処理することができない状況です。私自身は日薬の業務の関係で福岡を離れていることが多いので、毎日出務することは難しいのですが、福岡にいるときは会館に来て会務を処理しています。毎日150通以上のメールに必ず目を通して処理するほか、専務理事とともに、10を超える委員会がそれぞれ年に4～6回程度開催する委員会や土日に開催される研修会にも出席しています。

このような業務を専従の人をお願いする場合、業務量ではなくその人のキャリアを考慮すると少なくとも年収600万円程度を支払うことができる体制を整備しておかなければ人材の確保が難しいのではないかと考え、この水準で協力いただける人を探したいということで額を設定したものです。専務理事以外の役員の報酬額についても、今後検討する必要がありますかもしれませんが、専務理事については対応を急ぐ必要があると考えておりますので、承認していただければと思います。

春日議長 ほかに質疑はありませんか。

ないようですので、以上を持ちまして質疑を終わ

総会議事録

ります。

それでは、議案第1号「公益社団法人福岡県薬剤師会 会長候補者選挙の件」について採決を行います。

会長候補者選挙規則第10条では、「会長候補者が1人のとき、または1人を超えなくなったときは、総会の決議を経て、投票を行わずに、当該候補者をもって当選者とすることができる」とあります。

そこで、皆様方にお諮りいたします。

議案第1号「公益社団法人福岡県薬剤師会会長候補者選挙の件」については、選挙規則第10条の規定に基づき、投票を行わず表決を求めたいと思いますが、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

春日議長 異議なしと認めます。

それでは、会長候補者選挙について、候補者である原口亨会長候補を当選者とすることに賛成の方は挙手をお願いします。

〔賛成者挙手〕

春日議長 挙手多数であります。

なお、書面表決による賛成票は16票となっており、全代議員の過半数となります。

よって、議案第1号「公益社団法人福岡県薬剤師会会長候補者選挙の件」は原口亨会長候補が当選されました。

引き続き、選挙施行細則第15条に、「議長は、当選者に対し、速やかに当選状を交付するものとする」との規定がございますので、早速当選状を交付することといたします。

〔当選状交付〕（拍手）

春日議長 それでは、次期会長候補者に当選されました原口亨

会長候補、ご挨拶をお願いします。

原口候補者 ご信任いただきましてありがとうございます。長期間同じ役職を務めることの弊害は承知しておりますが、社会情勢が大きく変化していく中で対応しなければならない課題が山積しています。日本薬剤師会は制度、政策の決定には関与できますが、実際にフィールドで実行するのは私達都道府県薬剤師会や地区薬剤師会ですので、両方に関与できる立場にいて、状況をよく理解して新たな提案ができるということも実感しています。

現状では多くの人の協力をいただきながら会務を進めており、早急な対応が必要な課題には一人に対応することが難しいことを常々感じているところです。

6月の定時総会までに実行力のある執行体制を考えて信任をいただき、新たなスタートをしたいと思います。皆様の協力なくしては薬剤師の未来はありませんので、これまでと同様の協力をお願いしまして、当選の御礼とさせていただきます。ありがとうございました。





(拍手)

春日議長 それでは、議案第2号「公益社団法人福岡県薬剤師会 役員報酬等規程の一部変更の件」について採決を行ないます。

理事者提案のとおり承認される方は、挙手をお願いします。

(挙手多数)

春日議長 挙手多数と認めます。

なお、書面表決による賛成票は16票となっており、全代議員の過半数となります。

よって、議案第2号は理事者提案のとおり議決されました。

春日議長 以上で、第125回臨時総会に付託された議題は全て終了いたしました。

議事進行に協力いただきました代議員、そして役員に対し、厚くお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

(拍手)

司会 春日議長、平川副議長、大変お疲れさまでした。

おかげさまで、滞りなく第125回臨時総会を終了することができました。まことにありがとうございます。

(拍手)

7. 閉 会

閉会の辞

神村副会長 代議委員の皆様、長時間のご審議お疲れ様でした。会長候補者を決定していただき、6月の定時総会に向けた準備を整えることができました。ありがとうございました。

これもちまして第125回臨時総会を閉会いたします。(拍手)

原文は事務局に保存しておりますので、詳しい事を知りたい場合は事務局までご一報ください。

薬学研究よもやま話 第61回

飲酒リスクの高いアルコール依存症患者におけるナルメフェンの効果

第一薬科大学 入倉 充

飲酒リスクの高い、または非常に高い日本人アルコール依存症患者に対して、ナルメフェンがアルコール摂取量を効果的に減少させることを示した研究¹⁾ について紹介します。

はじめに

アルコール関連の有害事象は、アルコールの消費量と飲酒パターンに依存する。2016年現在、世界では全人口の18.2%が、最も有害な飲酒（1回に60g以上のアルコールを月に1回以上）をしている。日本では、2013年にアルコール依存症と診断された患者は107万人で、そのうち治療を受けている人は13.6%に過ぎない。また、日本における有害飲酒（男性：40g/日以上、女性：20g/日以上）率は、2003年に12.0%（男性：19.0%、女性：6.0%）、2013年に9.6%（男性：14.4%、女性：5.7%）であった。日本におけるアルコール依存症の治療ガイドラインでは断酒が第一目標、一部の患者にはアルコール消費量の削減が治療目標として位置づけられている。

ナルメフェンは、オピオイド系に作用し、 μ および δ 受容体に拮抗作用を示すとともに、アルコールの報酬および強化効果を調節する κ 受容体に部分的にアゴニスを示す。現在、EU、日本、その他数カ国において、WHO基準による飲酒リスクが高いまたは非常に高いアルコール依存症の患者のアルコール摂取量を減らすことが認められている。ヨーロッパでは、ナルメフェンのアルコール摂取量の減少効果について疑問と議論が起こりシステマティックレビューで、「アルコール依存症の治療におけるナルメフェンの価値は確立されていない」と結論づけられた。²⁾ そこで、ナルメフェンの無作為化比較試験が実施され、飲酒リスクが高い、または非常に高い患者を対象に、ナルメフェン20mg、または10mgを服用した場合の有効性と安全性を検討した。

方法

研究デザイン

多施設共同無作為化二重盲検比較試験を日本国内の80施設で実施した。2週間のスクリーニング期間の後、24週間の二重盲検治療を受け、その後4週間フォローアップを行なった。フォローアップ期間中は、安全性に関する情報のみ収集し、薬剤の投与は行わなかった。患者は、新聞広告やオンライン広告等で参加を呼びかけた。回答したすべての患者の適格性を審査し、基準を満たした患者は、ナルメフェン20mg、10mg、またはプラセボ錠のいずれかに無作為に割り当てた（4：3：4）。無作為化に患者の特性やアルコール摂取状況による層別化は行わなかった。患者は、飲酒の危険性があると思われる日に、飲酒の1～2時間前に、そうでなければ飲酒開始と同時に1錠を服用するよう指示された。

すべての患者に対し、心理社会的治療も併用し、患者が飲酒行動を変え、治療へのアドヒアランスが最大化することを目的とした。この治療は、無作為化時に開始され、施設訪問時および試験治療終了時まで実施した。患者は心理社会的治療に参加した後に、ナルメフェンまたはプラセボによる治療を行った。

参加者

20歳以上の男女で、アルコール依存症の一次診断があり、受診時の呼気アルコール濃度が0.1mg/L未満で、飲酒リスクが高いまたは非常に高い（男性は60g/日以上、女性は40g/日以上のアルコール接種）基準を満たしていれば研究に参加できるようにした。主な除外基準は、受診前の4週間に大量飲酒日が6日未満、または連続5日以上禁酒があった場合とした。

評価項目

主要評価項目は、1カ月間の大量飲酒日数について基準日から12週目までの変化とした。大量飲酒は、男性で60g以上、女性で40g以上のアルコール摂取があった日と定義した。副次的評価項目は、1日の平均アルコール摂取量（g/日）に基づき、基準日から12週目までのアルコール摂取量の変化とした。基準日の大量飲酒とアルコール摂取量は検査前の4週間のデータから、飲酒リスクは無作為化時のアルコール摂取量から算出した。基準日後の大量飲酒とアルコール摂取量は、4週間ごとに算出した。その他の副次的評価項目は、飲酒リスク2段階以上低下した患者の割合、飲酒リスクが低いまたは低下した患者の割合、アルコール摂取量が70%減少した患者の割合、大量飲酒日数が4日以下の患者の割合等である。副次的評価項目は、12週目および24週目のデータを用いて評価した。収集された安全性データは、治療中に発生した有害事象、臨床検査、バイタルサイン、体重、心電図、自殺重症度評価尺度等である。患者は試験終了または試験から脱落した4週間後に安全性の追跡調査を受けた。

統計解析

有効性の解析は、基準日および試験薬投与開始後1時点以上で大量飲酒に関するデータを有する全患者を対象に実施した。安全性の解析は、試験薬を1回以上投与された無作為化された全患者を対象とした。まず大量飲酒の日数（主要評価項目）を測定し、次いでアルコール摂取量（主要副次評価項目）を測定した。20mgの用量は5%の有意水準で検定し、有意であった場合のみ10mgの用量について検定を進めた。飲酒リスクの低下と飲酒リスクの低さについては、性別と基準日の飲酒リスクで層別化し、マンテル・ヘンツェル検定を用いて治療群とプラセボ群との差を評価した。ナルメフェン20mgとナルメフェン10mgを比較するため、12週目と24週目の大量飲酒日数を解析した。プラセボと比較した各群の試験終了率は、ピアソンのカイ二乗検定を用いて解析した。また、試験期間中に各群で薬を摂取した日数の割合をStudent t-testを用いて比較した。すべての統計計算にはSAS version 9.4 (SAS Institute, Tokyo, Japan) を使用した。



表1 患者背景

		ナルメフェン			Placebol (n=244)	Total (n=666)
		20 mg (n=242)	10 mg (n=180)	Total (n=422)	平均±SD or n	平均±SD or n
		平均±SD or n	平均±SD or n	平均±SD or n	平均±SD or n	平均±SD or n
		(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
性別	男性	170 (70.2)	134 (74.4)	304 (72.0)	154 (63.1)	458 (68.8)
年齢(歳)		48.9±12.2	49.2±11.9	49.0±12.1	48.1±11.4	48.7±11.8
BMI(kg/m ²)		23.04±3.24	23.32±3.47	23.16±3.34	23.11±3.40	23.14±3.36
喫煙歴	無し	60 (24.8)	45 (25.0)	105 (24.9)	57 (23.4)	162 (24.3)
喫煙状況	現喫煙者	66 (27.3)	41 (22.8)	107 (25.4)	86 (35.2)	193 (29.0)
薬物乱用歴	無し	242 (100.0)	180 (100.0)	422 (100.0)	244 (100.0)	666 (100.0)
婚姻歴	既婚	169 (69.8)	125 (69.4)	294 (69.7)	160 (65.6)	454 (68.2)
就業状況	有職	198 (81.8)	150 (83.3)	348 (82.5)	199 (81.6)	547 (82.1)
アルコール離脱症状評価スコア		0.5±1.3	0.5±1.2	0.5±1.2	0.5±1.2	0.5±1.2
SF-36 身体健康スコア		52.1±8.2	52.7±7.8	52.3±8.0	52.1±8.3	52.2±8.1
SF-36 精神健康スコア		51.7±8.5	51.4±8.1	51.6±8.3	51.7±8.3	51.6±8.3
飲酒問題発症年齢(歳)		37.4±13.7	37.6±12.4	37.5±13.2	36.0±12.0	36.9±12.7
WHO基準飲酒リスク	非常に高い	107 (44.2)	87 (48.3)	194 (46.0)	116 (47.5)	310 (46.5)
	高い	135 (55.8)	93 (51.7)	228 (54.0)	127 (52.0)	355 (53.3)
	中程度	0	0	0	1 (0.4)	1 (0.2)
	低い	0	0	0	0	0
大量飲酒日数(日/月)		22.64±6.37	23.49±6.07	23.00±6.25	22.97±6.44	22.99±6.32
アルコール摂取量(g/日)		93.07±37.45	95.93±41.10	94.29±39.03	95.08±48.70	94.58±42.79
重症度(CGI-S)スコア		3.38±1.06	3.48±1.15	3.42±1.09	3.45±1.09	3.43±1.09
γ-GT(IU/L)		84.7±105.4	80.7±103.8	83.0±104.6	70.7±78.7	78.5±96.1
ALT(IU/L)		24.3±14.2	24.5±14.9	24.4±14.5	23.3±14.8	24.0±14.6
アルコール依存症治療歴		5 (2.1)	3 (1.7)	8 (1.9)	9 (3.7)	17 (2.6)
アルコール離脱症治療歴		0	0	0	0	0
アルコール問題家族歴		31 (12.8)	26 (14.4)	57 (13.5)	39 (16.0)	96 (14.4)

(文献1を基に作成)

結果

患者背景

2015年2月9日から2016年7月30日の間に、867人の患者を試験に登録し、678人が無作為化された。1人が試験薬投与開始前に同意を取り下げたため、677人が試験薬：ナルメフェン20mg (n=248)、ナルメフェン10mg (n=184)、プラセボ (n=245) を投与された。このうち、80.8%が試験を完了した。治療完了率は、ナルメフェン20mg群、ナルメフェン10mg群、プラセボ群でそれぞれ76.2%、75.5%、89.4%であった。患者背景は、3つの治療グループ間で類似していた(表1)。平均年齢は48.7歳、飲酒問題の発症時年齢は36.9歳であった。研究グループ全体では、平均アルコール摂取量は94.58±42.79g/日、平均大量飲酒日数は22.99±6.32日/月であり、研究に参加した患者の大半は治療未経験者(97.4%)で、治療歴のある患者は2.6%であった。ナルメフェン20mg群、10mg群、プラセボ群の患者は、試験期間中、それぞれ平均70.6%、75.1%および87.0%の日に薬を服用した。

表2 大量飲酒日数とアルコール摂取量の変化

	時点	治療グループ	値		基準からの変化量			
			n	平均±SD	最小二乗 平均±SE	プラセボとの差		
						最小二乗 平均±SE	95%信頼区間	P値
大量飲酒日数(日/月)	基準	プラセボ	244	22.97±6.44				
		ナルメフェン 20 mg	242	22.64±6.37				
		ナルメフェン 10 mg	180	23.49±6.07				
	12週	プラセボ	234	15.56±9.74	-7.91±0.61			
		ナルメフェン 20 mg	206	11.42±9.74	-12.25±0.64	-4.34±0.87	-6.05～-2.62	<0.0001
		ナルメフェン 10 mg	154	12.04±10.27	-12.09±0.74	-4.18±0.95	-6.05～-2.32	<0.0001
	24週	プラセボ	222	14.04±10.20	-9.33±0.63			
		ナルメフェン 20 mg	189	10.62±9.43	-13.25±0.66	-3.92±0.90	-5.69～-2.16	<0.0001
		ナルメフェン 10 mg	141	9.82±9.97	-13.88±0.77	-4.54±0.98	-6.46～-2.64	<0.0001
アルコール摂取量(g/日)	基準	プラセボ	244	95.08±48.70				
		ナルメフェン 20 mg	242	93.07±37.45				
		ナルメフェン 10 mg	280	95.93±41.10				
	12週	プラセボ	234	65.39±32.72	-32.43±1.91			
		ナルメフェン 20 mg	206	54.51±34.88	-44.90±2.01	-12.47±2.72	-17.81～-7.13	<0.0001
		ナルメフェン 10 mg	154	55.15±34.46	-45.36±2.32	-12.94±2.95	-18.72～7.15	<0.0001
	24週	プラセボ	222	59.28±31.50	-38.28±1.99			
		ナルメフェン 20 mg	189	51.38±33.82	-49.43±2.13	-11.15±2.86	-16.77～-5.53	0.0001
		ナルメフェン 10 mg	141	48.74±33.32	-49.55±2.45	-11.27±3.11	-17.37～-5.17	0.0003
(文献1を基に作成)								

(文献1を基に作成)

表3 副次的評価項目

	時点	治療グループ	n	レスポンス		マンテル・ヘンツェル検定	
				n (%)	P値	リスク差 (95%信頼区間)	NNT (95%信頼区間)
飲酒リスクが低下	12週	プラセボ	234	47 (20.1)			
		ナルメフェン 20 mg	206	85 (41.3)	<0.0001	22.0 (13.6~30.4)	4.5 (3.3~7.4)
		ナルメフェン 10 mg	154	55 (35.7)	0.0007	15.7 (6.5~25.0)	6.4 (4.0~15.4)
	24週	プラセボ	222	61 (27.5)			
		ナルメフェン 20 mg	189	84 (44.4)	0.0002	18.0 (8.8~27.2)	5.6 (3.7~11.4)
		ナルメフェン 10 mg	141	67 (47.5)	0.0001	20.6 (10.4~30.8)	4.9 (3.2~9.6)
飲酒リスクが低い	12週	プラセボ	234	25 (10.7)			
		ナルメフェン 20 mg	206	61 (29.6)	<0.0001	17.8 (10.5~25.1)	5.6 (4.0~9.5)
		ナルメフェン 10 mg	154	39 (25.3)	0.0002	14.3 (6.4~22.2)	7.0 (4.5~15.6)
	24週	プラセボ	222	39 (25.3)			
		ナルメフェン 20 mg	189	56 (29.6)	0.0079	11.0 (2.9~19.1)	9.1 (5.2~34.5)
		ナルメフェン 10 mg	141	46 (32.6)	0.0010	14.8 (5.8~23.9)	6.8 (4.2~17.2)
アルコール摂取量が70%減少	12週	プラセボ	234	20 (8.5)			
		ナルメフェン 20 mg	206	37 (18.0)	0.0022	9.9 (3.5~16.3)	10.1 (6.1~28.6)
		ナルメフェン 10 mg	154	30 (19.5)	0.0016	11.1 (3.8~18.3)	9.0 (5.5~26.3)
	24週	プラセボ	222	24 (10.8)			
		ナルメフェン 20 mg	189	45 (23.8)	0.0003	13.6 (6.2~20.9)	7.4 (4.8~16.1)
		ナルメフェン 10 mg	141	33 (23.4)	0.0013	12.8 (4.6~21.0)	7.8 (4.8~21.7)
大量飲酒日数が4日以下	12週	プラセボ	234	45 (19.2)			
		ナルメフェン 20 mg	206	72 (35.0)	0.0002	15.2 (7.1~23.3)	6.6 (4.3~14.1)
		ナルメフェン 10 mg	154	56 (36.4)	0.0001	17.9 (8.9~26.9)	5.6 (3.7~11.2)
	24週	プラセボ	222	56 (25.2)			
		ナルメフェン 20 mg	189	64 (33.9)	0.0724	8.0 (-0.7~16.7)	12.5 (6.0~NA)
		ナルメフェン 10 mg	141	62 (44.0)	0.0001	19.6 (9.9~29.2)	5.1 (3.4~10.1)

(文献1を基に作成)

研究

主要評価項目と主な有効性評価項目

試験開始12週後、大量飲酒日数は3つの治療群すべてで減少した（表2）。ナルメフェン投与群のいずれにおいても、12週目にプラセボ群と比較して大量飲酒日数が有意に減少した。これらの減少は4週目から観察され、効果は24週間の治療期間を通して維持された（表2）。ナルメフェン10mgと20mgを比較した事後解析では、ナルメフェン10mgの12週目と24週目の大量飲酒日数の減少量はナルメフェン20mgで観察されたものと同様であった。

副次的評価項目

基準日の平均アルコール摂取量は、すべての治療群で同程度であった（表2）。12週間の治療後はすべての治療群で減少した。ナルメフェン投与群のいずれにおいても、プラセボ投与群に比べ、12週目に大きな減少が観察された。アルコール摂取量の減少は4週目から認められ、その効果は24週間の治療期間を通じて持続した（表2）。飲酒リスクの低下、飲酒リスクが低い、アルコール摂取量が70%減少、および大量飲酒日数が4日以下の奏効率は、ナルメフェン20mgおよび10mgでプラセボより高くなった（表3）。奏効に必要な治療必要数（NNT）は、奏効基準およびナルメフェンの用量により、4.5～12.5回であった（表3）。

表4 観察された有害事象

	ナルメフェン			プラセボ (n=245)
	20 mg (n=248) n (%)	10 mg (n=184) n (%)	Total (n=432) n (%)	
問題となる全ての有害事象	218 (87.9)	156 (84.8)	374 (86.6)	194 (79.2)
5%以上で観察された有害事象				
便秘	13 (5.2)	8 (4.3)	21 (4.9)	2 (0.8)
めまい	51 (20.6)	20 (10.9)	71 (16.4)	10 (4.1)
頭痛	24 (9.7)	21 (11.4)	45 (10.4)	20 (8.2)
不眠	20 (8.1)	15 (8.2)	35 (8.1)	2 (0.8)
倦怠感	24 (9.7)	7 (3.8)	31 (7.2)	8 (3.3)
上咽頭炎	54 (21.8)	40 (21.7)	94 (21.8)	91 (37.1)
吐き気	79 (31.9)	58 (31.5)	137 (31.7)	15 (6.1)
動悸	13 (5.2)	7 (3.8)	20 (4.6)	2 (0.8)
傾眠	39 (15.7)	18 (9.8)	57 (13.2)	17 (6.9)
嘔吐	34 (13.7)	16 (8.7)	50 (11.6)	5 (2.0)
食欲不振	13 (5.2)	11 (6.0)	24 (5.6)	3 (1.2)
2%以上の患者で投与中止となった有害事象				
吐き気	21 (8.5)	12 (6.5)	33 (7.6)	0 (0.0)
めまい	16 (6.5)	9 (4.9)	25 (5.8)	1 (0.4)
嘔吐	10 (4.0)	5 (2.7)	15 (3.5)	0 (0.0)
頭痛	9 (3.6)	7 (3.8)	16 (3.7)	1 (0.4)
不眠	5 (2.0)	5 (2.7)	10 (2.3)	0 (0.0)
上咽頭炎	0 (0.0)	1 (0.5)	1 (0.2)	7 (2.9)
食欲不振	1 (0.4)	4 (2.2)	5 (1.2)	0 (0.0)
動悸	5 (2.0)	1 (0.5)	6 (1.4)	0 (0.0)
重大な有害事象	2 (0.8)	2 (1.1)	4 (0.9)	2 (0.8)

（文献1を基に作成）

安全性

ナルメフェン20mgおよび10mg投与群では、プラセボ群に比べ、すべての有害事象および投与中止に至った有害事象の発生率が高かった（表4）。投与中止の主な理由は有害事象であった。ナルメフェン20mg、10mg投与群のいずれにおいても5%以上の患者に発現し、プラセボ投与群の少なくとも2倍の頻度で発現した有害事象は、悪心、めまい、眠気、嘔吐、倦怠感、不眠、食欲低下、便秘および動悸であった。ほとんどの有害事象重症度は軽度または中等度であった。ナルメフェン10mg投与は、20mg投与と比較して、めまい（20.6% vs 10.9%）、倦怠感（9.7% vs 3.8%）、眠気（15.7% vs 9.8%）、嘔吐（13.7% vs 8.7%）が5%以上少なかった。その他の副作用の発現率は、両用量間で概ね同程度であった。20mg投与および10mg投与のいずれにおいても、2%以上の患者において、吐き気、めまい、嘔吐、頭痛、不眠、動悸および食欲減退が、投与中止に至った主な副作用であった（表4）。

重大な有害事象は全投与群で報告され、ナルメフェン20mg群、ナルメフェン10mg群およびプラセボ群でそれぞれ2例（0.8%）、2例（1.1%）および2例（0.8%）で発生した。その内容は、ナルメフェン20mg群では慢性肝炎、胃腸炎、ナルメフェン10mg群では大腿骨骨折、脊椎圧迫骨折（同一人物）、死亡、プラセボ群では吻合部潰瘍出血、アルコール依存症などであった。慢性肝炎と吻合部潰瘍出血は試験薬との関連性が認められたが、その他の有害事象は認められなかった。試験期間中に死亡が1例発生した。ナルメフェン10mg群の男性患者が、初回投与から168日後に死亡した。死因は不明であり、治療との関連を否定することはできなかった。臨床的に重要な臨床検査所見はなく、バイタルサイン、体重、心電図パラメータに臨床的に重要な変化や治療群間の差は認められなかった。ナルメフェン20mg投与群で2人、ナルメフェン10mg投与群で2人、プラセボ群で3人が自殺念慮を示したが、自殺行動を示した者はいなかった。

考察

本研究において、ナルメフェン20mgは、24週間にわたり、大量飲酒日数およびアルコール摂取量をプラセボと比較して有意に減少させた。本研究は、飲酒リスクが高い、または非常に高い日本人患者において、ナルメフェン20mgが12週間および24週間の治療後に大量飲酒日数およびアルコール摂取量を減らす効果を示した前向き無作為化比較試験である。また、ナルメフェンの低用量（10mg）でも、プラセボと比較して、大量飲酒日数およびアルコール摂取量で示される潜在的な有害な飲酒の減少に有効であった。また、12週目および24週目における大量飲酒日数の減少は、ナルメフェン10mgと20mgで同程度の有効性が認められた。本研究でナルメフェン投与患者に発現した有害事象について、最も高頻度に認められた悪心の発現率は、両群間で同様であった。しかし、めまい、眠気、嘔吐などのその他の有害事象は、ナルメフェン10mg群では20mg群に比べて頻度が少なかった。このことから、ナルメフェン10mgは、アルコール依存症の治療において、有効性と低い有害事象発生率のため治療選択肢となり得ることが示唆された。

欧州で実施された他の研究と本研究の主な違いは、飲酒リスクが高い、または非常に高い患者のみを本試験に参加させた点である。また、今回の患者は、アルコール依存症の治療歴がわずか2.6%でありアルコール依存症の治療歴がある患者は少なかった。また、基準日の臨床アルコール離脱症状評価スコアはナルメフェン20mg群、10mg群、プラセボ群で低く、SF-36精神健康スコア

研 修

が高く、さらに、本研究の患者の68.2%が既婚またはパートナーと同居し、82.1%が就業していることから、社会的、精神的なサポートや機能が比較的高いことが示唆された。

今回の結果から、ナルメフェンの「随時投与」は患者によく受け入れられていることが示唆された。ナルメフェンは μ -オピオイド受容体を高い割合で占有するため、必要に応じて投与することができる。飲酒欲求のある患者が飲酒前にナルメフェンを服用することは、すでにアルコール摂取量を減らすことを意識していることになる。ナルメフェンの効果に加え、このような意識と患者の治療目標との一致も、今回観察された大量飲酒日数の減少に寄与している可能性がある。治療目標に沿うことは、治療継続の動機付けを高め、成果を上げる上で重要な役割を果たす。この研究で用いられた心理社会的支援は、必要に応じて行われる治療に加えて、患者が治療の決定に積極的に参加できるようにするアルコール摂取の自己モニタリングによる服薬アドヒアランスを目指したものであった。

これまでの薬物療法（ナルトレキソン、アカンプロサート、ジスルフィラムなど）は、主に禁酒を目的とし、再発防止に重点を置いていた。今回の結果は、飲酒リスクが高いまたは非常に高い患者におけるアルコール依存症の管理におけるナルメフェンの有効性と安全性を示しており、この患者集団における大量飲酒の管理に対するナルメフェンは有用な治療オプションであることを示唆している。

この試験にはいくつかの限界がある。第一に、本試験で脱落した患者は、これまでの欧州の試験より少なかったが、ナルメフェン群ではプラセボ群より有害事象による脱落が多かった。したがって、減少バイアスの可能性を排除することはできない。

結論

この研究は、飲酒リスクが高いまたは極めて高い日本人患者におけるナルメフェン20mgおよび10mgの有効性および安全性を実証している。したがって、ナルメフェンは、完全な断薬を最初の治療目標とする準備ができていない、あるいはできないアルコール依存症患者、あるいはいかなる治療も受けていない患者にとって貴重な薬物治療の選択肢となるであろう。

文献

- 1) Miyata H, Takahashi M, Murai Y, Tsuneyoshi K, Hayashi T, Meulien D, Sørensen P, Higuchi S. Nalmefene in alcohol-dependent patients with a high drinking risk: Randomized controlled trial. *Psychiatry Clin Neurosci*. 2019 ; 73 : 697-706.
- 2) Palpacuer C, Laviolle B, Boussageon R, Reymann JM, Bellissant E, Naudet F. Risks and benefits of Nalmefene in the treatment of adult alcohol dependence : A systematic literature review and meta-analysis of published and unpublished double-blind randomized controlled trials. *PLoS Med*. 2015 ; 12 : e1001924.

令和5年度第1回学校・環境衛生研修会

環境衛生・学校薬剤師委員会 委員 角 直行

5月13日(土) 令和5年度第1回学校・環境衛生研修会がハイブリッドで開催された。

まずは当会 中原 学常務理事より、日本薬剤師会学校薬剤師部会九州ブロック連絡会議の伝達が行われた。これからの暑い時期、WBGT（暑さ指数）計を使用しながら熱中症予防対策を講じる必要がある。さらに今後の学校活動においては、基本的な感染対策（手洗い、咳エチケット、換気）は変わらないが、マスクの着用を求めないことが基本となり、「黙食」の必要もなくなる。しかしながらコロナ禍における制限ある学校生活で、う



講師の山本緑准教授と中原学常務理事

つ症状を訴える児童、生徒が増えており、今後再開されていく学校活動は、引き続き感染対策を講じた上、その必要性を再考しながら進めていく必要があると話した。

引き続き、中原常務理事より、県立学校教室等環境検査のすすめ方について説明があった。昨年度から県立学校における環境検査方法等の一部変更があり、昨年も研修会で変更内容について説明があったが、再度その変更理由も含めた話があった。

続いて、国際医療福祉大学 福岡薬学部 山本緑准教授が「薬物乱用の現状について」と題して講演した。令和3年の大麻事犯検挙は平成25年対比で全体3.6倍、30歳未満5.5倍、20歳未満16.4倍と増加傾向にあり、特に若年層における増加傾向は顕著である。大麻取締法は、医療ニーズ（てんかん治療薬）への対応、使用罪の追加、部位規制*から成分規制*等、改訂に向けて動いているが、医療用大麻の解禁が、「大麻は安全」といった誤った認識にならないよう、一層の啓発、教育が必要となる。また、若年層、特に10代では市販薬の乱用も問題となっている。近年は、微弱の電流刺激を施すデバイス（tDCS）、スマートドラッグやカフェインなど、集中力、感覚認知を上げるなど脳機能の向上を標榜する物がゲーム、e-Sports、あるいは試験勉強対策などで使用されおり、スマートドラッグに関してはe-Sportsの国際大会で2016年から薬物検査が行われるようになり、日本でも2017年に25成分について個人輸入の禁止の措置がとられている。さらに、試験勉強対策などでエナジードリンク等からのカフェイン摂取も多いので、今後は薬物乱用防止教室などでも取り上げてもらいたいと話した。

今回の話を聞いて、改めて薬物乱用防止教育の早期開始および中学校、高校、大学と継続して教育、啓発することの必要性を感じた。

*大麻規制を現在の「部位規制（大麻製品がどの部位から作られたかに着目して規制）」から「成分規制（THC含有の有無を基準に規制）」へ見直しを検討

福岡県総合防災訓練への参加

災害・感染対策委員会 理事 永原 一史

5月28日(日)、令和5年度福岡県総合防災訓練が朝倉市あまぎ水の文化村と十文字中学校で行われ、委員会12人と地元の朝倉薬剤師会11人が参加した。今年度は災害対策基本法、県や各市町村の地域防災計画等に基づき、朝倉市、筑前町および東峰村に風水害、大地震が発生したと想定し、災害時における県、市町村そして薬剤師会らの防災関係機関ならびに地域住民が一体となって総合的な防災訓練を実施した。この訓練は、災害時における連携の強化、防災技術の向上ならびに広く県民に対する防災思想の普及啓発を図ることを目的としている。

薬剤師会の合同メンバーは以下の5つの班に分かれて活動した。

①医師、薬剤師、看護師3人1組でトリアージし、軽症とされた人の健康観察を行い、必要に応じて災害処方箋を発行する「診察班」②救護テントにて発行された災害処方箋を調剤し、服薬指導を行う「モバイルファーマシー班」③避難所の水質検査、空気検査を担当する「環境衛生検査班」④県庁内に立ち上がった福岡県災害対策本部で災害薬事コーディネーターとして医薬品の受給状況を整理報告し、モバイルファーマシーの派遣要請を行う「災害対策本部班」⑤薬剤師会の活動をPRする目的で災害展示コーナーを設置し、災害時の薬剤師の役割やモバイルファーマシーの紹介をパネル展示し、熱中症対策のパネルとともに経口補水液のサンプル配布を行う「ブース班」

今回は前年の避難所での訓練とは異なりテント内で訓練を実施した。昨年の反省を踏まえて患者役が日頃服用している薬を設定し、災害処方箋を発行する上で医師が参考にできるようにした。環境衛生検査は地元の薬剤師会が参加し、学校薬剤師が災害時に何をすればいいか、考えるいい機会になった。県庁の災害対策本部での訓練は、実践を経験しているDMATが入った訓練であったため、緊迫した訓練となった。次々と被災地からの連絡が入り、確認の電話をかけ、話した内容を時系列に書いていくクロノロジーの訓練を行なった。この訓練は繰り返し訓練しないと身に付かないので、災害薬事コーディネーターの研修に取り入れる必要があると思った。

昨年に続き2回目の多職種と連携した全体訓練であったが、事前の打ち合わせ不足や経験不足により防災関係機関との連携不足等が生じ、多くの課題が明らかになった。多くの反省点をもとに、定期的に訓練を行い、もっと経験を積む必要があると感じた。

今回は初めて展示ブースを出したが、多くの方々に災害時の薬剤師の活動やモバイルファーマシーの役割を知っていただくことが出来たことは有意義であったと思う。その地域で考えられる災害を想定し、今回のような訓練を重ねて経験値を増やし、災害時に薬剤師としての職務を全うすることが出来るよう今後も準備していきたい。



模擬患者に服薬指導する薬剤師

令和5年度 学会発表スキルアップセミナー －PECOを使って研究計画を作ってみよう！－

学術委員会 理事 井上 正太

5月28日(日)、福岡県薬剤師会会館にて、「PECOを使って研究計画を作ってみよう！」をテーマに学会発表スキルアップセミナーが開催された。参加者は25人であった。

今年度はオンラインのみで行い、グループワークに関してはZoomのブレイクアウトルーム機能を使用して実施した。

初めに当委員会の西村信弘理事より「クリニカルクエスチョンをリサーチクエスチョンに昇華させるために」というテーマで講演が行われた。私たちが普段、臨床において抱く素朴な疑問であるクリニカルクエスチョン(CQ)を研究へとつなげるリサーチクエスチョン(RQ)に作り上げるためには、まずPECO(Patient:対象患者、Exposure:要因/投与、Control:比較対象、Outcome:アウトカム)を用いて構造化し、明確かつ検証可能にすることから始まる。さらにそのRQが良いRQになっているかどうかをFINER(Feasible:研究が実行可能、Interesting:テーマが興味深い、Novel:テーマが新しい、方法が新しい、Ethical:方法が倫理的、Relevant:患者の切実な問題に関連)を用いてチェックをしていくことが必要である。事例として「小児の発熱患者に対する麻黄湯坐剤の院内製剤の調製と臨床適応」に関するCQを用い、PECOへの落とし込み、FINERを用いてチェックをすることで研究計画の立案と検証について学ぶことができた。最後に「研究結果は公表(発表)することにより、多くの薬剤師や医療従事者と情報共有することができ、意見や評価を聞くことができる。また公表(発表)により、さらに発展させることができる」と受講者に対しメッセージを送り、講演を締めくくった。



講師の西村信弘理事

続いて、受講者が5つのグループに分かれて、「薬剤師会と自治体が共同して、重複服用している患者を対象に健康指導をおこなう事業」をモデルに、PECOを利用して研究計画をデザインするグループワークを行った。グループワークではまず、事業の「目的」を作成して、実施にあたり対象となる患者の「適格基準」と「除外基準」の検討を行った。そして、事業の具体的な実施方法を設定し、介入前後もしくは介入、非介入での比較検討を行い、この事業により、どのような結果が得られるかを想定しながら研究計画を作成した。いずれのグループでも活発な意見交換が行われており、グループ毎の発表においては作成した研究計画の内容だけではなく、作成において苦労した点についても意見が交わされ、様々なディスカッションを通じて、研究計画における「PECO」の利用方法について理解を深めることができた。

臨床現場において得られた疑問をもとに研究計画を立て、その研究結果を学会等で発表するためのサポートを引き続き行うべく、今後も研修会を開催していくので多くの参加をお願いしたい。

医療保険研修会

医療保険委員会 常務理事 竹野 将行

6月3日(土) 福岡県薬剤師会、福岡市薬剤師会共催で医療保険研修会がWebハイブリッドで開催され、540人を超える参加者があった。

今回は「令和の時代の薬剤師に期待すること－令和6年度改定に向けて－」というテーマで厚生労働省 保険局医療課 安川孝志薬剤管理官が来福しての講演となった。

今後の人口構造の変化によって、社会保障費、医療需要の変化が起こりうるため、薬剤師に求められる業務は変化していき、地域での医薬品提供体制をどのように維持していくかを考えていく必要がある。特に、今後多くの地域で患者数が増加する見込みの在宅医療に対しては、地域包括ケアシステムの中でのシームレスな医療情報の共有が重要であり、病院薬剤師、多職種との連絡を密にとり、何が必要か、何を提供すべきかを考えていく必要があると語った。また、薬剤師が行う取り組みの中で、薬物治療の効果、質が上がったというエビデンスをデータとしてまとめることで、次期調剤報酬改定において初めて議論のテーブルに着くことができると話した。第8次医療計画においても、在宅医療において薬剤師・薬局に期待される役割として①医薬品、医療機器、衛生材料の提供体制の構築 ②薬物療法の提供および薬物療法に関する情報の多職種での共有、連携 ③急変時の対応 ④ターミナルケアへの関わり、と多岐にわたり明記された。これに伴い福岡県においても県民から求められる薬剤師の役割が協議会の中で記されていくと思われるが、薬剤師の責務が大きくなり、その責務に対する覚悟も次期調剤報酬改定において必要になってくる。



講師の安川孝志薬剤管理官

今後の薬剤師・薬局が目指すべき姿として、処方箋を持たなくても住民がアクセスできるような業務を行うべきであり、地域住民の生活を支えていく取り組みが必要となる。災害時の医薬品供給や衛生管理や学校等での公衆衛生、感染症防止対策等への対応も求められる。また、薬剤師として女性の健康に関する相談等の適切な対応もできるようにすべきである。

最後に、薬剤師がやることを評価するのではなく、患者の薬物療法の質が向上することを評価するのが本来の考え方である。新しい時代の薬剤師・薬局の姿は、みなさんの手で示していくことが重要で、行政はそれを制度づくりや評価等で後押ししていく。令和6年度改定に向けた準備期間はあまりないため、データを含む様々な提案、エビデンスを発信して欲しいと力強く締めくくった。

ファーストアクセスの場として地域住民に寄り添い、信頼される薬局がこれからの薬局であり、その形ができるように国も指針を示していると感じた研修会であった。私たち薬剤師が来局する人を自分の患者、当店の顧客と思い真摯に接していくことで、達成できることであると感じた。

「薬用植物を楽しもう 2023春」開催報告

八幡薬剤師会 薬用植物園担当委員 有方 彰一

令和2年初旬、新型コロナウイルスが猛威を奮い始めました。程なく日本国内でも感染が急拡大して人々の健康が脅かされるとともに、様々な行動制限が課せられ、生活様式が一変したことはまだ記憶に新しいところです。その影響は皿倉山薬用植物園活動にも例外なく及び、春に向けて準備を進めていた観察会が急遽中止に。以降、緊急事態宣言や県の非常事態宣言が出されるたびに、開催が見送られる状態が1年以上続きました。その間もまた日の目を見る時が来ることを信じて、薬用植物園の整備活動を続けてきました。



あれから3年。感染状況を注視しながらまずは秋の観察会から再開しました。そして令和5年4月23日(日)、晴れて「薬用植物を楽しもう 2023春」と題した研修会が八幡薬剤師会主催で開催されました。「実りの秋」もちろん良いのですが、「百花繚乱、新緑の春」にはまた違った魅力があります。関係者一同も、当日が待ちきれないといった面持ちで準備を進めてまいりました。

当日朝、皿倉山ケーブル山麓駅に集合。9時50分から開会式を行い、星野会長の挨拶に続いて4人の講師紹介がありました。行楽シーズンかつ晴れの日曜日ということで、一般のお客さんも多くてケーブルカーは大盛況でした。車内の三密を避けるという意味合いもあり、スタッフ含め総勢70人は10時10分発の臨時便で山上駅に向けて出発しました。先週までひどかった黄砂も落ち着き、車窓からは北九州の街並み、洞海湾、更には玄界灘の絶景を堪能することが出来ました。

山上駅に着くと、早速観察会のスタートです。ここ最近は薬用植物園観察をメインとしておりましたが、今回は全4班の編成でコロナ禍以前まで実施していたルートを復活させてみました。最初山頂までは登りが続きます。アカネ、カノコソウ、ツルニンジン、ナルコユリといった薬草を観察しながらゆっくりと歩を進めていきます。途中の道端に点在しているマムシグサという植物も異彩を放っていますが、偽茎上の斑紋がマムシを思わせることからこの名前が付いています。その上にあるのはサトイモ科の特徴である仏炎苞(ブツエンハウ)と言いまして、まるで仏像の



背後にある炎をかたどる飾りに似ていることが名の由来となっています。特徴的なフォルムが見られるのもこの時期だけです。さらには、これもコース途中で見られるウリハダカエデと同様に性転換をすることがあるとのこと。実に面白いですね。ただし調整が難しく、間違えると最悪死に至ることもあるので、安易に口にすることは禁物です。

遮るものが何もない皿倉山頂からの風景を堪能したあとは、植物園に向けての下りが続きます。途中ミツ

地区だより

バアケビ、キランソウ、カキドオシといったきれいな花を見ることが出来ますので、イチオシの区間です。特に私が今回印象に残ったのは、サルトリイバラの雄花と雌花の見分け方。どちらも小花が集まって球体を形成していますが、雄花の小花の中には雄しべが6本認められるということを知りました。そしてその横にあるのがヤマヤナギ（学名：Salix sieboldiana）。樹皮等に含まれるSalicinを加水分解させるとsalicylic acidになり、最終生成物として得られるのがacetylsalicylic acid、つまりアスピリンとなります。途中給水タイム、トイレ休憩なども設けて体調管理にも十分配慮し、出発から2時間ほどかけて薬用植物園に到着。ここでも密にならないよう気を配りながら、ルートを分けて散策。薬剤師にはおなじみの、トウキ、シャクヤク、ボタンなどの解説を聞いたり、サンショウ、ニッケイ、ニガキ、キハダなどの香りや味を楽しんだりしながら園内を一周しました。最後は、「皿倉山の主」八幡薬剤師会特別会員で、講師の香月茂樹氏による講話を拝聴した後、薬草のガイドブックや記念品を参加者全員に配布して定刻13時散会となりました。



今回もケガや体調不良なく、無事に終えることが出来ました。そして久しぶりの春開催、山頂ルートで行いました。参加者からは「楽しかった」「勉強になった」「また来たい」といった肯定的な意見を頂きました。本観察会の意義について改めて考えてみますと、薬用植物をはじめとする皿倉山系の貴重な植生についての理解を深めることはもちろんですが、余暇を楽しみ、心身をリフレッシュさせるというレクリエーション的な要素も兼ね備えており、そちらを期待して来られる方も少なからずいらっしゃいます。そういった意味では、今回の山頂ルート復活は非常に意味があると思います。ただその分、全体的に時間が窮屈になってしまった印象は否めませんので、改善策などは今後協議しながら秋以降に生かしていきたいと考えております。また、薬用植物園は自然豊かな場所にありますので、シーズン中は担当スタッフがほぼ毎月訪れて整備活動を行います。講師から頂いた苗木の植樹もさかんに行なっており、気がつけば200種を超える充実ぶりです。今後もより良い観察会にできるよう頑張っていきますので、応援よろしくお願いします。

今回もケガや体調不良なく、無事に終えることが出来ました。そして久しぶりの春開催、山頂ルートで行いました。参加者からは「楽しかった」「勉強になった」「また来たい」といった肯定的な意見を頂きました。本観察会の意義について改めて考えてみますと、薬用植物をはじめとする皿倉山系の貴重な植生についての理解を深めることはもちろんですが、余暇を楽しみ、心身をリフレッシュさせるというレクリエーション的な要素も兼ね備えており、そちらを期待して来られる方も少なからずいらっしゃいます。そういった意味では、今回の山頂ルート復活は非常に意味があると思います。ただその分、全体的に時間が窮屈になってしまった印象は否めませんので、改善策などは今後協議しながら秋以降に生かしていきたいと考えております。また、薬用植物園は自然豊かな場所にありますので、シーズン中は担当スタッフがほぼ毎月訪れて整備活動を行います。講師から頂いた苗木の植樹もさかんに行なっており、気がつけば200種を超える充実ぶりです。今後もより良い観察会にできるよう頑張っていきますので、応援よろしくお願いします。

最後に、今回ご紹介した観察会の様子を、公式Facebook (<https://www.facebook.com/yahatayakuzaishikai/>) にアップしています。奇しくも神木隆之介さん演じる天才植物学者・槇野万太郎（実在名は牧野富太郎）博士も出てくるNHK朝の連続テレビ小説「らんまん」が現在放送中です。博士がこよなく愛したとされるバイカオウレンの同属植物セリバオウレンの他、作中にも登場するサンシュユ、ドクダミ、マタタビなども掲載しています。患者とのコミュニケーションにも活かせるかと思いますので、ぜひそちらもチェックしてみてください（当会ホームページからもリンクを張っております）。秋以降の観察会も安心して開催できることを切に願っています。



公式Facebook
QR

「福岡県禁煙相談員養成研修」の開催

「令和5年度福岡県たばこ対策事業」の実施に伴い、禁煙希望者からの相談に応じるとともに、たばこに関する情報提供を行う「禁煙相談員」を養成するため、福岡県保健医療介護部健康増進課と共催にて、「禁煙相談員養成研修」を下記のとおり開催いたします。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日 時：令和5年8月6日(日) 13時から15時45分

開催方法：福岡県薬剤師会館（定員50人）および Web研修（Zoom配信）

内 容：1. 「禁煙支援の基礎知識－紙たばこから電子たばこまで－」

日本禁煙科学会 副理事長 のだ小児科医院 院長 野田 隆

2. 「禁煙支援の実際－その時、どう声かける？－」

公益社団法人大分県薬剤師会 禁煙支援担当理事 伊藤 裕子

参 加 費：会員1,000円・非会員3,000円（事前振込）

申込期間：7月3日(月) 14時から7月24日(月) 17時

申込方法：研修プラットフォームより登録後お申し込みください

【<https://nichiyaku.manaable.com>】

ログイン・新規登録>研修を探す>当研修会をクリック後お申し込みください

研修単位：日本薬剤師研修センターに単位を申請中（1単位）

そ の 他：1. 研修修了者には、福岡県知事、福岡県薬剤師会会長連名による修了証書を発行します

2. 新規受講薬局には「禁煙相談員」のいる薬局（卒煙サポート薬局）であることを明示するための登録証とステッカーを研修会終了後配布いたします

第5回 健康日本21・医療安全セミナー

開催日時：令和5年8月6日(日) 12時から17時

開催方法：現地開催のみ（Web配信無し）

北九州国際会議場 1階「メインホール」

（北九州市小倉北区浅野3-9-30 TEL 093-541-5931）

聴講料：県薬会員 無料

非会員 3,000円（事前振込）

申込先：（座席指定のため当日受付はありません）

<https://forms.gle/5vi88ZFFGF1ngQUL8>

または、右側のQRコードより登録

※入力後、Googleフォームからの返信メールが届かない
場合は何度も入力をせず、メールまたは電話にて当会
へお問い合わせください。



申込期間：令和5年6月30日(金) から7月25日(火) 15時

研修単位：3単位

※PECS（薬剤師研修・認定システム）への薬剤師登録が必須です。

単位付与を希望される場合は、登録完了後に受講してください。

定員：350人程度 定員超過の場合は会員優先となります。

共催：北九州市

【講演内容】

1. 薬の名前には意味がある…薬剤師として薬の来歴を知ることの意義

講師：武蔵野大学 薬学部 薬学科 教授 阿部 和穂

2. 患者の為の薬歴管理と薬の適正使用について

講師：熊本大学 薬学部 臨床教授 山本雄一郎

3. 市販薬依存症について - SOSに応えるには -

講師：北九州市精神保健福祉センター次長 宇佐美貴士
（精神科医）

<連絡先>

公益社団法人北九州市薬剤師会

e-mail：kpa@siyaku.org

電話：093-651-2255 FAX：093-651-4566

健康サポート薬局研修会の開催

薬局は、「健康サポート薬局」である旨の表示を行うにあたり、厚生労働大臣が定める基準で規定される「常駐する薬剤師の資質に係る所定の研修」を修了した薬剤師が常駐する必要があり、届出にあたっては所定の研修修了証の提出が必要とされています。

日本薬剤師会、日本薬剤師研修センターの両団体が合同で当該研修を実施しており、本会はその協力機関として、「研修会A（多職種連携研修）」および「研修会B（薬剤師の対応研修）」を下記の日程にて開催いたします。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日 時：令和5年8月27日(日) 8時40分から18時10分

開催方法：現地開催

開催場所：福岡県薬剤師会館（福岡市博多区住吉2-20-15）

内 容：1. 研修会A：健康サポートのための多職種連携研修
2. 研修会B：健康サポートのための薬剤師の対応研修
演習テーマ：鼻炎薬

参 加 費：会員1,000円・非会員3,000円（研修会ごとに）
※研修会A、Bどちらか一方だけでも受講可

申込期間：7月24日(月) 14時から8月9日(水) 17時

申込方法：研修プラットフォームより登録後お申し込みください

【<https://nichiyaku.manaable.com>】

ログイン・新規登録＞研修を探す＞当研修会をクリック後お申し込みください

令和5年度政令指定都市薬剤師会 全国統一薬物乱用防止キャンペーン

公益社団法人北九州市薬剤師会

開催日時：令和5年7月15日(土) 17時から18時

開催場所：JR小倉駅南口 ペデストリアンデッキ

主 催：公益社団法人北九州市薬剤師会

後 援：北九州市

趣 旨：全国の各政令指定都市薬剤師会が連携して薬物乱用防止啓発活動を実施することで、薬物の危険性、正しい知識、および身の守り方を国民の皆様にも周知することを目的とします。

青少年への薬物の危険性が高まる、夏の長期休暇前に、各都市の繁華街に集まっている人々を対象として啓発を行います。

内 容：若者を中心に広く薬物乱用防止を訴えるため、小倉駅ペデストリアンデッキに啓発のぼり旗を掲げ、薬物乱用の恐ろしさをわかりやすく解説した啓発うちわ2000枚等を配布。

北九州市の「ほっとハート北九州」のマスコットキャラクターのモモマル君など登場。



第56回日本薬剤師会学術大会のご案内

第56回日本薬剤師会学術大会和歌山大会
運営委員長 稲葉 真也
(一般社団法人和歌山県薬剤師会 会長)



福岡県薬剤師会の皆様、こんにちは。

和歌山県薬剤師会の稲葉です。

本年9月17日(日)、18日(月・祝)の2日間、「第56回日本薬剤師会学術大会」を和歌山県で開催するにあたり、大会運営委員長(大会長は山本信夫日薬会長)として、ただ今鋭意準備作業を進めております。

私、個人的には、子供のころから西鉄ライオンズファンで平和台球場にも行きました。稲尾、中西、豊田選手のサインは今も私の宝物で、福岡には特別の思い出があります。(色々あって今は東京ヤクルトスワローズを応援しています)

閑話休題、

平成16年の薬学6年制実現以来、薬局が医療提供施設に位置付けられ、登録販売者制度開始、薬剤師法での薬学的指導義務明記、健康サポート薬局、患者のための薬局ビジョン、地域包括ケアシステム等々様々な薬剤師業務や薬局のあり方の議論があり、制度が設けられてきましたが、令和元年の薬機法改正で改めて将来の薬剤師業務が法的に確定され、「対物から対人に」「薬局から地域に」の掛け声のもと、議論から実践の時代に入ったと感じております。

この大きく変遷しつつある薬剤師業務において、底流をなす最も重要なアイデンティティは、地域の住民の皆様や医療・介護等の他職種の方々等、薬剤師を取り巻く多くの人々とお互いの立場や状況を理解し尊重し合うことだと考え、大会テーマを「和の心 ～未来へ～」としました。

「和をもって貴しとなす」「和して同ぜず」の古くからの言葉を大切に、どうすれば薬剤師が地域の医療や健康推進に必要な存在になりうるか等の議論を深めて頂ければと考えております。

和歌山は、紀州55万石徳川御三家の一つで、8代将軍吉宗をはじめ3人の将軍を輩出しました。今大会はその紀州徳川藩の居城和歌山城の周辺2ゾーン5施設で開催いたします。お城の中をゆっくり徒歩での会場移動もできますし、シャトルバスでの移動も充実させています。

特別記念講演、山本会長講演を含めて6特別公演、19分科会、400演題以上の口頭・ポスター発表、多くの共催セミナーや展示ブースで皆様をお迎えいたします。



和歌山は、南は黒潮洗う太平洋に接し、北は瀬戸内海国立公園の一角を占め、山間部は高野山から熊野那智大社に至る広範な世界遺産に指定された地域・旧跡が広がっている風光明媚で温暖な地域です。会場周辺にも会場の中心で皆様を見守る和歌山城を始め、名利紀三井寺、心洗われる波音や夕日がお勧めの多くの海岸があり、少し足を延ばせば高野山や落差日本一の那智の滝等

第56回日本薬剤師会学術大会



の世界遺産、日本とトルコの友好の礎になったトルコ記念館、ジャイアントパンダがすぐそこにゴロゴロしているアドベンチャーワールドのある白浜温泉、世界初の全身麻酔下での乳がん手術を成功させた日本医学の始祖とも言える華岡青洲由来の華岡青洲の里等々の観光名所が多くありますので、お時間が許せば是非お回りいただき人生の引き出しを増

やしていただければと思います。

今大会では開会前日の9月16日(土) 弘法大師開山以来1200年を超える高野山(町長は薬剤師です)へのオプションツアーを企画しております。下界とは違う独特の宗教都市を実際に体験してみてください。

和歌山は、周囲を海に囲まれた海産物の宝庫です。特にマグロ、鯛は有名ですし伝統のクジラ料理もあります。9月は太刀魚がおいしいですよ！

和歌山はフルーツ大国でもあります。みかん、梅、柿、イチジクの生産量は日本一ですし、桃やイチゴやブルーベリーも頑張っています。梅酒や梅干を始めとした加工品も数多くありますので是非ご堪能ください。

和歌山の人口当たり牛肉消費量は全国3位です。会場付近には和歌山ラーメン店とともにおいしい焼き肉屋さんも沢山ありますのでガッツリ好みの人にはお勧めです。

全国各地から、考え方も専門性も年代も業務環境も違う多くの薬剤師が和歌山に集い、各種セッションに参加し意見交換し知識や専門性を高めると同時に、開催地ならではの体験していただくことが学術大会の醍醐味だと考え準備をしています。

会場である和歌山市までは、関西国際空港からバスで約40分、新幹線新大阪駅から特急くろしお号で約1時間です。運が良ければ人気のパンダ列車に乗れます。JR和歌山駅からは、鉄道ファンにはたまらない、猫が駅長を務めるユニークな和歌山電鐵の「たま電車」等の楽しさ満載の電車多数が発車していますので、それも楽しんでいただければと思います。

ぜひ現地参加していただき、学術大会を、和歌山を、堪能していただければと思います。

会員数1000人にも満たない小さな県で、行き届かない点も多いと思いますが、会員一同全力でおもてなしさせていただきます。お待ちしております。



第56回日本薬剤師会学術大会 日程表

1日目:9月17日(日)												※6/15現在予定											
施設	階	部屋名	会場名	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19							
和歌山県立医科大学薬学部キャンパス		大ホール	第1会場				9:30~11:00 開会式・式典	11:00~12:00 特別記念講演		12:30-13:30 ランチオンセミナー1	14:00~15:00 特別講演1	15:10~16:10 特別講演2		16:30-18:30 分科会⑦ 新型コロナウイルス感染症の 類型変更以降の学校薬剤師への期待									
		小ホール	第2会場							12:30-13:30 ランチオンセミナー2	14:00~16:00 分科会① 薬剤師の役割			16:30-18:30 分科会⑧ 医療DXのビジョンと薬局の業務									
		大ホール	第3会場								12:30-13:30 ランチオンセミナー3	14:00~16:10 分科会② 海外の医療制度と薬剤師業務			16:30-18:30 分科会⑨ 近未来の薬剤師業務と薬剤師像								
		小ホール	第4会場								12:30-13:30 ランチオンセミナー4	14:00~16:00 分科会③ コロナ禍で芽生えた 新たな薬剤師業務を考える			16:30-18:30 分科会⑩ CKD患者に対し薬局薬剤師が出来ること								
和歌山県立医科大学薬学部キャンパス	1F	大講義室	第5会場							12:30-13:30 ランチオンセミナー5	14:00~16:00 分科会④ 薬局における医薬品の適正使用と 事故防止対策			16:30-18:30 分科会⑪ 薬剤師の資質として求められるもの 改訂モジュール「コア」カリキュラムに見る薬学教育への期待									
	3F	中講義室301	第6会場							12:30-13:30 ランチオンセミナー6	14:00~16:00 分科会⑤ 患者のための薬局ビジョン実現に向けた 薬局機能向上について			16:30-18:30 分科会⑫ へき地・過疎地における薬剤師の役割									
	3F	中講義室302	第7会場							12:30-13:30 ランチオンセミナー7	14:00-16:00 薬学生シンポジウム			16:30-17:30 共催セミナー									
	3F	中講義室303	第8会場								12:30-13:30 ランチオンセミナー8	口頭発表	口頭発表	口頭発表	口頭発表								
和歌山県立医科大学薬学部キャンパス	3F	中講義室304	第9会場							12:30-13:30 ランチオンセミナー9	口頭発表	口頭発表	口頭発表	口頭発表	口頭発表								
		孔雀の間	第10会場							12:30-13:30 ランチオンセミナー10	14:00~16:00 分科会⑥ 薬剤師によるフレイル予防			16:30-18:30 分科会⑬ 薬局薬剤師の地域貢献									
	4F	羽衣の間	第11会場							12:30-13:30 ランチオンセミナー11	口頭発表	口頭発表	口頭発表	口頭発表	口頭発表								
	4F	グラン	第12会場 ※1日目のみ								12:30-13:30 ランチオンセミナー12	口頭発表	口頭発表	口頭発表	17:30-18:30 イブニングセミナー1								
和歌山県立医科大学薬学部キャンパス	4F	ブリエ	第13会場 ※1日目のみ							12:30-13:30 ランチオンセミナー13	口頭発表	口頭発表	口頭発表	口頭発表	17:30-18:30 イブニングセミナー2								
	4F	フレイブル	第14会場 ※1日目のみ							12:30-13:30 ランチオンセミナー14	口頭発表	口頭発表	口頭発表	口頭発表									
	4F	ブランシェ	第15会場 ※1日目のみ							12:30-13:30 ランチオンセミナー15		15:00-16:00 スポンサーセミナー1		口頭発表									
			和歌山県立医科大学 薬学部キャンパス 予定	ポスター会場								ポスター一覽		16:30-18:00 ポスター示説	ポスター 開覧								

第56回日本薬剤師会学術大会

第56回日本薬剤師会学術大会 日程表

2日目：9月18日(月・祝)

※6/15現在予定

施設	階	部屋名	会場名	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
和歌山県立医科大学 和歌山キャンパス		大ホール	第1会場			8:30-9:10 会長講演	9:30-10:30 特別講演3			12:10-13:00 特別講演4			
		小ホール	第2会場					9:30-12:00 分科会④ デジタルメディスンの進展と薬剤師の関与					
和歌山県立医科大学 和歌山キャンパス		大ホール	第3会場			8:30-9:10 会長講演 (中継予定)		9:30-12:00 分科会⑤ やがて来る南海トラフ巨大地震に備えて	12:10-13:00 特別講演4 (中継予定)			14:00-15:30 県民公開講座	
		小ホール	第4会場					9:30-12:00 分科会⑥ OTC医薬品と薬剤師、 OTC医薬品は今後どうなっていくのか。					
和歌山県立医科大学 和歌山キャンパス	1F	大講義室	第5会場			8:00-9:00 モーニングセミナー1			11:00-13:00 分科会⑦ 女性のライフサイクルと 特有の疾患について				
	3F	中講義室301	第6会場			8:00-9:00 モーニングセミナー2			11:00-13:00 分科会⑧ スポーツファーマシストによる アスリートサポート				
和歌山県立医科大学 和歌山キャンパス	3F	中講義室302	第7会場			8:00-9:00 モーニングセミナー3	9:30-10:30 スポンサーセミナー2						
	3F	中講義室303	第8会場				口頭発表		口頭発表				
和歌山県立医科大学 和歌山キャンパス	3F	中講義室304	第9会場				口頭発表		口頭発表				
	3F	孔雀の間	第10会場				9:30-11:30 分科会⑨ 小児の在宅医療における薬剤師の役割						
和歌山県立医科大学 和歌山キャンパス	4F	羽衣の間	第11会場				口頭発表		口頭発表				
	4F	グラン	第12会場 ※1日目のみ										
和歌山県立医科大学 和歌山キャンパス	4F	ブリエ	第13会場 ※1日目のみ										
	4F	プレジール	第14会場 ※1日目のみ										
和歌山県立医科大学 和歌山キャンパス	4F	ブランシェ	第15会場 ※1日目のみ										
		和歌山県立医科大学 薬学部キャンパス 予定	ポスター会場			ポスター閲覧			10:30～12:00 ポスター示説	ポスター 閲覧	ポスター撤去		

第56回日本薬剤師会学術大会開催案内(予告⑤)



大会ホームページ
<https://www.c-linkage.co.jp/jpa56/>



1. 会期 2023年9月17日(日)～18日(月・祝)
2. 会場 和歌山県民文化会館, 和歌山城ホール,
和歌山県立医科大学薬学部キャンパス,
ダイワロイネットホテル和歌山, ホテル
アバローム紀の国
※開催形式は現地開催に加え, 一部セッ
ションのライブ配信を予定しております。
3. 主催 公益社団法人 日本薬剤師会
一般社団法人 和歌山県薬剤師会
4. テーマ 和の心 ～未来へ～

5. 大会参加費

【事前参加登録】11,000円(学生1,000円)
 【通常・当日参加登録】15,000円(学生1,000円)
 ※本大会において, 大会参加費の改定を行います。
 「事前参加登録」10,000円→11,000円
 「通常・当日参加登録」13,000円→15,000円
 (学生は据え置き)

大会参加を予定されておられる方は, 事前参加登録
 をお願いいたします。

※大会懇親会は, 諸般の状況に鑑み, 開催を中止い
 たします。

6. 特別記念講演(予定)

講師 太田 茂 氏(和歌山県立医科大学薬学部長/
 元日本薬学会会頭)

2023年9月17日(日)11:00～12:00

7. 分科会テーマ(予定)

- ①薬剤耐性(AMR)対策における薬剤師の役割
～多職種の協働(和)で取り組むAMR対策～
- ②海外の医療制度と薬剤師業務
- ③コロナ禍で芽生えた新たな薬剤師業務を考える
- ④薬局における医薬品の適正使用と事故防止対策
- ⑤患者のための薬局ビジョン実現に向けた薬局機
能向上について
- ⑥薬剤師によるフレイル予防
- ⑦新型コロナウイルス感染症の類型変更以降の学
校薬剤師への期待～子供たちの未来のために何
ができるか～
- ⑧医療DXのビジョンと薬局の業務
- ⑨近未来の薬剤師業務と薬剤師像を考える
- ⑩CKD患者に対して薬局薬剤師が出来ること
- ⑪薬剤師の資質として求められるもの～改訂モデル
コア・カリキュラムに見る薬学教育への期待～
- ⑫へき地・過疎地における薬剤師の役割
- ⑬薬局薬剤師の地域貢献～地域住民の健康増進や
環境向上のために何が出来るか～
- ⑭デジタルメディスンの進展と薬剤師の関与
- ⑮やがて来る南海トラフ巨大地震に備えて～薬剤
師が果たすべき役割～
- ⑯OTC医薬品と薬剤師, OTC医薬品は今後どう
なっていくのか。
- ⑰女性のライフサイクルと特有の疾患について～
薬剤師にできること～
- ⑱スポーツファーマシストによるアスリートサ
ポート
- ⑲小児の在宅医療における薬剤師の役割

注) 分科会番号は会場の都合等で変更される可能性
 があります。

8. 事前参加登録

- (1) 登録方法: 大会ホームページから登録してくだ
さい。
- (2) 登録期間: 令和5年4月3日(月)～7月31日(月)
(予定)

9. 宿泊予約について

大会ホームページにて, 4月3日(月)よりご案内
 しております。

第56回日本薬剤師会学術大会

【事前参加登録・宿泊予約についてのお問い合わせ先】

株式会社JTB 西日本MICE事業部

「第56回日本薬剤師会学術大会」係

TEL：06-6210-5405

E-mail：westec_op1@jtb.com

営業時間：9：30～17：30（土・日・祝日は休業）

10. 大会に関するお問い合わせ先

●日本薬剤師会事務局学術大会係

公益社団法人日本薬剤師会

〒160-8389 東京都新宿区四谷三丁目3-1

四谷安田ビル7F

TEL：03-3353-1170 FAX：03-3353-6270

●第56回日本薬剤師会学術大会 事務局

一般社団法人和歌山県薬剤師会

〒640-8249 和歌山県和歌山市雑賀屋町19番地

TEL：073-422-4748 FAX：073-428-1143

●第56回日本薬剤師会学術大会 運営事務局

株式会社コンベンションリンケージ内

〒531-0072 大阪市北区豊崎3-19-3

PIAS TOWER 11F

TEL：06-6377-2188 FAX：06-6377-2075

E-mail：jpa56@c-linkage.co.jp

「日本薬剤師美術同好会第9回美術作品展」開催のご案内

第56回日本薬剤師会学術大会の開催に合わせ、絵画（油彩画・日本画・水彩画）及び写真（風景・人物・動植物等）等を趣味とする薬剤師が作品を出品して、第9回美術作品展を開催します。

つきましては、下記要領にて、美術作品展への出品参加（有料）を募集いたしますので、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

展示期間：2023年（令和5年）9月17日（日）・18日（月・祝）

展示会場：調整中

お申し込み方法：必要事項を明記（必要記載事項を自由記載）し、8月25日（金）までに下記お申込先まで郵送又はメールして下さい。お申し込みいただいた会員には、その後のお手続きについて記載した出品要領等をお送りします。

お申し込み記載事項〔必要記載事項〕

①氏名 ②住所 ③連絡先（電話番号・FAX番号・E-mail）④絵画歴又は写真歴 ⑤出品画種、大きさ（額を入れて横90cm×縦60cm以内とし、これを超える場合は、出展料×1.5倍、2点目以降は出展料×0.5倍となります。）

出展料金：昨年実績出展料は、1点につき1万2千円＋事務経費5千円、計1万7千円でした。本年も同様と致します。

〔お申込み・お問合せ先〕

日本薬剤師美術同好会会長 鳥海 良寛（とりうみ よしひろ）

〒010-0033 秋田県秋田市檜山石塚町4-3 FAX：018-835-5482 E-mail：birdsea@rnac.ne.jp

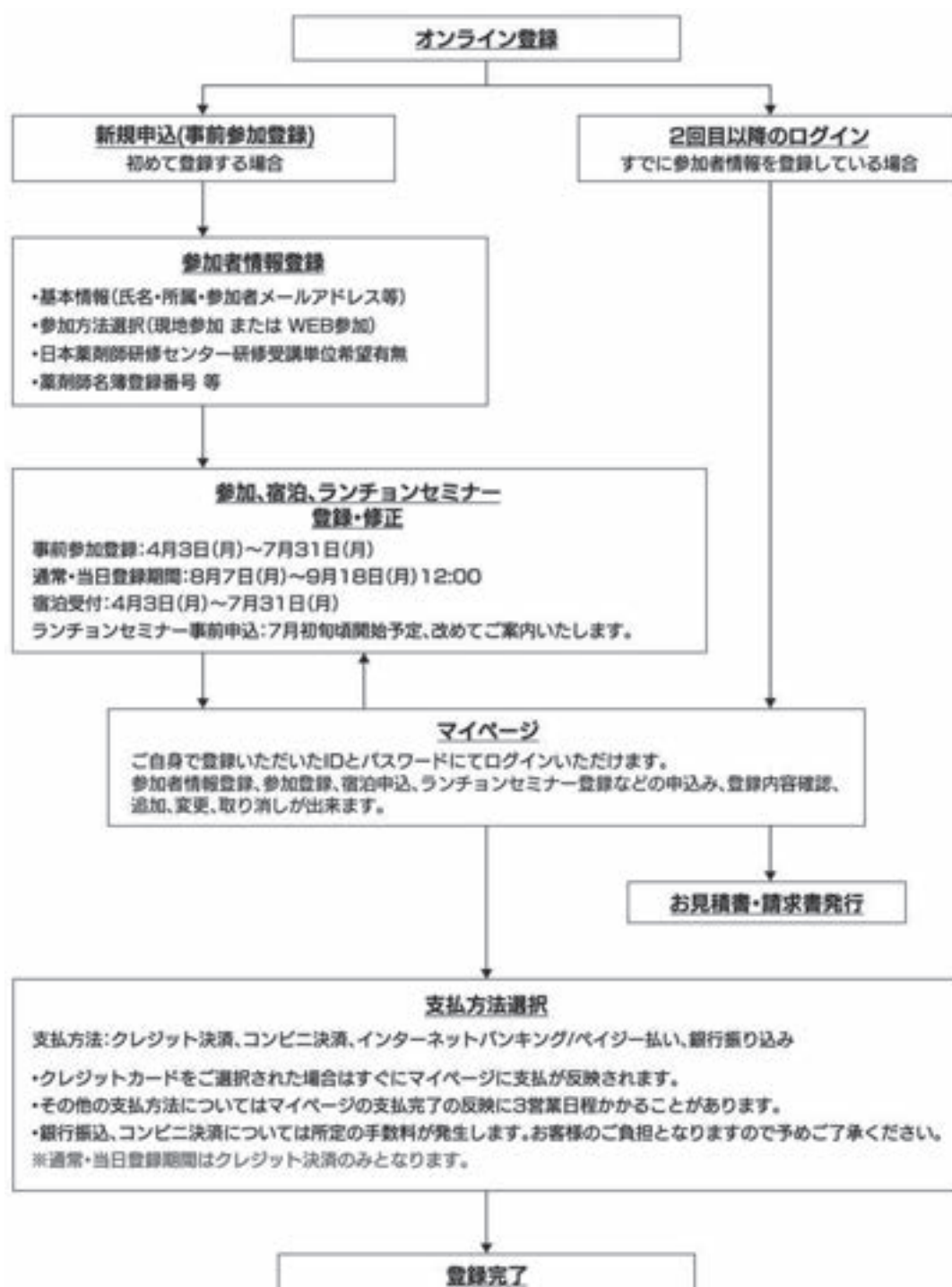
オンライン参加登録フロー

- ・ 今回の大会は、ハイブリッド開催で現地参加とWEB参加の2通りの参加方法があります。
- ・ 参加方法は登録サイトの参加登録時にお選びください。
- ・ 現地参加でお申込みいただいた方も、当日WEB視聴が可能です。

■オンライン参加登録期間

事前参加登録期間：4月3日（月）～7月31日（月）（予定）

■ご登録の流れ



1. 会場：



ホテルアバローム紀の国

○空路



○鐵道



○JR「和歌山駅」より：バス 約5分



第 82 回九州山口薬学大会

The 82nd Kyushu Yamaguchi Pharmacy Conference

新時代を生き抜く
～地域医療の架け橋となれ薬剤師！～

会 期 : 2023 年 9 月 23 日(土)～24 日(日)

会 場 : 出島メッセ長崎

主 催 : 一般社団法人 長崎県薬剤師会

第 82 回九州山口薬学大会へ参加のお願い

第 82 回九州山口薬学大会

大会実行委員会 実行委員長 田代 浩幸

一般社団法人 長崎県薬剤師会 会長

9 月 23 日と 24 日の両日、第 82 回九州山口薬学大会を長崎県にて開催します。大会テーマは、「新時代を生き抜く～地域の架け橋となれ薬剤師！～」です。西洋医学伝来の地出島がある長崎市にて開催します。

鎖国時代に唯一開かれていた長崎は、西洋医学の発祥地として良く知られております。オランダ商館医たちが伝えた近代医学は、日本の医学の発展の礎であり、現代の感染症医療へと引き継がれています。そして、医師シーボルトを陰で支えた薬剤師ビュルガーは、「日本最初の近代的薬剤師」と言えます。

この大会は、新型コロナウイルス感染症の位置付けが 5 類感染症へと変更になった事から、リアル参加としました。九山大会としましては、4 年ぶりとなる懇親会も開催致します。会場は、今年 5 月に G7 長崎保健大臣会合のメイン会場となった「出島メッセ」です。長崎駅とは、屋根付きペデストリアンデッキで直結されておりアクセスも良く、長崎市の交通の拠点と繋がっています。

今回の大会では、我々薬剤師の専門性を高める取り組み、医療 DX への取り組み、地域包括ケアシステムやがん薬物療法への取り組み、他職種との連携などをキーワードとしたシンポジウムとポスター発表、企業展示ブース等のプログラムを組み、魅力ある九州山口薬学大会を企画しております。

長崎県は観光でも魅了する県です。島の数日本一を誇り、五島列島、壱岐、対馬など 594 個の島があります。透き通った海に囲まれた美しい島々には、自然や歴史、豊富な魚介類などの島の恵み、たくさんの魅力が詰まっています。県内の世界遺産である「明治日本の産業革命遺産」と「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」や、日本遺産の第 1 号に認定された「国境の島 壱岐・対馬・五島」など魅力が一杯です。

開催地となる長崎市は、古くから海外文化の影響を受けた国際色豊かな街であり、その夜景は「世界新三大夜景」に選ばれています。

また海に囲まれている事から魚は豊富で、鯛やあじ、牡蠣、伊勢海老など新鮮な魚介類を堪能できます。長崎グルメの代表チャンポン、皿うどん、トルコライス等是非ご賞味下さい。

最後に特別企画として、長崎の文化と近代医学・薬学の息吹を感じていただける長崎歴史散歩「薬学さるく」もご用意しております。

多くの皆様の参加を心よりお待ちしております。



日程表

会場：出島メッセ長崎

■9月23日(土)

第1会場		第2会場		第3会場		第4会場		第5会場		ポスター会場・展示会場	
2F コンベンションホール1/4		2F コンベンションホール1/4		1F 会議室101-AB		1F 会議室102		1F 会議室103		2F コンベンションホール1/4	
9:00	薬学会総会 9:00～9:30									ポスター 受付・掲示 9:00～12:00	
9:30											
10:00	薬学大会本会議 9:40～10:50										
10:30											
11:00											
11:30	特別講演Ⅰ (高田明) 11:00～12:00										
12:00										企業展示 9:00～18:00	
12:30	ランチョンセミナー1 12:20～13:10	ランチョンセミナー2 12:20～13:10	ランチョンセミナー3 12:20～13:10	ランチョンセミナー4 12:20～13:10	ランチョンセミナー5 12:20～13:10						
13:00											
13:30	特別講演Ⅱ (水島洋) 13:20～14:20										
14:00											
14:30				シンポジウム3 アピアランスケアを 学ぼう！～がん治療 の副作用等による 外見をケアする～ 14:30～16:00		病院薬局協議会／ 学術フォーラム 14:30～17:30		スポンサードセミナー1 14:30～15:20		ポスター 閲覧 12:00～17:30	
15:00	シンポジウム1 医療DXがもたらす 新たな薬剤師業務 ～オンライン資格 確認、電子処方箋等、 医療DXについて 考えてみよう～ 14:30～17:30			シンポジウム2 災害医療における 連携と活動 14:30～17:30		シンポジウム4 地域フォーミュラ について 16:10～18:10		シンポジウム5 誰もが活躍する 未来へ ～多方面で活躍する 女性薬学出身者～ 16:30～18:00		[奇数]ポスター発表 17:30～18:00	
15:30								スポンサードセミナー2 15:30～16:20			
16:00											
16:30											
17:00											
17:30											
18:00											
18:30	懇親会(会場:ホテルニュー長崎) 18:30～20:30										18:30
19:00											19:00
19:30											19:30
20:00											20:00
20:30											20:30

■9月24日(日)

第1会場		第2会場		第3会場	第4会場	第5会場	ポスター会場・展示会場	
2F コンベンションホール1/4		2F コンベンションホール1/4		1F 会議室101-AB	1F 会議室102	1F 会議室103	2F コンベンションホール1/4	2F コンベンションホール1/4
					モーニングセミナー1 8:00～8:50	モーニングセミナー2 8:00～8:50		
シンポジウム6 成育医療分野に おける薬物療法 支援の取組みに ついて 9:00～12:00		シンポジウム7 地域に寄り添う薬局の ネクストステージ ～認定薬局の未来 9:00～12:00		シンポジウム8 がん疼痛・在宅移行 タイプ～シンポジウム ～この痛み、どうすれば 自宅で過ごせる？～ 9:00～10:30	シンポジウム10 薬物乱用防止教育 に関わる 学校薬剤師の活動 9:00～12:00	シンポジウム11 脳卒中患者・家族の 心情に寄り添った 薬学的ケアの実現 9:00～12:00	ポスター閲覧 9:00～12:00	企業展示 9:00～13:00
				シンポジウム9 地域で取り組む 経口抗がん薬 適正使用の課題 10:40～12:10				
							[偶数]ポスター発表 12:00～12:30	

プログラムは変更となる場合がございます。予めご了承ください

プログラム概要

特別講演

特別講演Ⅰ 9月23日(土) 11:00～12:00
第1会場(出島メッセ長崎 2F コンベンションホール)

演 者：高田 明
(株式会社 A and Live 代表取締役／
株式会社ジャパネットたかた 創業者)

特別講演Ⅱ 9月23日(土) 13:20～14:20
第1会場(出島メッセ長崎 2F コンベンションホール)

演 者：水島 洋
(アマゾンウェブサービスジャパン合同会社
パブリックセクター シニア事業開発マネージャー)

シンポジウム

シンポジウム1 「医療DXがもたらす新たな薬剤師業務
～オンライン資格確認、電子処方箋等、医療DXについて考えてみよう～」
9月23日(土) 14:30～17:30
第1会場(出島メッセ長崎 2F コンベンションホール)

基調講演：原口 亨(公益社団法人 日本薬剤師会 常務理事)

シンポジウム2 「災害医療における連携と活動」
9月23日(土) 14:30～17:30
第2会場(出島メッセ長崎 2F コンベンションホール)

基調講演：山下 和範(長崎大学病院 災害医療支援室 准教授)

シンポジウム3 「アピアランスケアを学ぼう！
～がん治療の副作用等による外見をケアする～」
9月23日(土) 14:30～16:00
第3会場(出島メッセ長崎 1F 会議室 101-AB)

シンポジウム4 「地域フォーミュラリについて」
9月23日(土) 16:10～18:10
第3会場(出島メッセ長崎 1F 会議室 101-AB)

基調講演：中井 清人
(厚生労働省医薬・生活衛生局医薬安全対策課 課長)

シンポジウム 5 「誰もが活躍する未来へ～多方面で飛躍する女性薬学出身者～」

9 月 23 日(土) 16:30～18:00

第 5 会場(出島メッセ長崎 1F 会議室 103)

基調講演：本田 顕子(参議院議員)

シンポジウム 6 「成育医療分野における薬物療法支援の取組みについて」

9 月 24 日(日) 9:00～12:00

第 1 会場(出島メッセ長崎 2F コンベンションホール)

シンポジウム 7 「地域に寄り添う薬局のネクストステージ～認定薬局の未来」

9 月 24 日(日) 9:00～12:00

第 2 会場(出島メッセ長崎 2F コンベンションホール)

基調講演：村杉 紀明(公益社団法人 日本薬剤師会 理事)

シンポジウム 8 「がん疼痛・在宅移行 ディベートシンポジウム

～この痛み、どうすれば自宅で過ごせるか？～」

9 月 24 日(日) 9:00～10:30

第 3 会場(出島メッセ長崎 1F 会議室 101-AB)

シンポジウム 9 「地域で取り組む経口抗菌薬適正使用の課題」

9 月 24 日(日) 10:40～12:10

第 3 会場(出島メッセ長崎 1F 会議室 101-AB)

基調講演：古本 朗嗣

(長崎大学病院感染症医療人育成センター センター長・教授)

シンポジウム 10 「薬物乱用防止教育に関わる学校薬剤師の活動」

9 月 24 日(日) 9:00～12:00

第 4 会場(出島メッセ長崎 1F 会議室 102)

基調講演 1：田口 真穂

(横浜薬科大学 レギュラトリーサイエンス研究室 准教授)

基調講演 2：北垣 邦彦(東京薬科大学 教授)

シンポジウム 11 「脳卒中患者・家族の心情に寄り添った薬学的ケアの実現」

9 月 24 日(日) 9:00～12:00

第 5 会場(出島メッセ長崎 1F 会議室 103)

基調講演：橋本 洋一郎

(済生会熊本病院 脳卒中センター 特別顧問)

九州山口薬学大会

病院薬局協議会／学術フォーラム

病院薬局協議会／学術フォーラム 9月23日(土) 14:30～17:30
第4会場(出島メッセ長崎 1F 会議室 102)

その他

ランチョンセミナー、スポンサードセミナー、モーニングセミナー



第82回

九州山口薬学大会

The 82nd Kyushu Yamaguchi Pharmacy Conference in NAGASAKI 2023

新時代を生き抜く～地域医療の架け橋となれ薬剤師!～

2023 9.23^土・24^日

会場 ◆ 出島メッセ長崎 〒850-0058
長崎県長崎市尾上町4-1

大会実行委員会 ◆ 田代 浩幸 一般社団法人
実行委員長 長崎県薬剤師会 会長

主催事務局
一般社団法人 長崎県薬剤師会
〒852-8104 長崎県長崎市茂里町3番18号
TEL: 095-847-2600 FAX: 095-848-6160
E-mail: jimukyoku@npa.or.jp

運営事務局
株式会社コンベンションリンケージ
〒812-0016 福岡市博多区博多駅南1-3-6第三博多倍成ビル
TEL: 092-437-4188 FAX: 092-437-4182
Email: kyuyama-nagasaki82@c-linkage.co.jp



長崎県薬剤師会
公式マスコットキャラクター
のんどる

<https://www.c-linkage.co.jp/kyuyama-nagasaki82/>

広 告



福岡大学大学院薬学研究科 入学試験案内

健康薬科学専攻修士課程

I. 健康創薬科学プログラム

学際的な健康科学領域において活躍できる健康科学関連研究者・技術者、創薬科学関係研究者・技術者、医薬品情報担当者、健康食品・化粧品等安全管理者等の人材を育成する。

【対象】理学、工学、薬学（薬科学科・旧4年制）スポーツ科学、栄養学等の学部卒業生

II. 総合薬学プログラム

現場薬剤師を主な対象者とし、最先端医・薬学を体系的かつ系統的に講義及び演習で修得し、課題研究活動を通じて情報構築・評価能力を培い、先導的薬剤師として地域に密着した医療貢献ができる現場薬剤師を養成する。

【対象】旧4年制薬学部卒業生

入試科目

<一般入学試験>

（対象）薬科学科・旧4年制薬学部卒 / 英語・専門科目（2科目）・面接（口頭試問）

（対象）上記以外の出身者 / 英語・専門科目（1科目）・基礎科目（1科目）・面接（口頭試問）

<社会人入学試験> / 小論文・面接（口頭試問）

薬学専攻博士課程

I. 医療薬剤師プログラム

個別化医療推進薬剤師、医療系薬学教育者、医療行政推進薬剤師、トランスレーショナルリサーチ推進研究者・技術開発者、レギュラトリーサイエンス研究者等の人材育成を目指す。

【対象】6年制薬学部卒業見込み者及び卒業生、旧4年制薬学部卒業の修士課程修了者、及び個別の入学資格審査により受験資格が認められた者

II. 薬学研究者プログラム

創薬研究、薬物治療の最適化などに従事する医療系薬学研究者、基礎系薬学教育者、健康科学・環境衛生化学等研究者、行政担当者、製薬企業研究開発従事者等の人材育成を目指す。

【対象】Iのプログラムの対象者に加え、薬剤師免許をもたない他学部出身の修士課程修了者

入試科目

<一般入学試験> / 英語・専門科目（2科目）・面接（口頭試問）

<社会人入学試験> / 小論文・面接（口頭試問）

入 試 日 程

秋季

<試験日> 2023年9月12日（火）

<出願期間> 2023年8月22日（火）～8月24日（木）

春季

<試験日> 2024年2月14日（水）

<出願期間> 2024年1月15日（月）～1月18日（木）

※入学試験要項は大学院 HP<<https://www.grad.fukuoka-u.ac.jp/nyushi/youkou.html>>

研究科詳細は薬学研究科 HP<http://www.pha.fukuoka-u.ac.jp/yakugakukenkkyu_top>をご覧ください。

【お問い合わせ】学校法人福岡大学 大学院事務課 092-871-6631（内線 2913～2916）